# 令和3年度 (第24回) 那覇市民意識調査報告書



那覇文化芸術劇場 なはーと

## 2022年(令和4年)3月

つなぐ むすぶ ひらく 那覇市制 100 周年



## はじめに

はいたい! ぐすーよー ちゅーうがなびら。

那覇市では、市民の皆様の日常生活に関する意識と 市政運営に対する評価を把握・分析して今後の市政運 営に反映させるため、隔年で市民意識調査を実施して います。また、今回の調査では初めて、オンラインで の回答を可能とする Web アンケート調査も行いまし た。



新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、様々な活動において困難な状況を抱える中におかれましても、多くの市民の皆様のご理解とご協力により、有意義な調査結果を取りまとめることができました。心より感謝申し上げます。

さて、本市では、平成30年度からスタートした第5次那覇市総合計画について、本調査結果等を踏まえ、検証等を行う予定となっています。まちづくりの将来像として掲げた「なはで暮らし、働き、育てよう!笑顔広がる元気なまちNAHA〜みんなでつなごう市民力〜」の実現にむけて、より一層力を尽くしてまいる所存です。

結びに、本調査にご協力いただいた市民の皆様には、重ねて御礼申し上げ、巻頭のあいさつといたします。

いっぺー にふぇーでーびる。

2022 年(令和4年) 3月 那覇市長 城 間 幹 子

## 目 次

Ι.	調査の設計と実施概要	1
1	. 調査の目的	1
7	2. 調査項目	1
_	(1)基本項目	1
	(2) 日常生活等に関する意識調査について	
	(3)市の政策に対する満足度・重要度調査について	
3	8. 調査設計	
	(1)調査対象 那覇市に居住する満 18 歳以上の男女 5,000 人	
	<ul><li>(2)調査地域 那覇市全域</li><li>(3)抽出方法 年齢等間隔抽出法(住民基本台帳による等間隔抽出)による</li></ul>	3
	(4)調査方法 調査票の配布:郵送 調査票の回収:郵送またはWeb アンケートによる	
	(5)調査期間 2021年9月6日~9月26日(20日間)	3
4	. 調査票の送付状況	3
	5. 回収状況	
	(1)回収実数と回収率	
	(2)集計方法 6.報告書の読み方	
	7. 調査票	
Π.	調査結果の概要	21
1	. 日常生活等に関する意識調査結果の概要・要約	21
1	. 日常生活等に関する意識調査結果の概要・要約(1)住み心地について	21
1	(1)住み心地について(1)自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について	21
1	(1)住み心地について(2)自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について(3)市政への市民参加について	21 22
1	(1)住み心地について(2)自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について(3)市政への市民参加について(4)議会への市民参加について(5)平和行政・男女共同参画について	21 22 22 23
1	<ul><li>(1)住み心地について</li><li>(2)自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について</li><li>(3)市政への市民参加について</li><li>(4)議会への市民参加について</li><li>(5)平和行政・男女共同参画について</li><li>(6)誰もが移動しやすいまちについて</li></ul>	21 22 22 23 24
1	<ul><li>(1)住み心地について</li><li>(2)自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について</li><li>(3)市政への市民参加について</li><li>(4)議会への市民参加について</li><li>(5)平和行政・男女共同参画について</li><li>(6)誰もが移動しやすいまちについて</li><li>(7)協働によるまちづくりについて</li></ul>	21 22 22 23 24
1	<ul><li>(1)住み心地について</li><li>(2)自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について</li><li>(3)市政への市民参加について</li><li>(4)議会への市民参加について</li><li>(5)平和行政・男女共同参画について</li><li>(6)誰もが移動しやすいまちについて</li></ul>	21 22 22 23 24 24
1	<ul> <li>(1)住み心地について</li> <li>(2)自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について</li> <li>(3)市政への市民参加について</li> <li>(4)議会への市民参加について</li> <li>(5)平和行政・男女共同参画について</li> <li>(6)誰もが移動しやすいまちについて</li> <li>(7)協働によるまちづくりについて</li> <li>(8)市街地活性化について</li> <li>(9)子育て支援について</li> <li>(10)福祉について</li> </ul>	21 22 22 23 24 25 25
1	<ul> <li>(1)住み心地について</li> <li>(2)自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について</li> <li>(3)市政への市民参加について</li> <li>(4)議会への市民参加について</li> <li>(5)平和行政・男女共同参画について</li> <li>(6)誰もが移動しやすいまちについて</li> <li>(7)協働によるまちづくりについて</li> <li>(8)市街地活性化について</li> <li>(9)子育て支援について</li> <li>(10)福祉について</li> <li>(11)健康について</li> </ul>	21 22 22 23 24 25 25 26 26
1	<ul> <li>(1)住み心地について</li> <li>(2)自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について</li> <li>(3)市政への市民参加について</li> <li>(4)議会への市民参加について</li> <li>(5)平和行政・男女共同参画について</li> <li>(6)誰もが移動しやすいまちについて</li> <li>(7)協働によるまちづくりについて</li> <li>(8)市街地活性化について</li> <li>(9)子育て支援について</li> <li>(10)福祉について</li> <li>(11)健康について</li> <li>(12)文化・芸術について</li> </ul>	21 22 22 23 24 25 25 26 26
1	<ul> <li>(1)住み心地について</li> <li>(2)自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について</li> <li>(3)市政への市民参加について</li> <li>(4)議会への市民参加について</li> <li>(5)平和行政・男女共同参画について</li> <li>(6)誰もが移動しやすいまちについて</li> <li>(7)協働によるまちづくりについて</li> <li>(8)市街地活性化について</li> <li>(9)子育て支援について</li> <li>(10)福祉について</li> <li>(11)健康について</li> <li>(12)文化・芸術について</li> <li>(13)観光意識について</li> <li>(14)緑のまちについて</li> </ul>	21 22 22 24 24 25 25 26 26 27 27
1	<ul> <li>(1)住み心地について</li> <li>(2)自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について</li> <li>(3)市政への市民参加について</li> <li>(4)議会への市民参加について</li> <li>(5)平和行政・男女共同参画について</li> <li>(6)誰もが移動しやすいまちについて</li> <li>(7)協働によるまちづくりについて</li> <li>(8)市街地活性化について</li> <li>(9)子育て支援について</li> <li>(10)福祉について</li> <li>(11)健康について</li> <li>(12)文化・芸術について</li> <li>(13)観光意識について</li> <li>(14)緑のまちについて</li> <li>(15)生涯学習について</li> </ul>	21 22 22 23 24 25 25 26 26 27 27 28
1	<ul> <li>(1)住み心地について</li> <li>(2)自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について</li> <li>(3)市政への市民参加について</li> <li>(4)議会への市民参加について</li> <li>(5)平和行政・男女共同参画について</li> <li>(6)誰もが移動しやすいまちについて</li> <li>(7)協働によるまちづくりについて</li> <li>(8)市街地活性化について</li> <li>(9)子育て支援について</li> <li>(10)福祉について</li> <li>(11)健康について</li> <li>(12)文化・芸術について</li> <li>(13)観光意識について</li> <li>(14)緑のまちについて</li> <li>(15)生涯学習について</li> <li>(16)青少年の育成について</li> </ul>	21 22 22 24 25 25 25 26 27 27 27 28 28
1	<ul> <li>(1)住み心地について</li> <li>(2)自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について</li> <li>(3)市政への市民参加について</li> <li>(4)議会への市民参加について</li> <li>(5)平和行政・男女共同参画について</li> <li>(6)誰もが移動しやすいまちについて</li> <li>(7)協働によるまちづくりについて</li> <li>(8)市街地活性化について</li> <li>(9)子育て支援について</li> <li>(10)福祉について</li> <li>(11)健康について</li> <li>(12)文化・芸術について</li> <li>(13)観光意識について</li> <li>(14)緑のまちについて</li> <li>(15)生涯学習について</li> </ul>	21 22 22 24 25 25 26 26 27 27 28 28 28
1	(1) 住み心地について (2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について (3) 市政への市民参加について (4) 議会への市民参加について (5) 平和行政・男女共同参画について (6) 誰もが移動しやすいまちについて (7) 協働によるまちづくりについて (8) 市街地活性化について (9) 子育で支援について (10) 福祉について (11) 健康について (11) 健康について (12) 文化・芸術について (13) 観光意識について (14) 緑のまちについて (15) 生涯学習について (16) 青少年の育成について (17) 消防行政について (18) 防災対策について (18) 防災対策について (19) 環境について	21 22 22 24 25 25 26 27 27 28 28 28 29 29
1	(1) 住み心地について (2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について (3) 市政への市民参加について (4) 議会への市民参加について (5) 平和行政・男女共同参画について (6) 誰もが移動しやすいまちについて (7) 協働によるまちづくりについて (8) 市街地活性化について (9) 子育で支援について (10) 福祉について (11) 健康について (11) 健康について (12) 文化・芸術について (13) 観光意識について (14) 緑のまちについて (15) 生涯学習について (16) 青少年の育成について (17) 消防行政について (17) 消防行政について (18) 防災対策について (19) 環境について	21 22 22 24 25 25 26 27 27 27 28 28 29 30 30
	(1) 住み心地について (2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について (3) 市政への市民参加について (4) 議会への市民参加について (5) 平和行政・男女共同参画について (6) 誰もが移動しやすいまちについて (7) 協働によるまちづくりについて (8) 市街地活性化について (9) 子育で支援について (10) 福祉について (11) 健康について (11) 健康について (12) 文化・芸術について (13) 観光意識について (14) 緑のまちについて (15) 生涯学習について (16) 青少年の育成について (17) 消防行政について (18) 防災対策について (18) 防災対策について (19) 環境について	21 22 22 23 24 25 25 26 27 27 28 28 28 29 30 30

Ⅲ.	基本調査結果	33
IV.	日常生活等に関する意識調査結果	37
	(1) 住み心地について	
	(2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について	44
	(3) 市政への市民参加について	52
	(4) 議会への市民参加について	58
	(5)平和行政・男女共同参画について	
	(6)誰もが移動しやすいまちについて	
	(7)協働によるまちづくりについて	
	(8) 市街地活性化について	
	(9) 子育て支援について	
	(10) 福祉について	
	(11) 健康について	
	(12) 文化・芸術について(13) 観光意識について	
	(13) 観朮急減にづいて(14) 緑のまちについて	
	(14) 縁めようにづいて(15) 生涯学習について	
	(16) 青少年の育成について	
	(17) 消防行政について	
	(18) 防災対策について	
	(19) 環境について	
	(20) 新型コロナ感染症の影響について	
	(21) その他	
٧.	市の政策に対する満足度・重要度調査結果	161
1	. 満足度・重要度調査の結果	161
2	. 各政策に対する満足度・重要度の加点評価	161
_	(1)回答者数について(1)回答者数について	161
	(2)満足度・重要度調査の加点方法と平均評価点	167
	(3)満足度調査結果の分析	
	(4) 重要度調査結果の分析	
	(5)満足度・重要度のクロス集計からみた政策に対する市民意識	
_		
3	. 各政策に対する満足度・重要度評価の状況	167

I. 調査の設計と実施概要

## I. 調査の設計と実施概要

#### 1. 調査の目的

この調査は隔年で日常生活に関する市民意識を把握するとともに、市が取り組んでいる政策に対する市民満足度と重要度についても把握・分析し、今後のまちづくりに反映させるための参考資料とするものである。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年度に調査を実施することができなかったため、令和3年度に調査を実施した。

また、「第5次那覇市総合計画」の進捗管理のため、施策ごとに設定された指標についても、本市民意識調査で行うと決定しているものについて、調査を実施した。

なお、「第5次那覇市総合計画」に基づく調査を実施するにあたり、平成30年度調査より 複数回答の質問については、従来とは異なり、「回答者数」を母数とすることで回答に対する 市民意識をより正確に把握することとした。

#### 2. 調查項目

調査項目は、クロス集計による分析のための基本項目も含め、以下の3項目で構成した。 なお、設問の詳細と内容については、各部局へ照会を実施して、内容を確定させた。 (質問総数は、分岐質問5問を含め、合計59問)

#### (1)基本項目

- 1) 性別
- 2) 年代
- 3) 居住地区
- 4) 那覇市における居住年数
- 5) 住居形態

#### (2) 日常生活等に関する意識調査について

- 1) 住み心地について
- 2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について
- 3) 市政への市民参加について
- 4) 議会への市民参加について
- 5) 平和行政・男女共同参画について
- 6) 誰もが移動しやすいまちについて
- 7) 協働によるまちづくりについて
- 8) 市街地活性化について
- 9) 子育て支援について
- 10) 福祉について
- 11) 健康について
- 12) 文化・芸術について
- 13) 観光意識について
- 14) 緑のまちについて
- 15) 生涯学習について
- 16) 青少年育成について
- 17) 消防行政について
- 18) 防災対策について
- 19) 環境について
- 20) 新型コロナ感染症の影響について
- 21) その他

#### (3) 市の政策に対する満足度・重要度調査について

- 1) 小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり
- 2) 地域の力が重なる安全安心のまちづくり
- 3) 交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり
- 4) 人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり
- 5) 地域で暮らし地域で支えるまちづくり
- 6) すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり
- 7) 身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり
- 8) 衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり
- 9) 子育てが楽しくなるまちづくり
- 10) 自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり
- 11) 生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり
- 12) 郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり
- 13) ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり
- 14) 様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり
- 15) 産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり
- 16) 中心市街地を活かしたまちづくり
- 17) 省エネを実践し、資源が循環するまちづくり
- 18) 自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり
- 19) 暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり
- 20) 災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり
- 21) 那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり
- 22) 市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり
- 23) 効率的で効果的な行財政運営を行う

## 3. 調査設計

(1)調査対象 那覇市に居住する満 18 歳以上の男女 5,000 人

(2)調査地域 那覇市全域

(3)抽出方法 年齢等間隔抽出法(住民基本台帳による等間隔抽出)による

(4)調査方法 調査票の配布:郵送

調査票の回収:郵送またはWeb アンケートによる

(5)調査期間 2021年9月6日~9月26日(20日間)

#### 4. 調査票の送付状況

住民基本台帳より年齢等間隔抽出法にて抽出を行った 5,000 人に調査票を送付して回答を依頼した。送付者の性別、年代別、居住地区別の内訳は、概ね本市の人口構成に比例させて、以下のとおりとなった

		送付実数	送付比率
	合 計	5,000人	100.0%
性別	男 性	2,382人	47.6%
別	女 性	2,618人	52.4%
	10代	65 人	1.3%
	20代	624 人	12.5%
年	30代	754 人	15.1%
年代別	40 代	874 人	17.5%
別	50 代	766 人	15.3%
	60代	774 人	15.5%
	70 代以上	1,143人	22. 9%
足	本 庁	1,691人	33.8%
住	真 和 志	1,653人	33.1%
居住地区別	小 禄	864 人	17. 3%
別	首 里	792 人	15.8%

## 5. 回収状況

## (1)回収実数と回収率

調査票の配布は郵送で行い、回収は郵送またはインターネットにて行った。総数で 1,325 人の回収があった。有効回収実数、回収率、そして性別、年代別、居住地区別の回収実数、回 収率は、以下のとおりとなった。

## (2)集計方法

単純集計・クロス集計 ※()内はインターネットでの回答者数・割合

		回収実数   /	送付実数	回収率
	合 計	1,325人 /	5,000人	26.5%
方回	郵送	1,053人 /	-	21.6%
法答	インターネット	272人 /	_	5.4%
	男性	533人(119人) /	2,382人	22.4% (5.0%)
性	女性	759人(153人) /	2,618人	29.0% (5.8%)
性別	その他 /回答しない	8人 /	-	-
	性別無回答	25人 /	_	_
	10代	8人 (2人) /	65 人	12.3% (3.1%)
	20代	99人(42人) /	624 人	15.9% (6.73%)
	30代	160人(61人) /	754 人	21. 2% (8. 1%)
年代別	40 代	250人 (92人) /	874 人	28.6% (10.5%)
別	50代	219人 (53人) /	766 人	28.6% (6.9%)
	60代	218人(15人) /	774人	28. 2% (1. 9%)
	70 代以上	344人(7人) /	1,143人	30.1% (0.6%)
	年代無回答	27人 /	_	-
	本 庁	450人(95人) /	1,691人	26.6% (5.6%)
屋	真 和 志	340人 (74人) /	1,653人	20.6% (4.5%)
居住地区別	小 禄	223人 (53人) /	864 人	25.8% (6.1%)
崩	首 里	261人(50人) /	792 人	33.0% (6.3%)
	居住地区無回答	51人 /		

#### 6. 報告書の読み方

- (1)結果は百分率で表示した。少数点第2位を四捨五入したため、合計が100%と一致しない場合がある。
- (2)回答者を限定する質問では、限定質問該当者数を分母として用いた。
- (3)経年変化に係る分析は、過去の調査等のデータを用いている。
- (4)回答比率の小さいものは、グラフ表示などで読み取りづらい場合があり、数値表示を 省略している場合がある。
- (5)「わからない」及び「無回答」の解析は、特に必要がない限り行わない。
- (6)指標調査は、「第5次那覇市総合計画」に掲げられた「目標値」の達成状況を中心に分析を行った。
- (7)各質問の単純集計グラフの種類においては、特に意図がある場合を除き、単一回答の場合は円グラフによるパーセント表示を採用し、複数回答の場合は横棒グラフによるパーセント表示(回答者数を母数とする割合)を採用した。
- (8) 複数回答の場合は、母数を回答総数ではなく、回答者数としているため、パーセント表示の合計が100%を超えている。
- (9) 円グラフ等の表示においては、特に意図がある場合を除き、選択肢のトップから順に 濃い色から薄い色へ変化するように表示の統一を行った。
- (10) 不適切な回答(選択肢にすべて○をつける、相反する選択肢に○をつける等)については、原則として無回答として処理しているが、回答者の意思の表明が読み取れるもの(訂正、取り消し等)は、できる限り反映させて処理した。

#### 7. 調査票

次項に当該調査に使用した調査票を掲載する。

## 令和3年度 那覇市民意識調査【アンケート調査票】

基本項	
卒中坦	

質問 1.	. あなたの性別を、	、次の中から <u>1つ</u> さ	お選びください。		
	1. 男性	2. 3	<b>文性</b>	3. その他/回答し	ない
質問2.	 . あなたの年代を、 	、次の中から <u>1つ</u> さ	お選びください。		
	1.10代6.60代		3.30代	4.40代 5.	50 代
質問3.	. あなたがお住まい	いの地区を、次の「	中から <u>1 つ</u> お選び	ください。	
	1. 本庁	2. 真和志	3. 小禄	4. 首里	
質問4.	あなたは那覇市に	こお住まいになって	何年になりますか	。次の中から <u>1つ</u> お選び	べください。
	1. 1年未満 5. 11~20年	2. 1~2年 6. 21年以上	3.3~5年	4. 6~10年	
質問5.		いの住居形態を、こ	欠の中から <u>1 つ</u> お	選びください。	
		営・県営など) 5		3. 賃貸(アパート・マ 緊)	'ンション)
		【日常生活等に関	する意識調査に	こついて】	
(1)住	み心地について				
質問6.	あなたは、那覇市	に「自分のまち」と	して愛着を感じま <sup>っ</sup>	すか。次の中から <u>1 つ</u> お選	びください。
	1. 愛着を感じる	2.	愛着を感じない	3. どちらとも	いえない
質問	6 - 1. 上記質問 ください		た方に伺います。	愛着を感じる理由を <u>2 ~</u>	<u>っまで</u> お選び
	1. 公共交通の便	がよいから	2. 通勤・	通学・買い物など生活に低	更利だから
	3. 子育て環境が (保育施設や	よいから 教育施設の充実など		文化芸術や伝統芸能が豊か	いだから
	5. 地域のコミュ	ニティ活動(校区ま	ちづくり協議会等)	が活発だから	
	6. 景色・景観が			一施設・公園などが充実し	ているから
		民館・図書館・支所			
	9. 自然環境が豊	かだから	10. その	2他(	)

質問7. 那覇市の住み心地について、あなたはどう思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1. 非常に住みよい
- 2. まあ住みよい
- 3. 普通だと思う

- 4. 少し住みづらい
- 5. 非常に住みづらい

#### (2)自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について

質問8. あなたのご家庭は、自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C)Aの活動に参加 していますか。次の中から1つお選びください。

1. 参加している

- 2. 参加していない(今後参加したい)
- 3. 参加していない(今後も参加しない) 4. わからない

質問8-1.上記質問で「2」又は「3」を選択した方に伺います。活動に参加していない理由 を、次の中から1つお選びください。

- 1.参加の仕方がわからない
- 2. 自治会などの地域コミュニティがない

3. 勧誘がない

4. 時間的にゆとりがない

5. 永住する気がない

わずらわしい

7. 関心がない

- 8. メリットを感じられない
- 9. その他(具体的に:

質問9. あなたがお住まいの地域で、特に大きいと思われる課題について2つまでお選びください。

- 1. 地域の美化・清掃
- 2. 自治会、PT(C)A、その他団体などの連携
- 3. 防犯に関する取組
- 4. 防災に関する取組
- 5. 青少年健全育成に関する取組
- 6. 一人暮らしのお年寄りへの支援
- 7. 子育てに対する支援
- 8. 交通安全
- 9. 住民同士の交流
- 10. その他(

#### (3)市政への市民参加について

質問 10. 市政への関心について、次の中から1つお選びください。

- 1. 非常に関心がある
- 2. まあ関心がある
- 3. あまり関心がない

- 4. まったく関心がない
- 5. どちらともいえない

質問 11. 市民の市政参加を促すために、市がすべきだと思うことを次の中から2つまでお選びく ださい。

- 1.参加の機会を増やす 2. わかりやすい広報活動 3. 楽しく参加できる工夫

- 4. 参加の呼びかけを増やす 5. インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる
- 6. 自治会などが行う地域活動の活性化

- 7. 市民活動団体への支援
- 8. その他(

質問12. 今後、那覇市の情報発信に力を入れるべきだと思う媒体について、次の中から2つまで

質問 17.「性の多様性」に関する問題を人権問題ととらえ、「性の多様性を尊重する都市・なは」 を宣言しました。戸籍上、同性であるお二人の申請に基づく、那覇市パートナーシップ 登録制度など、「性の多様性」に関する取り組みについて、あなたはどう思いますか。 次の中から<u>1つ</u>お選びください。

1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 反対

#### (6)誰もが移動しやすいまちについて

- 1. 1	子どもからお年寄りまで、 ものを次の中から <u>3つまで</u>	誰でも快適に移動できるまちづくりのために、 お選びください。	重要だと思う
	1. 自転車を利用しやすくす	る 2. オートバイを利用しやすくする	

3. タクシーを利用しやすくする 4. バスを利用しやすくする 5. モノレールを利用しやすくする 6. LRT (次世代型路面電車) の新しい交通手段を導入する 7. 乗合タクシー (※) 等を導入する 8. 歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する 9. 緑陰やベンチ等休憩施設を整備する 10. 駐車場・駐輪場を整備する 11. その他 (\_\_\_\_\_\_\_\_)
※利用者からの予約を受けて、定められた運行区域内で一般のタクシーを乗合で利用する新しい

質問 19. バス、モノレール、タクシーの各公共交通について満足していますか。次の中から<u>1つ</u> お選びください。

タイプの公共交通です。【例】真和志地域乗合タクシー

1. 非常に満足している 2. 満足している 3. 普通 4. 不満 5. 非常に不満

質問 19-1. 上記質問で「4」又は「5」を選択した方に伺います。不満に感じていることを次の中から3つまでお選びください。

 1. バスが時間通りに来ない
 2. バスの便数が少ない

 3. バスの路線がわかりづらい
 4. バス停の間隔が長い(遠い)

 5. モノレールとバス、タクシーの乗り継ぎが不便 6. タクシー乗り場が少ない
 7. 駅の案内表示、音声案内がわかりにくい
 8. モノレール車内が混雑している

 9. その他(
 )

### (7)協働によるまちづくりについて

質問 20. あなたが現在行っているボランティア活動の分野について、次の中から<u>2つまで</u>お選び ください。

1. 高齢者・障がいのある方への支援	2. 子どもの健全育成
3. まちづくりの推進、地域安全	4. 環境保全
5. キャリア教育、社会教育など生涯教育	6. 学術、文化、芸術、スポーツの振興
7. 観光、平和、国際交流	8. その他 ()
9. 行っていない	

質問 21. 行政機関がボランティア活動を支援する場合、どのようなことをしたらよいと思いますか。次の中から<u>2つまで</u>お選びください。

1.	市民への情報発信(ホームページの充実やボランティア団体の活動の紹介等)
2.	技術や知識などの研修会、講習会の開催

- 3. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
- 4. ポイント制を導入したポイントに応じて特典を設けられる制度
- 5. ボランティアを求める側とボランティアをしたい側との仲介(マッチング・コーディネート)
- 6. その他 (\_\_\_\_\_\_)

質問22.那覇市では、協働によるまちづくりを実践している団体の代表者や、団体が推薦する方々 を「恊働大使」として委嘱しております。

「恊働大使」にどのような役割を期待しますか?次の中から1つお選びください。

- 1. 協働大使としての活動の継続
- 2. 那覇市及び協働団体との連携強化
- 3. 協働大使の周知と広報活動の強化 4. 協働大使について知らないので分からない

#### (8)市街地活性化について

質問23. あなたが、次の中心市街地商店街へ行く回数を、それぞれ1つお選びください。

国際通り	1. ほぼ毎日 4. 月1~2回	2. 週3~4回 5. 年1~2回	3. 週 1~2 回 6. 全く行かない
マチグヮー (※)	1. ほぼ毎日 4. 月1~2回	2. 週3~4回 5. 年1~2回	3. 週 1~2 回 6. 全く行かない

※「市場」を意味する方言。ここでは、昔ながらの市場・商店街。 [例] 第一牧志公設市場、平和通り商店街、沖映通り商店街、栄町市場商店街など。

質問 24. 国際通りやマチグヮー等、中心市街地商店街を魅力あるものにするにはどのような方 策が必要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。(実施主体は行政・民間 を問わない)

- 1. 花や緑を増やす
- 3. 定期的にイベント等を開く
- 増やす

- 2. 日かげ等の環境整備(暑さ対策)
- 4. トランジットモール (※) などを充実させる
- 5. 気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を 6. 歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を 定期的に開催する
- 7. 再開発により市街地を再生する 8. 市街地周辺部に駐車場を整備する
- 9. 駐輪場 (バイク・自転車) を整備する 10. 託児施設や子供を自由に遊ばせられる場所を 整備する
- 11. 個店の魅力を向上させる(人材育成・情報発信力強化等)
- 12. 映画館等アミューズメント施設を誘致する
- 13. 利用客へ共通サービス(駐車場割引券、ポイントカード等)を実施する
- 14. その他(

※歩行者と公共交通(バス等)を優先させて、まちの賑わいを創出する歩行空間のこと。

#### (9)子育て支援について

質問 25. 小学校就学前までの子育て支援策について、優先的に取り組んでほしい施策を、次の中 から3つまでお選びください。

- 1. 認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大 2. 認定こども園での受入年齢などの拡充
- 3. 子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充
- 4. 病中・病後保育(病児保育)の拡充
- 5. 障がい児保育の拡充
- 6. 育児休業制度や育児支援事業の啓発
- 7. 保育、教育に関する経済的負担の軽減
- 8. 乳幼児医療費助成制度の拡充(対象年齢の引き上げ等)
- 9. その他(

3	3. 子どもの健康診査事業や子育て相談などの保健事業の充実
4	1. 無料学習塾や子ども食堂などの居場所づくりの支援
5	5. 学力保障や子どもに寄り添う支援員(相談員)の配置など学校を中心とした支援の充実
6	6. 不登校・中退対策、キャリア教育などの子どもの就労支援
7	7. 職業訓練、雇用創出などの親への就労支援
8	3. 貧困対策を行うNPOや企業、団体への支援
質問 27.	子どもの未来を応援する取り組みとして、あなたができると思うことを次の中から <u>1つ</u>
お	ら選びください。
	1. 学習支援などのボランティア活動 2. 寄付や募金などの資金援助
	3. 食材やサービスなどの物品提供 4. 無料学習塾や子ども食堂などへの場の提供 4. 無料学習塾や子ども食堂などへの場の提供
5	5. 就労体験などの機会の提供 6. 地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動
	本市における子育て支援(保育所での延長保育、放課後児童クラブの設置等)の取り組
6	みについて満足していますか。次の中から <u>1つ</u> お選びください。
1	. 満足
(10)福祉	祉について
質問 29. 均	地域の中で困っている方(高齢者、障がいのある方等)に対して、あなたができること
	よどのようなことですか。次の中から <u>3つまで</u> お選びください
1	1. 話し相手 2. 買い物 3. 調理 4. 掃除 5. 洗濯 6. ゴミ出し
7	7. 電球交換 8. 車等での送迎 9. 散歩等の運動への付き添い
10	0. 見守り訪問 11. 災害時の手助け 12. その他 ()
13	3. できることはない
	那覇市が、障がいのある方も地域でともに暮らせるまちにするためには、どのような取りである。
9	J組みの充実が必要だと思いますか。次の中から <u>3つまで</u> お選びください。
1	L. 生活相談 2. 福祉サービス(介護・自立訓練・就労支援など) 3. 医療等の助成
1 1	1. 生活相談 2. 福祉リーピス(介護・自立訓練・航労支援など) 3. 医療等の助成 1. 年金・手当等 5. 割引・優遇制度(税関係・施設等割引など)
4	
4	5. 補装具費・日常生活用具の給付 7. イベント等(運動会) 8. 特になし
4	
4	5. 補装具費・日常生活用具の給付 7. イベント等(運動会) 8. 特になし
4	5. 補装具費・日常生活用具の給付 7. イベント等(運動会) 8. 特になし

質問 26. 子どもの貧困を解消し、子どもの未来を応援する取り組みとして、あなたが効果的だと

思う施策は次のうちどれですか。次の中から3つまでお選びください。

1. 認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大

2. 認定こども園での受入年齢などの拡充

#### (11) 健康について

- 質問31. あなたは、1回30分以上の運動(ウォーキングなどを含む)をどの程度取り組んでいま すか。次の中から1つお選びください。
  - 1. ほとんど毎日
- 2. 週3回以上
- 3. 週1~2回程度

- 4. 月1~2回程度
- 5. 関心はあるが機会がない 6. 関心がない
- 質問 32. あなたは、主食(3)、主菜(3)、副菜(3)の3つを組み合わせて食べることが1日2回 以上あるのは週に何日ありますか。次の中から<u>1つ</u>お選びください。
  - ※1 ごはん、パン、麺類などの料理
  - ※2 魚介類、肉類、卵類、大豆。大豆製品を主材料にした料理
  - ※3 野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理
  - 1. ほとんど毎日
- 2. 週に4~5日
- 3. 週に 2~3 日程度
- 4. ほとんどない
- 質問33. あなたは今までに、次のような状態を経験したことがありますか。 あてはまるものをすべて選択してください。
  - 1. ニート (15歳以上の方で、就労していない、また、仕事を探しておらず、家事も通学もしていないこと)
  - 2. ひきこもり(社会的参加を避けて、6か月以上にわたり家庭にとどまり続けている状態。病気等で外 出できない方は除く)
  - 3. 不登校
  - 4. 高校中退(高等専門学校含む)
  - 5. 上記のような状態を経験したことはない

#### (12) 文化・芸術について

- 質問34. 那覇市が振興したほうが良いと考える文化芸術の分野は何ですか。次の中から3つまで お選びください。
  - 1. 古典芸能(組踊、能・狂言、歌舞伎、文楽など) 2. 演劇(沖縄芝居、ミュージカルを含む)
  - 3. 洋舞 (バレエ、ヒップホップなど) 4. 邦舞 (琉球舞踊、日本舞踊)
- - 5. ポップス、ジャズ、ロックなど
- 6. クラシック音楽 (オーケストラ、オペラ、吹奏楽など)

7. 合奏、歌唱

- 8. 美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真)
- 9. 映像・アニメーションなど
- 10. デザイン (グラフィックデザイン、プロダクトデザインなど)

11. 文芸

- 12. その他(\_\_
- 質問35.1年間にどのくらいの頻度で劇場や市民会館などへ鑑賞に出掛けますか。 次の中から1つお選びください。
  - 1. 年に1~2回程度
- 2. 年に3~4回程度
- 3. 年に5~6回程度

- 4. 年に7回以上
- 5. ほとんど行かない
- 質問 36. 文化芸術を鑑賞したり習い事をしたりする機会や、優れた地域文化にふれる機会など、 本市内での文化的な環境に満足していますか。次の中から1つお選びください。
  - 1. 満足
- 2. まあ満足
- 3. やや不満
- 4. 不満
- 5. わからない

#### (13) 観光意識について

- 質問 37. 那覇市内における観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について、あなたはどう思いますか。次の中から3つまでお選びください。
  - 1. 自然環境や景観、伝統文化・芸能が保存・継承されている
  - 2. 道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている
  - 3. 高賃金の仕事、雇用を生み出している
  - 4. 新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している
  - 5. レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題(渋滞、混雑等)が生じている
  - 6. マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている
  - 7. 地域が受け入れられる観光客の量を超えていると感じている
  - 8. 不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている
  - 9. その他(

#### (14) 緑のまちについて

質問 38. あなたは、住んでいる地域の花や緑(公園の緑や街路樹、公共や民間の緑化)に満足していますか。次の中から<u>1つ</u>お選びください。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

#### (15) 生涯学習について

質問 39. あなたは、どのような活動に興味があり学んでみたいと思いますか。次の中からあては まるものをすべてお選びください。

- 1. 動物愛護やごみ問題などの自然環境活動 2. 食育や生活習慣病予防などの健康活動
- 3. 避難訓練などの地域防災活動
- 4. 介護や障がいのある方への支援などの福祉活動
- 5. 趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動
- 6. その他(
- 質問 40. あなたやあなたの家族で夜間中学(※)に通いたいと思っている人がいますか。 次の中から<u>1つ</u>お選びください。
  - ※主に夜の時間帯に授業が行われる公立中学の夜間学級等のことをいいます。様々な理由により、義務教育を修了できなかった方や本国で義務教育を修了していない外国籍の方、また、不登校等のためにほとんど学校に通えなかった人などが学んでいます。
  - 1. いない
  - 2. いる-義務教育を修了していない
  - 3. いる-不登校のためにほとんど学校に通えなかった
  - 4. いる-外国籍で本国での義務教育を修了していない

#### (16) 青少年育成について

- 質問41. あなたは、地域の青少年(小学生~29歳まで)とどのように関わっていますか。あては まるものをすべてお選びください。
  - 1. あいさつや地域行事への参加の声掛け
  - 2. 青少年団体へ寄付をするなど金銭的な支援で関わっている
  - 3. 部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど学校支援を通して関わっている
  - 4. 地域の青年会活動などで関わっている
  - 5. 地域の子ども会活動などで関わっている
  - 6. 特に関わりがない
  - 7. その他(

#### (17) 消防行政について

- 質問 42.あなたは、応急手当(心肺蘇生法及び AED の取扱い)の講習を受けたことがありますか。 次の中から1つお選びください。
  - 1. 受けたことがある
  - 2. 受けたことはないが、受けてみたい
  - 3. 受けたくない
  - 4. どちらともいえない(受けたことがない)

#### (18) 防災対策について

- 質問43. あなたが実施している防災対策は何ですか。次の中からあてはまるものをすべてお選び ください。

  - 1. 非常用食糧の備蓄 2. 家具などの転倒・落下防止策 3. 避難場所・経路の確認

- 4. ハザードマップの確認 5. 家族間での連絡方法の確認 6. 防災訓練への参加

- 7. 家屋の耐震化 8. 自治体や勤務先の防災情報メールに登録 9. 特にやっていない
- 10. その他(
- 質問44. あなたが市に特に力を入れてほしい災害対策は何ですか。次の中から3つまでお選びく ださい。
  - 1. 非常用食糧の備蓄
  - 2. 高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援
  - 3. 防災に関するパンフレット・チラシ等の発行・提供
  - 4. 避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定
  - 5. 地域の防災リーダーの育成・活用
  - 6. 防災訓練の充実
  - 7. 防災に関するイベント・講演会
  - 8. インターネット(自治体ホームページ、フェイスブックなど)による防災情報の提供
  - 9. 防災行政無線などの通信設備の整備による情報伝達手段の拡充
  - 10. ボランティアの育成、受け入れ、活用
  - 11. 自主防災組織が使用する防災用資機材の整備
  - 12. 企業や各種団体との災害時応援協定の締結
  - 13. その他(

質問 45. あなたはペットを飼っていますか。または、これから飼う予定はありますか。 次の中から1つお選びください。

- 1. 飼っている(犬\_\_\_\_\_\_ 頭・猫\_\_\_\_\_ 匹 他(\_\_\_\_\_\_ 匹 ) )
- 2. これから(半年以内に)飼う予定がある(犬・猫 他(\_\_\_\_\_))
- 3. 飼っていない、飼う予定もない
- 4. 飼っていないが、今後飼いたいと思っている
- 質問 45-1上記で「1」又は「2」を選択した方にお伺いします。災害の発生や飼い主自身の疾病等に備えて、ペットのしつけ等の行っていることをすべてお選びください。
  - 1.「待て」ができる
  - 2. 大人しく留守番できる
  - 3. キャリー等に入って待てる
  - 4. ノミダニの予防をしている
  - 5. 各種ワクチン(狂犬病予防含む)の接種をしている
  - 6. 一時的に預けることができる人がいる
  - 7. ペット用の食料や必要品(キャリー、リード、ペットシーツ等)を備蓄している

#### (19) 環境について

質問 46. 資源循環型社会の形成促進のため、本市では、次に掲げるものを資源化物としてリサイクルしています。今後も資源化物としての取り扱いを続けてほしいものを<u>すべて</u>お選びください。

1. 紙類

- 2. 布類
- 3. 缶類 (アルミ・スチール)

- 4. ガラスビン
- 5. ペットボトル
- 6. 草木
- 質問 47. 地球環境保護のため、あなたが実践していることは何ですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。
  - 1. 電気の節約(LEDへの交換、こまめな消灯など)
  - 2. 水の節約(節水コマ、節水シャワーヘッドの利用など)
  - 3. いらないもの(レジ袋、ポケットティッシュ、チラシなど)は断る(リフューズ)
  - 4. ごみの出る量が少ない製品・食品を買う(リデュース)
  - 5. フリーマーケットやリサイクルショップの利用(リユース)
  - 6. ごみは分別して再資源化に努める(リサイクル)
  - 7. エコドライブの実践
  - 8. 公共交通の利用(パークアンドライド含む)
  - 9. ノーマイカーデーの実践(相乗り出勤含む)
  - 10. 地産地消の実践
  - 11. 環境性能に優れた自動車 (プラグインハイブリッド車 (PHV)・電気自動車 (EV) など) の利用
  - 12. 太陽光発電の利用
  - 13. 太陽熱温水器の利用
  - 14. エコキュート・エネファームの利用
  - 15. 環境にやさしい製品(簡易包装、紙ストローなど)の選択
  - 16. 屋上・壁面等緑化、緑のカーテンの実践
  - 17. 省エネタイプの電化製品を利用(買い替えの際は省エネタイプのものを選択)している
  - 18. クールビズ (かりゆしウェアの着用、ノーネクタイなど) を実践している

### (20) 新型コロナ感染症の影響について

質問 48.	新型コロナの	の感染予防のた	めにあなたか	<b>ジしていること</b>	、またはこれ	までにして	きたこと
	は何ですか。	次の中からあっ	てはまるもの	をすべてお選び	びください。		

- 1. マスク着用を徹底する
- 2. 手洗い・手指消毒を行う
- 3. 不要不急の外出を控える
- 4. 会食は少人数(4人以下)かつ短時間(2時間以内)にする
- 5. 感染防止対策を実施している店舗を利用する
- 6. 沖縄県内の離島への往来は必要最小限とし来島自粛を求めている離島への往来は自粛する
- 7.3 密(密閉、密集、密接)回避が難しい場所への外出は控える
- 8. 国の緊急事態宣言区域などの感染拡大地域への往来を控える
- 9. 歓送迎会、模合、ビーチパーティ等飲食につながるイベントの開催および参加を自粛する
- 10. その他(
- 11. 新型コロナの感染予防のための行動はとっていない

質問49. 新型コロナに関する情報をどこから得ていますか。次の中からあてはまるものをすべて お選びください。

- 1. テレビ
- 3. 新聞・雑誌
- 5. 国や地方自治体のホームページ
- 7. Twitter (ツイッター)
- 9. LINE (ライン)
- 11. その他の SNS
- 13. その他(

- 2. ラジオ
- 4. インターネットニュース、ニュースアプリ
- 6. 広報なは市民の友
  - 8. Facebook(フェイスブック)
- 10. Instagram (インスタグラム)
- 12. 家族や友人、知人から
- ) 14. 新型コロナに関する情報を得ていない

質問50. 新型コロナの感染拡大以降、利用頻度が増えたオンライン活動は何ですか。次の中から あてはまるものをすべてお選びください。

- 1. テレワーク
- 3. オンラインショッピング(ネット通販)
- 5. オンライン交流
- 7. 各種オンライン申請手続き
- 9. 動画配信サービスの利用
- 11. 利用頻度が増えたオンライン活動はない 12. オンライン活動を行ったことはない
- 2. オンライン学習
- 4. 食事の注文および宅配
  - 6. オンライン講座(オンラインセミナー)
  - 8. オンラインゲーム
- 10. その他(\_\_\_\_\_

## (21) その他

質問 51.	近年、	外国人市民が増え	えていますが、	日本人市民と	外国人市民な	がともに暮らし	やすい社
	会にし	ていくためには、	どのような取	り組みに力を	入れるべきだ	どと思いますか。	次の中
	から3	つまでお選びくた	さい。				

1.	外国人市民に対し、	日本の生活ル	ノールや習慣、	文化の違いにつ	いて周知する
2	外国人市民に対する	相談休制や	多言語での情	書報提供を充宝さ	せる

- 3. 外国人市民への日本語の学習機会を提供する
- 4. 外国人市民の児童生徒の教育を充実させる
- 5. 異文化理解や外国人市民との交流の場をつくる
- 6. 外国人市民が地域社会へ積極的に参加できるような機会を提供する
- 7. 自治会、NPO、ボランティア等による外国人市民への支援を充実させる
- 8. その他(

質問52. 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点と すると、何点くらいになりますか。次の中から1つ点数をお選びください。

とても不幸										とても幸せ
0点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10点
<b>←</b>										$\longrightarrow$

質問 52-1. 新型コロナ感染症が幸福感に影響していますか。次の中から1つお選びください。

- 1. 影響している
- 2. やや影響している 3. さほど影響していない
- 4. 影響していない
- 5. わからない

質問52-2. 上記質問で「1」または「2」を選択した方に伺います。幸福感に影響を及ぼした 要因について、ご記入をお願いします。

質問53. その他、那覇市の市政に関するご意見やご提言があれば、ご記入をお願いします。

## 【市の政策に対する満足度・重要度調査】

質問 54. 那覇市では、第5次総合計画に基づき、様々な政策を展開しています。本市の取り組んでいる 23 の政策に対する「満足度」と「重要度」について、あなたの実感や印象、経験に基づき、あてはまる番号に<u>1つずつ</u>○をつけてください。

	<b>満足度</b> (現在、どの程度満足して いますか)					<b>重要度</b> (今後、どの程度重要だと 思いますか)					
本市の第5次総合計画 政策(取組)	満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない		高い	まあ高い	やや低い	低い	わからない
回答例⇒	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1
【めざすまちの姿】 多様なつながりで共に助け合い、認	め合う	安全安	大心に	暮らせ	るまち	5	NAH	4			
小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり (自治会や校区まちづくり協議会への活動支援等)	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1
地域の力が重なる安全安心のまちづくり (防犯・交通安全活動の推進、防災体制の強化等)	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1
<b>交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり</b> (平和・国際交流の推進等)	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1
人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり (人権尊重、男女共同参画推進等)	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1
【めざすまちの姿】 互いの幸せを地域と福祉で支え合い	\誰もフ	が輝く	まち	NAHA	4						
地域で暮らし地域で支えるまちづくり (福祉・介護・障がいのある方への支援、子どもの貧困対策等)	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1
すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり (健康づくりの実践、こころの健康維持等)	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1
身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり (地域医療の充実等)	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1
衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり (生活衛生・食品衛生・感染症対策等)	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1
【めざすまちの姿】 次世代の未来を拓き、豊かな学びと	文化な	が薫る	誇りあ	るまち	NAI	ΗA	4				
子育てが楽しくなるまちづくり (子育て支援、待機児童対策等)	5	4	З	2	1		5	4	3	2	1
自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり (学力向上、教育環境の整備等)	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1
生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり (スポーツ施設等の整備、青少年健全育成等)	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1
郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造する まちづくり (文化財の保全、文化芸術・芸能活動の支援等)	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1

	(玛	<b>満足度</b> (現在、どの程度満足して いますか)					<b>重要度</b> (今後、どの程度重要だと 思いますか)					
本市の第5次総合計画 政策(取組)	満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	層し	-	まあ高い	やや低い	低い	わからない	
回答例⇒	5	4	3	2	1	į	5	4	3	2	1	
【めざすまちの姿】 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろが	る万国	津梁0	Dまち	NAH	Α							
ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり (観光客受入体制の整備、観光資源の発掘・創造等)	5	4	3	2	1	Ē	5	4	3	2	1	
様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり (産業振興、中小企業支援等)	5	4	3	2	1	5	5	4	3	2	1	
産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり (労働環境の改善、就労支援、人材育成の推進等)	5	4	3	2	1	5	5	4	3	2	1	
中心市街地を活かしたまちづくり (商店街・マチグヮーの振興等)	5	4	3	2	1	Ē	5	4	3	2	1	
【めざすまちの姿】 自然環境と都市機能が調和した住み	りつづ	けたい	まち	NAH	4							
省エネを実践し、資源が循環するまちづくり (省エネを実践するライフスタイルの推進、ごみ減量化等)	5	4	3	2	1	Ę	5	4	3	2	1	
自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり (魅力ある都市景観の形成、道路美化等)	5	4	3	2	1	5	5	4	3	2	1	
暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり (交通体系の整備等)	5	4	3	2	1	5	5	4	3	2	1	
災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり (安全安心で快適な道路や公園の整備等)	5	4	3	2	1	Ę	0	4	3	2	1	
那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり (都市計画、土地利用等)	5	4	3	2	1	Ē	5	4	3	2	1	
【基本構想を推進するために】 市民との信頼を深め、対	率的で	で効果	的な行	財政道	置営を行	うう						
市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり (行政サービスの電子化等)	5	4	3	2	1	Ē	5	4	3	2	1	
効率的で効果的な行財政運営を行う (市民満足度の高いサービスの提供等)	5	4	3	2	1	Ę	5	4	3	2	1	

# Ⅱ. 調査結果の概要

## Ⅱ. 調査結果の概要

1. 日常生活等に関する意識調査結果の概要・要約

令和3年度実施の日常生活等に関する意識調査結果の概要は、下記のとおりである。

#### (1) 住み心地について

約7割の市民が那覇市に対して「自分のまち」として愛着 を感じている。

那覇市を「非常に住みよい」と感じている市民の割合 は、前回調査と比較するとやや減少傾向にある。

- 居住地区別では、首里地区の愛着度が最も高く、本庁 地区が最も低い。
- ●愛着を感じる理由は「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」が 70.8%で最も高く、次いで「公共交通の便がよいから」が 55.4%となっている。
- 住み心地が「非常に住みよい」、「まあ住みよい」を合わせて「住みよい」と感じている市民は63.0%。

#### (2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について

22.0%の市民が自治会、校区まちづくり協議会等へ「参加している」と回答しており、前回調査時から、9.7 ポイント減少している。

地域コミュニティ活動へ「参加していない」と回答した市民の理由について、個人的な理由以外に、「地域コミュニティがない」、「勧誘がない」などの地域の事情がある。

地域の課題としては「地域の美化・清掃」を挙げる人が前回より も増加し、首位となっている。次いで「一人暮らしのお年寄りの支 援」、「防犯に関する取組」と回答した市民が多い。また、本庁地区、 真和志地区、小禄地区では「地域の美化・清掃」、首里地区では「一 人暮らしのお年寄りへの支援」が最も高い。

- 自治会、校区まちづくり協議会等に参加している市民は、特に首里地区で高い割合を示している。
- 年代や居住年数が高くなるのに比例して、自治会等の参加率は高まっている。
- ●「参加していない」と回答した市民の理由は、「時間的にゆとりがない」が27.2%、次いで「参加の仕方がわからない」が14.6%、「自治会などの地域コミュニティがない」が13.2%となっている。
- 地域の課題としては「地域の美化・清掃」が28.7%で最も割合が高い。



#### (3) 市政への市民参加について

市政へ関心がある市民は 59.4%となっており、市政に対する関心は、 前回調査結果(63.2%)と比較して、減少傾向にある。

市民が市の情報発信に力を入れるべき媒体としては、「広報紙なは 市民の友」、「テレビ」、「フェイスブックやラインなどのソーシャルメ ディア」の割合が高い。

年代別において 40 代まで、「フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア」の割合が高く、50 代は「那覇市公式ホームページ」、60 代以上は「広報紙なは市民の友」の割合が高くなっている。



- 市政へ関心のある市民は59.4%、関心がない市民は27.2%である。
- 市民の市政参加を促すために「わかりやすい広報活動」、「楽しく参加できる工夫」が望まれている。
- 市の情報発信に力を入れるべきだと思う媒体については、「広報紙なは市民の友」 が 40.5%で最も高く、次いで「テレビ」が 31.4%、「フェイスブックやラインな どのソーシャルメディア」が 31.2%の順となっている。
- 年代別においては、「フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア」が 40 代以下で高い割合を占めている。

#### (4)議会への市民参加について

市民が議会へ求めていることは、「地域問題や市民相談への対応」、「議員定数や報酬などの見直し」が多い。

また、議会報告会で取り上げてほしいテーマとして、20 代~40 代は「子育て支援・教育問題」、50 代以上では「医療や福祉問題」などライフステージに応じたテーマがあげられている。



- 議会に求めることについて「地域問題や市民相談への対応」が 51.2%とほとんど の属性別において最も割合が高く、続いて「議員定数や報酬などの見直し」が 31.3%、「政策や条例の提案」が 25.1%の順となっている。
- 市民が議会報告会で取り上げてほしいテーマとしては「医療や福祉問題」が 52.1%、「子育て支援・教育問題」が 43.1%、「雇用・失業問題」が 26.9%、「防災・防犯など安全なまちづくり」が 24.6%、となっている。

### (5) 平和行政・男女共同参画について

平和行政について、市民が最も望む取り組みは「沖縄戦の 実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討 と充実」、次いで「米軍の事件・事故に対する取組み」とな っている。

年代別にみると 10 代~20 代、60 代以上で「米軍の事件・ 事故に対する取組み」の割合が最も高く、30 代~50 代以上 では「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和 学習事業の検討と充実」の割合が最も高くなっている。

男女の平等について、男性が優遇されていると思う市民は61.9%、女性が優遇されていると思う市民は4.7%。



市では、「男女平等」、「性の多様性」の取り組みに対し支持または理解を示す市民を増 やしていく事を目標に掲げており、市の取り組みが概ね受け入れられていると考えられ る。

- 平和行政について最も市民が望む取り組みは、「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実」の 56.2%と最も高く、次いで「米軍の事件・事故に対する取組み」が 50.4%となっている。
- 男女共同参画について、「どちらかというと、男性の方が優遇されている」が 44.1%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が17.8%、「平等である」が15.7%の順となっている。
- ●「性の多様性」に関する取組みについては、「賛成」が48.8%と最も多く、次いで「どちらかと言えば賛成」が31.8%、「どちらかと言えば反対」が11.5%の順となっており、「賛成」が「反対」を大きく上回っている。性別でみると、女性は男性より「賛成」・「どちらかといえば賛成」の割合が高い。年代別でみると、全ての年代で「賛成」・「どちらかといえば賛成」の割合が「反対」・「どちらかといえば反対」を上回っている。

#### (6) 誰もが移動しやすいまちについて

誰でも快適に移動できるまちづくりのために重要だと思う ものは、「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備 する」、「バスを利用しやすくする」ことである。

各公共交通について「満足している」市民は 20.0%に対し、「不満」な市民は 27.6%であり、「不満」が「満足」を上回っている。



- 誰でも快適に移動できるまちづくりのために重要だと思うものは、「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」が 49.0%と最も多く、次いで「バスを利用しやすくする」が 42.4%となっている。
- 各公共交通について、満足しているかについては、「普通」が 49.4%と最も多く、 次いで「不満」が 22.9%、「満足している」が 17.1%の順となっている。
- 各公共交通の不満に感じていることは、「バスの路線がわかりづらい」が 59.5% と最も高く、次いで、「バスが時間通りに来ない」が 44.1%、「バスの便数が少ない」が 34.8%と、上位 3 位までを「バス」に対する不満が占めている。

#### (7) 協働によるまちづくりについて

市民が行っているボランティア活動について、「行っていない」が7割強となっている。

行政機関に求めるボランティア活動を支援する取組みとしては、「ボランティアを求める側としたい側との仲介(マッチング・コーディネート)」が期待されている。

市民が「協働大使」に期待する役割について、「協働大使について知らないのでわからない」が7割弱と最も多い。



- 市民が行っているボランティア活動について「行っていない」が70.6%と最も多く、次いで「子供の健全教育」の8.1%となっている。
- 行政機関が行うボランティア活動支援としては「ボランティアを求める側としたい側との仲介(マッチング・コーディネート)」が 45.7%で最も高く、次いで「市民へ情報発信(ホームページの充実やボランティア団体の活動の紹介等)」が 44.8%となっている。
- 市民が「協働大使」に期待する役割について、「協働大使について知らないのでわからない」が68.2%で最も多く、次いで「協働大使の周知と広報活動の強化」が11.5%となっている。

#### (8) 市街地活性化について

市民が国際通り、マチグヮー等の中心市街地商店街へ行く 頻度は、「年1~2回」が最も多い。「全く行かない」と「年1~2回」を合わせると、国際通りで6割強、マチグヮーで7割強となっており、中心市街地商店街へ殆ど行かない市民の割合が増加傾向にある。

中心市街地商店街を魅力あるものにするための必要な方策 として「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」 を望む声が最も多く、ついで「日かげ等の環境整備(暑さ対 策)」、「市街地周辺部に駐車場を整備する」である。



- 国際通りについては、「年 1~2 回」が 33.4%と最も多く、次いで「全く行かない」が 30.3%、「月 1~2 回」が 22.6%、の順となっている。
- マチグヮーについては、「全く行かない」が 40.2%と最も多く、次いで「年 1~2 回」が 32.5%、「月 1~2 回」が 16.0%の順となっている。
- 中心市街地商店街を魅力あるものにするための必要な方策として「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」が 48.6%、「日かげ等の環境整備(暑さ対策)」31.0%、「市街地周辺部に駐車場を整備する」29.9%の順となっている。

## (9)子育て支援について



小学校就学前までの子育て支援について優先的に取り組んでほしい施策は、「認定こども園や認可保育所の受け入れ児童数の拡大」が最も多く、次いで「保育、教育に関する経済的負担の軽減」となっている。

こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する 取組として効果的だと思う施策は「無料学習塾や子ど も食堂などの居場所づくりの支援」が最も多く、次に 「認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大」と なっている。

こどものみらいを応援する取組みとして、市民ができると思うことは、「地域のこどもたちへの挨拶・見守り活動」である。

- ●子育て支援策について優先的に取り組んでほしい施策は「認定こども園や認可保育所の受け入れ児童数の拡大」が52.1%、次いで「保育、教育に関する経済的負担の軽減」が52.0%となっている。
  - ●こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する取組として効果的だと思う施策は「無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援」が59.5%、次いで「認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大」が36.2%となっている。
  - こどものみらいを応援する取り組みとして、市民ができると思うことは「地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動」が 28.2%で最も多く、次いで「寄付や募金などの資金援助」が 25.7%となっている。
  - 本市における子育て支援について満足しているかについて、「満足」「まあ満足」を合わせると 22.9%、「不満」「やや不満」を合わせると 17.2%となっている。

#### (10) 福祉について

市民が地域で困っている方(高齢者、障がいのある方等)にできる取り組みとして、 「話し相手」が最も多く、次いで「災害時の手助け」である。

障がいのある方も地域でともに暮らせるまちにするためには、「福祉サービス(介護・ 自立訓練・就労支援など)」や「生活相談」等の充実が求められている。

- 市民が困っている方(高齢者、障がいのある方等)にできる取り組みとして、「話し相手」が 42.3%で最も多く、次いで「災害時の手助け」が 30.3%となっている。
- 障がいのある方も地域でともに暮らせるまちにするためには、「福祉サービス(介護・自立訓練・就労支援など)」が70.3%で最も高く、次いで「生活相談」が49.7%、「医療等の助成」が43.1%の順となっている。



## (11) 健康について



1回30分以上の運動を週3回以上取り組んでいる市 民は3割。一方で、取り組む関心はあるが、機会がない 市民も3割弱となっている。

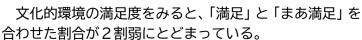
年代別でみると、30代40代では「ほとんど毎日」の割合が、他の年代の半分ほどになっている。

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上の日がほぼ毎日の市民は、4割となっている。

- 1回 30 分以上の運動への取り組みに対して、「関心はあるが機会がない」が 27.1%、次いで「週 1~2 回程度」が 22.8%、「週 3 回以上」が 17.0%の順となっている。
- 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日が「ほぼ毎日」の市民は、42.8%、次いで「週に2~3日」が22.6%、「週に4~5日」が21.5%の順となっている。
- ニートやひきこもり、不登校、高校中退の経験について「上記のような状態を経験したことはない」が 79.1%で最も高く、次いで「ニート」が 6.6%、「高校中退 (高等専門学校含む)」が 4.1%の順となっている。

# (12) 文化・芸術について

那覇市が振興したほうが良いと考える文化芸術の分野は「演劇」が最も多く、次いで「古典芸能」となっている。一方で、劇場や市民会館などへ鑑賞には「ほとんど行かない」という市民は6割を超えており、年代別でみると年代層が低いほど「ほとんどいかない」という割合が高くなる傾向がある。





- 那覇市が振興したほうが良いと考える文化芸術の分野は「演劇(沖縄芝居、ミュージカルを含む)」が 40.6%で最も高く、次いで「古典芸能(組踊、能・狂言、歌舞伎、文楽など)」が 38.3%、「美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真)」が 34.1% の順となっている。
- 1 年間に劇場や市民会館などへ鑑賞に出掛ける頻度については、「ほとんど行かない」が 64.3%で最も多く、次いで「年に 1~2 回程度」が 21.1%、「年に 3~4回程度」が 6.9%の順となっている。前回調査よりも「ほとんど行かない」の割合が増加しているが、新型コロナウイルスの影響もあると思われる。
- 本市内での文化的な環境に満足しているかについては、「わからない」が 52.2% で最も多く、次いで「まあ満足」が 17.6%、「やや不満」が 15.8%の順となっている。

# (13) 観光意識について

那覇市内における観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について、「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題(渋滞、混雑等)が生じている」と5割強の市民が感じており、全ての属性別においても、最も高い回答結果となっている。

● 観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について、「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題(渋滞、混雑等)が生じている」が52.2%と最も高く、次いで「新たな商業施



設、飲食店、娯楽機会を生み出している」が 36.8%、「道路や景観が整備され、 生活環境の質を高めている」が 33.1%の順となっている。

#### (14) 緑のまちについて

居住地域の花や緑に「満足」している市民は52.5%。「不満」な市民は35.1%で居住地域の花や緑に対して「満足」している市民の方が多い。

居住地区別では真和志地区で「満足」が5割を下回っている。 他の地域では、5割を超えている。

● 住んでいる地域の花や緑(公園の緑や街路樹、公共や民間の緑化)に対して、「まあ満足」が45.0%で最も多く、次いで「やや不満」が21.8%、「不満」が13.3%の順となっている。



# (15) 生涯学習について

市民が、興味があり学んでみたい活動は「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」が最も多い。

性別でみると、男性は「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」、女性は「食育や生活習慣病予防などの健康活動」の割合が最も高くなっている。

また、不登校など様々な理由から夜間中学に通いたいという人は、少数ながらみられる。

- 興味があり学んでみたい活動については、「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」が 46.8%で最も高く、次いで「食育や生活習慣病予防などの健康活動」が 42.2%、「動物愛護やごみ問題などの自然環境活動」が 32.4%の順となっている。
- 夜間中学に通いたいと思っている人がいるかについては、「いない」が 94.4%で 最も多く、次いで「いる-不登校のためにほとんど学校に通えなかった」が 1.1%、 「いる-義務教育を修了していない」が 0.5%の順となっている。

#### (16) 青少年の育成について

市民の地域青少年との関わりについて、「特に関わりがない」が7割以上を占めている。

● 地域の青少年とどのように関わっているかについては、「あいさつや地域行事への参加の声掛け」が13.5%と最も高く、次いで「部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど、学校支援を通して関わっている」が3.7%、「青少年団体への寄付をするなど金銭的な支援で関わっている」が2.3%の順となっている。

#### (17) 消防行政について

応急手当(心肺蘇生法及び AED の取扱い)の講習を受けたことがあると回答した市民の割合は約4割。若い年代ほど受講経験がある割合は高く、20代~40代では「受けたことがある」、「受けてみたい」を合わせると8割を超えている。

- 応急手当法の講習を「受けたことがある」市民は 44.2%で最も多く、次いで「受けてみたい」市民は 26.4%の順である。
- 若い年代ほど応急手当法の受講経験がある市民の割合が高くなっており、10 代で 50.0%、20 代においては 78.8%が受講の経験がある。



# (18) 防災対策について

市民が実施している防災対策について、「特にやっていない」 が約3割となっており、ほぼすべての属性で高い割合を占めて いる。

市民が特に力を入れてほしい災害対策は「高齢者・障がいの ある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」 が5割以上となっている。

ペットについて、災害や飼い主の不調に備えて、食糧・必需 品を備えている人は、6割弱となっている。

- 市民が実施している防災対策については、「非常用食糧 の備蓄」が 26.6%で最も高く、次いで「避難場所・経路の確認」が 26.5%、「ハ ザードマップの確認」が 20.4%の順となっている。
- 那覇市に特に力を入れてほしい災害対策については、「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」が52.1%で最も高く、次いで「非常用食糧の備蓄」が48.8%、「避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定」が37.1%の順となっている。
- ペットの飼育については、「飼っていない、飼う予定もない」が 67.5%で最も多く、次いで「飼っている」が 14.0%、「飼っていないが、今後飼いたいと思っている」が 13.1%の順となっている。
- 災害の発生や飼い主自身の疾病等に備えて、ペットのしつけ等の行っていることについては、「ペット用の食料や必要品を備蓄している」が 59.8%と最も高く、次いで「ノミダニの予防をしている」が 55.6%、「各種ワクチンの接種をしている」が 51.3%の順となっている。



#### (19) 環境について

資源化物として取り扱いを続けてほしいものは「缶類(アルミ・スチール)」、「ペットボトル」「紙類」などである。

- 資源循環型社会の形成促進のために、資源化物として取り扱いを続けてほしいものについては、「缶類(アルミ・スチール)」が84.1%と最も高く、次いで「ペットボトル」が84.0%、「紙類」が78.3%の順となっている。
- 地球環境保護のため実践していることで最も多かったものは「ごみは分別して再資源化に努める(リサイクル)」で、一人当たりの実践数の平均は 4.48 個である。

# (20) 新型コロナウイルス感染症の影響について

新型コロナの感染予防のために行っている対策は、「マスク着用を徹底する」と「手洗い・手指消毒を行う」が9割を超えている。性別や年齢、地区、居住年数に関わりなく高い割合となっている。

新型コロナについての情報を得る主な手段は、テレビである。 新型コロナの感染拡大によって、外出自粛が求められるように なったため、オンライン活動の利用頻度が増したが、特に「オン ラインショッピング(ネット通販)」の割合が高く、3割弱となっ ている。



- 新型コロナの感染予防のための対策については、「マスク 着用を徹底する」が 94.5%と最も高く、次いで「手洗い・手指消毒を行う」が 92.1%、「不要不急の外出を控える」が 84.1%の順となっている。
- 新型コロナに関する情報源については、「テレビ」が87.8%と最も高く、次いで「インターネットニュース、ニュースアプリ」が55.2%、「新聞・雑誌」が50.0%の順となっている。
- 新型コロナの感染拡大以降、利用頻度が増えたオンライン活動については、「オンラインショッピング(ネット通販)」が26.4%と最も高く、次いで「動画配信サービスの利用」が22.1%、「食事の注文および宅配」が17.3%の順となっている。

#### (21) その他

日本人市民と外国人市民がともに暮らしやすい社会にしていくために必要な取組は、「外国人市民に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いについて周知する」が6割強、「外国人市民に対する相談体制や、多言語での情報提供を充実させる」が5割強となっており、外国人に必要な情報を届けること、またどのように届けるかが上位を占めている。

- 那覇市民の平均幸せ度数は、10点満点中6.77点となっている。
- 上記の幸福感に新型コロナウイルス感染症が影響していると回答した市民の割合は 63.4%となっている。



#### 2. 第5次総合計画の各政策に対する満足度・重要度調査の概要・要約

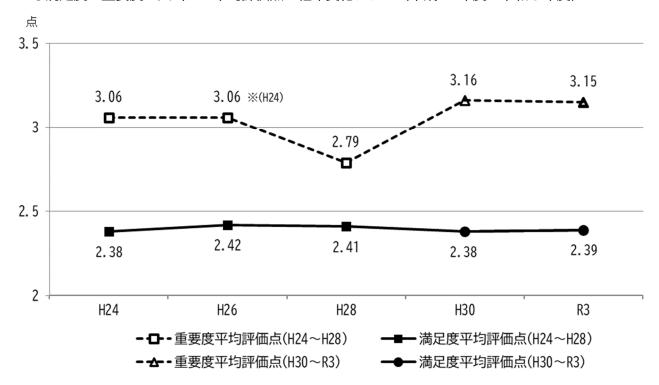
令和3年度実施の第5次総合計画各政策に対する満足度・重要度調査結果の概要は、下 記のとおりである。

第5次総合計画で掲げた23の政策に対する市民の満足度・重要度は、概ね重要度が高い領域で、満足度も平均値の周辺に集中して分布するという結果となった。

満足度の合計点数平均 = 1,829点 満足度の有意回答者数平均 = 766人 満足度の一人当たり平均評価点 = 2.39点

重要度の合計点数平均 = 3,019点 重要度の有意回答者数平均 = 959人 重要度の一人当たり平均評価点 = 3.15点

●満足度・重要度一人当たり平均評価点の経年変化グラフ(平成24年度~令和3年度)



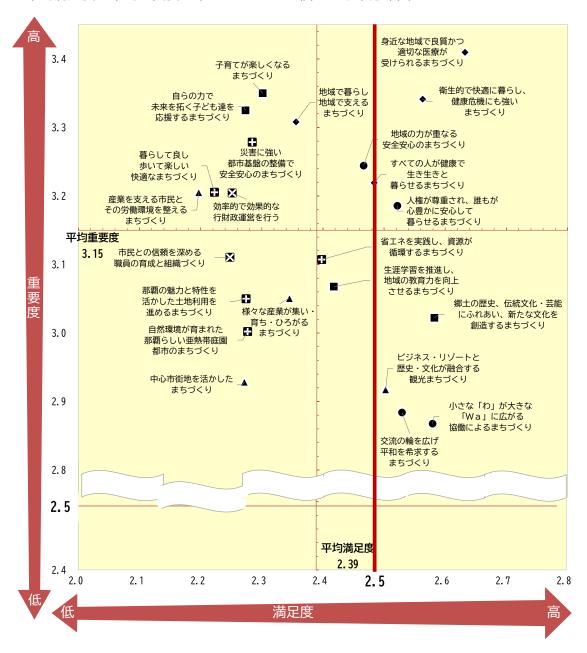
平成30年度の調査から第5次総合計画の政策となったことで、質問項目が前回と異なることから、単純比較は出来ないが、参考として、前回までの調査結果との経年変化を掲載した。

満足度については、政策 23 項目のうち全施策の平均点 2.39 以上の項目が 11 項目(前回は 23 項目の内 10 項目) あることから、満足度に大きな変化はないと考えられる。

重要度については、政策 23 項目のうち全施策の平均点 3.15 以上の項目が 12 項目(前回は 23 項目の内 12 項目) という結果となっている。

※H26 調査は重要度調査を実施しておらず、H24 調査の重要度を掲載している。

- 満足度・重要度とも相対的に高い評価を得た政策は、以下の5つの政策である。
  - ○身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり
  - ○衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり
  - ○人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり
  - ○すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり
  - ○地域の力が重なる安全安心のまちづくり
- 満足度・重要度とも相対的に低い評価を得た政策は、以下の5つの政策である。
  - ○中心市街地を活かしたまちづくり
  - ○自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり
  - ○那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり
  - ○市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり
  - ○様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり
- ●平均満足度・平均重要度を中心とした23の個々の政策分布図



# Ⅲ. 基本調査結果

# Ⅲ. 基本調査結果

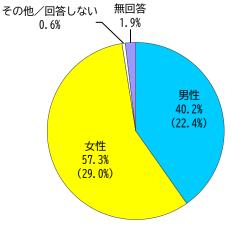
質問 1. あなたの性別を、次の中から1つお選びください。

- 1. 男性
- 2. 女性
- 3. その他/回答しない

回答者の性別については、「男性」が533人(40.2%)、「女性」が759人(57.3%)、「その他/回答しない」が8人(0.6%)、「無回答」が25人(1.9%)となっている。

男女比については、男性よりも女性が多いという那覇市の現状に近い標本数が確保されている。





( )内は送付数に対する回収率

質問2. あなたの年代を、次の中から1つお選びください。

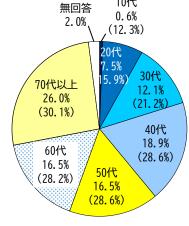
- 1.10代
- 2.20代
- 3.30代
- 4.40代
- 5.50代

- 6.60代
- 7.70代以上

年代別の回収率をみると、「70 代以上」が 26.0%と最も多く、次いで「40 代」が 18.9%、「50代」、「60代」がともに 16.5%の順となっている。

送付数に対する回収率は、「20 代」の割合が低いものの概ね各年代の那覇市の現状に近い標本数が確保されている。 #@\(\sigma\) #\(\frac{10 代}{2}\)

/331U~± U		<b></b> •
選択項目	回答数	割合
10代	8	0.6%
20代	99	7.5%
30代	160	12.1%
40 代	250	18.9%
50代	219	16.5%
60代	218	16.5%
70 代以上	344	26.0%
無回答	27	2.0%
合 計	1, 325	100%



( )内は送付数に対する回収率

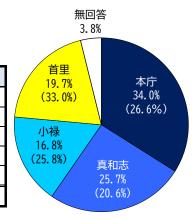
質問3. あなたがお住まいの地区を、次の中から1つお選びください。

- 1. 本庁
- 2. 真和志
- 3. 小禄
- 4. 首里

居住地区別については、送付数に対する回収率が「真和志地区」で低くなっているが、ほぼ那 覇市の現状に近い標本数が確保されている。



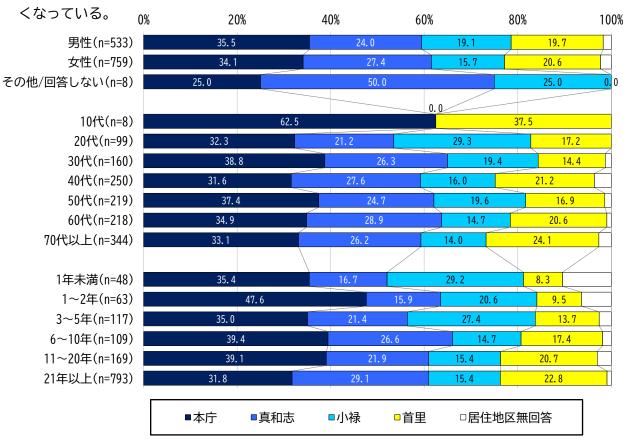
選択項目	回答数	割合
本庁	450	34.0%
真和志	340	25.7%
小禄	223	16.8%
首里	261	19.7%
無回答	51	3.8%
合 計	1,325	100%
•		



( )内は送付数に対する回収率

# 【属性別集計(回答者属性無回答除く)】

属性別でみると、居住年数が「1年未満」「1~2年」で居住地区について「無回答」の割合が高



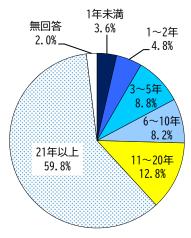
質問 4. あなたは那覇市にお住まいになって何年になりますか?

- 1. 1年未満
- 2. 1~2年
- 3.3~5年

- 4.6~10年
- 5.11~20年
- 6. 21 年以上

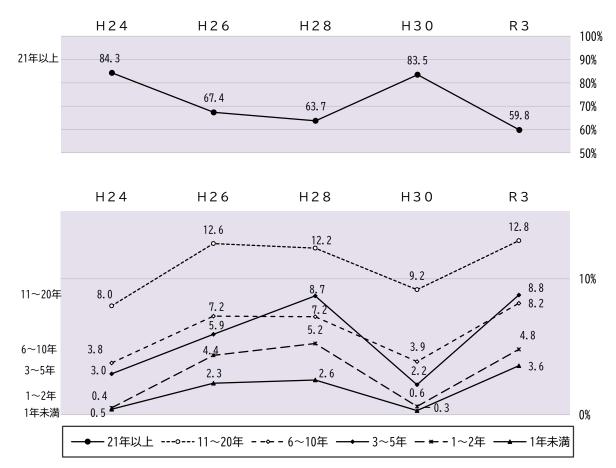
居住年数については、「21 年以上」が 59.8%と最も多く、次いで「11~20 年」が 12.8%、「3~5年」が 8.8%の順となっており、居住年数に比例して回答割合が高いという結果になった。

選択項目	回答数	割合
1年未満	48	3.6%
1~2年	63	4. 8%
3~5年	117	8.8%
6~10年	109	8. 2%
11~20年	169	12.8%
21 年以上	793	59.8%
無回答	26	2.0%
合 計	1,325	100%



#### 【経年変化(平成 24 年~令和 3 年)<u>】</u>

経年変化でみると、「21年以上」は平成30年と比べ、23.7ポイント減少している。

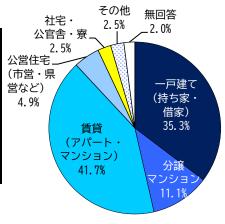


質問 5. あなたのお住まいの住居形態を、次の中から1つお選びください。

- 1. 一戸建て(持ち家・借家) 2. 分譲マンション 3. 賃貸(アパート・マンション)
- 4. 公営住宅(市営・県営など) 5. 社宅・公官舎・寮

住居形態別については、「賃貸 (アパート・マンション)」が 41.7%と最も多く、次いで「一戸建て (持ち家・借家)」が 35.3%、「分譲マンション」が 11.1%の順となっている。

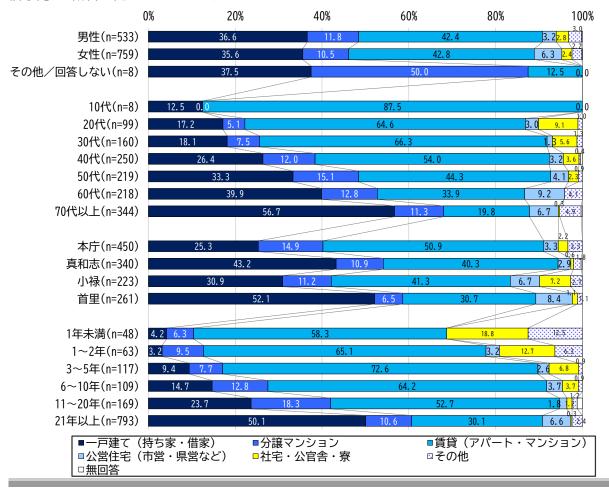
選択項目	回答数	割合
一戸建て(持ち家・借家)	468	35.3%
分譲マンション	147	11.1%
賃貸(アパート・マンション)	552	41.7%
公営住宅(市営・県営など)	65	4.9%
社宅・公官舎・寮	33	2.5%
その他	33	2.5%
無回答	27	2.0%
合 計	1,325	100%



#### 【属性別集計(回答者属性無回答除く)】

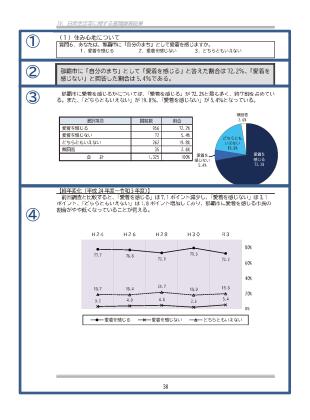
年代別でみると、60代までは、「賃貸 (アパート・マンション)」の割合が最も高くなっているが、年齢が上がるにつれて「一戸建て (持ち家・借家)」の割合が高くなる傾向にある。

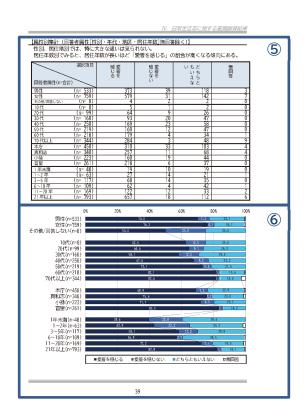
居住年数別でみると、1~10年では「賃貸」の割合が高いが、11年以上では「一戸建て(持家・借家)」の割合が高くなっている。



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

# IV. 日常生活等に関する意識調査結果 報告書の見方について





- ① 今回調査に使用したアンケート用紙の質問を掲載
- ② ①の質問に関し、③~⑥の表・グラフから分析した総括を掲載
- ③ ①の質問に関する、回答数の集計及び集計グラフを掲載
- ④ H24(2012年)~R3(2021年)までの、①と同種質問の経年変化グラフを掲載
- ⑤ ①の質問に関する回答を、属性(性別、年代、居住地区、居住年数)別に集計し掲載
- ⑥ ⑤において集計した結果を棒グラフにて掲載
- ※今回の「経年変化グラフ」及び「属性別集計表・グラフ」では、過去調査同様、無回答を含めた百分率で算出しているが、グラフの見やすさや、わかりやすさを考慮し、特に解析の必要が無い限り「無回答」「その他」等についてはグラフの表示を、比率の小さい選択項目については%表示を省略している。

# (1) 住み心地について

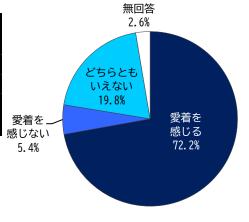
質問6. あなたは、那覇市に「自分のまち」として愛着を感じますか。

- 1. 愛着を感じる
- 2. 愛着を感じない
- 3. どちらともいえない

那覇市に「自分のまち」として「愛着を感じる」と答えた割合は 72.2%、「愛着を感じない」と回答した割合は 5.4%である。

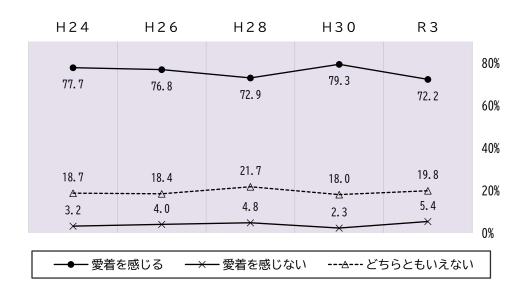
那覇市に愛着を感じるかについては、「愛着を感じる」が 72.2%と最も多く、約7割を占めている。また、「どちらともいえない」が 19.8%、「愛着を感じない」が 5.4%となっている。

選択項目	回答数	割合
愛着を感じる	956	72. 2%
愛着を感じない	72	5.4%
どちらともいえない	262	19.8%
無回答	35	2.6%
合 計	1,325	100%



#### 【経年変化(平成24年度~令和3年度)】

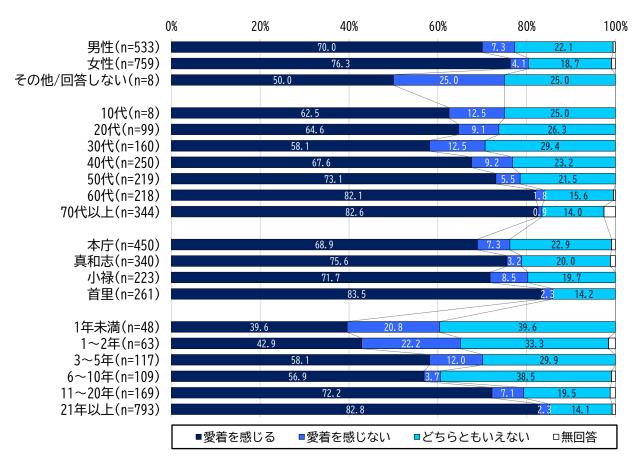
前回調査と比較すると、「愛着を感じる」は 7.1 ポイント減少し、「愛着を感じない」は 3.1 ポイント、「どちらともいえない」は 1.8 ポイント増加しており、那覇市に愛着を感じる市民の割合がやや低くなっていることがうかがえる。



性別、居住地別では、特に大きな違いは見られない。

居住年数別でみると、居住年数が長いほど「愛着を感じる」の割合が高くなる傾向にある。

回答者属性(n=合言	選択項目	感じるを	感じない	い もい えな な	無回答
男性	(n= 533)	373	39	118	3
女性	(n= 759)	579	31	142	7
その他/回答しない	(n= 8)	4	2	2	0
10代	(n= 8)	5	1	2	0
20代	(n= 99)	64	9	26	0
30代	(n= 160)	93	20	47	0
40代	(n= 250)	169	23	58	0
50代	(n= 219)	160	12	47	0
60代	(n= 218)	179	4	34	1
70 代以上	(n= 344)	284	3	48	9
本庁	(n= 450)	310	33	103	4
真和志	(n= 340)	257	11	68	4
小禄	(n= 223)	160	19	44	0
首里	(n= 261)	218	6	37	0
1年未満	(n= 48)	19	10	19	0
1~2年	(n= 63)	27	14	21	1
3~5年	(n= 117)	68	14	35	0
6~10年	(n= 109)	62	4	42	1
11~20年	(n= 169)	122	12	33	2
21 年以上	(n= 793)	657	18	112	6



質問 6-1. 質問 6 で 「1. 愛着を感じる」を選択した方に伺います。 愛着を感じる理由を <u>2 つまで</u>お 選びください。

- 1. 公共交通の便がよいから 2. 通勤・通学・買い物など生活に便利だから
- 3. 子育て環境がよいから(保育施設や教育施設の充実など)
- 4. 地域の文化芸術や伝統芸能が豊かだから
- 5. 地域のコミュニティ活動(校区まちづくり協議会等)が活発だから
- 6. 景色・景観がよいから
- 7. レジャー施設・公園などが充実しているから
- 8. 公共施設(公民館・図書館・支所等)が充実しているから
- 9. 自然環境が豊かだから
- 10. その他(

愛着を感じる理由で最も多かったのは「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」である。

愛着を感じる理由については、「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」が70.8%と最も高く、次いで「公共交通の便がよいから」が55.4%、「公共施設(公民館・図書館・支所等)が充実しているから」が12.9%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	通勤・通学・買い物など生活に便利だから	677	70.8%
2位	公共交通の便がよいから	530	55.4%
3位	公共施設(公民館・図書館・支所等)が充実しているから	123	12.9%
4位	景色・景観がよいから	85	8.9%
5位	子育て環境がよいから(保育施設や教育施設の充実など)	78	8.2%
6位	自然環境が豊かだから	61	6.4%
7位	地域の文化芸術や伝統芸能が豊かだから	59	6. 2%
8位	レジャー施設・公園などが充実しているから	49	5. 1%
9位	地域のコミュニティ活動 (校区まちづくり協議会等) が活発だから	33	3.5%
-	その他	74	7. 7%
_	無回答	7	0.7%
-	合 計	1,776	
	回答者数	956	185.8%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

20.0% 80.0% 0.0% 40.0% 60.0% 通勤・通学・買い物など 70.8% 生活に便利だから 55.4% 公共交通の便がよいから 公共施設(公民館・図書館・ 12.9% 支所等) が充実しているから 景色・景観がよいから 8.9% 子育て環境がよいから(保育 施設や教育施設の充実など) 自然環境が豊かだから 地域の文化芸術や 6.2% 伝統芸能が豊かだから レジャー施設・公園などが 5.1% 充実しているから 地域のコミュニティ活動(校区 3.5% まちづくり協議会等)が活発だから その他 無回答 0.7%

今回の調査結果から、那覇市が多くの企業や商業施設を有していることや、モノレールやバスなどの公共交通機関が整備されていることなど、生活における利便性の高さが市民の愛着度につながっていることが見受けられる。

年代別について、10代では「公共交通の便がよいから」が最も多く、他の年代では「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」が最も多くなっている。

居住年数別では、3番目に挙げる理由をみると5年未満では「景色・景観がよいから」、6年以上では「公共施設(公民館・図書館・支所等)が充実しているから」となっている。

								<b>*</b>	は第1位	、■は第	52位、□	]は第3位	立の項目
	者属性(n=合		よいから公共交通の便が	便利だから 買い物など生活に 通勤・通学・	充実など) (保育施設や教育施設の子育て環境がよいから	伝統芸能が豊かだから地域の文化芸術や	等)が活発だから(校区まちづくり協議会地域のコミュニティ活動	景色・景観がよいから	が充実しているからレジャー施設・公園など	充実しているから図書館・支所等)が公共施設(公民館・	自然環境が豊かだから	その他	無回答
	男性	(n= 373)	183 49.1	263 70. 5	26 7. 0	26 7. 0	13 3. 5	40 10. 7	24 6. 4	56 15. 0	29 7. 8	27 7. 2	3 0.8
性別	女性	(n= 579)	346 59.8	412 71. 2	52 9. 0	33 5. 7	20 3. 5	45 7.8	25 4. 3	67 11. 6	32 5. 5	44 7. 6	4 0. 7
	その他/ 回答しない	(n= 4)	1 25. 0	2 50. 0	- -	- -	-	-	1 1	-	-	3 75. 0	- -
	10代	(n= 5)	4 80. 0	3 60.0	-	1 20. 0	-	2 40. 0	-	-		-	-
	20代	(n= 64)	35 54. 7	43 67. 2	5 7.8	5 7. 8		10 15. 6	4 6. 3	7 10. 9	5 7. 8	3 4. 7	-
	30代	(n= 93)	37 39.8	72 77. 4	12 12. 9	8.6	3 3. 2	9	6 6. 5	8 8. 6	5 5. 4	8 8. 6	
年代	40代	(n= 169)	79 46. 7	130 76.9	24	15 8. 9	1 0.6	14 8.3	13 7. 7	18 10. 7	9 5.3	11 6. 5	1 0.6
別	50代	(n= 160)	92 57. 5	129 80.6	8 5.0	3	6 3.8	10 6.3	3 1.9	17 10. 6	6 3.8	17 10. 6	3 1.9
	60代	(n= 179)	121 67. 6	131 73. 2	10 5. 6	12	4 2. 2	11	8	24 13. 4	5 2.8	14 7.8	-
	70代以上	(n= 284)	162 57.0	167 58.8	19	6. 7 15 5. 3	19	6. 1 29	4. 5 15 5. 3	49	30	7. 8 21 7. 4	3
	本庁	(n= 310)	186	226	6. 7 21	17	6.7	10. 2 18	20	17. 3 43	10. 6 16	23	1.1
地	真和志	(n= 257)	136	72. 9 190	6.8	5. 5 10	1.9	5. 8 19	6.5	13. 9	5. 2	7. 4	3
区別	 小禄	(n= 160)	52. 9 84	73. 9 112	7.4	3.9	3.5	7.4	5. 1 12	14. 4	5. 1 12	8. 6 14	1.2
	 首里	(n= 218)	52. 5 119	70.0	9. 4	1. 9 27	5. 0	8. 8 34	7.5	10.6	7. 5	8. 8 15	0.6
	1年未満	(n= 19)	54.6	64. 2	10.6	12.4	<b>4.</b> 6	15. 6 7	1.4	10.6	8.7	6.9	0.9
	1~2年	(n= 27)	15.8	57. 9 15	5.3	5.3	-	36.8	21.1	5.3	15.8	10. 5 -	
居住	3~5年	(n= 68)	44. 4 25	55. 6 45	14.8 5	11. 1 9	-	22. 2 12	3.7	7.4 8	14. 8 9	4	
年数	6~10年	(n= 62)	36.8 30	66. 2 49	7. 4 5	13. 2	_ 1	17. 6 5	4. 4 5	11.8	13. 2 5	5.9 2	
別	11~20年	(n= 122)	48. 4 68	79. 0 89	8. 1 11	12.9 5	1. 6 2	8. 1 13	8. 1 8	12. 9 15	8. 1 4	3. 2 10	
			55. 7 392	73. 0 467	9. 0 52	<b>4.</b> 1	1.6 30	10. 7 42	6. 6 28	12.3 89	3.3 36	8. 2 55	
	21年以上	(n= 657)	59.7	71.1	7.9	5.0	4.6	6.4	4.3	13.5	5.5	8.4	1.1

# 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・生まれ育った街だから(30人)
- ・長年住んでいるから(11人)
- ・住み慣れた町だから(6人)

女性-50代-本庁地区・他

女性-60代-小禄地区・他

男性-50代-首里地区・他

質問7. 那覇市の住み心地について、あなたはどう思いますか。

- 1. 非常に住みよい
- 2. まあ住みよい
- 3. 普通だと思う

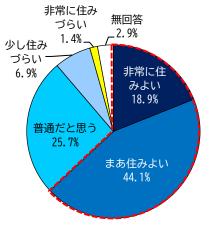
- 4. 少し住みづらい
- 5. 非常に住みづらい

那覇市の住み心地が「住みよい」と答えた割合は 63.0%、「住みづらい」と答えた割合は 8.3%である。

那覇市の住み心地については、「まあ住みよい」が 44.1%と最も多く、次いで「普通だと思う」が 25.7%、「非常に住みよい」が 18.9%の順となっている。

「少し住みづらい」と「非常に住みづらい」を合わせると8.3%となっている。

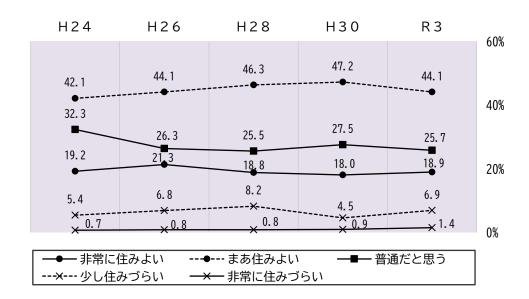
選択項目	回答数	割合
非常に住みよい	251	18.9%
まあ住みよい	584	44.1%
普通だと思う	341	25.7%
少し住みづらい	91	6.9%
非常に住みづらい	19	1.4%
無回答	39	2.9%
合 計	1, 325	100%



#### 【経年変化(平成24年度~令和3年度)】

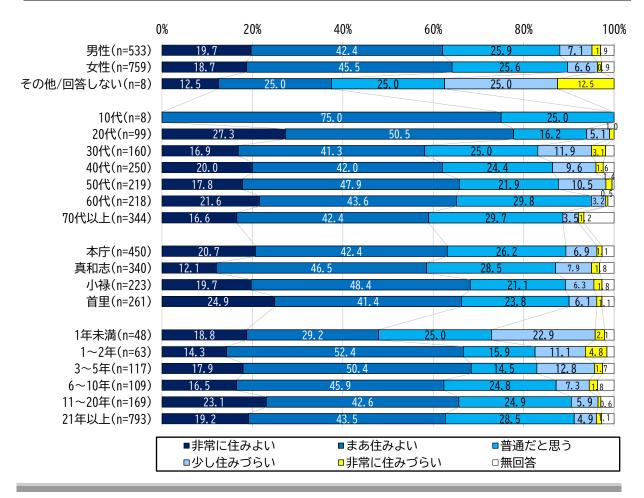
前回調査と比較すると、「非常に住みよい」と回答した市民の割合は 0.9 ポイント増加し、「まあ住みよい」は 3.1 ポイント減少している。

今回の調査では、「まあ住みよい」が3.1ポイント、「普通だと思う」が1.8ポイント減少し、「少し住みづらい」が2.4ポイント増加していることから、市民の住み心地に対する評価が少し下がっていることが伺える。



性別では、特に大きな違いは見られない。年代別でみると、20代は「非常に住みよい」と回答した割合が高くなっている。居住年数別では、3~5年で「非常に住みよい」、「まあ住みよい」と回答した割合が最も高くなっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	住 み よ い	住みよい い	思う	住みづらい	住みづらい	無回答
男性	(n= 533)	105	226	138	38	10	16
女性	(n= 759)	142	345	194	50	7	21
その他/回答しない	(n= 8)	1	2	2	2	1	0
10代	(n= 8)	0	6	2	0	0	0
20代	(n= 99)	27	50	16	5	1	0
30代	(n= 160)	27	66	40	19	5	3
40 代	(n= 250)	50	105	61	24	4	6
50代	(n= 219)	39	105	48	23	3	1
60代	(n= 218)	47	95	65	7	1	3
70 代以上	(n= 344)	57	146	102	12	4	23
本庁	(n= 450)	93	191	118	31	5	12
真和志	(n= 340)	41	158	97	27	6	11
小禄	(n= 223)	44	108	47	14	4	6
首里	(n= 261)	65	108	62	16	3	7
1年未満	(n= 48)	9	14	12	11	1	1
1~2年	(n= 63)	9	33	10	7	3	1
3~5年	(n= 117)	21	59	17	15	2	3
6~10年	(n= 109)	18	50	27	8	2	4
11~20年	(n= 169)	39	72	42	10	1	5
21 年以上	(n= 793)	152	345	226	39	9	22



# (2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について

質問8.あなたのご家庭は、自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C)Aの活動に参加 していますか。

1. 参加している

- 2. 参加していない(今後参加したい)
- 3. 参加していない(今後も参加しない)
- 4. わからない

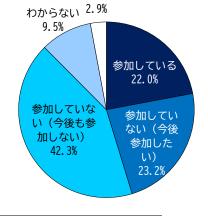
家庭で自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C)Aの活動に「参加している」と答えた割合は22.0%、「参加していない」と答えた割合は65.5%(うち「今後参加したい」との意向があるのは23.2%)である。

今回の調査では、地域コミュニティ活動の対象に「校区まちづくり協議会」や「PT(C)A」の活動を含めた参加状況についてアンケートを行った。

自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C)Aの活動に参加しているかについては、「参加していない(今後も参加しない)」が42.3%で最も多く、次いで「参加していない(今後参加したい)」が23.2%、「参加している」が22.0%の順となっている。

「参加していない(今後参加したい)」と「参加していない(今後も参加しない)」を合わせた 市民の割合は 65.5%となっており、今後も参加しない意向は 4割を超えている。 無回答

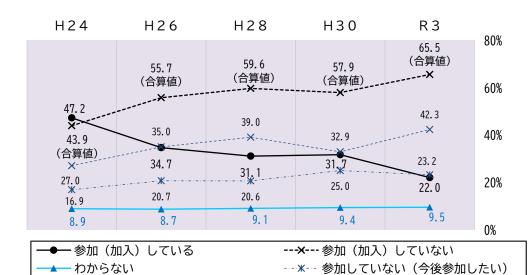
選択項目	回答数	割合		
参加している	292	22.0%		
参加していない(今後参加したい)	308	23. 2%		
参加していない(今後も参加しない)	560	42.3%		
わからない	126	9.5%		
無回答	39	2.9%		
合 計	1, 325	100%		



#### 【経年変化(平成24年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「参加している」市民の割合が9.7ポイント減少している。

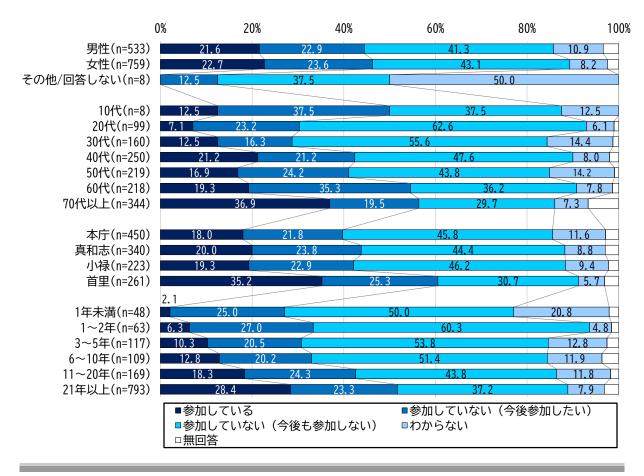
※平成 28 年度までは自治会・通り会等の加入を対象としており、平成 30 年度から「校区まちづくり協議会」や「PT(C)A」の活動を含めた参加状況としているため、単純比較できないので、取扱いに注意する必要がある。



年代別でみると、年代が上がるにつれて「参加している」割合が高くなる傾向にある。 民住地区別でみると、首思地区が「参加している」割合が高く、合発参加したい市民の割っ

居住地区別でみると、首里地区が「参加している」割合が高く、今後参加したい市民の割合を 含めると6割を超えている。居住年数別でみると、1年未満で「参加している」割合が最も低く、 居住年数が長くなるにつれて「参加している」割合が高くなっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	参加している	の の の の の の の の の の の の の の	(今後も参加 (今後も参加	わからない	無回答
男性	(n= 533)	115	122	220	58	18
女性	(n= 759)	172	179	327	62	19
その他/回答しない	(n= 8)	0	1	3	4	0
10代	(n= 8)	1	3	3	1	0
20代	(n= 99)	7	23	62	6	1
30代	(n= 160)	20	26	89	23	2
40代	(n= 250)	53	53	119	20	5
50代	(n= 219)	37	53	96	31	2
60代	(n= 218)	42	77	79	17	3
70 代以上	(n= 344)	127	67	102	25	23
本庁	(n= 450)	81	98	206	52	13
真和志	(n= 340)	68	81	151	30	10
小禄	(n= 223)	43	51	103	21	5
首里	(n= 261)	92	66	80	15	8
1年未満	(n= 48)	1	12	24	10	1
1~2年	(n= 63)	4	17	38	3	1
3~5年	(n= 117)	12	24	63	15	3
6~10年	(n= 109)	14	22	56	13	4
11~20年	(n= 169)	31	41	74	20	3
21 年以上	(n= 793)	225	185	295	63	25



質問8-1. 質問8で「2. 参加していない(今後参加したい)」又は「3. 参加していない(今後も参加しない)」を選択した方に伺います。活動に参加していない理由を、次の中から<u>1つ</u>お選びください。

1. 参加の仕方がわからない

3. 勧誘がない

5. 永住する気がない

7. 関心がない

9. その他(具体的に:

2. 自治会などの地域コミュニティがない

4. 時間的にゆとりがない

6. わずらわしい

8. メリットを感じられない

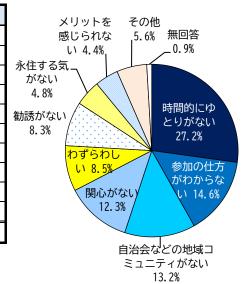
)

活動に参加していない理由のうち最も多かったのは「時間的にゆとりがない」である。

自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C)Aの活動に参加していない理由は「時間的にゆとりがない」が27.2%と最も多く、次いで「参加の仕方がわからない」が14.6%、「自治会などの地域コミュニティがない」が13.2%の順となっている。

個人の意思(「時間的にゆとりがない」、「関心がない」、「わずらわしい」、「永住する気がない」、「メリットを感じられない」の合計)で加入していない市民は5割以上を占めている。また、地域の事情(「自治会などの地域コミュニティがない」、「勧誘がない」の合計)で加入していない市民は2割となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	時間的にゆとりがない	236	27.2%
2位	参加の仕方がわからない	127	14.6%
3位	自治会などの地域コミュニティがない	115	13.2%
4位	関心がない	107	12.3%
5位	わずらわしい	74	8.5%
6位	勧誘がない	72	8.3%
7位	永住する気がない	42	4.8%
8位	メリットを感じられない	38	4.4%
_	その他	49	5.6%
_	無回答	8	0.9%
	合 計	868	100%

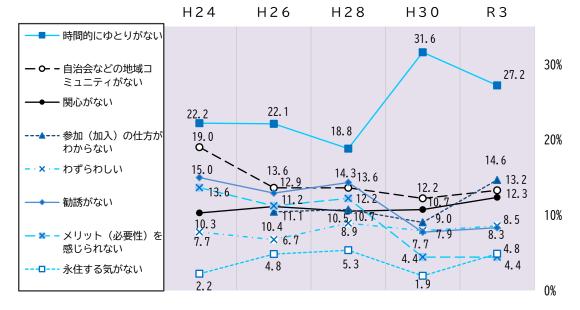




#### 【経年変化(平成24年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「時間にゆとりがない」の割合が 4.4 ポイント減少しており、「参加(加入) の仕方がわからない」は 5.6 ポイント増加している。

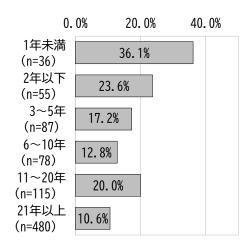
※平成30年度より、対象と選択項目を変更しているため単純比較できないので、取扱いに注意する必要がある。



#### 【属性別集計(回答者属性[居住年数]無回答除く)】

「参加の仕方がわからない」について、回答者の居住年数に着目し、その割合について比較を行った。概ね居住年数が短いほど、「参加の仕方がわからない」と回答する割合が高い傾向にある。

居住年数	居住年数 回答数	「参加の仕方が わからない」 回答数	%
1年未満	36	13	36.1%
2年以下	55	13	23.6%
3~5年	87	15	17. 2%
6~10年	78	10	12.8%
11~20年	115	23	20.0%
21 年以上	480	51	10.6%
合計	851	125	_



#### 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・高齢のため(8人)
- ・体の状態が良くない(6人)
- ・ハードルが高く感じる(4人)
- ・コロナ禍だから(3人)

女性-70 代以上-本庁地区・他 男性-70 代以上-首里地区・他 女性-30 代-首里地区・他 女性-60 代-真和志地区・他

# 【属性別集計(回答者属性[今後の参加意向・性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

ここでは、質問8で「今後参加したい」「今後も参加しない」と回答した市民を属性に加えて分析を行った。

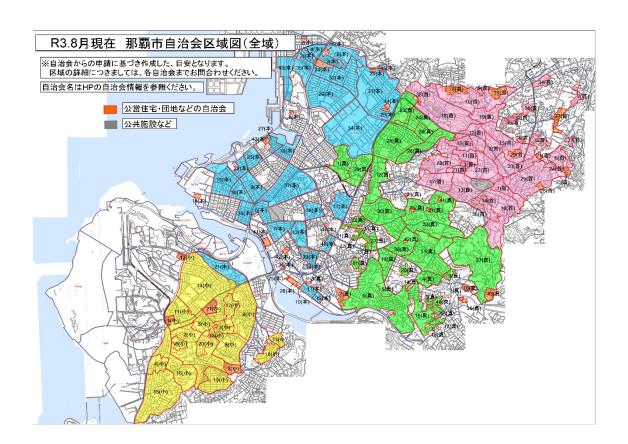
「参加していない」市民の参加意向別にみると、「今後参加したい」と回答した市民は、「今後も参加しない」と回答した市民に比べ、「参加の仕方がわからない」の割合が高くなっている。

性別でみると、女性は男性に比べ、「時間的にゆとりがない」の割合が高くなっている。

年代別でみると、10代~60代では「時間的にゆとりがない」の割合が高くなっている。70代以上では「自治会などの地域コミュニティがない」の割合が最も高い。

居住地区別でみると、真和志地区で「わずらわしい」の割合が比較的高くなっている。

居住年数別でみると、1年未満~2年では「参加の仕方がわからない」の割合が最も高くなっており、21年以上では「時間的にゆとりがない」、「関心がない」の割合が比較的高くなっている。



回答者属性(n=合計)	選択項目	参加の仕方が	目治会などの地域	勧誘がない	ゆとりがない	永住する気がない	わずらわしい	関心がない	感じられない	その他	無回答
参加したい	(n= 308)	78	51	35	89	4	9	12	6	22	2
参加しない	(n= 560)	49	64	37	147	38	65	95	32	27	6
男性	(n= 342)	40	47	35	88	21	34	48	17	10	2
女性	(n= 506)	85	65	35	144	20	39	57	21	35	5
その他/回答しない	(n= 4)	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0
10代	(n= 6)	1	0	0	2	2	0	1	0	0	0
20代	(n= 85)	14	8	3 7	25	8	5	17	2	3	0
30 代 40 代	(n= 115) (n= 172)	19 30	21	10	44 51	8 12	6 12	16 17	10 13	4 5	0
50代	(n= 172)	18	23	13	50	8	11	16	7	3	0
60代	(n= 156)	23	24	16	37	4	20	18	4	10	0
70 代以上	(n= 169)	20	36	21	24	0	19	20	2	21	6
本庁	(n= 304)	48	40	25	69	20	27	40	12	19	4
真和志	(n= 232)	33	38	15	65	7	28	23	12	11	0
小禄	(n= 154)	20	20	16	37	9	13	24	7	7	1
首里	(n= 146)	20	13	13	58	6	5	17	5	7	2
1年未満	(n= 36)	13	2	1	4	5	2	3	1	5	0
1~2年	(n= 55)	13	3	3	12	12	1	6	2	3	0
3~5年	(n= 87)	15	7	10	18	12	4	13	4	2	2
6~10年 11~20年	(n= 78) (n= 115)	10 23	10 14	5 5	22 35	5 2	8	9 13	8	1 7	0
21 年以上	(n= 480)	<u>23</u> 51	77	46	142	6	52	61	o 15	27	3
	'	1		40		U		01		LI	-
参加したい(n=30 参加しない(n=56 男性(n=34	8.8	25.3	20%	16.6	26.3	25.7	60%	28.9	17.0		1009 7.1 7 4.8 5.0 2.9
カ庄(II-34 女性(n=50		8	12.8	6.9		28. 5	0.	4. 0 7.		3 4.2	6.9
その他/回答しない(n=		25. 0	12.0		5. 0	20.5	25.0	T. 01 . 11		25.0	0.7
	"			_							
10代(n=		7		33.3				33.3		16.	7 0.0
20代(n=8			9.4 3.	.5	29.4		9.4		_	0.0	2.4B.5
30代(n=11			6.1		38.3		7	. 0 5.2		\	
40代(n=17			12.2	5.8		29.7				10.7	6 2.9
50代(n=14 60代(n=15			15. 4	8.7	2	33. 6 23. 7	10	. 6 12.	7.4	10.7	6 6.4
70代以上(n=16			21. 3	10.	12.4	14. 2	0.10 1			12.4	
701 (>>,	11.0		L1. J			1706	0.01		11.0	16.7	
本庁(n=30		8	13.2	8.2		22.7		8.9			6.3
真和志(n=23			16.4	6.5		28.0		<mark>B. 0</mark> · · · 12			2 4.7
小禄(n=15	,		3.0	10.4		24.0	5.8	8.4		1	5 4.5
首里(n=14	.6) 13.7	8.	9 8.	9		39.7			13.4	1.6 B.	44.8
1年未満(n=3	(6)	36	1		5. 6 <b>2. 8</b>	11 1	13.9	5.6	8.3	2.8 13	3.9
1~2年(n=5		23.6		5.5	21.	8	, 5. 7	21.8	1[8	10.9	5.5
3~5年(n=8				11.5		0. 7	13.	8 4.			.6
6~10年(n=7	(8) 12.8		2.8	6.4	28	3. 2	6.4	10.3			0.3 1.3
11~20年(n=11		0.0	4.	2 4.3		30.4		1. <mark>7</mark> 5.2			6.1
21年以上(n=48	10.6	16	5. 0	9.6		29.6	1	. <mark>13</mark> 10.	8 1	2.7	5.6
■参加の仕方がわからない ■自治会などの地域コミュニティが ■勧誘がない □時間的にゆとりがない ■永住する気がない □わずらわしい □関心がない □メリットを感じられない □その他 □無回答							ない				

質問9. あなたがお住まいの地域で、特に大きいと思われる課題について2つまでお選びください。

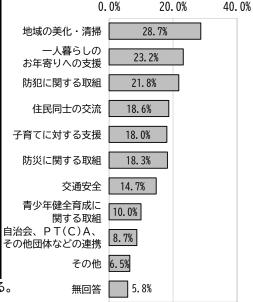
- 1. 地域の美化・清掃
- 3. 防犯に関する取組
- 5. 青少年健全育成に関する取組
- 7. 子育てに対する支援
- 9. 住民同士の交流

- 2. 自治会、PT(C)A、その他団体などの連携
- 4. 防災に関する取組
- 6. 一人暮らしのお年寄りへの支援
- 8. 交通安全
- 10. その他(\_\_\_\_\_\_)

居住地域で特に大きいと思われる課題について最も多かったのは「地域の美化・ 清掃」である。

居住地域での特に大きいと思われる課題については、「地域の美化・清掃」が 28.7%と最も多く、次いで「一人暮らしのお年寄りへの支援」が 23.2%、「防犯に関する取組」が 21.8%の順となっている。

	選択項目	回答数	割合	
1位	地域の美化・清掃	380	28.7%	ţ
2位	一人暮らしのお年寄りへの支援	307	23. 2%	
3位	防犯に関する取組	289	21.8%	ō
4位	住民同士の交流	247	18.6%	
5位	子育てに対する支援	239	18.0%	
6位	防災に関する取組	242	18.3%	子i
7位	交通安全	195	14. 7%	
8位	青少年健全育成に関する取組	132	10.0%	[
9位	自治会、PT(C)A、その他団体などの連携	115	8. 7%	
_	その他	86	6.5%	i
_	無回答	77	5.8%	自治
	合 計	2, 309	_	その
	回答者数	1, 325	174.3%	

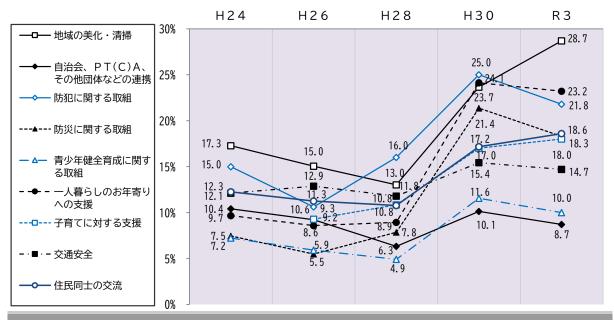


※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

# 【経年変化(平成24年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「地域の美化・清掃」の割合が高くなっている。

※平成30年度の調査より、単一回答ではなく複数回答としたため、全体的に回答割合の数値が増加している。



年代別でみると、20代~30代では「子育てに対する支援」の割合が高くなっている。一方、60代~70代以上では「地域の美化・清掃」、「一人暮らしのお年寄りへの支援」の割合が高くなっており、「住民同士の交流」の割合も比較的高い。

居住地区別でみると、首里地区では「一人暮らしのお年寄りへの支援」の割合が最も高くなっており、本庁地区、真和志地区、小禄地区では「地域の美化・清掃」の割合が高くなっている。

								<b>※■</b> I	は第1位、	■は第	2位、	]は第3位	近の項目
選択項目 回答者属性(n=合計) 上段(人):下段(%)			地域の美化・清掃	その他団体などの連携自治会、PT(C)A、	防犯に関する取組	防災に関する取組	関する取組青少年健全育成に	お年寄りへの支援一人暮らしの	子育てに対する支援	交通安全	住民同士の交流	その他	
	男性	(n= 533)	162 30. 4	56 10.5	125 23. 5	91 17. 1	53 9. 9	114 21.4	81 15. 2	84 15.8	99 18.6	31 5.8	35 6. 6
性別	女性	(n= 759)	211 27.8	57 7.5	159 20.9	144 19. 0	76 10. 0	187 24. 6	149 19.6	107 14. 1	141 18.6	53 7.0	38 5. 0
	その他/ 回答しない	(n= 8)	3 37.5	1 1	2 25. 0	2 25. 0	1 12.5	2 25. 0	3 37.5	-	1 1	1 12.5	1 12.5
	10代	(n= 8)	1 12.5	1 1	3 37.5	1 1	3 37. 5	1 12.5	1 1	4 50.0	1 12.5	-	-
	20代	(n= 99)	29 29. 3	5 5 <b>.</b> 1	16 16. 2	15 15. 2	12 12. 1	18 18. 2	32 32. 3	17 17. 2	16 16.2	8 8. 1	6 6. 1
	30代	(n= 160)	41 25. 6	7 4. 4	31 19. 4	27 16. 9	21 13. 1	20 12.5	65 40. 6	40 25. 0	19 11.9	10 6.3	3 1.9
年代	40代	(n= 250)	61 24. 4	12 4.8	78 31. 2	42 16.8	30 12. 0	44 17. 6	66 26. 4	43 17. 2	28 11. 2	22 8.8	8 3. 2
別	50代	(n= 219)	67 30. 6	18 8. 2	57 26. 0	44 20.1	25 11. 4	48 21.9	35 16. 0	30 13. 7	37 16. 9	17 7.8	6 2.7
	60代	(n= 218)	74 33. 9	29	43 19. 7	45 20.6	18	65	18	24 11. 0	57 26.1	9	6 2.8
	70代以上	(n= 344)	103	42 12. 2	58 16. 9	64	21 6.1	106	17 4.9	33 9.6	81 23.5	19 5. 5	44 12. 8
	本庁	(n= 450)	154 34. 2	33 7.3	123 27. 3	18.6 77	46 10. 2	95	68	68 15. 1	86	26 5. 8	19
地	真和志	(n= 340)	91	35	76	17. 1 56	40	21.1 90	15.1	49	19.1 53	23	20
区別	 小禄	(n= 223)	26.8	10.3	22. 4 37	16. 5 43	11.8 22	26.5	18. 2	35	15. 6 52	6.8	5.9
	首里	(n= 261)	26 <b>.</b> 5	8.5 26	16. 6 45	19.3 57	9. 9 22	20. 6 65	25. 6 46	15. 7 34	23.3	4. 9 22	5. 4 19
	1年未満	(n= 48)	23. 8 16	10.0	17. 2 12	21.8	8.4	24. 9 5	17.6 9	13. 0 10	17. 6 10	8.4	7.3
	1~2年		33. 3 26	<b>4.</b> 2	25. 0 14	16. 7 12	12. 5 7	10.4	18.8 12	20.8	20.8	12.5 4	2. 1 5
居		(n= 63)	41. 3 28	4.8 6	22. 2 29	19.0 16	11. 1 13	4.8 18	19. 0 33	14. 3 22	17. 5 17	6.3 11	7.9
居住年数別	3~5年	(n= 117)	23. 9 24	5.1 5	24.8 22	13. 7 16	11. 1 6	15.4 20	28. 2 33	18 <b>.</b> 8	14.5 15	9.4	5. 1 7
別	6~10年	(n= 109)	22. 0 47	4.6 9	20. 2	14. 7 29	5. 5 22	18.3 39	30.3	25. 7 22	13.8	8.3 14	6.4
	11~20年	(n= 169)	27.8	5.3	22.5	17.2	13.0	23.1	17.8	13.0	19.5	8.3	5.9
	21年以上	(n= 793)	235 29. 6	88 11. 1	171 21.6	156 19. 7	76 9.6	217 27. 4	116 14.6	100 12.6	154 19. 4	41 5. 2	45 5. 7

【選択肢「その他」の主な内容】

・公園の整備(8人)

男性-40 代-真和志地区・他女性-40 代-本庁地区・他

<sup>・</sup>道路の整備(10人)

# (3) 市政への市民参加について

質問10. 市政への関心について、次の中から1つお選びください。

- 1. 非常に関心がある
- 2. まあ関心がある
- 3. あまり関心がない

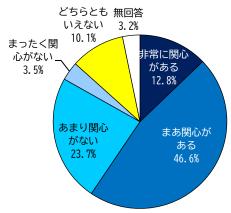
- 4. まったく関心がない
- 5. どちらともいえない

市政への関心について「関心がある」と回答した割合は 59.4%、「関心がない」と答えた割合は 27.2%である。

市政への関心については、「まあ関心がある」が 46.6%で最も多く、次いで「あまり関心がない」 が 23.7%、「非常に関心がある」が 12.8%の順となっている。

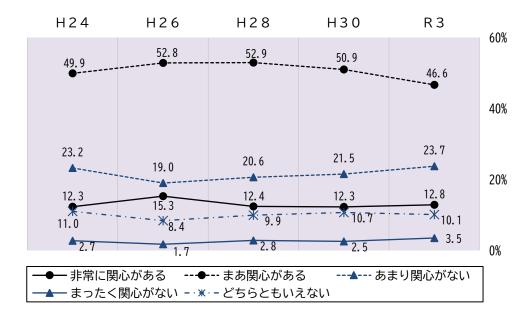
「非常に関心がある」と「まあ関心がある」の合計は 59.4%に対し、「まったく関心がない」と「あまり関心がない」の合計は 27.2%となっている。

選択項目	回答数	割合
非常に関心がある	170	12.8%
まあ関心がある	618	46.6%
あまり関心がない	314	23.7%
まったく関心がない	46	3.5%
どちらともいえない	134	10.1%
無回答	43	3.2%
合 計	1,325	100%



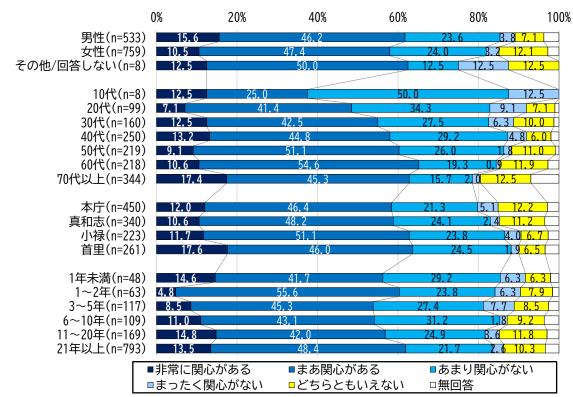
# 【経年変化(平成24年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「非常に関心がある」は横ばい、「まあ関心がある」が 4.3 ポイント減少しており、市政に対する関心はわずかに下降している。



性別でみると、男性は女性に比べ、「関心がある」の割合が高い。 年代別でみると、年代が上がるにつれて「関心がある」の割合が増加する傾向にある。

回答者属性(n=f	選択項目	期 り り り り り り り り り り り り り り り り り り り	関心がある	関心 が が	まったく まったく	いえない とも い	無回答
男性	(n= 546)	79	282	108	18	48	11
女性	(n= 711)	76	360	163	14	85	13
10代	(n= 24)	3	13	6	1	1	0
20代	(n= 108)	9	46	35	7	10	1
30代	(n= 183)	22	77	56	11	15	2
40 代	(n= 231)	30	109	53	7	26	6
50代	(n= 199)	20	116	35	4	23	1
60代	(n= 231)	28	128	43	0	25	7
70 代以上	(n= 285)	43	153	44	2	34	9
本庁	(n= 448)	59	232	91	11	46	9
真和志	(n= 322)	36	167	67	12	34	6
小禄	(n= 218)	20	115	50	7	21	5
首里	(n= 243)	36	121	55	1	26	4
1年未満	(n= 4)	1	0	1	1	1	0
1~2年	(n= 8)	0	5	2	0	1	0
3~5年	(n= 28)	2	16	7	1	1	1
6~10年	(n= 49)	6	20	12	3	7	1
11~20年	(n= 116)	15	62	26	4	9	0
21 年以上	(n= 1,056)	131	539	224	23	115	24



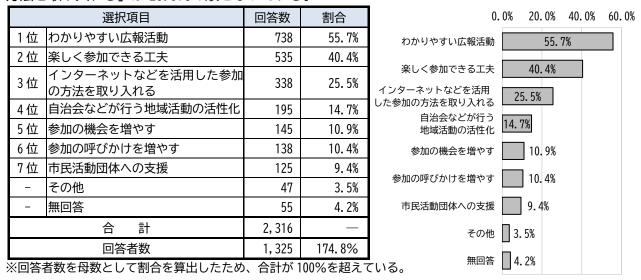
質問 11. 市民の市政参加を促すために、市がすべきだと思うことを次の中から<u>2つまで</u>お選び ください。

- 1.参加の機会を増やす
- 2. わかりやすい広報活動
- 3. 楽しく参加できる工夫
- 4. 参加の呼びかけを増やす
- 5. インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる
- 6. 自治会などが行う地域活動の活性化
- 7. 市民活動団体への支援

8. その他(

市民の市政参加を促すために市がすべきだと思うことで最も多かったのは「わかりやすい広報活動」である。

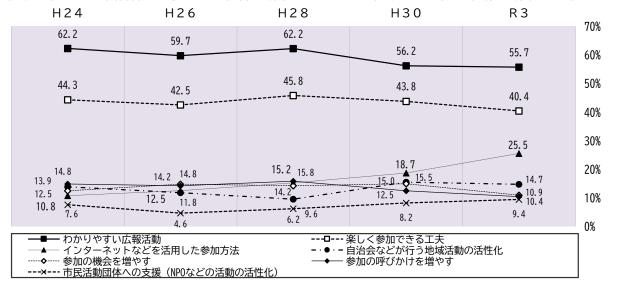
市民の市政参加を促すために、市がすべきだと思うことは、「わかりやすい広報活動」が 55.7% と最も高く、次いで「楽しく参加できる工夫」が 40.4%、「インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる」が 25.5%の順となっている。



# 【経年変化(平成24年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる」の割合が 6.8 ポイント増加しており、インターネットを活用した参加方法に対する関心が年々高まっていることが伺える。

※平成30年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成24~28年度も同様に算出し、比較。



【属性別集計(回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】 年代別でみると、60代~70代以上で「インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる」 の割合が低くなっているが、その他の年代での割合は高くなっている。

<b>※</b> ■la	は第1位、	■は第2位	、∐は第3	位の項目
``T /		-		

	者属性(n=f : (人):下	選択項目	参加の機会を増やす	わかりやすい広報活動	楽しく参加できる工夫	参加の呼びかけを	取り入れる お用した参加の方法をインターネットなどを	地域活動の活性化	市民活動団体への支援	その他	無回答
	男性	(n= 533)	73 13. 7	285 53. 5	198 37. 1	57 10. 7	139 26. 1	83 15. 6	41 7. 7	24 4. 5	25 4. 7
性別	女性	(n= 759)	72 9.5	435 57. 3	324 42. 7	79 10. 4	192 25. 3	106 14. 0	80 10.5	20 2.6	28 3. 7
	その他/ 回答しない	(n= 8)	-	4 50. 0	5 62. 5	-	2 25. 0		1 12.5	2 25. 0	-
	10代	(n= 8)	1 12.5	4 50. 0	3 37. 5	1 1	6 75. 0	1 1	1 1	1 1	1 1
	20代	(n= 99)	12 12. 1	56 56. 6	47 47. 5	10 10. 1	42 42. 4	7 7. 1	4 4. 0	1 1. 0	2 2. 0
左	30代	(n= 160)	16 10.0	96 60. 0	52 32. 5	11 6. 9	76 47. 5	13 8. 1	7 4. 4	8 5. 0	4 2.5
年代別	40代	(n= 250)	30 12.0	144 57. 6	97 38.8	15 6. 0	90 36. 0	16 6. 4	21 8. 4	15 6. 0	6 2. 4
,,,,	50代	(n= 219)	23 10.5	121 55.3	90 41. 1	15 6. 8	71 32. 4	33 15. 1	28 12. 8	6 2. 7	3 1.4
	60代	(n= 218)	28 12. 8	134 61.5	87 39.9	36 16.5	27 12. 4	43 19. 7	24 11.0	6 2. 8	5 2. 3
	70代以上	(n= 344)	34 9. 9	169 49.1	151 43. 9	49 14. 2	21 6. 1	76 22. 1	38 11.0	10 2. 9	32 9.3
	本庁	(n= 450)	47 10. 4	258 57. 3	178 39.6	57 12. 7	117 26. 0	65 14. 4	40 8. 9	17 3.8	17 3. 8
地区	真和志	(n= 340)	38 11. 2	185 54. 4	147 43. 2	38 11. 2	86 25. 3	50 14. 7	24 7. 1	10 2.9	16 4. 7
別	小禄	(n= 223)	30 13. 5	124 55. 6	87 39.0	20 9. 0	61 27. 4	25 11. 2	21 9. 4	10 4. 5	10 4.5
	首里	(n= 261)	28 10. 7	144 55. 2	106 40.6	18 6.9	65 24. 9	46 17. 6	36 13.8	7 2. 7	9 3.4
	1年未満	(n= 48)	7 14.6	27 56.3	19 39.6	4 8. 3	19 39.6	4 8. 3	5 10. 4	3 6.3	1 2.1
	1~2年	(n= 63)	10 15. 9	33 52. 4	18 28. 6	7 11. 1	23 36. 5	3 4. 8	1 1.6	5 7.9	3 4.8
居住年	3~5年	(n= 117)	8 6. 8	66 56. 4	45 38. 5	8 6.8	41 35. 0	14 12. 0	6 5. 1	5 4. 3	6 5. 1
数別	6~10年	(n= 109)	16 14. 7	71 65. 1	32 29. 4	8 7. 3	32 29. 4	7 6. 4	6 5. 5	6 5. 5	6 5. 5
	11~20年	(n= 169)	18 10. 7	100 59. 2	64 37. 9	13 7. 7	55 32. 5	16 9. 5	18 10. 7	11 6.5	5 3.0
	21年以上	(n= 793)	86 10. 8	426 53. 7	349 44. 0	96 12.1	163 20. 6	145 18. 3	85 10. 7	16 2. 0	32 4. 0

#### 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・参加したくなるように工夫する(4人)
- ・市が市民の声を聞く(4人)

男性-60代-首里地区・他

男性-20代-本庁地区・他

質問 12.	今後、	那覇市の情報発信に力を入れるべきだと思う媒体について、	次の中から2つまでお
	選び<	ください。	

- 1. 広報紙なは市民の友
- 2. 那覇市公式ホームページ
- 3. ラジオ 5. 新聞

- 6. テレビ
- 4. フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア 7. チラシやフリーペーパー
- 8. その他(

那覇市の情報発信に力をいれるべきだと思う媒体について最も多かったのは「広 報紙なは市民の友」である。

那覇市の情報発信に力を入れるべきだと思う媒体については、「広報紙なは市民の友」が 40.5% で最も高く、次いで「テレビ」が 31.4%、「フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア」 0.0% 20.0% 40.0% 60.0% が31.2%の順となっている。

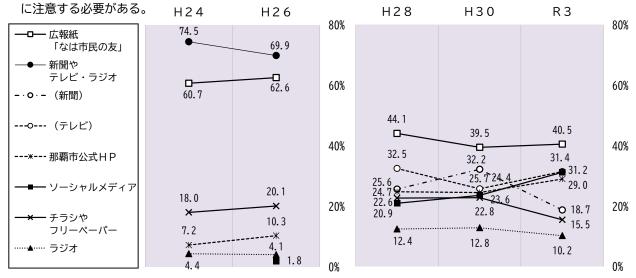
	選択項目	回答数	割合	広報紙なは市民の友	40.5%
1位	広報紙なは市民の友	537	40.5%		24 40/
2位	テレビ	416	31.4%	テレビ	31. 4%
3位	フェイスブックやラインなどの ソーシャルメディア	413	31. 2%	フェイスブックやライン などのソーシャルメディア	31.2%
4位	那覇市公式ホームページ	384	29.0%	那覇市公式ホームページ	29.0%
5位	新聞	248	18.7%	新聞	18.7%
6位	チラシやフリーペーパー	205	15.5%		
7位	ラジオ	135	10.2%	チラシやフリーペーパー	15. 5%
-	その他	36	2. 7%	ラジオ	10.2%
-	無回答	45	3.4%	7 0 /lh	
	合 計	2, 419	_	その他	<u>2. 7%</u>
	回答者数	1,325	182.6%	無回答	3.4%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

#### 【経年変化(平成 24 年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「新聞」の割合は13.5ポイント減少しているが、「フェイスブックや ラインなどのソーシャルメディア」の割合が 7.6 ポイント増加している。

※平成30年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成24~28年度も同様に割合を算出し、 比較を行った。また、平成28年度より選択項目を変更しているため、比較対象となるもののみグラフ化して いる。合わせて、平成28年度までは、市民が那覇市の情報を得ている媒体について質問しており、平成30年 度以降は那覇市の情報発信に力を入れるべき媒体について質問しているため、単純比較できないので、取扱い



年代別でみると、10代~30代は「フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア」の割合が高く、「広報紙なは市民の友」や「新聞」の割合は低い。一方、50代以上では「広報紙なは市民の友」の割合が高くなり、70代以上では「新聞」の割合も高くなっている。

居住年数別では、1~20年では「フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア」の割合が最も高いが、21年以上では「広報紙なは市民の友」の割合が高くなっている。

							<b>*</b>	は第1位、	■は第2位	ጚ、□は第	3位の項目
選択項目 回答者属性(n=合計) 上段(人):下段(%)		なは市民の友広報紙	ホームページ	ラジオ	ソーシャルメディアラインなどのフェイスブックや	新聞	トレビ	フリーペーパー	その他	無回答	
性別	男性	(n= 533)	189 35.5	164 30.8	62 11. 6	168 31.5	109 20. 5	179 33.6	69 12. 9	19 3. 6	19 3. 6
	女性	(n= 759)	335 44. 1	210 27. 7	72 9.5	234 30.8	132 17. 4	231 30. 4	127 16. 7	16 2.1	24 3. 2
	その他/ 回答しない	(n= 8)	1 12.5	4 50. 0	-	5 62.5	-	2 25. 0	2 25. 0	-	- -
	10代	(n= 8)	-	3 37. 5		4 50. 0	1 12.5	3 37.5	2 25. 0	-	- -
年代別	20代	(n= 99)	19 19. 2	31 31.3	3 3. 0	58 58. 6	5 5 <b>.</b> 1	40 40.4	12 12. 1	4 4. 0	2 2. 0
	30代	(n= 160)	24 15. 0	64 40. 0	11 6. 9	99 61.9	7 4. 4	55 34. 4	23 14. 4	6 3.8	3 1.9
	40代	(n= 250)	77 30.8	94 37. 6	24 9. 6	119 47. 6	20 8. 0	69 27. 6	36 14. 4	9 3. 6	6 2. 4
	50代	(n= 219)	75 34. 2	80 36. 5	25 11. 4	71 32. 4	31 14. 2	72 32. 9	42 19. 2	6 2.7	4 1.8
	60代	(n= 218)	125 57. 3	52 23. 9	29	33 15. 1	46 21. 1	74 33. 9	37 17. 0	7	3
	70代以上	(n= 344)	205 59. 6	54 15. 7	41 11.9	23	131	98 28. 5	46 13. 4	3 0.9	24 7. 0
地区別	本庁	(n= 450)	166 36. 9	134 29.8	42 9. 3	149 33. 1	72 16. 0	153 34. 0	79 17. 6	12 2. 7	12 2.7
	真和志	(n= 340)	151 44. 4	95 27. 9	44 12. 9	99 29. 1	67 19. 7	106 31. 2	43 12. 6	11 3. 2	12 3.5
	小禄	(n= 223)	83 37. 2	76 34. 1	21	77 34. 5	32 14. 3	76 34. 1	32 14. 3	4	9 4.0
	首里	(n= 261)	114 43. 7	67 25. 7	24	79 30. 3	66 25.3	67 25. 7	43 16. 5	7 2.7	8 3.1
	1年未満	(n= 48)	16 33. 3	17 35. 4	5 10. 4	23 47. 9	3 6.3	15 31.3	3 6.3	3 6.3	1 2.1
	1~2年	(n= 63)	20 31. 7	27 42. 9	4 6.3	23	6 9.5	16 25. 4	9	2 3. 2	4 6.3
居住	3~5年	(n= 117)	33 28. 2	52 44. 4	5 4.3	52 44. 4	7 6. 0	31 26. 5	15 12. 8	3 2.6	5 4.3
年数別	6~10年	(n= 109)	31 28.4	44. 4 40 36. 7	11 10. 1	53 48. 6	11 10. 1	30 27. 5	13	6 5. 5	3 2.8

#### 【選択肢「その他」の主な内容】

(n=169)

(n= 793)

11~20年

21年以上

- ・Youtube やNe t のコマーシャル (4人)
- ・わかりやすく関心が持てるHP作成(4人)

61

36.1

364

45.9

51

30.2

191

24.1

女性-40 代-本庁地区・他 男性-60 代-首里地区・他

32

18.9

125

15.8

5

3.0

16

2.0

4

2.4

26

3.3

57

33.7

33.2

23

13.6

191

24.1

60

35.5

196

24.7

13

7.7

96

12.1

# (4)議会への市民参加について

質問 13. あなたは議会に何を求めますか。次の中から2つまでお選びください。

- 1. 行政の監視機能
- 2. 政策や条例の提案
- 3. 議会情報の公開

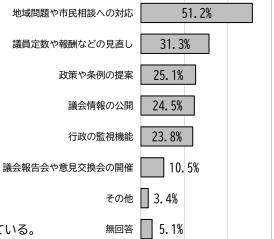
- 4. 地域問題や市民相談への対応 6. 議員定数や報酬などの見直し
- 5. 議会報告会や意見交換会の開催 7. その他( )

議会に求めていることで最も多かったのは「地域問題や市民相談への対応」である。

市民が議会に求めることについては、「地域問題や市民相談への対応」が 51.2%と最も高く、次いで「議員定数や報酬などの見直し」が 31.3%、「政策や条例の提案」が 25.1%の順となっている。

0.0% 20.0% 40.0% 60.0%

	)==10-T.D	- h- 1/L	thu A	
	選択項目	回答数	割合	
1位	地域問題や市民相談への対応	679	51.2%	
2位	議員定数や報酬などの見直し	415	31.3%	
3位	政策や条例の提案	333	25.1%	
4位	議会情報の公開	325	24.5%	
5位	行政の監視機能	315	23.8%	
6位	議会報告会や意見交換会の開催	139	10.5%	
_	その他	45	3.4%	
-	無回答	68	5.1%	
	合 計	2, 319		
	回答者数	1, 325	175.0%	

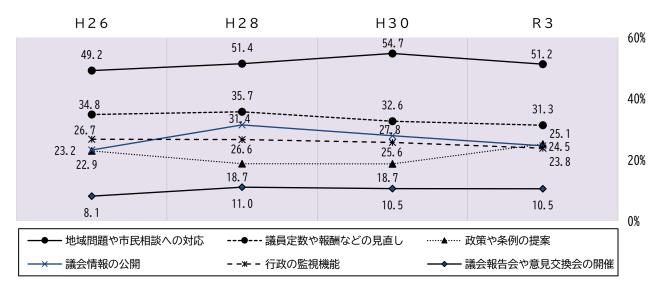


※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

#### 【経年変化(平成26年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「政策や条例の提案」の割合が 6.4 ポイント増加している。一方、「地域問題や市民相談への対応」は 3.5 ポイント減少している。

※平成30年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成26~28年度も同様に算出し、比較。



いずれの属性においても、「地域問題や市民相談への対応」の割合が最も高くなっており、あまり大きな違いは見られない。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段 (人):下段 (%)			行政の監視機能	政策や条例の提案	議会情報の公開	市民相談への対応	意見交換会の開催	報酬などの見直し	その他	無回答
	男性	(n= 533)	144 27. 0	176 33. 0	132 24. 8	241 45. 2	66 12. 4	159 29. 8	19 3. 6	24 4.5
性別	女性	(n= 759)	163 21.5	151 19. 9	184 24. 2	429 56. 5	70 9. 2	239 31.5	26 3. 4	40
"	その他/ 回答しない	(n= 8)	2 25.0	2 25. 0	25.0	1 12.5	1 12.5	6 75. 0	-	- -
	10代	(n= 8)	-	2 25. 0	3 37. 5	4 50. 0	4 50.0	1 12. 5	_	-
	20代	(n= 99)	16 16. 2	40 40. 4	24 24. 2	47 47. 5	9 9.1	25 25. 3	2 2.0	4 4. 0
	30代	(n= 160)	48 30.0	57 35. 6	37 23. 1	68 42. 5	13 8. 1	49 30. 6	10 6, 3	3 1.9
年 代	40代	(n= 250)	59 23. 6	60 24. 0	65 26. 0	126 50. 4	23 9. 2	83 33. 2	11 4. 4	8 3. 2
別	50代	(n= 219)	51 23. 3	54	52	128	26	70	7	4
	60代	(n= 218)	60	24. 7 52	23. 7 53	58. 4 113	11. 9 29	32. 0 78	3. 2	1.8
	70代以上	(n= 344)	27. 5 75	23. 9	24. 3	51. 8 184	13. 3	35. 8 98	3. 2	1.8
	本庁	(n= 450)	21.8 105	18. 3 124	24. 4 111	53. 5 225	9. 6 46	28.5	2.3	11. 6 20
地	真和志	(n= 340)	23. 3 77	27. 6 66	24. 7 95	50. 0 186	10. 2 38	32. 7 102	4. 0 11	4. 4 17
区別	 小禄	(n= 223)	22. 6 56	19. 4	27. 9	54. 7 110	11. 2	30. 0 80	3. 2	5.0
	 首里	(n= 261)	25. 1 63	30. 0	18. 8	49. 3 138	9.0	35. 9 67	3.1	4. 0 17
	1年未満	(n= 48)	24. 1 15	26. 4 16	23.4	52. 9 20	12.3	25. 7 17	2.7	6.5
	1~2年	(n= 63)	31. 3 16	33. 3 26 41. 3	16. 7 12	41. 7 29	12.5 7	35. 4 12	6.3 2 3.2	2.1
居 住	3~5年	(n= 117)	25. 4 28	39	19. 0 28	46. 0 48	11. 1	19. 0 31	4	3.2
年 数	6~10年	(n= 109)	23. 9 19	33. 3	23. 9	41. 0 54	9. 4	26. 5 34	3.4	7. 7 5
別	11~20年	(n= 169)	17. 4 30	29. 4	20. 2	49. 5 83	11. 9	31. 2 40	5. 5 12	4. 6 9
	21年以上	(n= 793)	17.8 201	29. 0 167	28. 4	49. 1 437	11. 2 81	23. 7 269	7. 1	5. 3 38
		.,	25.3	21. 1	25.2	55.1	10.2	33.9	2.3	4.8

# 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・わかりやすい議会情報の公開(4人)
- 議員が多すぎる(3人)

女性-30代-首里地区・他女性-70代以上-首里地区・他

質問14. 議会報告会で取り上げてほしいテーマを次の中から3つまでお選びください。

- 1. 子育て支援・教育問題
- 2. 健康長寿対策
- 3. 医療や福祉問題

)

- 4. 環境問題
- 6. 産業・観光振興、経済活性化
- 8. 中心市街地の活性化
- 10. 防災・防犯など安全なまちづくり
- 12. 文化・芸能・スポーツ振興
- 5. お住まいの地域の課題
- 7. 雇用・失業問題
- 9. 交通政策・都市計画
- 11. 協働のまちづくり
- 13. その他(

議会報告会で取り上げてほしいテーマで最も多かったのは「医療や福祉問題」である。

議会報告会で取り上げてほしいテーマについては、「医療や福祉問題」が 52.1%で最も高く、次いで「子育て支援・教育問題」が 43.1%、「雇用・失業問題」が 26.9%の順となっている。

	選択項目	回答数	割合	
1位	医療や福祉問題	690	52.1%	医療
2位	子育て支援・教育問題	571	43.1%	子育て支援
3位	雇用・失業問題	357	26.9%	雇用
4位	防災・防犯など安全なまちづくり	326	24.6%	防災・防犯など安全な
5位	環境問題	240	18.1%	<b>別火 別記るこ文王</b> も
6位	健康長寿対策	233	17.6%	
7位	お住まいの地域の課題	229	17.3%	健
8位	産業・観光振興、経済活性化	201	15.2%	お住まいの
9位	交通政策・都市計画	200	15.1%	産業・観光振興、
10 位	中心市街地の活性化	123	9.3%	交通政策
11 位	文化・芸能・スポーツ振興	119	9.0%	中心市街
12 位	協働のまちづくり	50	3.8%	
_	その他	50	3.8%	文化・芸能・ス
_	無回答	52	3.9%	協働の
	合 計	3, 468	_	
	回答者数	1, 325	209.7%	

0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 寮や福祉問題 52.1% 43.1% 爰・教育問題 用・失業問題 26.9% なまちづくり 24.6% 環境問題 18.1% 健康長寿対策 17.6% )地域の課題 17.3% 経済活性化 15.2% 策・都市計画 15.1% ыфの活性化 9.3% スポーツ振興 9.0% Dまちづくり 🗍 3.8% その他 3.8% 無回答 □ 3.9%

#### 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・新型コロナ対策に関すること(6人)
- 動物愛護についての強化(5人)

男性-70 代以上-首里地区・他 女性-50 代-小禄地区・他

<sup>※</sup>回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

性別でみると、男性、女性ともに「医療や福祉問題」の割合が高くなっている。

年代別でみると、20代~40代では「子育て支援・教育問題」の割合が最も高くなっており、50代以上では「医療や福祉問題」の割合が最も高い。また、70代以上では「健康長寿対策」の割合も高い。

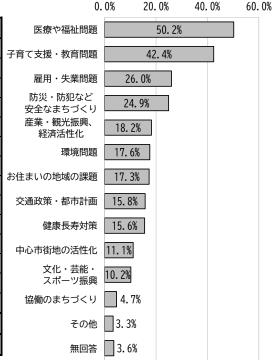
居住年数別でみると、3~5年で「子育て支援・教育問題」の割合が高くなっている。

										<b>※</b> ■la	ま第1位	ī. 🔲 lā	第2位	. 🔲 la	第3位	の項目
	者属性(n=合言 (人):下段		教育問題・子育て支援・	健康長寿対策	医療や福祉問題	環境問題	お住まいの地域の	経済活性化産業・観光振興、	雇用・失業問題	お性化のおおおお	都市計画 交通政策 ·	安全なまちづくり防災・防犯など	協働のまちづくり	スポーツ振興文化・芸能・	その他	無回答
性別	男性 女性	(n= 533) (n= 759)	195 36. 6 360 47. 4	90 16. 9 140 18. 4	271 50. 8 406 53. 5	90 16. 9 140 18. 4	96 18.0 126 16.6	106 19.9 90 11.9	136 25. 5 215 28. 3	56 10.5 64 8.4	91 17. 1 104 13. 7	121 22.7 197 26.0	27 5.1 21 2.8	62 11. 6 56 7. 4	26 4.9 24 3.2	20 3.8 30 4.0
	その他/ 回答しない	(n= 8)	4 50. 0	-	3 37. 5	4 50. 0	-	2 25. 0	2 25. 0	1 12.5	1 12. 5	2 25. 0	1 12. 5	-	- -	- -
	10代	(n= 8)	2 25. 0	1 1	5 62.5	1 1	2 25. 0	1	4 50. 0	1 12. 5	1 12. 5	1 12. 5	1 1	1 12. 5	-	-
	20代	(n= 99)	56 56. 6	7 7. 1	49 49. 5	17 17. 2	15 15. 2	21 21. 2	32 32.3	7 7. 1	21 21. 2	17 17. 2	4 4. 0	14 14. 1	3 3. 0	3 3. 0
	30代	(n= 160)	110	5	71	19	25	35	55	14	26	33	5	16	9	4
年代	40 <b>/</b> ℃	(n= 250)	68. 8 128	3. 1 15	44. 4 123	11. 9 37	15. 6 47	21. 9 41	34. 4 74	8. 8 21	16.3 47	20. 6 71	3.1	10. 0 26	5. 6 16	2.5 6
別			51. 2 87	6. 0 29	49. 2 113	14. 8 40	18. 8 44	16. 4 33	29. 6 69	8. 4 24	18. 8 45	28. 4 42	3. 2	10.4	6.4 9	2.4
	50代	(n= 219)	39.7	13. 2	51.6	18.3	20.1	15.1	31.5	11.0	20.5	19.2	3.7	10.0	4. 1	0.9
	60代	(n= 218)	79 36. 2	51 23. 4	127 58. 3	47 21. 6	34 15.6	39 17. 9	63 28. 9	25 11.5	17 7. 8	59 27. 1	14 6. 4	13 6. 0	8 3. 7	3 1. 4
	70代以上	(n= 344)	97 28. 2	122 35. 5	191 55.5	74 21. 5	55 16.0	29 8. 4	56 16.3	29 8. 4	38 11. 0	97 28. 2	10 2. 9	26 7. 6	5 1. 5	31 9. 0
	本庁	(n= 450)	191 42. 4	70	226 50. 2	79 17. 6	78 17.3	82 18. 2	117	50 11.1	71 15. 8	112 24. 9	21 4. 7	46 10. 2	15	16
地	真和志	(n= 340)	146	15. 6 75	183	67	54	49	26. 0 87	32	55	81	12	19	3. 3 12	3. 6 15
区			42. 9 101	22. 1 34	53. 8 112	19. 7 38	15. 9 34	14. 4 34	25. 6 65	9. 4 26	16. 2 35	23. 8 56	3. 5 12	5. 6 22	3. 5 7	4. 4 9
別	小禄	(n= 223)	45.3	15. 2	50. 2 147	17. 0 48	15. 2 50	15. 2 31	29. 1 75	11. 7 12	15. 7 29	25. 1 62	5. 4 4	9. 9 31	3. 1 12	4. 0 9
	首里	(n= 261)	116 44. 4	46 17. 6	56.3	18.4	19.2	11.9	28.7	4.6	11.1	23.8	1.5	11.9	4. 6	3.4
	1年未満	(n= 48)	16 33. 3	3 6. 3	26 54. 2	9 18.8	7 14. 6	7 14. 6	16 33.3	4 8.3	12 25. 0	10 20.8	-	4 8. 3	6 12.5	1 2.1
	1~2年	(n= 63)	28 44. 4	7 11. 1	29 46. 0	14 22. 2	8 12. 7	14 22. 2	12 19. 0	7 11. 1	14 22. 2	12 19. 0	1 1.6	10 15. 9	2 3. 2	2 3. 2
居住	 3~5年	(n= 117)	55	8	46	21	16	21	30	10	20	30	5	13	5	8
年			47. 0 52	6. 8 11	39.3 56	17. 9 16	13. 7 23	17. 9 21	25. 6 30	8. 5 7	17. 1 28	25. 6 20	<b>4.</b> 3	11. 1 10	4.3 6	6.8
数別	6~10年	(n= 109)	47. 7 82	10.1	51.4	14.7	21.1	19.3	27. 5 45	6. 4 20	25. 7 26	18.3	5. 5 7	9. 2 21	5. 5 9	2.8
	11~20年	(n= 169)	48.5	12.4	53.3	17.2	16.0	13.6	26.6	11.8	15.4	21.3	4. 1	12.4	5. 3	4.7
	21年以上	(n= 793)	326 41. 1	180 22. 7	432 54. 5	145 18.3	141 17.8	112 14. 1	220 27. 7	73 9. 2	96 12. 1	212 26. 7	30 3.8	60 7. 6	22 2. 8	28 3. 5

議会報告会で取り上げてほしいテーマについて、居住地区別に順位づけし、比較を行った。 すべての地区で「医療や福祉問題」の割合が最も高く、次いで「子育て支援・教育問題」、「雇 用・失業問題」となっている。

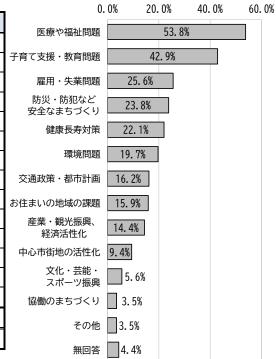
## 【本庁地区】

【半月	【本厅地区】								
	選択項目	回答数	割合						
1位	医療や福祉問題	226	50.2%						
2位	子育て支援・教育問題	191	42.4%						
3位	雇用・失業問題	117	26.0%						
4位	防災・防犯など安全なまちづくり	112	24.9%						
5位	産業・観光振興、経済活性化	82	18.2%						
6位	環境問題	79	17.6%						
7位	お住まいの地域の課題	78	17.3%						
8位	交通政策・都市計画	71	15.8%						
9位	健康長寿対策	70	15.6%						
10 位	中心市街地の活性化	50	11.1%						
11 位	文化・芸能・スポーツ振興	46	10.2%						
12 位	協働のまちづくり	21	4. 7%						
_	その他	15	3.3%						
_	無回答	16	3.6%						
	合 計	1, 174							
	回答者数	450	260.9%						



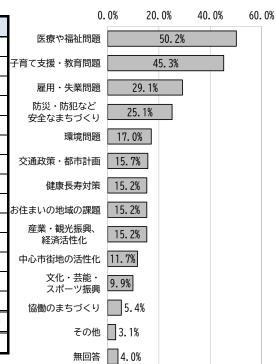
#### 【真和志地区】

(美作心·60)								
選択項目	回答数	割合						
1位 医療や福祉問題	183	53.8%						
2位 子育て支援・教育問題	146	42.9%						
3位 雇用・失業問題	87	25.6%						
4位 防災・防犯など安全なまちづくり	81	23.8%						
5位 健康長寿対策	75	22.1%						
6位 環境問題	67	19.7%						
7位 交通政策・都市計画	55	16.2%						
8位 お住まいの地域の課題	54	15.9%						
9位 産業・観光振興、経済活性化	49	14.4%						
10 位 中心市街地の活性化	32	9.4%						
11 位 文化・芸能・スポーツ振興	19	5.6%						
12 位 協働のまちづくり	12	3.5%						
― その他	12	3.5%						
一 無回答	15	4.4%						
合 計	887	_						
回答者数	340	260.9%						



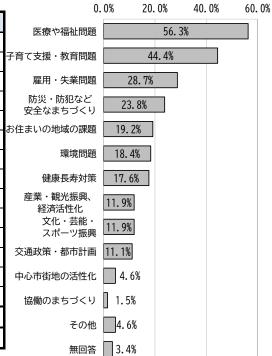
#### 【小禄地区】

K J 15	[1] . [W.S.C. E.]								
	選択項目	回答数	%						
1位	医療や福祉問題	112	50.2%						
2位	子育て支援・教育問題	101	45.3%						
3位	雇用・失業問題	65	29.1%						
4位	防災・防犯など安全なまちづくり	56	25.1%						
5位	環境問題	38	17.0%						
6位	交通政策・都市計画	35	15.7%						
7位	健康長寿対策	34	15.2%						
8位	お住まいの地域の課題	34	15.2%						
9位	産業・観光振興、経済活性化	34	15.2%						
10 位	中心市街地の活性化	26	11.7%						
11位	文化・芸能・スポーツ振興	22	9.9%						
12位	協働のまちづくり	12	5.4%						
	その他	7	3.1%						
_	無回答	9	4.0%						
	合 計	590							
	回答者数	223	262.3%						



### 【首里地区】

	選択項目	回答数	割合
1位	医療や福祉問題	147	56.3%
2位	子育て支援・教育問題	116	44.4%
3位	雇用・失業問題	75	28.7%
4位	防災・防犯など安全なまちづくり	62	23.8%
5位	お住まいの地域の課題	50	19.2%
6位	環境問題	48	18.4%
7位	健康長寿対策	46	17.6%
8位	産業・観光振興、経済活性化	31	11.9%
9位	文化・芸能・スポーツ振興	31	11.9%
10 位	交通政策・都市計画	29	11.1%
11 位	中心市街地の活性化	12	4.6%
12 位	協働のまちづくり	4	1.5%
_	その他	12	4.6%
_	無回答	9	3.4%
	合 計	672	_
	回答者数	261	257.5%



#### (5) 平和行政・男女共同参画について

質問 15. 平和行政について、重点的に取り組むべきだと思うものを<u>3つまで</u>お選びください。

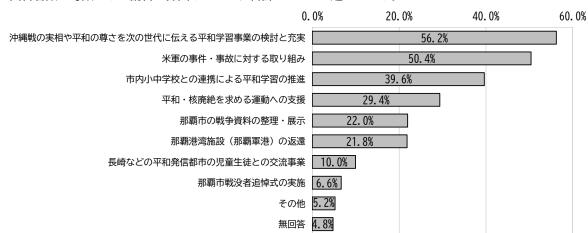
- 1. 米軍の事件・事故に対する取り組み
- 2. 那覇港湾施設(那覇軍港)の返還
- 3. 平和・核廃絶を求める運動への支援
- 4. 那覇市戦没者追悼式の実施
- 5. 長崎などの平和発信都市の児童生徒との交流事業
- 6. 市内小中学校との連携による平和学習の推進
- 7. 那覇市の戦争資料の整理・展示
- 8. 沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実
- 9. その他( )

平和行政について重点的に取り組むべきだと思うもので最も多かったのは「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実」である。

平和行政について重点的に取り組むべきことについては、「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実」が56.2%と最も高く、次いで「米軍の事件・事故に対する取り組み」が50.4%、「市内小中学校との連携による平和学習の推進」が39.6%の順となっている。

	選択項目	回答数	割合
1位	沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実	745	56.2%
2位	米軍の事件・事故に対する取り組み	668	50.4%
3位	市内小中学校との連携による平和学習の推進	525	39.6%
4位	平和・核廃絶を求める運動への支援	389	29.4%
5位	那覇市の戦争資料の整理・展示	291	22.0%
6位	那覇港湾施設(那覇軍港)の返還	289	21.8%
7位	長崎などの平和発信都市の児童生徒との交流事業	132	10.0%
8位	那覇市戦没者追悼式の実施	88	6.6%
_	その他	69	5. 2%
_	無回答	63	4.8%
	合 計	3, 259	
	回答者数	1,325	246.0%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



#### 【選択肢「その他」の主な内容】

・情報発信(4人)

女性-50 代-本庁地区・他 男性-50 代-小禄地区・他

・平和学習(平和とはの根本を検討)(4人)

【属性別集計(回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】 年代別でみると、10代~20代、60代以上では「米軍の事件・事故に対する取り組み」の割合が 高く、30代~50代では「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充 実」の割合が高い。

							>>	√ □ は第 <sup>2</sup>	位、■	は第2位、	□は第3	位の項目
	者属性(n=合 (人):下段		対する取り組み米軍の事件・事故に	(那覇軍港)の返還那覇港湾施設	運動への支援平和・核廃絶を求める	追悼式の実施那覇市戦没者	児童生徒との交流事業長崎などの平和発信都市の	による平和学習の推進市内小中学校との連携	整理・展示那覇市の戦争資料の	平和学習事業の検討と充実次の世代に伝える沖縄戦の実相や平和の尊さを	その他	無回答
	男性	(n= 533)	262 49. 2	157 29. 5	131 24. 6	46 8. 6	53 9.9	202 37. 9	143 26.8	276 51.8	40 7. 5	23 4. 3
性別	女性	(n= 759)	394 51. 9	121 15.9	249 32. 8	42 5. 5	76 10. 0	311 41. 0	144 19. 0	451 59. 4	26 3. 4	36 4. 7
	その他/ 回答しない	(n= 8)	1 12.5	2 25.0	2 25. 0	-	-	3 37.5	1.0 12.5	3 37. 5	3 37.5	-
	10代	(n= 8)	5 62. 5	-	2 25. 0	-	2 25. 0	4 50. 0	2 25. 0	4 50. 0	-	-
	20代	(n= 99)	56 56. 6	13 13. 1	27 27. 3	12 12. 1	10 10. 1	36 36. 4	27 27. 3	54 54. 5	4 4. 0	4 4. 0
	30代	(n= 160)	64 40. 0	19 11.9	37 23. 1	13 8. 1	22 13.8	81 50.6	44 27. 5	100 62. 5	9 5. 6	2 1. 3
年代	40代	(n= 250)	113 45. 2	37 14. 8	62 24. 8	19 7. 6	31 12. 4	104 41.6	60 24. 0	137 54. 8	19 7. 6	9 3. 6
別	50代	(n= 219)	104 47. 5	47 21. 5	53 24. 2	15 6.8	21 9. 6	85 38. 8	59 26. 9	133 60. 7	13 5. 9	3 1. 4
	60代	(n= 218)	123 56. 4	65 29. 8	81 37. 2	11 5. 0	13 6. 0	91 41. 7	37 17. 0	116 53. 2	13 6. 0	6 2.8
	70代以上	(n= 344)	191 55. 5	99 28.8	120 34. 9	18 5, 2	29 8. 4	115 33. 4	59 17. 2	185 53. 8	11 3. 2	34 9.9
	本庁	(n= 450)	231 51. 3	99 22. 0	147 32. 7	34 7. 6	47 10. 4	155 34. 4	101 22. 4	246 54. 7	22 4. 9	15 3.3
地	真和志	(n= 340)	173 50. 9	75 22. 1	89 26. 2	18 5. 3	28	147 43. 2	74 21.8	195 57. 4	18 5. 3	19 5. 6
区別	小禄	(n= 223)	100	56 25. 1	61 27. 4	17 7. 6	21 9. 4	99	52 23. 3	117 52. 5	11 4. 9	12 5. 4
	首里	(n= 261)	144 55. 2	45 17. 2	77 29. 5	16 6. 1	31 11.9	107 41.0	58 22. 2	160 61. 3	15 5. 7	10
	1年未満	(n= 48)	21 43. 8	9	10 20.8	3 6.3	8	19 39. 6	11 22.9	29 60. 4	5 10. 4	3 6.3
_	1~2年	(n= 63)	24 38. 1	9	16 25. 4	3 4.8	7 11.1	20 31. 7	17 27. 0	40 63. 5	4 6.3	2 3. 2
居住	3~5年	(n= 117)	43 36. 8	18 15. 4	30 25. 6	9 7. 7	16 13. 7	48 41. 0	24 20. 5	69 59. 0	4 3. 4	6 5. 1
年数	6~10年	(n= 109)	51 46. 8	21 19.3	30 27. 5	6 5. 5	10 9. 2	39 35.8	23 21.1	59. 0 50 45. 9	12	5
別	11~20年	(n= 169)	40. 8 82 48. 5	39 23. 1	53 31. 4	5. 3 5. 3	9. 2 13 7. 7	73 43. 2	42 24. 9	96 56. 8	11. 0 9 5. 3	4. 6 7
	21年以上	(n= 793)	425	184 23. 2	243 30. 6	5. 3 58 7. 3	7. 7 75 9. 5	316 39.8	170 21. 4	446 56. 2	35 4. 4	4. 1 36 4. 5

質問 16. 社会全体でみた場合、男女の平等について、あなたはどう思いますか。

- 1. 男性の方が優遇されている
- 2. どちらかというと、男性の方が優遇されている

3. 平等である

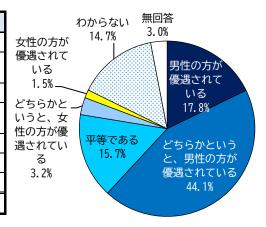
- 4. どちらかというと、女性の方が優遇されている
- 5. 女性の方が優遇されている
- 6. わからない

社会全体で見た場合、男女の平等について「平等である」と答えた割合は 15.7%、「男性の方が優遇されている」と答えた割合は 61.9%。「女性の方が優遇されている」と答えた割合は 4.7%である。

男女の平等について、「どちらかというと、男性の方が優遇されている」が44.1%で最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が17.8%、「平等である」が15.7%の順となっている。

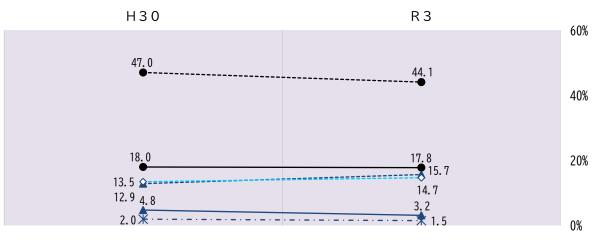
「男性の方が優遇されている」と「どちらかというと、男性の方が優遇されている」の合計は 6割以上を占めている。

選択項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	236	17.8%
どちらかというと、 男性の方が優遇されている	584	44. 1%
平等である	208	15.7%
どちらかというと、 女性の方が優遇されている	42	3. 2%
女性の方が優遇されている	20	1.5%
わからない	195	14. 7%
無回答	40	3.0%
合 計	1, 325	100%



#### 【経年変化(平成30年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「どちらかというと、男性の方が優遇されている」は 2.9 ポイント減少しており、「平等である」は 2.8 ポイント増加している。

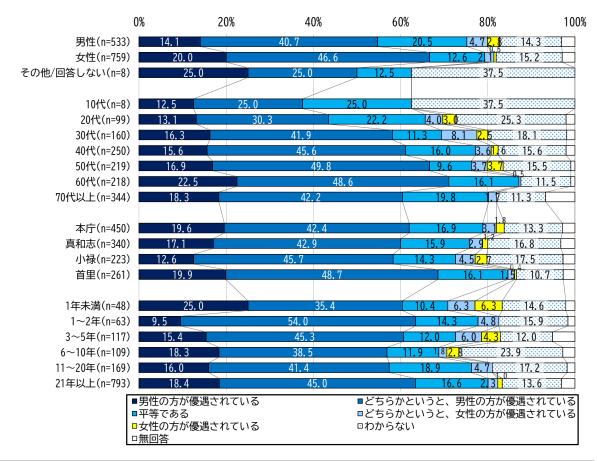




性別でみると、男性は女性に比べ、「平等である」の割合が高くなっている。

年代別でみると、70代以上を除き、年代が上がるにつれて、「男性の方が優遇されている」「どちらかというと、男性の方が優遇されている」の割合が高くなる傾向にある。

回答者属性(n=合計)	選択項目	優遇されている	優遇されている 男性の方が	平等である	優遇されている 女性の方が というと、	優遇されている	わからない
男性	(n= 533)	75	217	109	25	15	76
女性	(n= 759)	152	354	96	16	4	115
その他/回答しない	(n= 8)	2	2	1	0	0	3
10代	(n= 8)	1	2	2	0	0	3
20代	(n= 99)	13	30	22	4	3	25
30代	(n= 160)	26	67	18	13	4	29
40 代	(n= 250)	39	114	40	9	4	39
50代	(n= 219)	37	109	21	8	8	34
60代	(n= 218)	49	106	35	1	0	25
70 代以上	(n= 344)	63	145	68	6	0	39
本庁	(n= 450)	88	191	76	14	8	60
真和志	(n= 340)	58	146	54	10	4	57
小禄	(n= 223)	28	102	32	10	6	39
首里	(n= 261)	52	127	42	4	1	28
1年未満	(n= 48)	12	17	5	3	3	7
1~2年	(n= 63)	6	34	9	3	0	10
3~5年	(n= 117)	18	53	14	7	5	14
6~10年	(n= 109)	20	42	13	2	3	26
11~20年	(n= 169)	27	70	32	8	0	29
21 年以上	(n= 793)	146	357	132	18	8	108



質問 17. 「性の多様性」に関する問題を人権問題ととらえ、「性の多様性を尊重する都市・なは」を 宣言しました。戸籍上、同性であるお二人の申請に基づく、那覇市パートナーシップ登録 制度など、「性の多様性」に関する取り組みについて、あなたはどう思いますか。次の中 から1つお選びください。

1. 賛成

2. どちらかといえば賛成

3. どちらかといえば反対

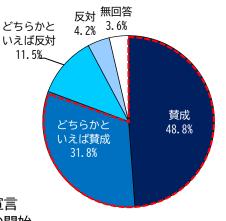
4. 反対

「性の多様性」に関する取り組みについて「賛成」と答えた割合は 80.6%、「反対」 と答えた割合は 15.7%である。

「性の多様性」に関する取り組みについては、「賛成」が48.8%と最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」が31.8%、「どちらかといえば反対」が11.5%の順となっており、「賛成」が「反対」を大きく上回っている。

「反対」と「どちらかといえば反対」の合計は15.7%になっている。

選択項目	回答数	割合
賛成	647	48.8%
どちらかといえば賛成	422	31.8%
どちらかといえば反対	153	11.5%
反対	55	4.2%
無回答	48	3.6%
合 計	1, 325	100%

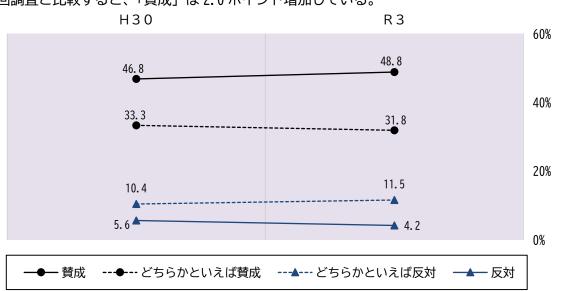


#### 【那覇市の取組み】

平成27年7月 「性の多様性を尊重する都市・なは」宣言 平成28年7月 「那覇市パートナーシップ登録」制度の開始

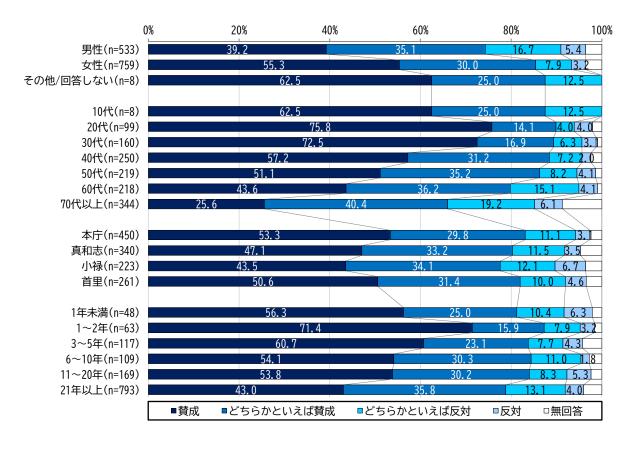
#### 【経年変化(平成30年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「賛成」は2.0ポイント増加している。



性別でみると、女性は男性に比べ、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が高くなっている。 年代別でみると、10代を除き年代が上がるにつれて、「反対」、「どちらかといえば反対」の割合 が高くなる傾向にあるが、いずれの年代も「賛成」「どちらかといえば賛成」は半数を超えている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	賛成	いえば賛成	いえば反対	反対	無回答
男性	(n= 533)	209	187	89	29	19
女性	(n= 759)	420	228	60	24	27
その他/回答しない	(n= 8)	5	2	1	0	0
10代	(n= 8)	5	2	1	0	0
20代	(n= 99)	75	14	4	4	2
30代	(n= 160)	116	27	10	5	2
40 代	(n= 250)	143	78	18	5	6
50代	(n= 219)	112	77	18	9	3
60代	(n= 218)	95	79	33	9	2
70 代以上	(n= 344)	88	139	66	21	30
本庁	(n= 450)	240	134	50	14	12
真和志	(n= 340)	160	113	39	12	16
小禄	(n= 223)	97	76	27	15	8
首里	(n= 261)	132	82	26	12	9
1年未満	(n= 48)	27	12	5	3	1
1~2年	(n= 63)	45	10	5	2	1
3~5年	(n= 117)	71	27	9	5	5
6~10年	(n= 109)	59	33	12	2	3
11~20年	(n= 169)	91	51	14	9	4
21 年以上	(n= 793)	341	284	104	32	32



## (6)誰もが移動しやすいまちについて

質問 18. 子どもからお年寄りまで、誰でも快適に移動できるまちづくりのために、重要だと思う ものを次の中から3つまでお選びください。

- 1. 自転車を利用しやすくする
- 2. オートバイを利用しやすくする
- 3. タクシーを利用しやすくする
- 4. バスを利用しやすくする
- 5. モノレールを利用しやすくする 6. LRT(次世代型路面電車)の新しい交通手段を導入する
- 7. 乗合タクシー(※)等を導入する 8. 歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する
- 9. 緑陰やベンチ等休憩施設を整備する 10. 駐車場・駐輪場を整備する
- 11. その他(

※乗合タクシー:利用者からの予約を受けて、定められた運行区域内で一般のタクシーを乗合で利用する新しいタイプの 公共交通です。【例】真和志地域乗合タクシー

誰でも快適に移動できるまちづくりのために重要だと思うものについて最も多 かったのは「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」である。

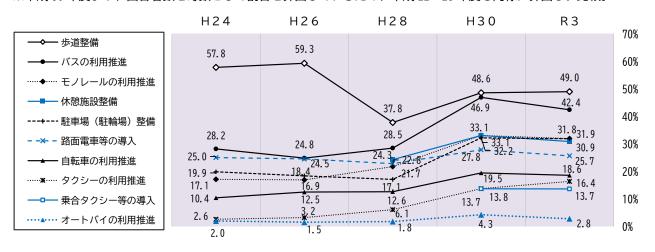
誰でも快適に移動できるまちづくりのために重要だと思うものは、「歩道の設置、段差等を解消 し、歩きやすい歩道を整備する」が 49.0%と最も高く、次いで「バスを利用しやすくする」が 42.4%、 「モノレールを利用しやすくする」が 31.9%、「駐車場・駐輪場を整備する」が 31.8%の順とな っている。

<u> </u>	- 00			-	0.0% 20	. 0% 40. (	0% 60.0%	
	選択項目	回答数	割合	歩道の設置、段差等を解消し	,	49.0%		
1位	歩道の設置、段差等を解消し歩き やすい歩道を整備する	649	49.0%	歩きやすい歩道を整備する バスを利用しやすくする		2. 4%	]	
2位	バスを利用しやすくする	562	42.4%	モノレールを利用しやすくする	31.9	ov		
3位	モノレールを利用しやすくする	423	31.9%	モノレールを利用しやすくする	31.9	76		
4位	駐車場・駐輪場を整備する	422	31.8%	駐車場・駐輪場を整備する	31.89	%		
5位	緑陰やベンチ等休憩施設を整備する	409	30.9%	緑陰やベンチ等	2 1 3 N Q	6		
6位	LRT(次世代型路面電車)の新しい 交通手段を導入する	340	25. 7%	休憩施設を整備する LRT (次世代型路面電車) の 新しい交通手段を導入する	25.7%			
7位	自転車を利用しやすくする	246	18.6%					
8位	タクシーを利用しやすくする	217	16.4%	自転車を利用しやすくする 	18.6%			
9位	乗合タクシー等を導入する	181	13.7%	タクシーを利用しやすくする	16.4%			
10 位	オートバイを利用しやすくする	37	2.8%	乗合タクシー等を導入する 乗合タクシー等を導入する	5 13.7%			
	その他	52	3.9%		13.7%			
_	無回答	38	2.9%	オートバイを利用しやすくする	5 2.8%			
	合 計	3, 576	_	その他	也 3.9%			
	回答者数	1,325	269.9%	<b>4</b> 77.□ <sup>4</sup> 7	÷ 🗒 🐠			
※回答	*回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。							

## 【経年変化(平成24年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「バスの利用推進」の割合が4.5 ポイント減少している。

※平成30年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成22~28年度も同様に算出し、比較。



性別でみると、男性は「バスを利用しやすくする」の割合が高く、女性は「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」の割合が高くなっている。

年代別でみると、10代と40代では「バスを利用しやすくする」の割合が高いが、30代と50代以降は「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」の割合が最も高い。

居住地区別でみると、小禄地区、首里地区でバスやモノレールの利用に関する項目の割合が高くなっている。

								>	⟨■は第	1位、	■は第2	位、□	は第3位	位の項目
	者属性(n=合; (人):下段		利用しやすくする自転車を	利用しやすくするオートバイを	利用しやすくするタクシーを	利用しやすくする バスを	利用しやすくするモノレールを	交通手段を導入する路面電車)の新しいLRT(次世代型	<b>導入する</b> 乗合タクシー等を	歩道を整備するを解消し歩きやすい歩道の設置、段差等	休憩施設を整備する緑陰やベンチ等	整備する駐車場・駐輪場を	その他	無回答
	男性	(n= 533)	123 23. 1	31 5.8	71 13. 3	223 41.8	190 35. 6	160 30. 0	60 11. 3	215 40.3	148 27. 8	184 34. 5	26 4.9	12 2. 3
性別	女性	(n= 759)	117 15. 4	6 0.8	141 18. 6	330 43. 5	225 29. 6	169 22. 3	118 15. 5	418 55.1	250 32. 9	230 30. 3	25 3.3	21 2. 8
	その他/ 回答しない	(n= 8)	2 25. 0	-	1 12.5	2 25. 0	4 50. 0	3 37.5	1 12. 5	5 62.5	2 25. 0	2 25. 0	-	-
	10代	(n= 8)	3 37.5	-	-	4 50. 0	4 50. 0	1 12. 5	-	2 25. 0	3 37. 5	3 37. 5	-	-
	20代	(n= 99)	19	2	17	42	44	20	10	40	28	35	3	-
		(11 777	19. 2 32	2.0	17. 2 27	42. 4 61	44. 4 50	20. 2	10. 1 19	40.4	28.3	35 <b>.</b> 4	3. 0 10	3
_	30代	(n= 160)	20.0	4.4	16.9	38.1	31.3	27.5	11.9	44.4	24.4	40.0	6.3	1.9
年代	40代	(n= 250)	71	12	36	111	93	67	31	110	51	89	12	3
別	4010	(11- 230)	28.4	4.8	14.4	44. 4	37.2	26.8	12.4	44.0	20.4	35.6	4.8	1.2
155	50代	(n= 219)	33 15. 1	4 1.8	33 15. 1	92 42. 0	77 35. 2	67 30. 6	27 12. 3	120 54.8	67 30. 6	77 35, 2	9 4.1	3 1. 4
	(0/l)	( 210)	34	5	33	84	63	53	31	125	76	75	<del>4.</del> 1	6
	60代	(n= 218)	15.6	2.3	15.1	38.5	28.9	24.3	14.2	57.3	34.9	34.4	2.3	2.8
	70代以上	(n= 344)	50	7	66	160	88	80	60	170	136	73	12	17
			14. 5 86	2. 0 12	19. 2 77	46. 5 182	25. 6 131	23.3 135	17. 4 58	49.4 221	39.5 144	21. 2 144	3. 5 21	4. 9 12
	本庁	(n= 450)	19.1	2.7	17.1	40.4	29.1	30.0	12.9	49.1	32. 0	32.0	4.7	2.7
地	真和志	(n= 340)	64	10	60	151	93	92	62	165	106	95	12	8
区	共作心	(11- 340)	18.8	2.9	17.6	44.4	27.4	27. 1	18.2	48.5	31. 2	27. 9	3.5	2.4
別	小禄	(n= 223)	37 16. 6	7 3. 1	39 17.5	106 47. 5	86 38. 6	53 23. 8	19 8. 5	107 48.0	62 27. 8	78 35. 0	9 4. 0	5 2. 2
	<del></del>	( 2(1)	49	7	34	101	100	49	38	132	81	94	9	7
	首里	(n= 261)	18.8	2.7	13.0	38.7	38.3	18.8	14.6	50.6	31.0	36.0	3.4	2. 7
	1年未満	(n= 48)	11 22. 9	3 6.3	6 12.5	16 33. 3	21 43.8	10 20. 8	5 10. 4	20 41.7	11 22. 9	13 27. 1	4 8.3	3 6.3
	1 2/5	(-, (2)	16	-	10	21	26	25	3	31	11	20	2	1
居	1~2年	(n= 63)	25.4	-	15.9	33. 3	41.3	39.7	4.8	49.2	17.5	31.7	3. 2	1.6
住	3~5年	(n= 117)	26 22. 2	2 1. 7	20 17. 1	56 47. 9	43 36. 8	28 23. 9	17 14. 5	46 39.3	23 19. 7	41 35. 0	4 3. 4	_
年数	6~10年	(n= 109)	29 26. 6	5 4.6	19 17. 4	55 50. 5	40 36.7	25 22. 9	9	45 41.3	32 29. 4	34 31. 2	3 2.8	2 1.8
別	11 207	(= 1/0)	<u> </u>	4.6	22	69	61	38	19	72	<u> </u>	62	2.8 5	1.8
	11~20年	(n= 169)	29.0	3.6	13.0	40.8	36.1	22.5	11.2	42.6	27. 2	36.7	3.0	3.0
	21年以上	(n= 793)	111	21	136	338	228	206	126	424	276	246	33	22
	1	( 175)	14.0	2.6	17.2	42.6	28.8	26.0	15.9	53.5	34.8	31.0	4.2	2.8

# 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・バス停の整備(案内板、ベンチ)(6人)
- ・道路の整備(4人)
- ・モノレールの改善(路線延長、割引等)(6人) 男性-50代-真和志地区・他

女性-70 代以上-小禄地区·他 男性-30 代-本庁地区·他 質問 19. バス、モノレール、タクシーの各公共交通について満足していますか。次の中から<u>1つ</u>お 選びください。

- 1. 非常に満足している
- 2. 満足している
- 3. 普通

4. 不満

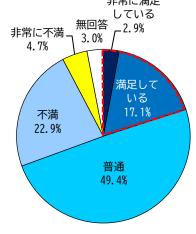
5. 非常に不満

各公共交通について「満足」と答えた割合は 20.0%、「不満」と答えた割合は 27.6% である。

バス、モノレール、タクシーの各公共交通について、満足しているかについては、「普通」が49.4%と最も多く、次いで「不満」が22.9%、「満足している」が17.1%の順となっている。

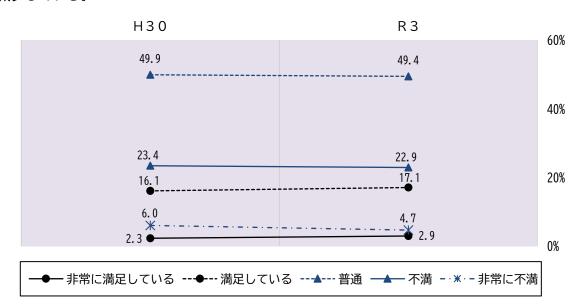
「非常に満足している」と「満足している」の合計が 20.0%に対し、「不満」と「非常に不満」の合計は 27.6%であり、各公共交通に対して、「不満」に感じている市民の方が多いことが伺える。

選択項目	回答数	割合
非常に満足している	39	2.9%
満足している	226	17.1%
普通	655	49.4%
不満	303	22.9%
非常に不満	62	4. 7%
無回答	40	3.0%
合 計	1, 325	100%



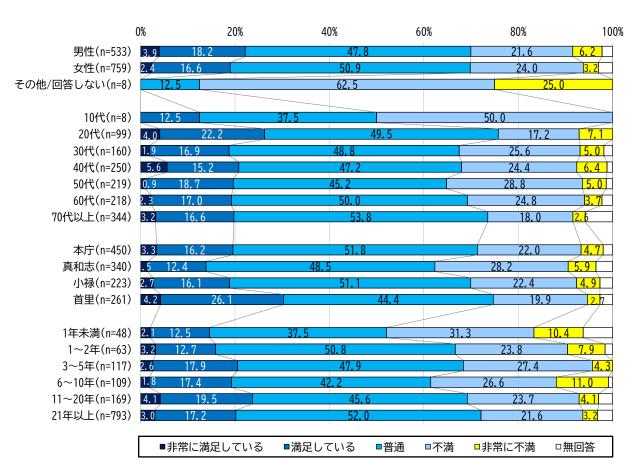
## 【経年変化(平成30年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「満足している」は 1.0 ポイント増加し、「非常に不満」は 1.3 ポイント減少している。



## 【属性別集計(回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】 性別でみると、「不満」と「非常に不満」を合わせた割合はほぼ拮抗している。 居住地区別でみると、首里地区で「非常に満足している」の割合が高くなっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	満足している	満足している	普通	不満	非常に不満	無回答
男性	(n= 533)	21	97	255	115	33	12
女性	(n= 759)	18	126	386	182	24	23
その他/回答しない	(n= 8)	0	0	1	5	2	0
10代	(n= 8)	0	1	3	4	0	0
20代	(n= 99)	4	22	49	17	7	0
30代	(n= 160)	3	27	78	41	8	3
40 代	(n= 250)	14	38	118	61	16	3
50代	(n= 219)	2	41	99	63	11	3
60代	(n= 218)	5	37	109	54	8	5
70 代以上	(n= 344)	11	57	185	62	9	20
本庁	(n= 450)	15	73	233	99	21	9
真和志	(n= 340)	5	42	165	96	20	12
小禄	(n= 223)	6	36	114	50	11	6
首里	(n= 261)	11	68	116	52	7	7
1年未満	(n= 48)	1	6	18	15	5	3
1~2年	(n= 63)	2	8	32	15	5	1
3~5年	(n= 117)	3	21	56	32	5	0
6~10年	(n= 109)	2	19	46	29	12	1
11~20年	(n= 169)	7	33	77	40	7	5
21 年以上	(n= 793)	24	136	412	171	25	25



質問 19-1. 上記質問で「4」又は「5」を選択した方に伺います。不満に感じていることを次の中から<u>3 つまで</u>お選びください。

- 1. バスが時間通りに来ない
- 2. バスの便数が少ない
- 3. バスの路線がわかりづらい
- 4. バス停の間隔が長い(遠い)
- 5. モノレールとバス、タクシーの乗り継ぎが不便
- 6. タクシー乗り場が少ない
- 7. 駅の案内表示、音声案内がわかりにくい
- 8. モノレール車内が混雑している
- 9. その他()

60.0%

公共交通の不満に感じていることで最も多かったのは「バスの路線がわかりづらい」である。

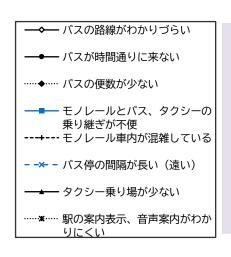
質問 19 で、各公共交通に対し「不満」に感じている理由について、「バスの路線がわかりづらい」が 59.5%と最も高く、次いで「バスが時間通りに来ない」が 44.1%、「バスの便数が少ない」が 34.8%の順となっている。

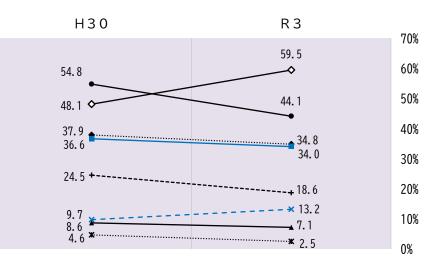
選択項目	回答数	割合	0	0% 20.0% 40.0%
1位 バスの路線がわかりづらい	217	59.5%		
2位 バスが時間通りに来ない	161	44.1%	バスの路線がわかりづらい	59. 5%
3位 バスの便数が少ない	127	34.8%	バスが時間通りに来ない	44. 1%
4位 モノレールとバス、タクシーの 乗り継ぎが不便	124	34.0%	バスの便数が少ない	34. 8%
5位 モノレール車内が混雑している	68	18.6%	・モノレールとバス、タクシーの 乗り継ぎが不便	34. 0%
6位 バス停の間隔が長い(遠い)	48	13. 2%	モノレール車内が混雑している	18. 6%
7位 タクシー乗り場が少ない	26	7.1%	バス停の間隔が長い(遠い)	13. 2%
8位 駅の案内表示、音声案内が わかりにくい	9	2.5%	タクシー乗り場が少ない	7. 1%
― その他	104	28.5%	駅の案内表示、	2.5%
— 無回答	0	0.0%	音声案内がわかりにくい	
合 計	931	_	その他	28. 5%
回答者数	372	250.3%	無回答	0.0%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

#### 【経年変化(平成30年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「バスの路線がわかりづらい」は11.4ポイント増加している。





年代別でみると、10代と20代で「バスが時間通りに来ない」の割合が最も高く、30代以上で「バスの路線がわかりづらい」の割合が最も高い。

居住地区別でみると、全ての地区で「バスの路線がわかりづらい」の割合が最も高く、真和志 地区では「モノレールとバス、タクシーの乗り継ぎが不便」の割合が高くなっている。

						*	﴿■は第1	位、■は	第2位、	□は第3	位の項目
	選択項 者属性 (n=合計) (人):下段(%)	コープライスが時間通りに来ない	バスの便数が少ない	わかりづらいバスの路線が	長い(遠い)バス停の間隔が	シーの乗り継ぎが不便モノレールとバス、タク	タクシー乗り場が少ない	音声案内がわかりにくい駅の案内表示、	混雑しているモノレール車内が	その他	無回答
	男性 (n= 14	64 43. 2	48 32. 4	90 60.8	14 9. 5	53 35. 8	10 6.8	7 4. 7	24 16. 2	48 32. 4	_
性別	女性 (n= 20	95 46. 1	76 36. 9	120 58. 3	31 15. 0	65 31.6	16 7.8	2 1. 0	43 20. 9	51 24. 8	-
	その他/ 回答しない (n=	7) 1 14.3	2 28. 6	4 57. 1	3 42.9	2 28. 6	-	-	-	3 42.9	_
	10代 (n=	4) 4 100.0	2 50. 0	2 50.0	-	1 25. 0	-	-	1 25. 0	1 25. 0	-
	20代 (n= 2	4) 13 54. 2	6 25. 0	12 50. 0	2 8. 3	8 33. 3	-	2 8. 3	7 29. 2	9 37. 5	-
_	30代 (n= 4	1/	4 8. 2	33 67. 3	1 2.0	19 38. 8	4 8. 2	2 4. 1	16 32. 7	18 36. 7	-
年代	40代 (n= 7	22	34 44. 2	46 59. 7	13 16. 9	27 35. 1	6 7.8	-	21 27. 3	19 24. 7	-
別	50代 (n= 7	25	22 29. 7	49 66. 2	6 8.1	23	3 4.1	2 2. 7	12 16. 2	22 29.7	-
	60代 (n= 6	20	24 38. 7	31 50.0	10 16. 1	22 35. 5	8 12.9	2 3. 2	7 11.3	17 27. 4	_
	70代以上 (n= 7	33	34 47. 9	41 57. 7	16 22.5	20 28. 2	5 7.0	1 1.4	3 4. 2	16 22.5	-
	本庁 (n= 12	/10	39 32. 5	76 63.3	11 9. 2	34 28. 3	6 5. 0	5 4. 2	21 17. 5	36 30.0	_
地	真和志 (n= 11	23	46 39. 7	63 54. 3	19 16. 4	46 39. 7	7 6. 0	3 2.6	19 16. 4	30 25. 9	-
区別	小禄 (n= 6	22	16	38	9	20	5	1	11	19	_
	首里 (n= 5	27	26. 2	62.3	14.8	32. 8 19	8. 2 5	1.6 -	18. 0 15	31.1	
	1年未満 (n= 2	45.8	42. 4 5	57. 6 14	13.6 -	32.2	8.5 3	1	25. 4 1	28. 8 7	
	1~2年 (n= 2	45. 0	25. 0 7	70. 0 13	3	40.0	15.0	5. 0 -	5.0	35.0	
居住	3~5年 (n= 3	50. 0 7) 16	35. 0 14	65. 0 21	15.0 2	25. 0 17	10.0	2	10.0	40.0	_
年数	6~10年 (n= 4	43. 2	37. 8	56. 8 28	5.4	45. 9 14	2.7	5.4	24.3	24. 3 15	
別	11~20年 (n= 4	36. 6 7) 21	24. 4	68. 3 28	7.3	34. 1 14	9.8	4. 9 1	19.5 9	36. 6 13	
	21年以上 (n= 19	44. 7	36. 2 73	59. 6 110	8.5 36	29.8 62	6. 4 13	2.1	19. 1 38	27. 7 50	_
	11-13	45.4	37. 2	56.1	18.4	31.6	6.6	1.5	19.4	25.5	_

## 【選択肢「その他」の主な内容】

・モノレールの範囲が狭い(17人)

・運転手のマナーが悪い(15人)

男性-20 代-真和志地区・他 女性-30 代-小禄地区・他

# (7)協働によるまちづくりについて

質問 20. あなたが現在行っているボランティア活動の分野について、次の中から<u>2つまで</u>お選びください。

- 1. 高齢者・障がいのある方への支援
- 2. 子どもの健全育成
- 3. まちづくりの推進、地域安全
- 4. 環境保全
- 5. キャリア教育、社会教育など生涯教育
- 6. 学術、文化、芸術、スポーツの振興
- 7. 観光、平和、国際交流
- 8. その他 (

9. 行っていない

現在行っているボランティア活動の分野について最も多かったのは「子どもの健全育成」で、「行っていない」と回答した割合は70.6%である。

現在行っているボランティア活動については、「子どもの健全育成」が 8.1%で最も多く、次いで「高齢者・障がいのある方への支援」が 7.2%、「環境保全」が 5.2%の順となっている。 また、「行っていない」と回答した市民は 70.6%と 7割を占めている。

	選択項目	回答数	割合
1位	行っていない	936	70.6%
2位	子どもの健全育成	107	8.1%
3位	高齢者・障がいのある方への支援	95	7. 2%
4位	環境保全	69	5. 2%
5位	学術、文化、芸術、スポーツの振興	64	4.8%
6位	まちづくりの推進、地域安全	63	4.8%
7位	観光、平和、国際交流	29	2.2%
8位	キャリア教育、社会教育など生涯教育	23	1. 7%
-	その他	33	2.5%
_	無回答	936	70.6%
	슴 計	1,488	
	回答者数	1, 325	112.3%



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

#### 【選択肢「その他」の主な内容】

- ·清掃活動(公園、自宅周辺)(6人)
- ・動物の保護活動(3人)
- ・ママ食堂(2人)

男性-70 代以上-本庁地区・他 女性-60 代-本庁地区・他 女性-50 代-真和志地区・他

すべての属性において、「行っていない」の割合が最も高い。

性別でみると、男性は「環境保全」、女性は「高齢者・障がいのある方への支援」の割合が比較的高くなっている。

年代別でみると、比較的年齢が高くなるほど「行っていない」の割合は低くなる傾向がある。 また、60代以上で「高齢者・障がいのある方への支援」の割合が高い。

							*	﴿■は第1	位、■は	第2位、	□は第3	位の項目
	者属性(n=合言 (人):下段		ある方への支援高齢者・障がいの	子どもの健全育成	推進、地域安全まちづくりの	環境保全	生涯教育社会教育などキャリア教育、	芸術、スポーツの学術、文化、	<b>観光、平和、</b>	その他	行っていない	無回答
	男性	(n= 533)	38 7. 1	45 8.4	39 7. 3	42 7.9	10 1.9	28 5. 3	11 2.1	13 2. 4	364 68.3	27 5. 1
性別	女性	(n= 759)	52 6. 9	59 7. 8	22 2. 9	24 3. 2	12 1.6	34 4. 5	16 2.1	20 2.6	557 73. 4	36 4. 7
	その他/ 回答しない	(n= 8)	1 12. 5	1 12. 5	-	2 25. 0	-	1 12. 5	1 12.5	-	4 50. 0	- -
	10代	(n= 8)	- -	-	-	-	-		-	-	8 100. 0	- -
	20代	(n= 99)	4 4. 0	6 6. 1	4 4. 0	3 3.0	1 1.0	6. 1	3 3. 0	1 1. 0	77 77.8	1 1. 0
年	30代	(n= 160)	5 3. 1	15 9. 4	5 3. 1	4 2.5	2 1. 3	7 4. 4	4 2. 5	4 2. 5	126 78. 8	3 1. 9
十代別	40代	(n= 250)	6 2. 4	27 10. 8	5 2. 0	12 4. 8	3 1. 2	11 4. 4	9 3. 6	6 2.4	193 77. 2	3 1. 2
נת	50代	(n= 219)	15 6. 8	20 9. 1	13 5. 9	10 4.6	4 1.8	15 6.8	6 2. 7	3 1.4	154 70. 3	4 1. 8
	60代	(n= 218)	22 10. 1	14 6. 4	11 5. 0	13	5 2.3	5 2.3	3	8	160 73. 4	9
	70代以上	(n= 344)	39 11.3	23 6. 7	23 6. 7	26 7, 6	7 2.0	19 5. 5	3	11 3. 2	206 59. 9	42 12. 2
	本庁	(n= 450)	43 9.6	42 9. 3	25 5. 6	27 6. 0	8	16 3. 6	10 2.2	13 2.9	320 71. 1	14
地	真和志	(n= 340)	19 5. 6	23 6. 8	13 3. 8	17 5.0	4	14 4.1	9	6	244 71. 8	24 7. 1
区別	小禄	(n= 223)	13 5. 8	14 6. 3	9	9	4	11 4.9	4	4 1.8	162 72. 6	13 5. 8
	首里	(n= 261)	14 5. 4	26 10. 0	14 5. 4	12 4. 6	4 1.5	21	5 1.9	8	181	11 4. 2
	1年未満	(n= 48)	3.4 3 6.3	2 4. 2	1 2.1	2 4. 2	1 2.1	2 4. 2	2 4.2	3 6.3	34 70. 8	3 6. 3
	1~2年	(n= 63)	3 4. 8	4. 2	3 4.8	<u>4. 2</u> - -	1 1.6	2 3. 2	1.6	- 0.5	53 84. 1	1 1.6
居住	3~5年	(n= 117)	5 4. 3	8 6.8	<b>4.</b> 0	3 2.6	4 3.4	6 5.1	1 0.9	4 3. 4	92 78. 6	1 0.9
年数	6~10年	(n= 109)	4.3	7 6. 4	2 1. 8	6 5.5	4 3.7	5 4. 6	3 2.8	3 2.8	82 75. 2	2
別	11~20年	(n= 169)	14 8. 3	19 11. 2	7 4. 1	8 4. 7	1 0.6	10 5. 9	7 4.1	3	118	6 3.6
	21年以上	(n= 793)	61 7. 7	65 8. 2	48 6. 1	49 6. 2	11 1.4	37 4. 7	14	20 2.5	546 68. 9	50 6. 3

質問 21. 行政機関がボランティア活動を支援する場合、どのようなことをしたらよいと思いますか。 次の中から<u>2つまで</u>お選びください。

- 1. 市民への情報発信(ホームページの充実やボランティア団体の活動の紹介等)
- 2. 技術や知識などの研修会、講習会の開催
- 3. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
- 4. ポイント制を導入したポイントに応じて特典を設けられる制度
- 5. ボランティアを求める側とボランティアをしたい側との仲介(マッチング・コーディネート)
- 6. その他())

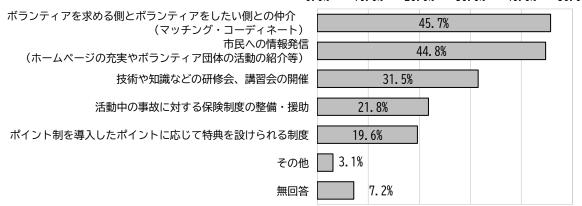
行政機関がボランティア活動を支援する取組として求められることについて最も 多かったのは「ボランティアを求める側とボランティアをしたい側との仲介(マ ッチング・コーディネート)」である。

ボランティア活動を支援する取組は、「ボランティアを求める側とボランティアをしたい側との仲介(マッチング・コーディネート)」が45.7%で最も高く、次いで「市民への情報発信(ホームページの充実やボランティア団体の活動の紹介等)」が44.8%、「技術や知識などの研修会、講習会の開催」が31.5%の順となっている。

	選択項目	回答数	割合
1位	ボランティアを求める側とボランティアをしたい側との仲介 (マッチング・コーディネート)	606	45. 7%
2位	市民への情報発信(ホームページの充実やボランティア団体の活動の紹介等)	593	44.8%
3位	技術や知識などの研修会、講習会の開催	418	31.5%
4位	活動中の事故に対する保険制度の整備・援助	289	21.8%
5位	ポイント制を導入したポイントに応じて特典を設けられる制度	260	19.6%
_	その他	41	3.1%
_	無回答	95	7. 2%
	合 計	2, 302	
	回答者数	1, 325	173.7%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0%



### 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・活動費等の助成、援助(8人)
- ・ボランティア希望者への研修、資格取得(3人)

女性-50 代-首里地区・他 男性-40 代-首里地区・他

性別でみると、男性は「市民への情報発信」の割合が最も高く、女性は「仲介 (マッチング・コーディネート)」の割合が最も高くなっている。

年代別でみると、20代、60代以上で「市民への情報発信」の割合が最も高くなっているが、30代~50代では「仲介(マッチング・コーディネート)」の割合が高い。

居住年数別では、居住年数が1~2年以上では「仲介(マッチング・コーディネート)」を求める傾向にある。

						※■は第	51位、■は第	第2位、□は	第3位の項目
	者属性(n=合計 (人):下段(		活動の紹介等)ボランティア団体のイボームページの充実や市民への情報発信	研修会、講習会の開催技術や知識などの	保険制度の整備・援助活動中の事故に対する	特典を設けられる制度ポイント制を導入した	コーディネート) (マッチング・したい側との仲介とボランティアを	その他	無回答
	男性	(n= 533)	242 45. 4	175 32. 8	129 24. 2	107 20. 1	203 38. 1	16 3. 0	39 7. 3
性別	女性	(n= 759)	339 44. 7	233 30. 7	154 20. 3	147 19. 4	391 51. 5	24 3. 2	48 6. 3
	その他/ 回答しない	(n= 8)	2 25. 0	3 37. 5	3 37. 5	2 25. 0	4 50. 0	- -	- -
	10代	(n= 8)	3 37. 5	1 12.5	1 12.5	5 62. 5	2 25. 0	<u> </u>	-
	20代	(n= 99)	51 51.5	26 26. 3	12 12. 1	37 37. 4	47 47. 5	2 2. 0	1 1. 0
_	30代	(n= 160)	58 36.3	43 26. 9	36 22.5	46 28. 7	79 49. 4	6 3.8	6 3.8
年代	40代	(n= 250)	108 43. 2	67 26. 8	61 24. 4	50 20. 0	142 56.8	10 4. 0	6 2. 4
別	50代	(n= 219)	111 50. 7	58 26. 5	48 21. 9	45 20. 5	116 53. 0	7 3. 2	7 3. 2
	60代	(n= 218)	103 47. 2	91 41. 7	46 21. 1	31 14. 2	99 45. 4	7 3.2	12 5. 5
	70代以上	(n= 344)	149 43. 3	125 36. 3	81 23. 5	42 12, 2	112 32. 6	8 2.3	54 15. 7
	本庁	(n= 450)	198 44. 0	145 32. 2	98 21. 8	91 20. 2	207	17 3.8	26
地	真和志	(n= 340)	155 45. 6	104 30. 6	73 21. 5	65	46. 0 163 47. 9	6 1.8	5. 8 25 7. 4
区別	 小禄	(n= 223)	105	67	49	19. 1 38	84	10	20
	 首里	(n= 261)	47. 1 115	30. 0 84	22. 0 57	17. 0 59	37. 7 134	4. 5 7	9. 0 13
	1年未満	(n= 48)	44. 1 28	32. 2 16	21.8	22.6 9	51. 3 19	2.7	5.0
	1~2年	(n= 63)	58.3 27	33. 3	12.5	18.8	39. 6	6.3	6.3
居住	3~5年	(n= 117)	42. 9 51	28. 6	12.7	22.2	50. 8 58	7.9	6.3
年数	6~10年	(n= 109)	43. 6 39	26. 5 33	17. 1 27	28. 2 27	49. 6 45	4.3	2.6
別	11~20年	(n= 169)	35. 8 74	30. 3 54	24. 8 29	24. 8 36	41. 3 86	3.7	5. 5 11
			43. 8 364	32. 0 259	17. 2 195	21. 3 137	50. 9 357	2. 4 19	6. 5 60
	21年以上	(n= 793)	45.9	32.7	24.6	17.3	45.0	2.4	7.6

質問 22. 那覇市では、協働によるまちづくりを実践している団体の代表者や、団体が推薦する方々を「協働大使」として委嘱しております。

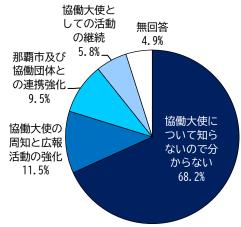
「協働大使」にどのような役割を期待しますか?次の中から1つお選びください。

- 1. 協働大使としての活動の継続
- 2. 那覇市及び協働団体との連携強化
- 3. 協働大使の周知と広報活動の強化
- 4. 協働大使について知らないので分からない

「協働大使」に期待する役割として最も多かったのは「協働大使の周知と広報活動の強化」で、「協働大使について知らないので分からない」と答えた割合は 68.2% である。

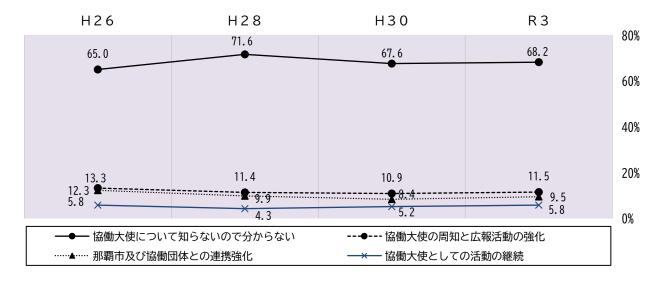
「協働大使」に期待する役割については、「協働大使の周知と広報活動の強化」が11.5%と最も多く、次いで「那覇市及び協働団体との連携強化」が9.5%、「協働大使としての活動の継続」が5.8%の順となっている。

	選択項目	回答数	割合
1位	協働大使について知らないので分からない	904	68.2%
2位	協働大使の周知と広報活動の強化	153	11.5%
3位	那覇市及び協働団体との連携強化	126	9.5%
4位	協働大使としての活動の継続	77	5.8%
_	無回答	65	4.9%
	合 計	1, 325	100%



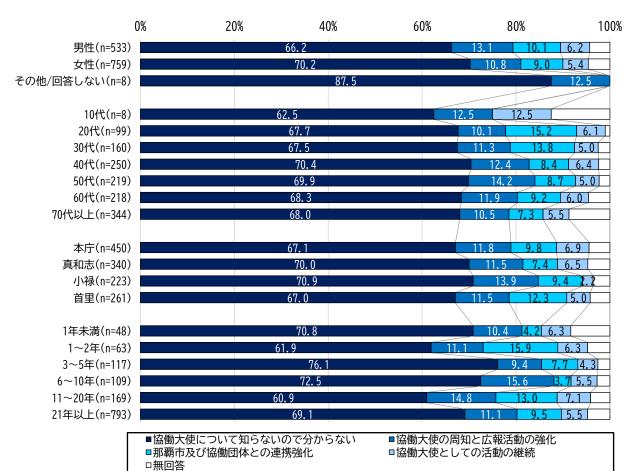
#### 【経年変化(平成26年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「協働大使について知らないので分からない」の割合は 0.6 ポイント 増加しており、平成 26 年度から最も高い割合は変わらない。



すべての属性において、「協働大使について知らないので分からない」の割合が高くなっており、 あまり大きな違いは見られない。

\si+U+2-C	1位	2位	3 位	4 位	_
選択項目 図答者属性(n=合計)	知らないので 知らないので 分からない	広報活動の強化	連携強化連携強化	協働大使としての	無回答
男性 (n= 533)	353	70	54	33	23
女性 (n= 759)	533	82	68	41	35
その他/回答しない (n= 8)	7	1	0	0	0
10代 (n= 8)	5	1	0	1	1
20代 (n= 99)	67	10	15	6	1
30代 (n= 160)	108	18	22	8	4
40代 (n= 250)	176	31	21	16	6
50代 (n= 219)	153	31	19	11	5
60代 (n= 218)	149	26	20	13	10
70 代以上 (n= 344)	234	36	25	19	30
本庁 (n= 450)	302	53	44	31	20
真和志 (n= 340)	238	39	25	22	16
小禄 (n= 223)	158	31	21	5	8
首里 (n= 261)	175	30	32	13	11
1年未満 (n= 48)	34	5	2	3	4
1~2年 (n= 63)	39	7	10	4	3
3~5年 (n= 117)	89	11	9	5	3
6~10年 (n= 109)	79	17	4	6	3
11~20年 (n= 169)	103	25	22	12	7
21 年以上 (n= 793)	548	88	75	44	38



## (8) 市街地活性化について

質問23.あなたが、次の中心市街地商店街へ行く回数をそれぞれ1つお選びください。

1. ほぼ毎日 2. 週3~4回

3. 週1~2回

4. 月1~2回

5. 年1~2回

6. 全く行かない

3. 週1~2回

5. 年1~2回

6. 全く行かない

「国際通り」へ行く回数で最も多かったのは「年 1~2 回」の 33.4%、「マチグヮ 一」へ行く回数で最も多かったのは「全く行かない」の40.2%である。

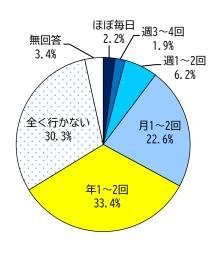
中心市街地を、国際通りとマチグヮーに分類し、行く回数について、それぞれ集計を行った。 国際通りについては、「年1~2回」が33.4%と最も多く、次いで「全く行かない」が30.3%、 「月1~2回」が22.6%、の順となっている。

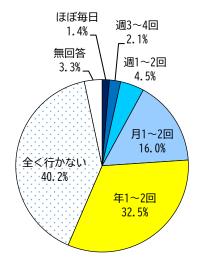
マチグヮーについては、「全く行かない」が40.2%と最も多く、次いで「年1~2回」が32.5%、 「月1~2回」が16.0%の順となっている。

選択項目	国際	通り	マチク	ブワー
医爪块日	回答数	割合	回答数	割合
ほぼ毎日	29	2. 2%	18	1.4%
週3~4回	25	1. 9%	28	2.1%
週1~2回	82	6. 2%	59	4. 5%
月1~2回	300	22.6%	212	16.0%
年1~2回	442	33.4%	431	32.5%
全く行かない	402	30.3%	533	40.2%
無回答	45	3.4%	44	3.3%
合 計	1,325	100%	1, 325	100%

【国際通り】



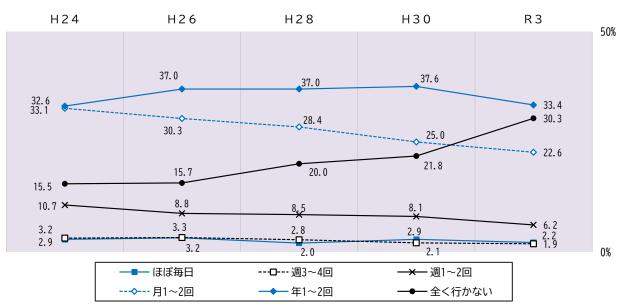




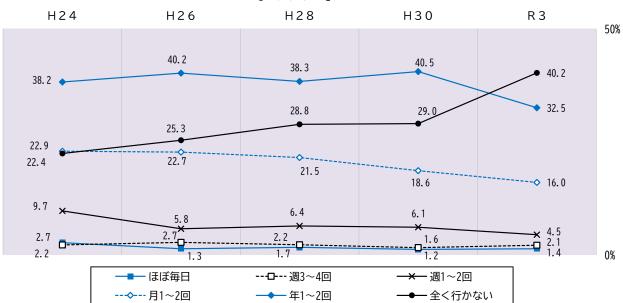
#### 【経年変化(平成22年度~平成30年度)】

国際通りについて前回調査と比較すると、「全く行かない」が 8.5 ポイント増加している。 マチグヮーについて前回調査と比較すると、「全く行かない」は 11.2 ポイント増加している。 新型コロナウイルス感染症の影響で、市民の足が遠のいていると考えられる。









属性別では、通う頻度が高い(「ほぼ毎日」「週3~4日」「週1~2回」の合計)と、相対する通う頻度が低い(「月1~2回」「年1~2回」「全く行かない」の合計)に分けて、比較した。 性別では、あまり大きな違いは見られない。

年代別では、20代~40代は、マチグヮーに比べ、国際通りに通う頻度が高くなっている。

居住地区別でみると、本庁地区と真和志地区は、国際通り、マチグヮーともに通う頻度が高くなっているが、小禄地区と首里地区は頻度が低くなっている。本庁地区と真和志地区は、国際通りやマチグヮーに比較的近いことから、アクセスしやすく、通う頻度が高くなっていると考えられる。





【マチグヮー】



		<u> </u>	際通り								₹	チグヮ	_		
無回答	全く行かない	年 1 ~ 2 回	月1~2回	週1~2回	週3~4回	ほぼ毎日	選択項目 回答者属性(n=合計)			週3~4回	週1~2回	月 1 2 回	年1~2回	全く行かない	無回答
18	145	173	125	47	12	13	男性	(n= 533)	11	17	29	77	167	214	18
22	246	261	166	35	13	16	女性	(n= 759)	7	11	29	129	255	307	21
0	4	2	2	0	0	0	その他/回答しない	(n= 8)	0	0	0	3	2	3	0
0	0	3	4	1	0	0	10代	(n= 8)	1	0	0	0	1	6	0
0	23	32	31	9	3	1	20代	(n= 99)	0	0	5	10	32	52	0
3	45	61	31	11	5	4	30代	(n= 160)	0	4	8	20	51	73	4
3	79	84	51	16	2	15	40 代	(n= 250)	7	2	7	35	89	107	3
6	69	73	54	10	4	3	50代	(n= 219)	2	7	3	46	70	88	3
8	70	78	44	12	4	2	60代	(n= 218)	5	8	12	35	75	76	7
19	109	105	77	23	7	4	70 代以上	(n= 344)	3	7	23	62	106	122	21
15	117	137	104	45	16	16	本庁	(n= 450)	10	18	29	89	128	161	15
11	106	117	76	21	3	6	真和志	(n= 340)	3	8	17	63	121	117	11
8	82	80	43	9	1	0	小禄	(n= 223)	0	0	5	26	68	117	7
5	82	96	64	7	3	4	首里	(n= 261)	2	2	5	26	104	117	5
3	14	12	9	4	4	2	1年未満	(n= 48)	2	2	1	11	11	18	3
1	12	21	21	6	1	1	1~2年	(n= 63)	2	0	6	13	14	27	1
1	30	37	27	14	2	6	3~5年	(n= 117)	1	3	7	22	32	51	1
4	23	38	29	7	1	7	6~10年	(n= 109)	2	4	5	15	36	45	2
8	41	65	36	6	6	7	11~20年	(n= 169)	4	5	7	21	53	70	9
23	274	263	171	45	11	6	21 年以上	(n= 793)	7	14	32	127	278	312	23

#### 【国際通り】 【マチグヮー】 13.5% 男性(n=533) 10.7% 85.9% 83.1% 88.7% 8.4% 女性(n=759) 6.2% 91.0% 100.0% その他/回答しない(n=8) 100.0% 87.5% 12.5% 10代(n=8) 12.5% 87.5% 13.1% 20代(n=99) **5.1**% 94.9% 86.9% 90.0% 12.5% 30代(n=160) 7.5% 85.6% 40代(n=250) 6.4% 92.4% 85.6% 13.2% 93.2% 50代(n=219) **5.5**% 7.8% 89.5% 60代(n=218) 11.5% 8.3% 85.3% 88.1% 84.6% 9.9% 70代以上(n=344) 9.6% 84.3% 本庁(n=450) 12.7% 84.0% 17.1% 79.6% 87.9% 8.8% 真和志(n=340) 8.2% 88.5% 94.6% 小禄(n=223) 2.2% 91.9% 4.5% 首里(n=261) 3.4% 94.6% 92.7% 5.4% 1年未満(n=48) 10.4% 83.3% 72.9% 20.8% 1~2年(n=63) 12.7% 85.7% 85.7% 12.7% 89.7% 3~5年(n=117) 9.4% 80.3% 18.8% 6~10年(n=109) 10.1% 88.1% 13.8% 82.6% 11~20年(n=169) 9.5% 85.2% 11.2% 84.0% 21年以上(n=793) 6.7% 90.4% 89.3% 7.8%

■月1~2回~全く行かない

■ほぼ毎日~週1~2回

質問 24. 国際通りやマチグヮー等、中心市街地商店街を魅力あるものにするにはどのような方策が必要だと思いますか。次の中から <u>3 つまで</u>お選びください。(実施主体は行政・民間を 問わない)

1.花や緑を増やす

2. 日かげ等の環境整備(暑さ対策)

3. 定期的にイベント等を開く

- 4.トランジットモール(※)などを充実させる
- 5. 気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす
- 6. 歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的に開催する
- 7. 再開発により市街地を再生する
- 8. 市街地周辺部に駐車場を整備する

)

- 9. 駐輪場 (バイク・自転車) を整備する
- 10. 託児施設や子供を自由に遊ばせられる場所を整備する
- 11. 個店の魅力を向上させる(人材育成・情報発信力強化等)
- 12. 映画館等アミューズメント施設を誘致する
- 13. 利用客へ共通サービス(駐車場割引券、ポイントカード等)を実施する
- 14. その他(

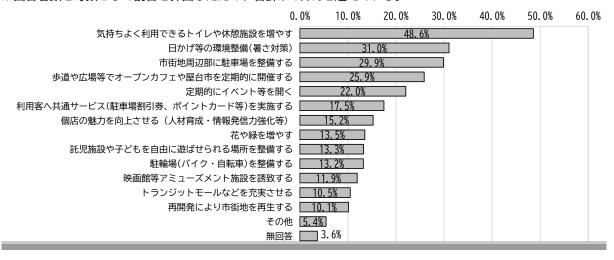
※歩行者と公共交通(バス等)を優先させて、まちの賑わいを創出する歩行空間のこと。

中心市街地商店街を魅力あるものにするために必要だと思う方策について最も多かったのは「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」である。

中心市街地商店街を魅力あるものにするために必要だと思う方策については、「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」が48.6%で最も多く、次いで「日かげ等の環境整備(暑さ対策)」が31.0%、「市街地周辺部に駐車場を整備する」が29.9%の順となっている。

	選択項目	回答数	割合
1位	気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす	644	48.6%
2位	日かげ等の環境整備(暑さ対策)	411	31.0%
3位	市街地周辺部に駐車場を整備する	396	29.9%
4位	歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的に開催する	343	25.9%
5位	定期的にイベント等を開く	292	22.0%
6位	利用客へ共通サービス(駐車場割引券、ポイントカード等)を実施する	232	17.5%
7位	個店の魅力を向上させる(人材育成・情報発信力強化等)	202	15. 2%
8位	花や緑を増やす	179	13.5%
9位	託児施設や子どもを自由に遊ばせられる場所を整備する	176	13.3%
10 位	駐輪場(バイク・自転車)を整備する	175	13. 2%
11位	映画館等アミューズメント施設を誘致する	158	11.9%
12 位	トランジットモールなどを充実させる	139	10.5%
13 位	再開発により市街地を再生する	134	10.1%
_	その他	72	5.4%
_	無回答	48	3.6%
	合 計	3,601	_
_	回答者数	1, 325	271.8%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

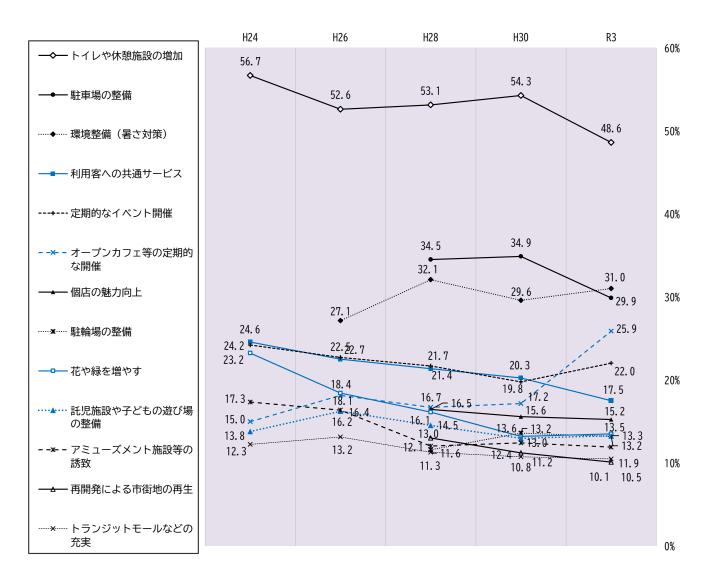


### 【経年変化(平成24年度~令和3年度)】

「トイレや休憩施設の増加」は前回調査より5.7ポイント減少している。

2位は、「環境整備(暑さ対策)」となっており、1.4ポイント増加している。3位は、「駐車場の整備」となっており、5.0ポイント減少となっている。また、「オープンカフェ等の定期的な開催」の割合が8.7ポイント増加となっており、屋外のオープンカフェや屋台市開催に対する市民のニーズが高まっていることがうかがえる。

※平成30年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成22~28年度も同様に割合を算出。



#### 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・観光客向けでなく、市民向けの店の充実(21人)
- ・無料駐車場の整備(7人)
- ・清潔感を重視したまちづくり(6人)

女性-40 代-本庁地区・他 男性-50 代-真和志地区・他

女性-40代-真和志地区・他

年代別でみると、40~50 代で「市街地周辺部に駐車場を整備する」の割合が高くなっており、60 代以上で「日かげ等の環境整備(暑さ対策)」の割合が高くなっている。

居住地区別でみると、本庁地区、真和志地区で「日かげ等の環境整備(暑さ対策)」の割合が高くなっている。

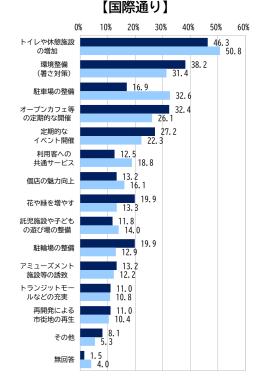
	メンしいる	0								*	■は第	1位、	■は第	2位、	□は第	₹3 位 <i>0</i>	)項目
	者属性(n=合言 (人):下段		花や緑を増やす	日かげ等の環境整備(暑さ対策)	定期的にイベント等を開く	たランジットモールなどを	休憩施設を増やす	屋台市を定期的に開催する歩道や広場等でオープンカフェや	再開発により市街地を再生する	市街地周辺部に駐車場を整備する	駐輪場(バイク・自転車)を	遊ばせられる場所を整備する託児施設や子供を自由に	(人材育成・情報発信力強化等)個店の魅力を向上させる	誘致する 誘致する	カード等)を実施する(駐車場割引券、ポイント利用客へ共通サービス	その他	無回答
	男性	(n= 533)	71 13. 3	155 29.1	129 24. 2	63 11.8	232 43. 5	152 28. 5	67 12.6	144 27. 0	101 18.9	51 9. 6	88 16.5	63 11.8	80 15.0	33 6. 2	18 3. 4
性別	女性	(n= 759)	104 13. 7	246 32.4	159 20.9	73 9. 6	398 52. 4	185 24. 4	65 8. 6	241 31.8	70 9. 2	122 16. 1	111 14. 6	93 12. 3	146 19. 2	36 4. 7	24 3. 2
	その他/ 回答しない	(n= 8)	-	3 37.5	1 12.5	2 25. 0	3 37. 5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	2 25. 0		1 12.5	1 12.5	2 25. 0	1 12.5	-
	10代	(n= 8)	2 25. 0	1 12.5	2 25. 0	2 25. 0	5 62. 5	2 25. 0	-	2 25. 0	2 25. 0		-	1 12.5	1 12.5	-	-
	20代	(n= 99)	11	34 34.3	19 19. 2	7.1	45 45. 5	30 30.3	6 6. 1	24 24. 2	15 15. 2	22 22. 2	10 10.1	28 28.3	15 15. 2	3 3. 0	-
	30代	(n= 160)	14	30	46	16	77	49	15	37	24	36	23	23	39	11	3
年代	40代	(n= 250)	18	18.8	28.7	10.0	48.1	30. 6 77	9.4	23. 1 79	15.0	36	14. 4	39	24. 4 48	6.9	1.9
別	50代	(n= 219)	7. 2	22. 0 71	24. 4 51	11.2	40. 0 88	30. 8 72	8. 8 25	31. 6 74	17.6 29	14. 4	17. 6 34	15. 6 31	19. 2 43	10.8	2.0
	60代	(n= 218)	13. 2 31	32. 4 73	23.3	11. 0 29	40. 2 115	32. 9 58	11.4	33. 8 58	13. 2 19	8. 2 27	15. 5 38	14. 2 19	19.6 32	5. 5 7	2.3
			14. 2 70	33.5 140	29.4	13.3	52. 8 202	26. 6 50	12. 4 38	26.6	8. 7 40	12.4	17. 4 51	8. 7 15	14. 7 50	3. 2	2.8
	70代以上	(n= 344)	20.3	40.7 145	13.4 112	9.3 56	58. 7 217	14. 5 125	11. 0 46	32. 6 114	11.6 53	9. 6 58	14. 8 69	4. 4 60	14.5 69	2.9	6. 4 16
	本庁	(n= 450)	15. 1 45	32.2	24.9	12. 4 30	48. 2 177	27.8	10. 2	25.3	11.8	12.9	15.3	13.3	15.3	5. 6 17	3.6
地区	真和志	(n= 340)	13.2	32.9	19.4	8.8	52.1	25.0	11.2	30.9	13.5	11.8	15.6	9.4	21.5	5.0	2.9
別	小禄	(n= 223)	22 9. 9	68 30.5	45 20.2	21 9. 4	94 42. 2	60 26.9	26 11. 7	69 30. 9	39 17.5	30 13.5	35 15. 7	30 13.5	39 17.5	10 4.5	7 3. 1
	首里	(n= 261)	35 13. 4	72 27.6	62 23.8	31 11. 9	129 49. 4	64 24.5	20 7. 7	90 34. 5	33 12.6	40 15.3	40 15.3	32 12.3	42 16. 1	16 6. 1	7 2. 7
	1年未満	(n= 48)	7 14. 6	13 27. 1	8 16. 7	6 12.5	18 37. 5	13 27. 1	5 10.4	9 18. 8	5 10.4	8 16. 7	9 18. 8	10 20.8	7 14. 6	5 10. 4	3 6.3
1_	1~2年	(n= 63)	9 14.3	20	15 23.8	4 6.3	26 41.3	19 30. 2	6 9.5	13 20.6	9 14.3	7	9	11	12 19. 0	4 6.3	3 4.8
居住	3~5年	(n= 117)	11 9.4	31 26.5	30 25.6	10	53 45. 3	29 24.8	7 6.0	34 29. 1	26 22. 2	23	15 12. 8	20	18 15. 4	9	2
年数	6~10年	(n= 109)	14	28	22	11	44	34	7	25	25	15	18	12	22	10	2
別	11~20年	(n= 169)	12.8	25. 7	20. 2	10.1	40. 4 74	31. 2 53	19	22. 9 45	22.9	13. 8	16.5	11.0	20. 2	9. 2	1.8
	21年以上	(n= 793)	10. 7 116	24. 9 269	28. 4 166	10. 7 89	43. 8 417	31. 4 190	11. 2 89	26. 6	10. 7 90	16. 0 93	16. 6 120	10. 1 87	16. 0 142	7. 7 29	5.3
	- T-V-	(11 175)	14.6	33.9	20.9	11.2	52.6	24.0	11.2	32.8	11.3	11.7	15.1	11.0	17.9	3.7	2.9

## 【属性別集計(回答者属性[中心市街地商店街への訪問頻度別]無回答除く)】

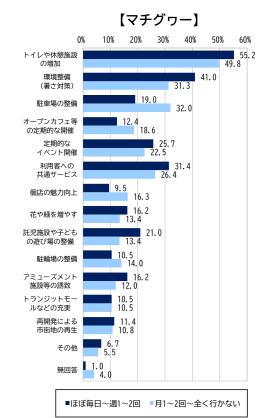
質問 23 で、国際通り、マチグヮーに通う頻度の高い市民と頻度の低い市民で、それぞれの選択項目について比較を行ったところ、いずれも「トイレや休憩施設の増加」の割合が最も高くなっている。

また、国際通り、マチグヮーともに、通う頻度の低い市民は、通う頻度の高い市民に比べ、特に「駐車場の整備」の割合が高くなっており、「環境整備(暑さ対策)」の割合が低くなっている。

		/321U+± C	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10 位	11位	12位	13 位	-	-
回答者属	性(n=合計)	選択項目	トイレや休憩施設の増加	環境整備(暑さ対策)	駐車場の整備	オープンカフェ等の定期的な開催	定期的なイベント開催	利用客への共通サービス	個店の魅力向上	花や緑を増やす	託児施設や遊び場の整備	駐輪場の整備	アミューズメント施設等の誘致	トランジットモール等の充実	再開発による市街地の再生	その他	無回答
	合	計	644	411	396	343	292	232	202	179	176	175	158	139	134	72	48
国際通り	ほぼ毎日〜 週 1〜2 回	(n= 136)	63	52	23	44	37	17	18	27	16	27	18	15	15	11	2
	月 1~2 回~ 全く行かない	(n= 1, 144)	581	359	373	299	255	215	184	152	160	148	140	124	119	61	46
	合	計	644	411	396	343	292	232	202	179	176	175	158	139	134	72	48
マチグヮー	ほぼ毎日〜 週 1〜2 回	(n= 105)	58	43	20	33	27	13	10	22	11	17	17	12	11	7	1
	月 1~2 回~ 全く行かない	(n= 1,176)	586	368	376	310	265	219	192	157	165	158	141	127	123	65	47



■ほぼ毎日~週1~2回 ■月1~2回~全く行かない



# (9)子育て支援について

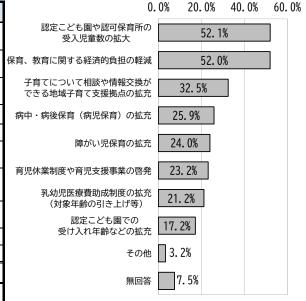
質問 25. 小学校就学前までの子育て支援策について、優先的に取り組んでほしい施策を、次の中 から3つまでお選びください。

- 1. 認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大 2. 認定こども園での受入年齢などの拡充 3. 子育てについて相談や情報交換ができる地域子 ついて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充
- 4. 病中・病後保育(病児保育)の拡充
- 5. 障がい児保育の拡充
- 6. 育児休業制度や育児支援事業の啓発
- 7. 保育、教育に関する経済的負担の軽減
- 8. 乳幼児医療費助成制度の拡充(対象年代の引き上げ等)
- 9. その他(

子育て支援策のうち優先的に取り組んでほしい施策について最も多かったのは、 「認定こども園や認可保育所の受け入れ児童数の拡大」である。

子育て支援策について優先的に取り組んでほしい施策については、「認定こども園や認可保育所 の受け入れ児童数の拡大」が52.1%で最も高く、次いで「保育、教育に関する経済的負担の軽減」 が 52.0%、「子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充」が 32.5%の順 となっている。

選択項目	回答数	割合
1位 認定こども園や認可保育所の 受入児童数の拡大	690	52.1%
2位 保育、教育に関する経済的負担の 軽減	689	52.0%
3位 子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充	430	32.5%
4位 病中・病後保育(病児保育)の拡充	343	25.9%
5位 障がい児保育の拡充	318	24.0%
6位   育児休業制度や育児支援事業の   啓発	307	23. 2%
7位 乳幼児医療費助成制度の拡充 (対象年齢の引き上げ等)	281	21. 2%
7位 認定こども園での受け入れ年齢などの拡充	228	17. 2%
— その他	43	3.2%
— 無回答	99	7.5%
合 計	3, 428	_
回答者数	1,325	258.7%

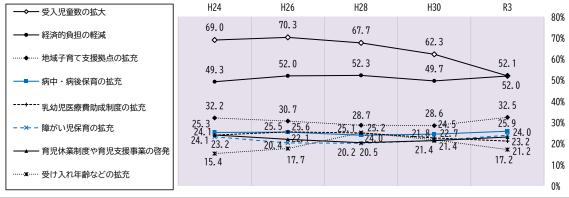


※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

#### 【経年変化(平成24年度~令和3年度)】

平成 24 年度の調査より、上位3項目の順位は変わらない。しかし、「受入児童数の拡大」につ いては、前回調査より 10.2 ポイント減少していることから保育所の定員枠拡大などの施策の効果 が現れつつあることがわかる。

※平成30年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成22~28年度も同様に割合を算出。



性別でみると、女性は「保育、教育に関する経済的負担の軽減」の割合が高くなっている。 年代別でみると、30代以下で「保育、教育に関する経済的負担の軽減」が約6割を占めており、 子育て世代における経済的支援に対する要望が高い。

							>	※■は第1	□位、□は	\$第2位、	□は第3	位の項目
	者属性(n=合語 (人):下段		受入児童数の拡大認定こども園や認可保育所の	受入年齢などの拡充認定こども園での	地域子育て支援拠点の拡充情報交換ができる子育てについて相談や	(病児保育)の拡充病中・病後保育	障がい児保育の拡充	育児支援事業の啓発育児休業制度や	経済的負担の軽減保育、教育に関する	(対象年齢の引き上げ等)乳幼児医療費助成制度の拡充	その他	無回答
	男性	(n= 533)	300 56.3	106 19. 9	169 31. 7	117 22. 0	125 23. 5	117 22. 0	286 53. 7	102 19. 1	20 3.8	42 7. 9
性別	女性	(n= 759)	377 49. 7	115 15. 2	252 33. 2	221 29. 1	186 24. 5	185 24. 4	387 51. 0	173 22. 8	22 2. 9	50 6. 6
	その他/ 回答しない	(n= 8)	4 50.0	3 37.5	1 12. 5	2 25. 0	2 25. 0	1 12. 5	6 75. 0	2 25. 0	-	-
	10代	(n= 8)	2 25. 0	2 25. 0	2 25. 0	-	3 37 <b>.</b> 5	3 37 <b>.</b> 5	5 62.5	1 12. 5	1 1	1 12.5
	20代	(n= 99)	60 60. 6	10 10. 1	28 28. 3	23 23. 2	20 20. 2	35 35. 4	62 62.6	17 17. 2	1 1. 0	2 2. 0
_	30代	(n= 160)	88 55. 0	30 18.8	35 21.9	48 30. 0	29 18. 1	40 25. 0	104 65. 0	43 26. 9	6 3.8	5 3. 1
年代	40代	(n= 250)	128 51. 2	41 16. 4	68 27. 2	76 30. 4	56 22. 4	55 22. 0	136 54. 4	65 26. 0	13 5. 2	9
別	50代	(n= 219)	117 53. 4	37 16. 9	71 32. 4	76 34. 7	57 26. 0	52 23. 7	111 50. 7	41 18. 7	5 2.3	8 3.7
	60代	(n= 218)	117	50	82	62	65	52	95	47	4	14
	70代以上	(n= 344)	53. 7 169	22. 9 54	37. 6 136	28. 4 55	29.8 83	23. 9	43. 6 166	21.6	1.8	6. 4 52
	本庁	(n= 450)	49. 1 231	15. 7 86	39.5 151	16. 0 118	24. 1 105	19. 2 114	48. 3	18.3	3. 5 17	15. 1 30
地	真和志	(n= 340)	51.3 181	19. 1 59	33. 6 121	26. 2 88	23. 3 81	25. 3 73	52. 2 173	19. 1 74	3.8 5	6. 7 24
区別	小禄	(n= 223)	53.2 120	17. 4 41	35. 6 62	25. 9 54	23. 8 50	21. 5 49	50. 9 121	21. 8 59	1. 5 6	7. 1 15
נימ	首里	(n= 261)	53.8 141	18. 4 35	27. 8 79	24. 2 77	22. 4 71	22. 0 62	54. 3 142	26. 5 55	2.7	6. 7 19
			54. 0 28	13.4	30.3 14	29.5 9	27. 2 8	23. 8 12	54 <b>.</b> 4	21. 1	3.4	7.3
	1年未満	(n= 48)	58.3 30	16. 7 12	29. 2 18	18. 8 18	16. 7 8	25. 0 21	47. 9 32	6.3 14	6.3	8.3
居	1~2年	(n= 63)	47.6	19.0	28.6	28.6	12.7	33.3	50.8	22.2		6.3
住年	3~5年	(n= 117)	62 53. 0	24 20. 5	27 23. 1	29 24. 8	29 24. 8	26 22. 2	67 57. 3	30 25. 6	5 4.3	3.4
_ 数 別	6~10年	(n= 109)	51 46.8	16 14. 7	30 27. 5	30 27. 5	32 29. 4	28 25. 7	57 52. 3	33 30. 3	2 1. 8	3 2.8
נימ	11~20年	(n= 169)	91 53.8	27 16. 0	50 29. 6	50 29. 6	35 20. 7	40 23. 7	84 49. 7	38 22. 5	11 6. 5	15 8. 9
	21年以上	(n= 793)	419 52.8	137 17. 3	283 35. 7	203 25. 6	200 25. 2	176 22. 2	416 52.5	159 20. 1	20 2.5	62 7. 8
			V=1-V									

## 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・保育士の処遇改善等(5人)
- ・育児支援(6人)

男性-60 代-本庁地区・他 女性-30 代-真和志地区・他 質問 26. 子どもの貧困を解消し、子どもの未来を応援する取り組みとして、あなたが効果的だと思う施策は次のうちどれですか。次の中から3つまでお選びください。

- 1. 認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大
- 2. 認定こども園での受入年齢などの拡充
- 3. 子どもの健康診査事業や子育て相談などの保健事業の充実
- 4. 無料学習塾や子ども食堂などの居場所づくりの支援
- 5. 学力保障や子どもに寄り添う支援員(相談員)の配置など学校を中心とした支援の充実
- 6. 不登校・中退対策、キャリア教育などの子どもの就労支援
- 7. 職業訓練、雇用創出などの親への就労支援
- 8. 貧困対策を行うNPOや企業、団体への支援

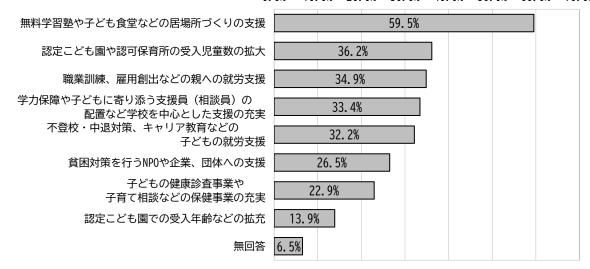
子どもの未来を応援する取り組みとして効果的だと思う施策について最も多かったのは、「無料学習塾や子ども食堂などの居場所づくりの支援」である。

子どもの貧困を解消し、子どもの未来を応援する取り組みとして、効果的だと思う施策については、「無料学習塾や子ども食堂などの居場所づくりの支援」が59.5%と最も高く、次いで「認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大」が36.2%、「職業訓練、雇用創出などの親への就労支援」が34.9%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
1位 無料学習塾や子ども食堂などの居場所づくりの支援	789	59.5%
2位 認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大	479	36. 2%
3位 職業訓練、雇用創出などの親への就労支援	462	34. 9%
4位 学力保障や子どもに寄り添う支援員(相談員)の配置など学校を中心とした支援の充実	443	33.4%
5位 不登校・中退対策、キャリア教育などの子どもの就労支援	426	32. 2%
6位 貧困対策を行うNPOや企業、団体への支援	351	26.5%
7位 子どもの健康診査事業や子育て相談などの保健事業の充実	304	22.9%
8位 認定こども園での受入年齢などの拡充	184	13.9%
一 無回答	86	6.5%
合 計	3, 524	_
回答者数	1, 325	266.0%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0%



【属性別集計(回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】 ほぼすべての属性において、「無料学習塾や子ども食堂などの居場所づくりの支援」の割合が高 ۱۱°

年代別でみると、20代と30代、60代以上で「認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大」 の割合が高くなっている。

							<b>**</b>	は第1位、	■は第2位	.、 <b>山</b> は弗:	3位の項目
	·属性(n=合言 ·(人):下段		受入児童数の拡大認定こども園や認可保育所の	受入年齢などの拡充認定こども園での	相談などの保健事業の充実子どもの健康診査事業や子育て	などの居場所づくりの支援無料学習塾や子ども食堂	学校を中心とした支援の充実支援員(相談員)の配置など学力保障や子どもに寄り添う	教育などの子どもの就労支援不登校・中退対策、キャリア	親への就労支援職業訓練、雇用創出などの	企業、団体への支援貧困対策を行うNPOや	無回答
	男性	(n= 533)	216 40.5	96 18. 0	126 23. 6	304 57. 0	149 28. 0	169 31. 7	187 35. 1	130 24. 4	37 6. 9
別	女性	(n= 759)	253 33. 3	82 10.8	172 22. 7	463 61. 0	284 37. 4	246 32. 4	265 34. 9	210 27. 7	46 6. 1
	その他/ 回答しない	(n= 8)	1 12.5	1 12.5	-	7 87. 5	2 25. 0	3 37. 5	2 25. 0	2 25. 0	1 12.5
1	0代	(n= 8)	-	1 12.5	1 12. 5	6 75. 0	1 12.5	6 75. 0	3 37. 5	1 12. 5	1
2	20代	(n= 99)	41 41. 4	19 19. 2	28 28. 3	62 62. 6	28 28. 3	35 35. 4	28 28. 3	25 25. 3	3 3. 0
	80代	(n= 160)	59 36. 9	22 13. 8	35 21. 9	89 55. 6	59 36.9	60 37. 5	56 35. 0	34 21. 3	6 3.8
年   40   41   31   31   31   31   31   31   31	0代	(n= 250)	69 27. 6	20 8. 0	52 20. 8	170 68. 0	97 38.8	95 38. 0	106 42. 4	62 24. 8	5 2. 0
	0代	(n= 219)	70 32. 0	24 11. 0	42 19. 2	145 66. 2	82 37. 4	75 34. 2	74 33. 8	65 29. 7	10 4. 6
6	0代	(n= 218)	86 39.4	33 15. 1	43 19. 7	129 59. 2	76 34. 9	60 27. 5	84 38. 5	65 29. 8	14 6. 4
7	'0代以上	(n= 344)	145 42. 2	59 17. 2	96 27. 9	173 50. 3	91 26. 5	87 25. 3	102 29. 7	88 25. 6	46 13. 4
4	<b>本</b> 庁	(n= 450)	157 34. 9	65 14. 4	101 22. 4	269 59.8	146 32. 4	138 30. 7	160 35. 6	124 27. 6	32 7. 1
	真和志	(n= 340)	136 40.0	52 15. 3	86 25. 3	212 62. 4	115 33.8	109 32. 1	112 32. 9	74 21. 8	18 5. 3
区 別 小	小禄	(n= 223)	84 37. 7	41 18. 4	50 22. 4	126 56. 5	78 35. 0	64 28. 7	79 35. 4	56 25. 1	13 5. 8
直	<b>重</b>	(n= 261)	88 33. 7	19 7. 3	54 20. 7	161 61. 7	91 34. 9	100 38. 3	92 35. 2	79 30. 3	16 6. 1
1:	年未満	(n= 48)	15 31. 3	9 18. 8	12 25. 0	24 50. 0	15 31.3	14 29. 2	20 41. 7	8 16. 7	2 4. 2
	~2年	(n= 63)	19 30. 2	6 9. 5	13 20. 6	35 55. 6	22 34. 9	19 30. 2	29 46. 0	12 19. 0	5 7. 9
	~5年	(n= 117)	50 42. 7	17 14. 5	29 24. 8	62 53. 0	39 33. 3	41 35. 0	37 31. 6	26 22. 2	3 2.6
	~10年	(n= 109)	31 28. 4	11 10. 1	19 17. 4	66 60. 6	43 39. 4	46 42. 2	35 32. 1	27 24. 8	7 6. 4
别 1	1~20年	(n= 169)	55 32. 5	16 9.5	35 20. 7	108 63. 9	57 33. 7	55 32. 5	68 40. 2	48 28. 4	11 6.5
2	1年以上	(n= 793)	299 37. 7	120 15. 1	189 23. 8	479 60. 4	258 32. 5	243 30. 6	265 33. 4	221 27. 9	56 7. 1

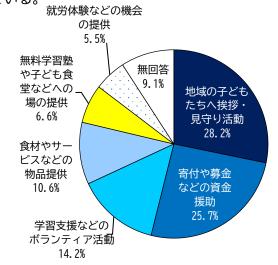
質問 27. 子どもの未来を応援する取り組みとして、あなたができると思うことを次の中から<u>1つ</u>お 選びください。

- 1. 学習支援などのボランティア活動
- 3. 食材やサービスなどの物品提供
- 5. 就労体験などの機会の提供
- 2. 寄付や募金などの資金援助
- 4. 無料学習塾や子ども食堂などへの場の提供
- 6. 地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動

子どもの未来を応援する取り組みとして市民ができると思うことについて最も多かったのは「地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動」である。

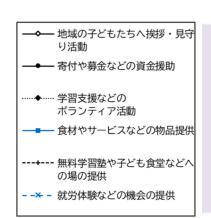
子どもの未来を応援する取り組みとして、市民ができると思うことについては、「地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動」が 28.2%と最も多く、次いで「寄付や募金などの資金援助」が 25.7%、「学習支援などのボランティア活動」が 14.2%の順となっている。

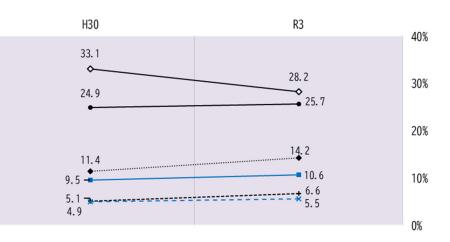
	選択項目	回答数	割合
1位	地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動	374	28.2%
2位	寄付や募金などの資金援助	340	25.7%
3位	学習支援などのボランティア活動	188	14.2%
4位	食材やサービスなどの物品提供	141	10.6%
5位	無料学習塾や子ども食堂などへの場の 提供	88	6.6%
6位	就労体験などの機会の提供	73	5.5%
_	無回答	121	9.1%
	合 計	1,325	100%



## 【経年変化(平成30年度~令和3年度)】

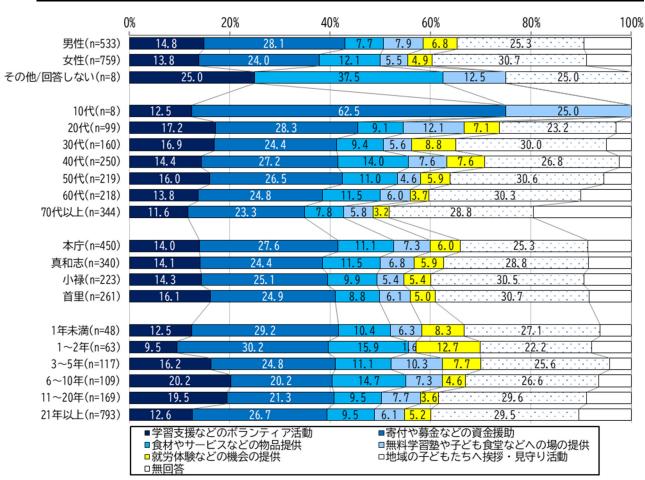
前回調査と比較すると、「地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動」が 4.9 ポイント減少し、「学習支援などのボランティア活動」が 2.8 ポイント増加している。





年代別でみると、20代、30代、50代では「学習支援などのボランティア活動」の割合がやや高い。

選択項I 回答者属性(n=合計)	ボランティア活動	寄付や募金などの	食材やサービス	こども食堂など こども食堂など 無料学習塾や	機会の提供	見守り活動地域のこども	無回答
男性 (n= 533		150	41	42	36	135	50
女性 (n= 759		182	92	42	37	233	68
その他回答しない (n= 8		0	3	1	0	2	0
10代 (n= 8		5	0	2	0	0	0
20代 (n= 99		28	9	12	7	23	3
30代 (n= 160		39	15	9	14	48	8
40 代 (n= 250		68	35	19	19	67	6
50代 (n= 219		58	24	10	13	67	12
60代 (n= 218		54	25	13	8	66	22
70 代以上 (n= 344		80	27	20	11	99	67
本庁 (n= 450		124	50	33	27	114	39
真和志 (n= 340		83	39	23	20	98	29
小禄 (n= 223		56	22	12	12	68	21 22
首里 (n= 261		65	23	16	13	80	22
1年未満 (n= 48		14	5	3	4	13	3
1~2年 (n= 63		19	10	1	8	14	5
3~5年 (n= 117		29	13	12	9	30	5
6~10年 (n= 109		22	16	8	5	29	7
11~20年 (n= 169		36	16	13	6	50	15
21 年以上 (n= 793	) 100	212	75	48	41	234	83



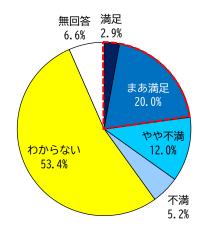
質問 28. 本市における子育て支援(保育所での延長保育、放課後児童クラブの設置等)の取り組み について満足していますか。次の中から<u>1つ</u>お選びください。

- 1. 満足
- 2. まあ満足
- 3. やや不満
- 4. 不満
- 5. わからない

本市の子育て支援の取り組みに「満足」と答えた割合は22.9%、「不満」と答えた割合は17.2%である。

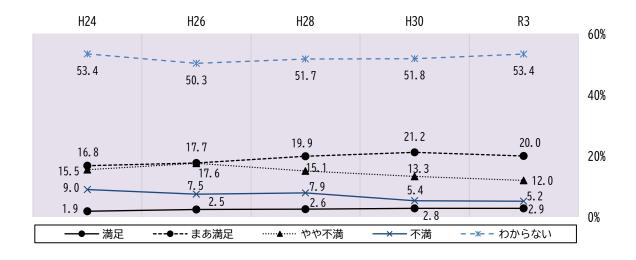
子育て支援の取り組みについて満足しているかについては、「わからない」が 53.4%と最も多く、次いで「まあ満足」が 20.0%、「やや不満」が 12.0%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
満足	38	2.9%
まあ満足	265	20.0%
やや不満	159	12.0%
不満	69	5. 2%
わからない	707	53.4%
無回答	87	6.6%
合 計	1, 325	100%



## 【経年変化(平成24年度~令和3年度)】

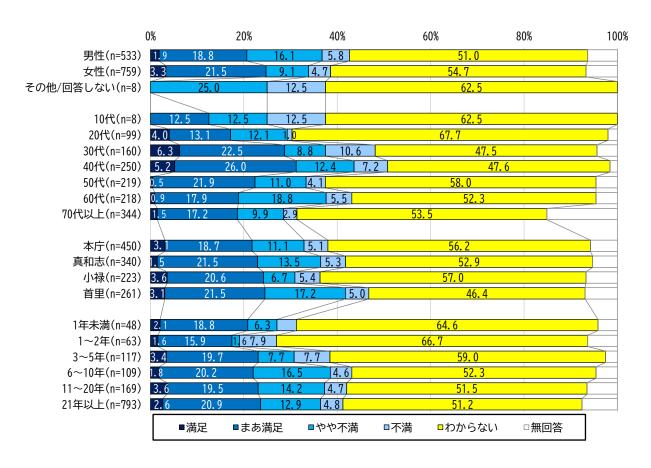
前回調査と比較すると、「満足」が 0.1 ポイント増加し、「まあ満足」が 1.2 ポイント減少している一方、「不満」が 0.2 ポイント、「やや不満」が 1.3 ポイント減少している。



性別でみると女性は男性よりも「わからない」の割合が高い。

年代別でみると、30代と40代では「満足」「まあ満足」の割合は3割前後となっており、ほかの世代よりも高くなっている。

回答者属性(n=合言	選択項目計)	満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	無回答
男性	(n= 533)	10	100	86	31	272	34
女性	(n= 759)	25	163	69	36	415	51
その他/回答しない	(n= 8)	0	0	2	1	5	0
10代	(n= 8)	0	1	1	1	5	0
20代	(n= 99)	4	13	12	1	67	2
30代	(n= 160)	10	36	14	17	76	7
40 代	(n= 250)	13	65	31	18	119	4
50代	(n= 219)	1	48	24	9	127	10
60代	(n= 218)	2	39	41	12	114	10
70 代以上	(n= 344)	5	59	34	10	184	52
本庁	(n= 450)	14	84	50	23	253	26
真和志	(n= 340)	5	73	46	18	180	18
小禄	(n= 223)	8	46	15	12	127	15
首里	(n= 261)	8	56	45	13	121	18
1年未満	(n= 48)	1	9	3	2	31	2
1~2年	(n= 63)	1	10	1	5	42	4
3~5年	(n= 117)	4	23	9	9	69	3
6~10年	(n= 109)	2	22	18	5	57	5
11~20年	(n= 169)	6	33	24	8	87	11
21 年以上	(n= 793)	21	166	102	38	406	60



# (10) 福祉について

質問 29. 地域の中で困っている方(高齢者、障がいのある方等)に対して、あなたができることはどのようなことですか。次の中から<u>3つまで</u>お選びください。

- 1. 話し相手
- 2. 買い物

3. 調理

4. 掃除

5. 洗濯

6. ゴミ出し

- 7. 電球交換 10. 見守り訪問
- 8.車等での送迎
- 9. 散歩等の運動への付き添い
- 11. 災害時の手助け
- 12. その他(
- 11. 人口可以 1

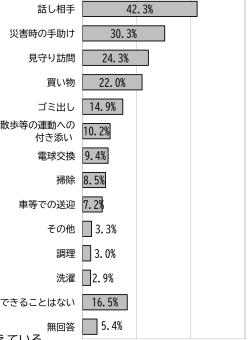
13. できることはない

地域の中で困っている方に対し市民ができることとして最も多かったのは「話し相手」である。

地域の中で困っている方に対し、市民ができることについては、「話し相手」が 42.3%で最も高く、次いで「災害時の手助け」が 30.3%、「見守り訪問」が 24.3%の順となっている。

0.0%	20.0%	40.0%	60.0%

	選択項目	回答数	割合	話し相手	
1位	話し相手	561	42.3%	災害時の手助け	30
2位	災害時の手助け	402	30.3%	火告時の子助け	
3位	見守り訪問	322	24.3%	見守り訪問	24.3
4位	買い物	291	22.0%	買い物	22.0
5位	ゴミ出し	197	14.9%	ゴミ出し	14.9%
6位	散歩等の運動への付き添い	135	10.2%	散歩等の運動への	10. 2%
7位	電球交換	125	9.4%	付き添い	
8位	掃除	112	8.5%	電球交換	9.4%
9位	車等での送迎	96	7. 2%	掃除	8.5%
10 位	その他	44	3.3%	車等での送迎	7. 2%
11位	調理	40	3.0%	その他	3.3%
12位	洗濯	39	2.9%		
_	できることはない	219	16.5%	調理	3.0%
_	無回答	71	5.4%	洗濯	2.9%
	合 計	2,654		できることはない	16.5%
	回答者数	1,325	200.3%	無回答	5.49
※同数	<del> </del>	-ため 合計	が 100%を超		



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

#### 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・声掛け、あいさつ(3人)
- ・講習会(手芸、工作、スポーツ等)(3人)

女性-70 代以上-本庁地区・他 男性-50 代-本庁地区・他

ほとんどの属性において、「話し相手」の割合が最も高くなっている。

年代別でみると、30代~40代で「災害時の手助け」の割合が高く、50代以上で「見守り訪問」の割合が高くなっている。70代以上では「できることはない」の割合が高い。

居住地区別でみると、真和志地区では「買い物」、首里地区では「見守り訪問」の割合が高い。

									>	<b>※</b> ■は	第1位、	は	第2位	、□は	第3位	の項目
	者属性(n=合		話し相手	買い物	調理	掃除	洗濯	ゴ ‴ 出し	電球交換	車等での送迎	付き添い 一切き添い	見守り訪問	災害時の手助け	その他	できることはない	無回答
性別	男性 女性 その他/ 回答しない	(n= 533) (n= 759) (n= 8)	208 39. 0 336 44. 3 4 50. 0	95 17. 8 189 24. 9 2 25. 0	8 1.5 30 4.0 1 12.5	49 9. 2 61 8. 0	9 1.7 29 3.8 -	91 17.1 101 13.3	84 15. 8 38 5. 0 1. 0 12. 5	51 9.6 41 5.4 1.0 12.5	51 9.6 80 10.5 -	121 22.7 197 26.0 2 25.0	185 34. 7 208 27. 4	13 2.4 27 3.6 -	91 17.1 125 16.5 3 37.5	33 6. 2 37 4. 9
年代別	10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上	(n= 8) (n= 99) (n= 160) (n= 250) (n= 219) (n= 218) (n= 344) (n= 450)	6 75.0 56 56.6 63 39.4 95 38.0 7 39.7 95 43.6 145 42.2 188	5 62.5 25 25.3 38 23.8 64 25.6 56 25.6 51 23.4 46 13.4		-6 6.1 10 6.3 16 6.4 16 7.3 29 13.3 33 9.6	1 1.0 9 5.6 7 2.8 6 2.7 10 4.6 5 1.5	1 12.5 13 13.1 23 14.4 32 12.8 34 15.5 47 21.6 40 11.6	8 8.1 19 11.9 35 14.0 23 10.5 21 9.6 16 4.7	1 12.5 12 12.1 10 6.3 19 7.6 20 9.1 13 6.0 18 5.2	1 12.5 12 12.1 19 11.9 24 9.6 18 8.2 20 9.2 37 10.8	2 25.0 21 21.2 38 23.8 57 22.8 57 26.0 64 29.4 80 23.3	3 37.5 37 37.4 69 43.1 102 40.8 70 32.0 56 25.7 56 16.3	2 2.0 1 0.6 8 3.2 11 5.0 6 2.8 12 3.5	10 10.1 20 12.5 34 13.6 34 15.5 29 13.3 92 26.7	2 2.0 8 5.0 3 1.2 9 4.1 11 5.0 37 10.8
地区別	真和志 小禄 首里	(n= 340) (n= 223) (n= 261)	41.8 147 43.2 85 38.1 118 45.2	22. 7 90 26. 5 43 19. 3 48 18. 4	1.8 14 4.1 6 2.7 9 3.4	8. 0 28 8. 2 18 8. 1 25 9. 6	3. 6 11 3. 2 3 1. 3 7 2. 7	15. 6 46 13. 5 26 11. 7 47 18. 0	8. 4 33 9. 7 18 8. 1 30 11. 5	6. 7 28 8. 2 14 6. 3 20 7. 7	10.7 36 10.6 23 10.3 22 8.4	23. 3 84 24. 7 54 24. 2 73 28. 0	26. 0 120 35. 3 71 31. 8 83 31. 8	4. 0 6 1. 8 8 3. 6 7 2. 7	17. 3 53 15. 6 41 18. 4 39 14. 9	6. 0 14 4. 1 12 5. 4 15 5. 7
居住年数別	1年未満 1~2年 3~5年 6~10年 11~20年 21年以上	(n= 48) (n= 63) (n= 117) (n= 109) (n= 169) (n= 793)	16 33.3 25 39.7 52 44.4 36 33.0 80 47.3	9 18.8 12 19.0 27 23.1 27 24.8 37 21.9	5 7.9 3 2.6 5 4.6 5 3.0 21	2 4.2 4 6.3 9 7.7 5 4.6 10 5.9	1 2.1 2 3.2 2 1.7 2 1.8 8 4.7	5 10.4 8 12.7 21 17.9 10 9.2 27 16.0	6 12.5 5 7.9 11 9.4 12 11.0 15 8.9	2 4.2 1 1.6 6 5.1 15 13.8 13 7.7 56	6 12.5 6 9.5 14 12.0 9 8.3 17 10.1	10 20. 8 13 20. 6 25 21. 4 21 19. 3 40 23. 7 211	18 37.5 21 33.3 36 30.8 36 33.0 55 32.5	2 1.7 11 10.1 6 3.6 21	11 22.9 11 17.5 21 17.9 12 11.0 28 16.6 136	2 4.2 5 7.9 2 1.7 4 3.7 8 4.7

質問 30.	那覇市が、	障がいのある	方も地域で	ともに暮らt	せるまちに	するため	には、	どのような	よ取り
	組みの充実	が必要だと思い	いますか。)	次の中から3	3 つまでお	選びくだ	<del>ز ا</del> را.		

1. 生活相談

- 2. 福祉サービス(介護・自立訓練・就労支援など)
- 3. 医療等の助成
- 4. 年金・手当等
- 5. 割引・優遇制度(税関系・施設等割引など)
- 6. 補装具費・日常生活用具の給付
- 7. イベント等(運動会)

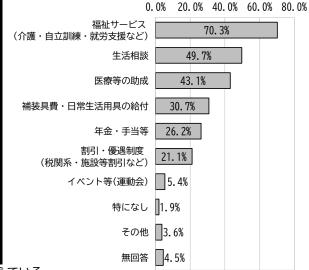
8. 特になし

9. その他(

障がいのある方も地域でともに暮らせるまちにするために充実が必要とされる取り組みして最も多かったのは、「福祉サービス(介護・自立訓練・就労支援など)」である。

那覇市が、障がいのある方も地域でともに暮らせるまちにするために、どのような取り組みの充実が必要かについては、「福祉サービス(介護・自立訓練・就労支援など)」が 70.3%で最も高く、次いで「生活相談」が 49.7%、「医療等の助成」が 43.1%の順となっている。

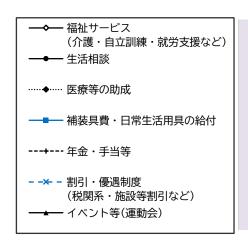
	選択項目	回答数	割合
1位	福祉サービス (介護・自立訓練・就労支援など)	931	70.3%
2位	生活相談	659	49.7%
3位	医療等の助成	571	43.1%
4位	補装具費・日常生活用具の給付	407	30.7%
5位	年金・手当等	347	26.2%
6位	割引・優遇制度 (税関系・施設等割引など)	279	21.1%
7位	イベント等(運動会)	71	5.4%
8位	特になし	25	1.9%
_	その他	48	3.6%
_	無回答	59	4. 5%
_	合 計	3, 397	
	回答者数	1, 325	256.4%

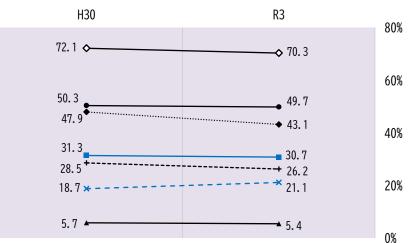


<sup>※</sup>回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

#### 【経年変化(平成30年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「医療費の助成」が4.8ポイント減少している。





ほとんどの属性において、「福祉サービス(介護・自立訓練・就労支援など)」の割合が最も高く、次いで「生活相談」、「医療等の助成」の割合が高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

							·					位の項目
回答上段	者属性(n=台	選択項目 (計) (分) (分) (分) (分) (分) (分) (分) (分) (分) (分	生活相談	就労支援など)(介護・自立訓練・福祉サービス	医療等の助成	年金・手当等	施設等割引など)(税関系・割引・優遇制度	日常生活用具の給付補装具費・	イベント等(運動会 )	特になし	その他	無回答
	男性	(n= 533)	252 47.3	350 65. 7	238 44. 7	152 28. 5	127 23. 8	136 25. 5	25 4. 7	19 3. 6	22 4. 1	27 5. 1
性別	女性	(n= 759)	392 51. 6	559 73.6	323 42. 6	187 24. 6	141 18. 6	261 34. 4	45 5 <b>.</b> 9	6 0. 8	25 3. 3	30 4. 0
	その他/ 回答しない	(n= 8)	2 25. 0	4 50. 0	3 37. 5	1 1	2 25. 0	4 50. 0	1 1	1 1	1 1	1 12. 5
	10代	(n= 8)	4 50. 0	4 50. 0	3 37. 5	5 62. 5	1 12. 5	1 12. 5	1 12. 5	1 1	1 1	1 1
	20代	(n= 99)	40 40. 4	72 72. 7	39 39. 4	31 31. 3	19 19. 2	27 27. 3	8 8. 1	2 2. 0	3 3. 0	3 3. 0
<b>4</b>	30代	(n= 160)	65 40.6	121 75. 6	56 35. 0	35 21. 9	34 21.3	58 36. 3	11 6. 9	6 3.8	6 3. 8	7 4. 4
年代別	40代	(n= 250)	121 48. 4	182 72. 8	93 37. 2	58 23. 2	46 18. 4	89 35. 6	24 9. 6	6 2. 4	15 6. 0	3 1. 2
,33	50代	(n= 219)	112 51. 1	160 73. 1	89 40. 6	58 26. 5	44 20. 1	82 37. 4	10 4. 6	4 1. 8	7 3. 2	8 3. 7
	60代	(n= 218)	114 52. 3	150 68. 8	112 51. 4	62 28. 4	51 23. 4	66 30. 3	8 3. 7	2 0. 9	8 3. 7	7 3. 2
	70代以上	(n= 344)	188 54. 7	222 64. 5	172 50. 0	88 25. 6	75 21.8	78 22. 7	8 2. 3	5 1.5	8 2. 3	30 8. 7
	本庁	(n= 450)	217 48. 2	329 73. 1	189 42. 0	112 24. 9	96 21.3	134 29. 8	18 4. 0	12 2. 7	18 4. 0	20 4. 4
地区	真和志	(n= 340)	171 50. 3	229 67. 4	154 45. 3	99 29. 1	80 23. 5	107 31. 5	21 6. 2	4 1. 2	8 2. 4	14 4. 1
区別	小禄	(n= 223)	98 43. 9	157 70. 4	95 42. 6	45 20. 2	43 19. 3	74 33. 2	10 4. 5	8 3. 6	8 3. 6	11 4. 9
	首里	(n= 261)	149 57. 1	186 71.3	114 43. 7	73 28. 0	48 18. 4	79 30. 3	21 8. 0	- -	12 4. 6	10 3.8
	1年未満	(n= 48)	24 50. 0	33 68. 8	19 39. 6	5 10. 4	10 20.8	10 20.8	7 14. 6	3 6. 3	1 2.1	2 4. 2
	1~2年	(n= 63)	32 50.8	42 66. 7	20 31. 7	13 20. 6	8 12. 7	11 17. 5	3 4.8	1 1.6	2 3. 2	4 6. 3
	3~5年	(n= 117)	46 39.3	81 69. 2	43 36. 8	27 23. 1	30 25. 6	34 29. 1	6 5 <b>.</b> 1	5 4. 3	8 6.8	3 2.6
年数別	6~10年	(n= 109)	50 45. 9	78 71. 6	46 42. 2	30 27. 5	25 22. 9	30 27. 5	5 4. 6	-	7 6. 4	4 3. 7
	11~20年	(n= 169)	88 52. 1	122 72. 2	71 42. 0	40 23. 7	30 17. 8	54 32. 0	9 5. 3	7 4. 1	5 3. 0	6 3. 6
	21年以上	(n= 793)	405 51. 1	557 70. 2	364 45. 9	224 28. 2	167 21.1	261 32. 9	40 5. 0	9 1. 1	24 3. 0	39 4. 9

# 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・バリアフリー、環境の整備(13人)
- ・コミュニティの場(交流会等)(9人)
- ・障がい者への理解促進(2人)

女性-40 代-本庁地区・他

女性-30代-首里地区・他

男性-40 代-小禄地区・他

# (11) 健康について

質問 31. あなたは、1 回 30 分以上の運動(ウォーキングなどを含む)をどの程度取り組んでいますか。次の中から1つお選びください。

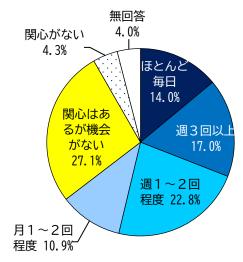
- 1. ほとんど毎日
- 2. 週3回以上
- 3. 週1~2回程度

- 4. 月1~2回程度
- 5. 関心はあるが機会がない
- 6. 関心がない

1回30分以上の運動に取り組んでいると答えた市民のうち「週1~2回程度」取り組んでいると答えた割合が最も多く、「関心はあるが機会がない」と答えた割合は27.1%である。

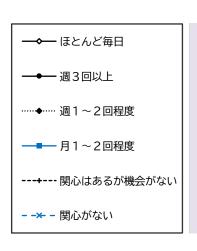
1回30分以上の運動(ウォーキングなどを含む)をどの程度取り組んでいるかについては、「関心はあるが機会がない」が27.1%で最も多く、次いで「週1~2回程度」が22.8%、「週3回以上」が17.0%の順となっている。

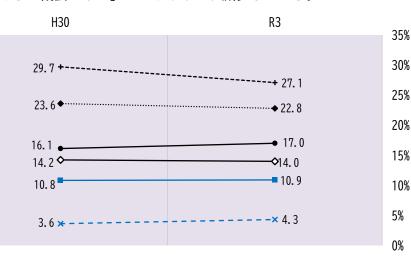
選択項目	回答数	割合	
ほとんど毎日	185	14.0%	
週3回以上	225	17.0%	
週1~2回程度	302	22.8%	
月1~2回程度	144	10.9%	
関心はあるが機会がない	359	27.1%	
関心がない	57	4.3%	
無回答	53	4.0%	
合 計	1, 325	100%	



#### 【経年変化(平成30年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「関心はあるが機会がない」が 2.6 ポイント減少している。

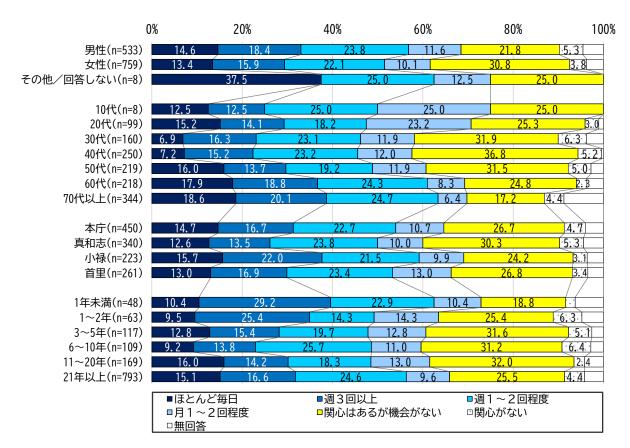




性別でみると、女性は男性に比べ「関心はあるが機会がない」の割合が高い。

年代別でみると、「ほとんど毎日」は30代と40代で1割をきるものの、それ以外の年齢層では 年齢が高くなるにつれて増加する傾向にある。

回答者属性(n=合計)	選択項目	ほとんど毎日	週3回以上	週1~2回	月 1~2回	機会がない	関心がない	無回答
男性	(n= 533)	78	98	127	62	116	28	24
女性	(n= 759)	102	121	168	77	234	29	28
その他/回答しない	(n= 8)	3	0	2	1	2	0	0
10代	(n= 8)	1	1	2	2	2	0	0
20代	(n= 99)	15	14	18	23	25	3	1
30代	(n= 160)	11	26	37	19	51	10	6
40 代	(n= 250)	18	38	58	30	92	13	1
50 代	(n= 219)	35	30	42	26	69	11	6
60代	(n= 218)	39	41	53	18	54	5	8
70 代以上	(n= 344)	64	69	85	22	59	15	30
本庁	(n= 450)	66	75	102	48	120	21	18
真和志	(n= 340)	43	46	81	34	103	18	15
小禄	(n= 223)	35	49	48	22	54	7	8
首里	(n= 261)	34	44	61	34	70	9	9
1年未満	(n= 48)	5	14	11	5	9	1	3
1~2年	(n= 63)	6	16	9	9	16	4	3
3~5年	(n= 117)	15	18	23	15	37	6	3
6~10年	(n= 109)	10	15	28	12	34	7	3
11~20年	(n= 169)	27	24	31	22	54	4	7
21 年以上	(n= 793)	120	132	195	76	202	35	33



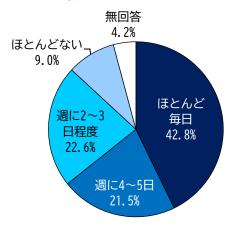
- 質問 32. あなたは、主食(※1)、主菜(※2)、副菜(※3)の3つを組み合わせて食べることが1日2回以上あるのは週に何日ありますか。次の中から1つお選びください。
  - 1. ほとんど毎日
- 2. 週に4~5日
- 3. 週に2~3日程度
- 4. ほとんどない

- ※1 ごはん、パン、麺類などの料理
- ※2 魚介類、肉類、卵類、大豆。大豆製品を主材料にした料理
- ※3野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上のあると答えた市民のうち「ほとんど毎日」と答えた割合が最も多く、「ほとんどない」と答えた割合は9.0%である。

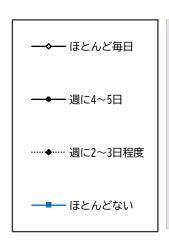
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日が「ほぼ毎日」の市民は、42.8%、次いで「週に2~3日」が22.6%、「週に4~5日」が21.5%の順となっている。

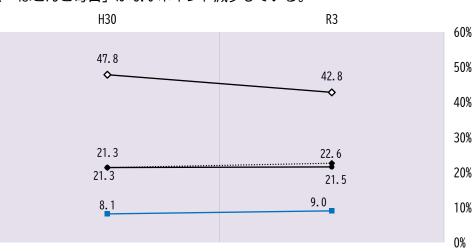
選択項目	回答数	割合		
ほとんど毎日	567	42.8%		
週に4~5日	285	21.5%		
週に2~3日	299	22.6%		
ほとんどない	119	9.0%		
無回答	55	4. 2%		
合 計	1, 325	100%		



#### 【経年変化(平成30年度~令和3年度)】

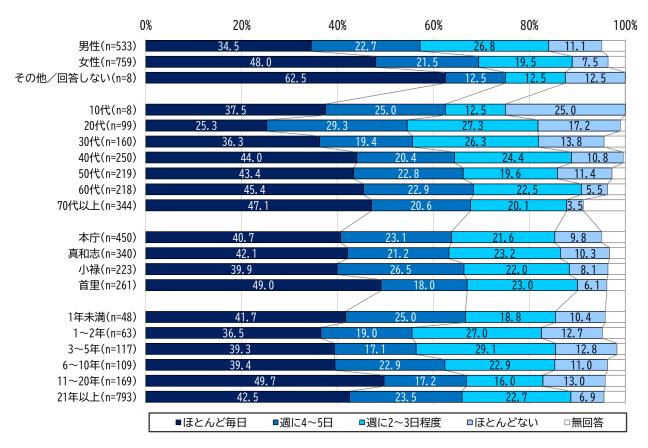
前回調査と比較すると、「ほとんど毎日」が5.0ポイント減少している。





性別でみると、男性は女性に比べ、「ほとんど毎日」の割合が低い。 年代別では、20 代以外で、年代が上がるにつれて「ほとんど毎日」の割合が高くなっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	ほとんど 毎日	週に4~5日	週に2~3日 程度	ほとんど ない	無回答
男性	(n= 533)	184	121	143	59	26
女性	(n= 759)	364	163	148	57	27
その他/回答しない	(n= 8)	5	1	1	1	0
10代	(n= 8)	3	2	1	2	0
20代	(n= 99)	25	29	27	17	1
30代	(n= 160)	58	31	42	22	7
40代	(n= 250)	110	51	61	27	1
50代	(n= 219)	95	50	43	25	6
60代	(n= 218)	99	50	49	12	8
70 代以上	(n= 344)	162	71	69	12	30
本庁	(n= 450)	183	104	97	44	22
真和志	(n= 340)	143	72	79	35	11
小禄	(n= 223)	89	59	49	18	8
首里	(n= 261)	128	47	60	16	10
1年未満	(n= 48)	20	12	9	5	2
1~2年	(n= 63)	23	12	17	8	3
3~5年	(n= 117)	46	20	34	15	2
6~10年	(n= 109)	43	25	25	12	4
11~20年	(n= 169)	84	29	27	22	7
21 年以上	(n= 793)	337	186	180	55	35



## 質問 33. あなたは今までに、次のような状態を経験したことがありますか。 あてはまるものを<u>すべて</u>選択してください。

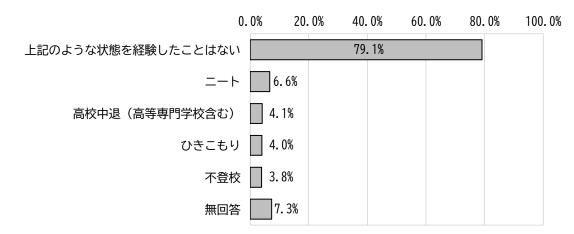
- 1. ニート (15歳以上の方で、就労していない、また、仕事を探しておらず、家事も通学もしていないこと)
- 2. ひきこもり(社会的参加を避けて、6か月以上にわたり家庭にとどまり続けている状態。病気等で外出できない方は除く)
- 3. 不登校
- 4. 高校中退(高等専門学校含む)
- 5. 上記のような状態を経験したことはない

経験したことがあると答えた市民のうち「ニート」の割合が最も多く、「上記のような状態を経験したことがない」と答えた割合は79.1%である。

「上記のような状態を経験したことはない」が 79.1%で最も高く、次いで「ニート」が 6.6%、 「高校中退(高等専門学校含む)」が 4.1%の順となっている。

	選択項目	回答数	割合
1位	上記のような状態を経験したことはない	1,048	79.1%
2位	ニート	88	6.6%
3位	高校中退(高等専門学校含む)	54	4. 1%
4位	ひきこもり	53	4. 0%
5位	不登校	51	3.8%
_	無回答	97	7. 3%
	合 計	1, 391	_
	回答者数	1, 325	105.0%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



【属性別集計(回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】 年代別でみると、30 代で「ニート、ひきこもり、不登校、高校中退」等の経験をした方の割合 が高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、	□は第3位の項目
---------------	----------

回答上段	·者属性(n=合 :(人):下段	選択項目	. 1 −	ひきこもり	不 登 校	学校含む)高校中退 ( 高等専門	経験したことはない上記のような状態を	無回答
	男性	(n= 533)	52 9.8	25 4. 7	28 5. 3	23 4. 3	404 75.8	39 7. 3
性別	女性	(n= 759)	33 4. 3	27 3. 6	23 3. 0	31 4. 1	618 81. 4	54 7. 1
	その他/ 回答しない	(n= 8)	25.0	1 12.5	-	-	6 75. 0	-
	10代	(n= 8)	1 12.5	-	1 12.5	1	6 75. 0	_ _
	20代	(n= 99)	8 8. 1	3 3.0	4 4. 0	4 4. 0	82 82.8	3 3.0
	30代	(n= 160)	25 15. 6	13 8. 1	17 10.6	10 6.3	111 69.4	9 5. 6
年代別	40代	(n= 250)	28 11. 2	16 6. 4	13 5. 2	15 6. 0	192 76. 8	7 2.8
別	50代	(n= 219)	16 7.3	9	10 4. 6	6 2.7	177 80. 8	9
	60代	(n= 218)	6 2.8	6 2.8	3	10 4. 6	180 82.6	18
	70代以上	(n= 344)	3 0.9	6	3 0.9	9 2.6	278 80. 8	47 13. 7
	本庁	(n= 450)	37 8. 2	25 5. 6	20 4. 4	22 4. 9	341 75.8	36 8. 0
地	真和志	(n= 340)	22 6. 5	10 2.9	13 3.8	16 4. 7	266 78. 2	23
区別	小禄	(n= 223)	14 6. 3	10 4. 5	7 3. 1	8 3.6	182 81.6	14 6. 3
	首里	(n= 261)	9	5 1.9	8 3.1	6 2.3	223 85. 4	16 6.1
	1年未満	(n= 48)	6 12.5	1 2.1	1 2.1	1 2.1	40 83. 3	2 4. 2
	1~2年	(n= 63)	6	2 3. 2	3 4.8	3 4.8	48 76. 2	3 4.8
居住	3~5年	(n= 117)	10	7 6.0	3 2.6	5 4. 3	90 76. 9	8 6.8
住年数別	6~10年	(n= 109)	9 8.3	6 5. 5	3 2.8	4 3.7	86 78. 9	5 4. 6
נת	11~20年	(n= 169)	12 7. 1	10 5.9	9 5. 3	5 3. 0	134 79. 3	12 7.1
	21年以上	(n= 793)	44 5.5	27 3. 4	32 4. 0	36 4. 5	630 79. 4	62 7. 8

# (12) 文化・芸術について

質問 34. 那覇市が振興したほうが良いと考える文化芸術の分野は何ですか。次の中から<u>3つまで</u> お選びください。

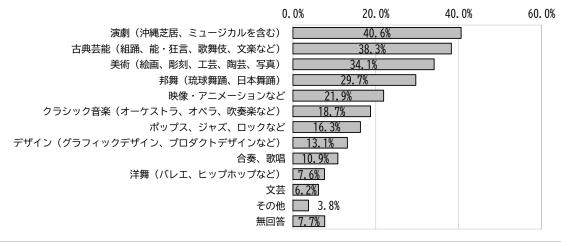
- 1. 古典芸能(組踊、能・狂言、歌舞伎、文楽など)
- 2. 演劇(沖縄芝居、ミュージカルを含む)
- 3. 洋舞(バレエ、ヒップホップなど)
- 4. 邦舞(琉球舞踊、日本舞踊)
- 5. ポップス、ジャズ、ロックなど
- 6. クラシック音楽(オーケストラ、オペラ、吹奏楽など)
- 7. 合奏、歌唱
- 8. 美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真)
- 9. 映像・アニメーションなど
- 10. デザイン (グラフィックデザイン、プロダクトデザインなど)
- 11. 文芸 12. その他( \_\_

那覇市が振興したほうが良いと考える文化芸術の分野について最も多かったのは 「演劇」である。

那覇市が振興した方が良いと考える文化芸術の分野については、「演劇(沖縄芝居、ミュージカルを含む)が 40.6%で最も高く、次いで「古典芸能(組踊、能・狂言、歌舞伎、文楽など)」が 38.3%、「美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真)」が 34.1%の順となっている。

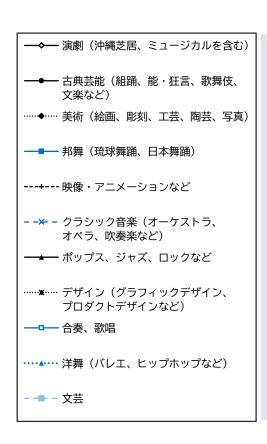
30.37	ス・大門(松画、例外、工会、剛会、子典/)が54.170V/順となり	C 0.00	
	選択項目	回答数	割合
1位	演劇(沖縄芝居、ミュージカルを含む)	538	40.6%
2位	古典芸能(組踊、能・狂言、歌舞伎、文楽など)	507	38.3%
3位	美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真)	452	34. 1%
4位	邦舞(琉球舞踊、日本舞踊)	393	29. 7%
5位	映像・アニメーションなど	290	21.9%
6位	クラシック音楽(オーケストラ、オペラ、吹奏楽など)	248	18.7%
7位	ポップス、ジャズ、ロックなど	216	16.3%
8位	デザイン(グラフィックデザイン、プロダクトデザインなど)	174	13.1%
9位	合奏、歌唱	144	10.9%
10 位	洋舞(バレエ、ヒップホップなど)	101	7.6%
11位	文芸	82	6. 2%
_	その他	50	3.8%
_	無回答	102	7. 7%
	合 計	3, 297	
	回答者数	1,325	248.8%

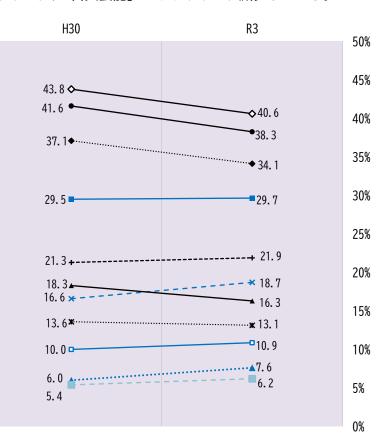
※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



#### 【経年変化(平成30年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「演劇」が3.2 ポイント、「古典芸能」が3.3 ポイント減少している。





#### 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・エイサー (3人)
- ・伝統音楽(三線等)(4人)
- ・伝統工芸(やむちん等)(3人)

女性-60 代-本庁地区・他 女性-40 代-真和志地区・他 女性-20 代-首里地区・他

【属性別集計(回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】 年代別でみると、10代~20代で「映像・アニメーションなど」の割合が高くなっている。 居住年数別でみると、11~20年では「古典芸能」の割合が高くなっている。また、1~5年で は「邦舞」の割合も高い。

									*	は第1	□位、□	は第2	位、□□	は第3位	で項目
	選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段 (人):下段 (%)		非计争中	演劇	洋舞	邦舞	ジャズ、ロックなどポップス、	クラシック音楽	合奏、歌唱	美術	アニメーションなど 映像・	デザイン	文芸	その他	-
	男性	(n= 533)	190 35.6	209 39.2	33 6. 2	164 30.8	107 20. 1	86 16. 1	57 10. 7	176 33. 0	135 25.3	74 13. 9	22 4. 1	19 3. 6	45 8.4
性別	女性	(n= 759)	303 39.9	317 41.8	66 8. 7	221 29. 1	103 13. 6	153 20. 2	83 10. 9	265 34. 9	152 20. 0	94 12. 4	55 7. 2	30 4. 0	53 7. 0
	その他/ 回答しない	(n= 8)	2 25. 0	3 37. 5		1 12. 5	2 25. 0	1 12.5	2 25. 0	3 37. 5	2 25. 0	2 25. 0	1 12. 5	1 12. 5	1 12.5
	10代	(n= 8)	2 25. 0	1 12.5	-	1 1	2 25. 0	-	- 1	3 37. 5	5 62. 5	3 37. 5	-	1 12.5	-
	20代	(n= 99)	27 27.3	31 31.3	8 8. 1	34 34. 3	17 17. 2	16 16. 2	8 8. 1	31 31. 3	35 35.4	20 20. 2	6 6. 1	6 6. 1	3 3. 0
<b>/</b> -	30代	(n= 160)	47 29. 4	58 36.3	17 10.6	59 36. 9	31 19. 4	20 12. 5	6 3.8	53 33 <b>.</b> 1	46 28. 7	39 24. 4	9 5. 6	9 5. 6	11 6. 9
年代別	40代	(n= 250)	82 32.8	87 34.8	29 11. 6	71 28. 4	50 20. 0	40 16. 0	15 6. 0	87 34. 8	76 30. 4	51 20. 4	10 4. 0	12 4. 8	8 3. 2
733	50代	(n= 219)	85 38.8	96 43.8	16 7. 3	59 26. 9	46 21. 0	46 21. 0	19 8. 7	81 37. 0	52 23. 7	27 12.3	14 6. 4	8 3. 7	12 5. 5
	60代	(n= 218)	86 39.4	102 46.8	13 6. 0	52 23. 9	43 19. 7	49 22. 5	30 13.8	84 38. 5	52 23. 9	14 6. 4	20 9. 2	5 2. 3	15 6.9
	70代以上	(n= 344)	166 48.3	153 44.5	16 4. 7	110 32. 0	23 6. 7	69 20. 1	64 18. 6	104 30. 2	23 6. 7	16 4. 7	19 5. 5	9 2. 6	49 14. 2
	本庁	(n= 450)	161 35.8	187 41.6	32 7. 1	127 28. 2	74 16. 4	64 14. 2	42 9. 3	149 33. 1	113 25. 1	66 14. 7	36 8. 0	21 4. 7	37 8. 2
地区	真和志	(n= 340)	124 36.5	139 40.9	30 8.8	112 32. 9	55 16. 2	78 22. 9	40 11. 8	125 36. 8	70 20. 6	45 13. 2	15 4. 4	4 1. 2	22 6. 5
別	小禄	(n= 223)	75 33. 6	97 43. 5	15 6. 7	69 30. 9	45 20. 2	37 16. 6	25 11. 2	60 26. 9	47 21. 1	28 12. 6	19 8. 5	9 4. 0	18 8. 1
	首里	(n= 261)	131 50. 2	96 36. 8	21 8. 0	74 28. 4	37 14. 2	58 22. 2	32 12. 3	99 37. 9	54 20. 7	29 11. 1	7 2. 7	13 5. 0	17 6. 5
	1年未満	(n= 48)	12 25. 0	17 35.4	5 10. 4	16 33. 3	11 22. 9	5 10. 4	2 4. 2	13 27. 1	11 22. 9	6 12.5	1 2. 1	2 4. 2	5 10.4
	1~2年	(n= 63)	22 34. 9	25 39. 7	3 4. 8	22 34. 9	9 14. 3	11 17. 5	2 3. 2	23 36. 5	19 30. 2	10 15. 9	3 4.8	2 3. 2	3 4.8
居住	3~5年	(n= 117)	36 30.8	51 43.6	8 6. 8	39 33. 3	16 13. 7	17 14. 5	7 6. 0	42 35. 9	27 23. 1	31 26. 5	8 6. 8	4 3. 4	5 4.3
年数別	6~10年	(n= 109)	40 36. 7	46 42. 2	11 10.1	31 28. 4	17 15. 6	13 11. 9	8 7. 3	40 36. 7	30 27. 5	18 16. 5	8 7. 3	7 6. 4	7 6.4
נינו	11~20年	(n= 169)	64 37.9	51 30. 2	17 10.1	43 25. 4	35 20. 7	34 20.1	17 10.1	61 36.1	43 25. 4	17 10.1	13 7. 7	9 5. 3	14 8.3
	21年以上	(n= 793)	321 40. 5	338 42.6	55 6.9	235	123 15. 5	159 20. 1	106 13. 4	265 33. 4	159 20.1	88	45 5. 7	26 3.3	65 8. 2

質問 35. 1 年間にどのくらいの頻度で劇場や市民会館などへ鑑賞に出掛けますか。次の中から1つ お選びください。

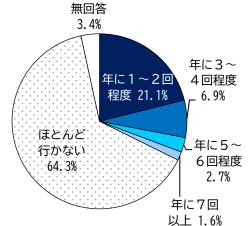
- 1. 年に1~2回程度
- 2. 年に3~4回程度
- 3. 年に5~6回程度

- 4. 年に7回以上
- 5. ほとんど行かない

劇場や市民会館などへ鑑賞に出掛けると回答した市民のうち「年に 1~2 回」と答えた割合が最も多く、「ほとんど行かない」と答えた市民の割合は 64.3%である。

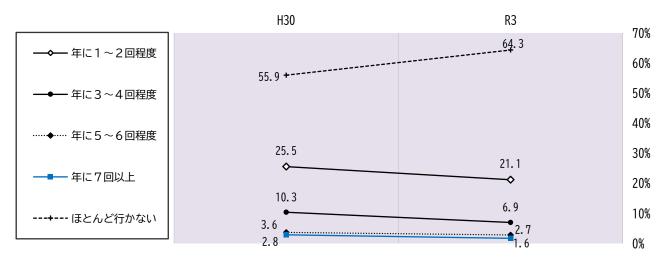
1年間に劇場や市民会館などへ鑑賞に出掛ける頻度については、「ほとんど行かない」が 64.3% で最も多く、次いで「年に  $1 \sim 2$  回程度」が 21.1%、「年に  $3 \sim 4$  回程度」が 6.9% の順となっている。

選択項目	回答数	割合			
年に1~2回程度	280	280 21.1%			
年に3~4回程度	91	6.9%			
年に5~6回程度	36	2.7%			
年に7回以上	21	1.6%			
ほとんど行かない	852	64.3%			
無回答	45	3.4%			
合 計	1, 325	100%			



## 【経年変化(平成30年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「ほとんど行かない」が 8.4 ポイント増加している。新型コロナ感染症の影響で出掛ける回数が減っていると考えられる。

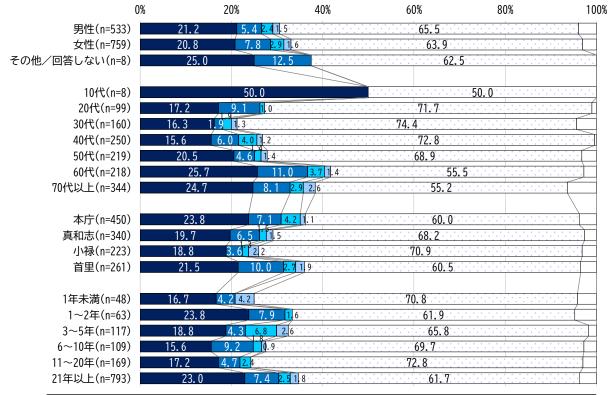


性別でみると、男性は女性に比べ、「ほとんど行かない」の割合が高くなっている。

年代別でみると、10 代を除き、年代が上がるにつれて「ほとんど行かない」の割合が減少し、年に数回は鑑賞に出掛ける傾向がある。

居住地区別でみると、真和志地区と小禄地区は「ほとんど行かない」の割合が高い。

選択項目 回答者属性(n=合計)		年に1~2回程度	年に3~4回程度	年に5~6回程度	年に7回以上	ほとんど行かない	無回答
	n= 533)	113	29	13	8	349	21
	n= 759)	158	59	22	12	485	23
	n= 8)	2	1	0	0	5	0
	n= 8)	4	0	0	0	4	0
	n= 99)	17	9	1	0	71	1
	n= 160)	26	3	3	2	119	7
	n= 250)	39	15	10	3	182	1
	n= 219)	45	10	3	3	151	7
	n= 218)	56	24	8	3	121	6
	n= 344)	85	28	10	9	190	22
	n= 450)	107	32	19	5	270	17
	n= 340)	67	22	5	5	232	9
	n= 223)	42	8	3	5	158	7
	n= 261)	56	26	7	5	158	9
	n= 48)	8	2	0	2	34	2
	n= 63)	15	5	1	0	39	3
	n= 117)	22	5	8	3	77	2
	n= 109)	17	10	2	1	76	3
	n= 169)	29	8	4	0	123	5
21 年以上 (1	n= 793)	182	59	20	14	489	29



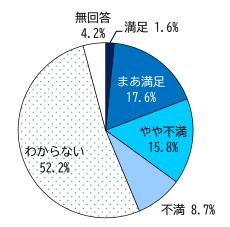
質問 36. 文化芸術を鑑賞したり習い事をしたりする機会や、優れた地域文化にふれる機会など、本市内での文化的な環境に満足していますか。次の中から1つお選びください。

- 1. 満足
- 2. まあ満足
- 3. やや不満
- 4. 不満
- 5. わからない

本市内での文化的な環境に「満足」と答えた割合は19.2%、「不満」と答えた割合は24.5%である。

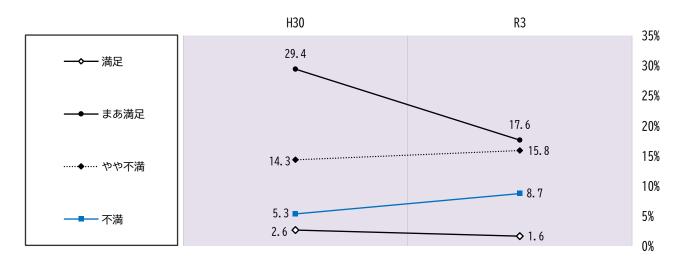
本市内での文化的な環境に満足しているかについては、「わからない」が 52.2%で最も多く、次いで「まあ満足」が 17.6%、「やや不満」が 15.8%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
満足	21	1.6%
まあ満足	233	17.6%
やや不満	210	15.8%
不満	115	8.7%
わからない	691	52.2%
無回答	55	4. 2%
合 計	1, 325	100%



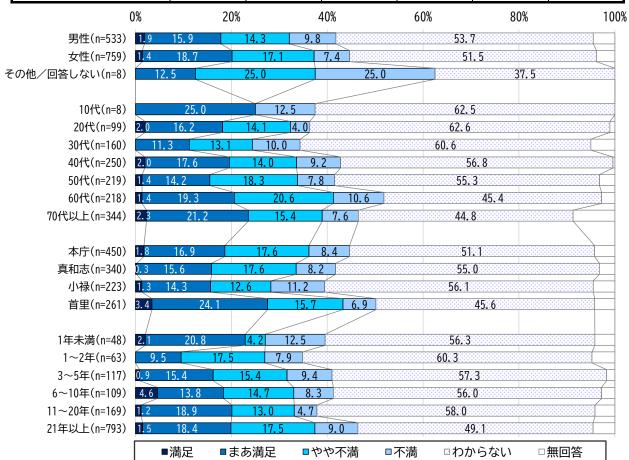
## 【経年変化(平成30年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「満足」「まあ満足」が減少し、「やや不満」「不満」が増加している



性別でみると、男性は女性に比べ、「わからない」の割合が高くなっている。 年代別でみると、60代以上で「わからない」の割合が低くなっている。 居住地区別でみると、首里地区は「満足」「まあ満足」の割合がやや高くなっている。

回答者属性(n=合	選択項目計	満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	無回答
男性	(n= 533)	10	85	76	52	286	24
女性	(n= 759)	11	142	130	56	391	29
その他/回答しない	۱ (n= 8)	0	1	2	2	3	0
10代	(n= 8)	0	2	0	1	5	0
20代	(n= 99)	2	16	14	4	62	1
30代	(n= 160)	0	18	21	16	97	8
40代	(n= 250)	5	44	35	23	142	1
50代	(n= 219)	3	31	40	17	121	7
60代	(n= 218)	3	42	45	23	99	6
70 代以上	(n= 344)	8	73	53	26	154	30
本庁	(n= 450)	8	76	79	38	230	19
真和志	(n= 340)	1	53	60	28	187	11
小禄	(n= 223)	3	32	28	25	125	10
首里	(n= 261)	9	63	41	18	119	11
1年未満	(n= 48)	1	10	2	6	27	2
1~2年	(n= 63)	0	6	11	5	38	3
3~5年	(n= 117)	1	18	18	11	67	2
6~10年	(n= 109)	5	15	16	9	61	3
11~20年	(n= 169)	2	32	22	8	98	7
21 年以上	(n= 793)	12	146	139	71	389	36
·	Λ0/	20%		100/	60%	on«	100%



)

## (13) 観光意識について

- 質問37. 那覇市内における観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化 について、あなたはどう思いますか。次の中から3つまでお選びください。
  - 1. 自然環境や景観、伝統文化・芸能が保存・継承されている
  - 2. 道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている 3. 高賃金の仕事、雇用を生み出している

  - 4. 新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している
  - 5. レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題(渋滞、混雑等)が生じている 6. マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている 7. 地域が受け入れられる観光客の量を超えていると感じている

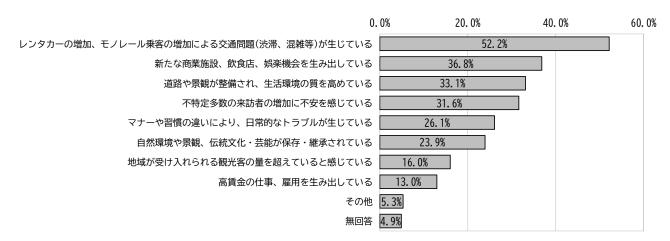
  - 8. 不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている
  - 9. その他(

観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化に思うこ とについて最も多かったのは「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による 交通問題が生じている」である。

那覇市内における生活環境の変化についてどう思うかについては、「レンタカーの増加、モノレ ール乗客の増加による交通問題(渋滞、混雑等)が生じている」が 52.2%と最も高く、次いで「新 たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している」が36.8%、「道路や景観が整備され、生活環 境の質を高めている」が33.1%の順となっている。

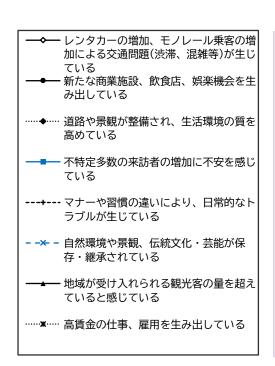
	選択項目	回答数	割合
1位	レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題(渋滞、混雑等)が 生じている	691	52.2%
2位	新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している	488	36.8%
3位	道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている	439	33.1%
4位	不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている	419	31.6%
5位	マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている	346	26.1%
6位	自然環境や景観、伝統文化・芸能が保存・継承されている	317	23.9%
7位	地域が受け入れられる観光客の量を超えていると感じている	212	16.0%
8位	高賃金の仕事、雇用を生み出している	172	13.0%
_	その他	70	5.3%
_	無回答	65	4.9%
	合 計	3, 219	_
	回答者数	1,325	242.9%

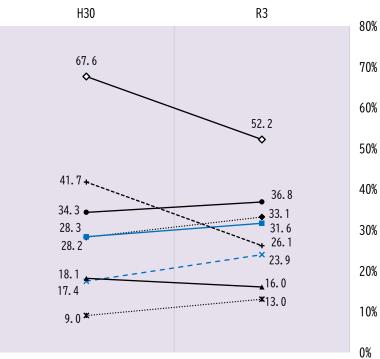
※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



# 【経年変化(平成30年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加のよる交通問題(渋滞、混雑等)が生じている」が 15.4 ポイント、「マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている」が 15.6 ポイント減少している。





# 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・コロナ禍の影響(15人)
- ・環境悪化(ゴミの増加、環境整備不足)(17人)
- ・マナーの悪さ(5人)
- ・沖縄らしさがなくなった(4人)

男性-20 代-小禄地区・他 女性-60 代-本庁地区・他 男性-70 代以上-本庁地区・他 女性-40 代-真和志地区・他

いずれの属性においても、「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題が生じている」の割合が最も高くなっている。

年代別では、30~40代で「不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている」の割合が高くなっており、60代以上で「道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている」の割合が比較的高くなっている。

										□は第3	位の項目	
選択項目 回答者属性(n=合計) 上段(人):下段(%)		保存・継承されている伝統文化・芸能が自然環境や景観、	生活環境の質を高めている道路や景観が整備され、	生み出している高賃金の仕事、雇用を	生み出している飲食店、娯楽機会を新たな商業施設、	(渋滞、混雑等)が生じている乗客の増加による交通問題レンタカーの増加、モノレール	日常的なトラブルが生じているマナーや習慣の違いにより、	量を超えていると感じている地域が受け入れられる観光客の	不安を感じている不特定多数の来訪者の増加に	その他	無回答	
	男性	(n= 533)	121 22. 7	195 36. 6	82 15. 4	203 38. 1	293 55. 0	159 29.8	94 17. 6	152 28. 5	30 5. 6	22 4. 1
性別	女性	(n= 759)	189 24. 9	234 30. 8	89 11. 7	279 36. 8	379 49. 9	178 23. 5	115 15. 2	254 33. 5	40 5. 3	38 5. 0
,,,	その他/ 回答しない	(n= 8)		1 12.5	-	1 12.5	6 75. 0	3 37.5	1 12.5	5 62.5		
	10代	(n= 8)	2 25. 0	1 12.5	_	1 12.5	4 50. 0	3 37.5	1 12. 5	4 50. 0	_	-
	20代	(n= 99)	28 28. 3	33 33. 3	14 14. 1	40 40. 4	44	25 25. 3	13	21 21. 2	5 5. 1	2 2. 0
	30代	(n= 160)	26	41	27	70	44. 4 90	47	13. 1 26	49	10	2
年代別	40代	(n= 250)	16. 3 43	25. 6 67	16. 9 41	43. 8 88	56. 3 145	29. 4 79	16. 3 35	30. 6 92	6. 3 18	1.3
別	50代	(n= 219)	17. 2 40	26.8	16. 4 38	35. 2 84	58. 0 130	31.6	14. 0 31	36.8	7.2	2.8
	60代	(n= 218)	18. 3 52	28. 8 92	17. 4 23	38. 4 80	59. 4 115	30. 6 64	14. 2 34	29. 7 70	<b>4.</b> 1	1.8 7
	70代以上	(n= 344)	23 <b>.</b> 9 118	42. 2 133	10. 6 28	36. 7 119	52.8 150	29. 4 55	15. 6 69	32. 1 110	4. 1 19	3. 2 37
		(n= 450)	34. 3 92	38. 7 136	8. 1 56	34. 6 165	43. 6 242	16. 0 132	20. 1 73	32 <b>.</b> 0 146	5. 5 29	10.8 22
l	本庁		20. 4 89	30. 2 119	12. 4 46	36. 7 128	53. 8 160	29.3 88	16. 2 52	32. 4 102	6. 4 22	4. 9 16
地区別	真和志	(n= 340)	26. 2 44	35. 0 71	13. 5 32	37. 6 84	47. 1 133	25. 9 57	15. 3 39	30. 0 70	6. 5 9	4. 7 9
万リ	小禄	(n= 223)	19. 7 80	31.8	14.3 31	37. 7 101	59. 6 135	25. 6 61	17. 5 42	31. 4 84	4.0	4. 0
	首里	(n= 261)	30. 7 5	37. 2 14	11.9	38.7	51. 7 23	23. 4	16.1	32.2	3.1	3.4
	1年未満	(n= 48)	10.4	29.2	14.6	16 33. 3	47.9	29. 2	6 12. 5	15 31.3	8.3	2 4. 2
	1~2年	(n= 63)	11 17. 5	18 28. 6	7 11. 1	24 38. 1	36 57. 1	19 30. 2	7 11. 1	16 25. 4	2 3. 2	4 6. 3
居住	3~5年	(n= 117)	24 20. 5	27 23. 1	13 11. 1	50 42. 7	64 54. 7	26 22. 2	14 12. 0	38 32. 5	7 6. 0	3 2. 6
年数別	6~10年	(n= 109)	30 27. 5	36 33. 0	21 19. 3	39 35. 8	59 54. 1	28 25. 7	15 13. 8	28 25. 7	9 8. 3	5 4. 6
,,,	11~20年	(n= 169)	37 21. 9	46 27. 2	27 16. 0	62 36. 7	97 57. 4	54 32. 0	22 13. 0	48 28. 4	9 5. 3	9 5. 3
	21年以上	(n= 793)	203 25. 6	289 36. 4	96 12. 1	291 36. 7	398 50. 2	198 25. 0	146 18. 4	266 33. 5	39 4. 9	37 4. 7

# (14) 緑のまちについて

質問 38. あなたは、住んでいる地域の花や緑(公園の緑や街路樹、公共や民間の緑化)に満足していますか。次の中から1つお選びください。

1. 満足

- 2. まあ満足
- 3. やや不満
- 4. 不満

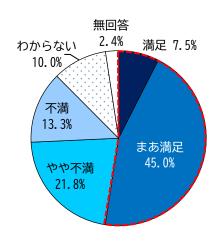
5. わからない

住んでいる地域の花や緑について「満足」と答えた割合は 52.5%、「不満」と答えた割合は 35.1%である。

住んでいる地域の花や緑(公園の緑や街路樹、公共や民間の緑化)に満足しているかについては、「まあ満足」が45.0%で最も多く、次いで「やや不満」が21.8%、「不満」が13.3%の順となっている。

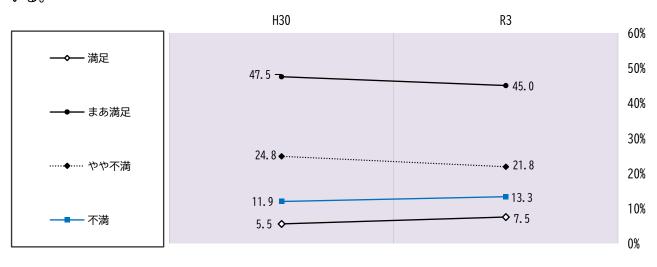
「満足」と「まあ満足」の合計が 52.5%に対し、「不満」と「やや不満」の合計が 35.1%であり、居住地域の花や緑に対して、「満足」している市民の方が多いことが伺える。

選択項目	回答数	割合
満足	99	7.5%
まあ満足	596	45.0%
やや不満	289	21.8%
不満	176	13.3%
わからない	133	10.0%
無回答	32	2.4%
合 計	1, 325	100%



#### 【経年変化(平成30年度~令和3年度)】

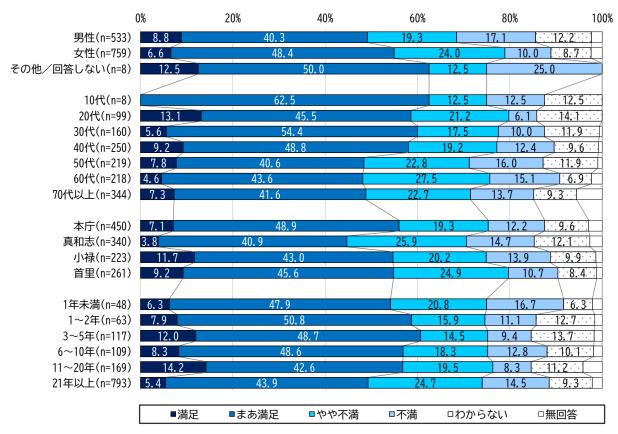
前回調査と比較すると、「満足」が 2.0 ポイント増加し、「やや不満」が 3.0 ポイント減少している。



年代別では、40代以下で「満足」と「まあ満足」の合計の割合が高くなっており、50代以上で「不満」と「やや不満」の合計の割合が高くなっている。

居住地区では、真和志地区で「不満」と「やや不満」の合計が4割を超えている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	無回答
男性	(n= 533)	47	215	103	91	65	12
女性	(n= 759)	50	367	182	76	66	18
その他/回答しない	(n= 8)	1	4	1	2	0	0
10代	(n= 8)	0	5	1	1	1	0
20代	(n= 99)	13	45	21	6	14	0
30代	(n= 160)	9	87	28	16	19	1
40 代	(n= 250)	23	122	48	31	24	2
50代	(n= 219)	17	89	50	35	26	2
60代	(n= 218)	10	95	60	33	15	5
70 代以上	(n= 344)	25	143	78	47	32	19
本庁	(n= 450)	32	220	87	55	43	13
真和志	(n= 340)	13	139	88	50	41	9
小禄	(n= 223)	26	96	45	31	22	3
首里	(n= 261)	24	119	65	28	22	3
1年未満	(n= 48)	3	23	10	8	3	1
1~2年	(n= 63)	5	32	10	7	8	1
3~5年	(n= 117)	14	57	17	11	16	2
6~10年	(n= 109)	9	53	20	14	11	2
11~20年	(n= 169)	24	72	33	14	19	7
21 年以上	(n= 793)	43	348	196	115	74	17



## (15) 生涯学習について

質問 39. あなたは、どのような活動に興味があり学んでみたいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

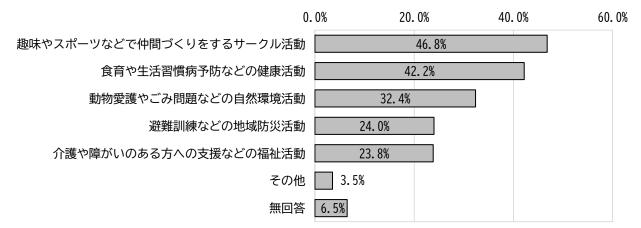
- 1. 動物愛護やごみ問題などの自然環境活動 2. 食育や生活習慣病予防などの健康活動
- 3. 避難訓練などの地域防災活動
- 4. 介護や障がいのある方への支援などの福祉活動
- 5. 趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動
- 6. その他(

興味があり学んでみたいと思う活動について最も多かったのは「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」である。

興味があり学んでみたい活動については、「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」が 46.8%で最も高く、次いで「食育や生活習慣病予防などの健康活動」が 42.2%、「動物愛護やごみ問題などの自然環境活動」が 32.4%の順となっている。

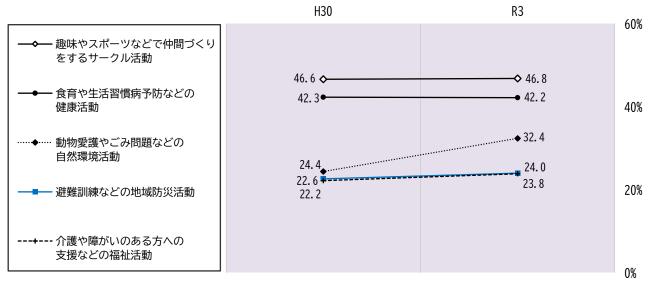
	選択項目	回答数	割合
1位	趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動	620	46.8%
2位	食育や生活習慣病予防などの健康活動	559	42. 2%
3位	動物愛護やごみ問題などの自然環境活動	429	32.4%
4位	避難訓練などの地域防災活動	318	24. 0%
5位	介護や障がいのある方への支援などの福祉活動	316	23.8%
_	その他	47	3.5%
_	無回答	86	6.5%
	合 計	2, 375	_
	回答者数	1, 325	179.2%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



# 【経年変化(平成30年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「動物愛護やごみ問題などの自然環境活動」が8.0 ポイント増加している。



# 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・沖縄の歴史・文化(3人)
- ・自然環境について(3人)

男性-60 代-本庁地区・他 女性-60 代-真和志地区・他

性別でみると、男性は「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」、女性は「食育や生活習慣病予防などの健康活動」の割合が最も高くなっている。

年代別でみると、70代以上では「食育や生活習慣病予防などの健康活動」の割合が最も高くなっている。

居住地区別でみると、真和志地区は他の地区と比べて「介護や障がいのある方への支援などの福祉活動」の割合が高い。

								第3位の項目	
	者属性(n= <del>1</del> :(人):下	選択項目 合計) 设(%)	などの自然環境活動動物愛護やごみ問題	などの健康活動食育や生活習慣病予防	地域防災活動地域防災活動	の支援などの福祉活動介護や障がいのある方へ	サークル活動仲間づくりをする趣味やスポーツなどで	その他	無回答
	男性	(n= 533)	155 29. 1	182 34. 1	119 22. 3	99 18.6	267 50.1	20 3.8	47 8. 8
性別	女性	(n= 759)	259 34. 1	368 48.5	189 24. 9	214 28. 2	340 44.8	27 3. 6	35 4. 6
	その他/ 回答しない	(n= 8)	6 75. 0	2 25. 0	3 37.5	1 12.5	5 62.5	-	-
	10代	(n= 8)	4 50. 0	-	2 25. 0	4 50.0	3 37. 5	1 12.5	_
	20代	(n= 99)	50 50.5	34 34.3	20 20. 2	25 25. 3	41 41. 4	3 3. 0	1
	30代	(n= 160)	57 35.6	59 36. 9	36 22.5	36 22.5	89 55. 6	3 1.9	4 2.5
年代別	40代	(n= 250)	81 32.4	104 41. 6	73 29. 2	56 22. 4	126 50.4	10 4. 0	9 3. 6
נימ	50代	(n= 219)	84 38. 4	97 44. 3	56 25 <b>.</b> 6	59 26.9	112 51.1	3 1. 4	5 2.3
	60代	(n= 218)	75 34. 4	96 44. 0	57 26. 1	55 25. 2	103 47. 2	8 3. 7	12 5. 5
	70代以上	(n= 344)	69 20. 1	161 46. 8	67 19. 5	79 23. 0	138 40. 1	19 5. 5	51 14. 8
	本庁	(n= 450)	155 34. 4	173 38. 4	98 21. 8	94 20. 9	210 46. 7	18 4. 0	29 6. 4
地区	真和志	(n= 340)	104 30.6	158 46. 5	86 25. 3	96 28. 2	172 50. 6	12 3. 5	22 6. 5
区	小禄	(n= 223)	68 30.5	88 39.5	56 25. 1	44 19. 7	102 45. 7	8 3.6	14 6. 3
	首里	(n= 261)	85 32.6	124 47. 5	67 25. 7	74 28. 4	115 44. 1	7 2.7	14 5. 4
	1年未満	(n= 48)	25 52. 1	15 31. 3	11 22.9	7	27 56. 3	1 2.1	3 6.3
	1~2年	(n= 63)	19 30. 2	24 38. 1	12 19. 0	12 19. 0	26 41. 3	4 6.3	1 1.6
居住	3~5年	(n= 117)	40 34. 2	40 34. 2	28 23. 9	22 18.8	58 49. 6	2	4 3.4
年  数	6~10年	(n= 109)	36	40	21	30	50	4	6
別	11~20年	(n= 169)	33. 0 61	36. 7 66	19.3 37	27. 5 40	45. 9 80	3.7	5. 5 12
	21年以上	(n= 793)	36. 1 238 30. 0	39. 1 367 46. 3	21.9 202 25.5	23. 7 203 25. 6	47. 3 370 46. 7	1.8 33 4.2	7. 1 56 7. 1

質問 40. あなたやあなたの家族で夜間中学(※)に通いたいと思っている人がいますか。 次の中から<u>1つ</u>お選びください。

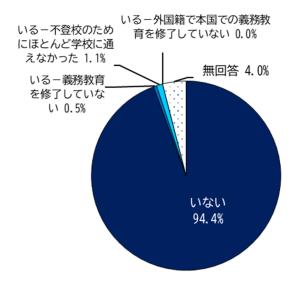
- 1. いない
- 2. いる-義務教育を修了していない
- 3. いる-不登校のためにほとんど学校に通えなかった
- 4. いる-外国籍で本国での義務教育を修了していない

※主に夜の時間帯に授業が行われる公立中学の夜間学級等のことをいいます。様々な理由により、義務教育を修了できなかった方や本国で義務教育を修了していない外国籍の方、また、不登校等のためにほとんど学校に通えなかった人などが学んでいます。

夜間中学に通いたいと思っている人が「いる」と回答した市民のうち「義務教育を修了していない」と答えた割合が最も多く、「いない」回答した割合は 94.4%である。

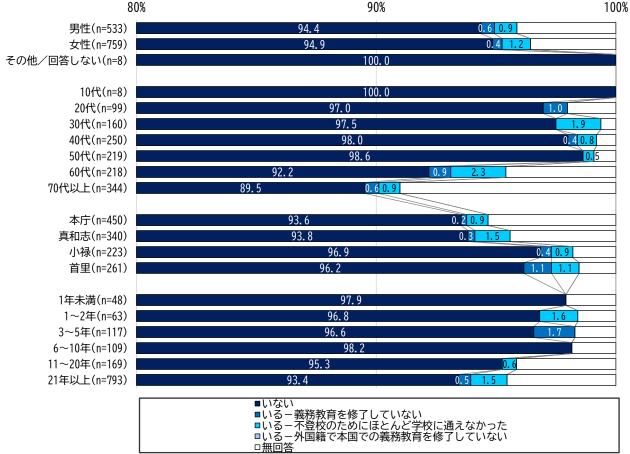
夜間中学に通いたいと思っている人がいるかについては、「いない」が 94.4%で最も多く、次いで「いる-不登校のためにほとんど学校に通えなかった」が 1.1%、「いる-義務教育を修了していない」が 0.5%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
いない	1, 251	94.4%
いる-義務教育を修了していな い	7	0.5%
いる - 不登校のためにほとんど 学校に通えなかった	14	1.1%
いる-外国籍で本国での義務教 育を修了していない	0	0.0%
無回答	53	4. 0%
合 計	1, 325	100%



年代別では、30代と60代で「不登校のためにほとんど学校に通えなかった」の割合が他の年代と比べてわずかに高くなっている。

回答者属性(n=合語		いない	了していない	えなかったいる―不登校のため	していないでの義務教育を修了いる―外国籍で本国	無回答
男性	(n= 533)	503	3	5	0	22
女性	(n= 759)	720	3	9	0	27
その他/回答しない		8	0	0	0	0
10代	(n= 8)	8	0	0	0	0
20代	(n= 99)	96	1	0	0	2
30代	(n= 160)	156	0	3	0	1
40代	(n= 250)	245	1	2	0	2
50代	(n= 219)	216	0	1	0	2
60代	(n= 218)	201	2	5	0	10
70 代以上	(n= 344)	308	2	3	0	31
本庁	(n= 450)	421	1	4	0	24
真和志	(n= 340)	319	1	5	0	15
小禄	(n= 223)	216	1	2	0	4
首里	(n= 261)	251	3	3	0	4
1年未満	(n= 48)	47	0	0	0	1
1~2年	(n= 63)	61	0	1	0	1
3~5年	(n= 117)	113	2	0	0	2
6~10年	(n= 109)	107	0	0	0	2
11~20年	(n= 169)	161	0	1	0	7
21 年以上	(n= 793)	741	4	12	0	36
	2 <b>0</b> %			QN%		1000



## (16) 青少年の育成について

質問 41. あなたは、地域の青少年(小学生~29 歳まで)とどのように関わっていますか。 あてはまるものをすべてお選びください。

- 1. あいさつや地域行事への参加の声掛け
- 2. 青少年団体へ寄付をするなど金銭的な支援で関わっている
- 3. 部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど学校支援を通して関わっている
- 4. 地域の青年会や子ども会活動などで関わっている
- 5. 地域の子ども会活動などで関わっている
- 6. 特に関わりがない
- 7. その他(

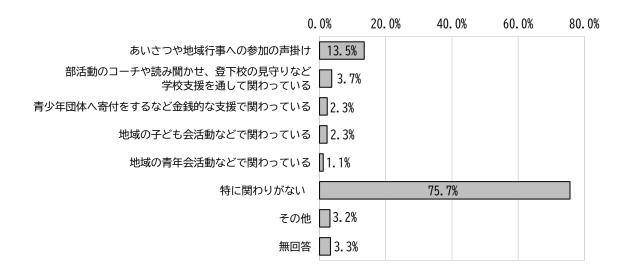
地域の青少年との関わりについて最も多かったのは「あいさつや地域行事への参加の声掛け」で、「特に関りがない」と回答した割合は 75.7%である。

地域の青少年とどのように関わっているかについては、「あいさつや地域行事への参加の声掛け」が 13.5%と最も高く、次いで「部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど学校支援を通して関わっている」が 3.7%、「青少年団体への寄付をするなど金銭的な支援で関わっている」が 2.3%の順となっている。

また、「特に関わりがない」と回答した市民は75.7%と7割以上を占めている。

	選択項目	回答数	割合
1位	あいさつや地域行事への参加の声掛け	179	13.5%
2位	部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど 学校支援を通して関わっている	49	3.7%
3位	青少年団体へ寄付をするなど金銭的な支援で関わっている	31	2.3%
4位	地域の子ども会活動などで関わっている	30	2.3%
5位	地域の青年会や子ども会活動などで関わっている	15	1.1%
_	特に関わりがない	1,003	75.7%
_	その他	42	3.2%
_	無回答	44	3.3%
	合 計	1,393	_
	回答者数	1,325	105.1%

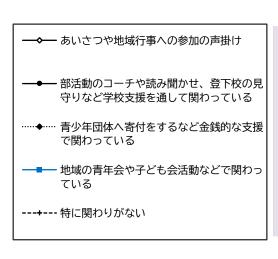
※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

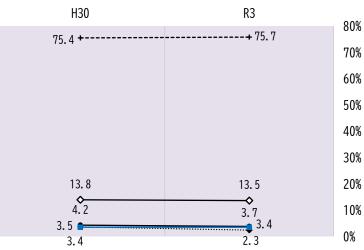


# 【経年変化(平成30年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、大きな変化は見られなかった。

※平成30年度調査では、青年会活動と子ども会活動をあわせて「地域の青年会や子ども会活動などで関わっている」としていた為、令和3年度も合算して集計している。





#### 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・自治会、PTA活動等(9人)
- ・学習支援(3人)

男性-60代-小禄地区・他女性-50代-本庁地区・他



いずれの属性においても「特に関わりがない」の割合が高くなっている。

年代別でみると、30~40代で「部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど学校支援を通して関わっている」の割合が比較的高くなっている。

※■は第1位、							立、■は第2	2位、□は第	3位の項目	
	者属性(n= :(人):下	選択項目 合計) 段(%)	の参加の声掛けあいさつや地域行事へ	で関わっているするなど金銭的な支援青少年団体へ寄付を	通して関わっている見守りなど学校支援を見守りなど学校支援ををした。	で関わっている地域の青年会活動など	どで関わっている い域の子ども会活動な	特に関わりがない	その他	無回答
	男性	(n= 533)	58 10. 9	13 2. 4	20 3.8	8 1. 5	10 1. 9	416 78. 0	16 3. 0	15 2.8
性別	女性	(n= 759)	117 15. 4	17 2. 2	28 3. 7	7 0.9	19 2. 5	562 74. 0	26 3. 4	26 3. 4
	その他/ 回答しない	(n= 8)	1 12.5		-		-	7 87. 5	-	-
	10代	(n= 8)	-	 -	_		-	8 100.0	_	_
	20代	(n= 99)	5 5 <b>.</b> 1	1 1.0	3 3. 0	2 2. 0	-	89 89. 9	2 2. 0	-
	30代	(n= 160)	28 17. 5	4 2. 5	8 5. 0	1 0.6	3 1. 9	121 75. 6	1 0.6	2 1. 3
年代別	40代	(n= 250)	35	2	18	1	11	184	10	2
別	50代	(n= 219)	14. 0 25	0.8	7. 2 8	0.4	4.4	73. 6 167	4.0	0.8
			11. 4 27	2. 7 7	3.7	1.4	1.4	76.3 170	3.7	1. 4 7
	60代	(n= 218)	12. 4 55	3. 2 10	1.8	1.4	0. 9 10	78. 0 245	<b>4.</b> 1	3. 2 27
	70代以上	(n= 344)	16.0	2.9	2.0	1.5	2.9	71.2	3.5	7.8
	本庁	(n= 450)	62 13. 8	11 2. 4	10 2. 2	5 1. 1	7 1. 6	341 75.8	14 3. 1	18 4. 0
地	真和志	(n= 340)	40 11. 8	8 2. 4	13 3. 8	5 1.5	6 1.8	263 77. 4	9 2. 6	12 3. 5
区別	小禄	(n= 223)	22 9. 9	4 1. 8	10 4.5	4 1.8	3 1.3	182 81. 6	7 3. 1	5 2. 2
	首里	(n= 261)	45 17. 2	7 2.7	15 5. 7	1 0.4	12 4. 6	182 69. 7	11 4. 2	5 1. 9
	1年未満	(n= 48)	3 6.3	1	2	1	-	40 83. 3	2 4. 2	-
	1~2年	(n= 63)	6	2. 1	4. 2	2.1	1	54	4. 2	1
居住	3~5年	(n= 117)	9. 5 10	1. 6 1	1.6	1.6 -	1.6	85. 7 94	4	1.6
年数	6~10年	(n= 109)	8. 5 16	0.9	4. 3 5	2	0.9	80. 3 77	3. 4 10	3.4
別			14. 7 25	0.9	4. 6 8	1.8	1.8	70.6 123	9.2	1. 8 7
	11~20年	(n= 169)	14.8	1. 2	4. 7 27	0.6	2. 4	72. 8 596	2. 4	4. 1 27
	21年以上	(n= 793)	116 14. 6	24 3. 0	3.4	10 1.3	2.6	596 75. 2	2.8	3. 4

# (17) 消防行政について

質問 42.あなたは、応急手当(心肺蘇生法及び AED の取扱い)の講習を受けたことがありますか。 次の中から1つお選びください。

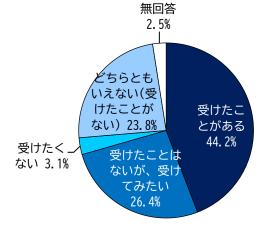
- 1. 受けたことがある
- 3. 受けたくない

- 2. 受けたことはないが、受けてみたい
- 4. どちらともいえない(受けたことがない)

## 応急手当の講習を「受けたことがある」と答えた割合は44.2%である。

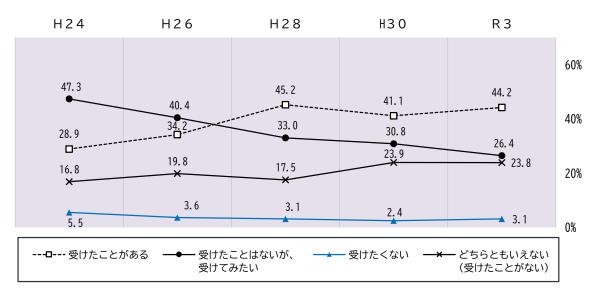
応急手当の講習を受けたことがあるかについては、「受けたことがある」が 44.2%で最も多く、次いで「受けたことはないが受けてみたい」が 26.4%、「どちらとも言えない(受けたことがない)」が 23.8%の順となっている。

選択項目	回答数	%
受けたことがある	585	44.2%
受けたことはないが、 受けてみたい	350	26.4%
受けたくない	41	3.1%
どちらともいえない (受けたことがない)	316	23.8%
無回答	33	2.5%
合 計	1, 325	100%



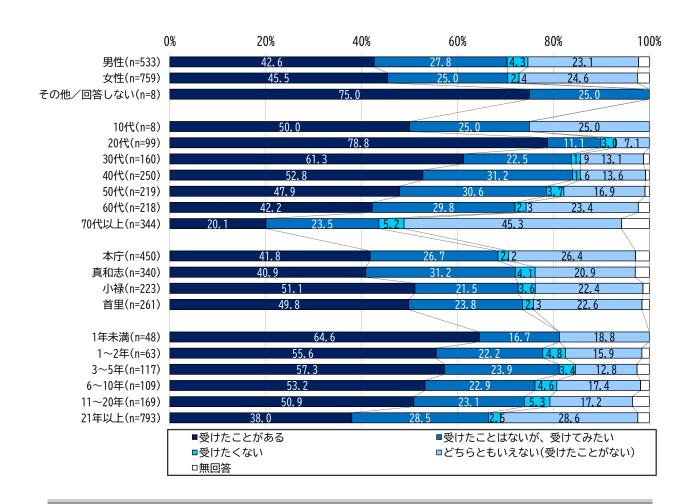
## 【経年変化(平成24年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「受けたことがある」の割合は 3.1 ポイント増加、「受けたことはないが、受けてみたい」の割合は 4.4 ポイント減少している。



性別でみると、女性は男性に比べ、「受けたことがある」の割合が高くなっている。年代別でみると、20代では8割弱の市民が「受けたことがある」と回答している。

回答者属性(n=合計)	選択項目	受けたことが ある	受けてみたい ないが、 ないが、	受けたくない	(受けたことが いえない ない)	無回答
男性	(n= 533)	227	148	23	123	12
女性	(n= 759)	345	190	18	187	19
その他/回答しない	(n= 8)	6	2	0	0	0
10代	(n= 8)	4	2	0	2	0
20代	(n= 99)	78	11	3	7	0
30代	(n= 160)	98	36	3	21	2
40 代	(n= 250)	132	78	4	34	2
50代	(n= 219)	105	67	8	37	2
60代	(n= 218)	92	65	5	51	5
70 代以上	(n= 344)	69	81	18	156	20
本庁	(n= 450)	188	120	10	119	13
真和志	(n= 340)	139	106	14	71	10
小禄	(n= 223)	114	48	8	50	3
首里	(n= 261)	130	62	6	59	4
1年未満	(n= 48)	31	8	0	9	0
1~2年	(n= 63)	35	14	3	10	1
3~5年	(n= 117)	67	28	4	15	3
6~10年	(n= 109)	58	25	5	19	2
11~20年	(n= 169)	86	39	9	29	6
21 年以上	(n= 793)	301	226	20	227	19



# (18) 防災対策について

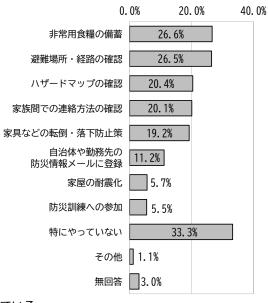
質問 43. あなたが実施している防災対策は何ですか。次の中からあてはまるものを<u>すべて</u>お選び ください。

- 1. 非常用食糧の備蓄
- 3. 避難場所・経路の確認
- 5. 家族間での連絡方法の確認
- 7. 家屋の耐震化
- 9. 特にやっていない
- 2. 家具などの転倒・落下防止策
- 4. ハザードマップの確認
- 6. 防災訓練への参加
- 8. 自治体や勤務先の防災情報メールに登録
- 10. その他(

市民が実施している防災対策について最も多かったのは「非常用食糧の備蓄」で、「特にやっていない」と回答した割合は33.3%である。

市民が実施している防災対策については、「非常用食糧の備蓄」が 26.6%で最も高く、次いで「避難場所・経路の確認」が 26.5%、「ハザードマップの確認」が 20.4%の順となっている。 また、「特にやっていない」と回答した市民は 33.3%で、3割を占めている。

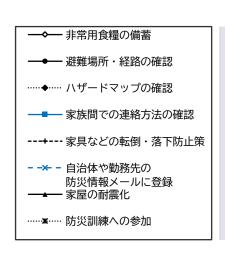
	選択項目	回答数	割合
1位	非常用食糧の備蓄	353	26.6%
2位	避難場所・経路の確認	351	26.5%
3位	ハザードマップの確認	270	20.4%
4位	家族間での連絡方法の確認	266	20.1%
5位	家具などの転倒・落下防止策	255	19.2%
6位	自治体や勤務先の防災情報メー ルに登録	148	11. 2%
7位	家屋の耐震化	75	5 <b>.</b> 7%
8位	防災訓練への参加	73	5 <b>.</b> 5%
_	特にやっていない	441	33.3%
_	その他	15	1.1%
	無回答	40	3.0%
	合 計	2, 287	
	回答者数	1,325	172.6%

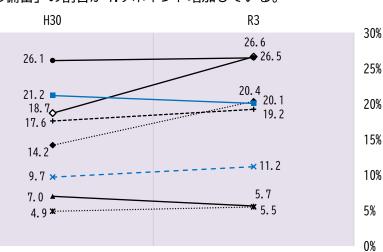


※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

#### 【経年変化(平成24年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「非常用食糧の備蓄」の割合が7.9ポイント増加している。





ほぼすべての属性で「特にやっていない」の割合が最も高くなっている。

居住年数別でみると、1年未満~10年では「非常用食糧の備蓄」の割合が、11年以上では「避難場所・経路の確認」の割合が比較的高い。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性(n=合計) 上段(人):下段(%)			非常用食糧の備蓄	落下防止策家具などの転倒・	避難場所・経路の確認	ハザードマップの確認	連絡方法の確認家族間での	防災訓練への参加	家屋の耐震化	防災情報メールに登録自治体や勤務先の	特にやっていない	その他	無回答
	男性	(n= 533)	132 24. 8	96 18. 0	140 26. 3	111 20.8	88 16.5	33 6. 2	32 6. 0	56 10.5	202 37.9	8 1. 5	16 3. 0
性別	女性	(n= 759)	210 27. 7	155 20. 4	202 26. 6	148 19.5	171 22.5	36 4. 7	40 5.3	90 11.9	228 30.0	7 0. 9	22 2. 9
	その他/ 回答しない	(n= 8)	6 75. 0	3 37.5	2 25. 0	4 50.0	3 37.5	2 25. 0	2 25. 0	2 25.0	2 25.0	- -	-
	10代	(n= 8)	3 37. 5	1 12.5	2 25. 0	1 12.5	4 50.0	-	-	1 12.5	1 12.5	-	-
	20代	(n= 99)	21 21. 2	13 13. 1	26 26.3	16 16. 2	17 17. 2	7 7. 1	2 2. 0	7 7. 1	43 43.4	1 1. 0	1 1. 0
左	30代	(n= 160)	48 30. 0	29 18. 1	37 23 <b>.</b> 1	29 18. 1	32 20.0	9 5. 6	5 3. 1	22 13.8	53 33. 1	- -	2 1. 3
年代別	40代	(n= 250)	82 32. 8	56 22. 4	61 24. 4	55 22.0	56 22.4	5 2.0	13 5. 2	50 20.0	68 27. 2	6 2. 4	2 0.8
,,,	50代	(n= 219)	62 28. 3	41 18. 7	70 32.0	56 25.6	51 23.3	13 5. 9	6 2. 7	41 18. 7	66 30.1	1 0. 5	2 0. 9
	60代	(n= 218)	51 23. 4	44 20. 2	56 25. 7	45 20.6	35 16. 1	14 6. 4	9 4. 1	18 8.3	80 36.7	4 1.8	5 2.3
	70代以上	(n= 344)	81 23. 5	69 20 <b>.</b> 1	91 26. 5	61 17. 7	67 19.5	23 6. 7	39 11.3	9 2.6	121 35. 2	3 0.9	25 7.3
	本庁	(n= 450)	132 29. 3	77 17. 1	116 25.8	91 20. 2	80 17.8	26 5.8	22 4. 9	53 11.8	155 34. 4	6 1.3	17 3. 8
地区	真和志	(n= 340)	90 26. 5	80 23. 5	98 28. 8	70 20. 6	78 22. 9	12 3. 5	26 7. 6	34 10.0	101 29. 7	3 0.9	10 2. 9
区別	小禄	(n= 223)	57 25. 6	43 19.3	63 28. 3	50 22. 4	42 18.8	16 7. 2	10 4.5	27 12. 1	76 34. 1	1 0. 4	4 1.8
	首里	(n= 261)	62 23. 8	48 18. 4	63 24. 1	46 17. 6	60 23. 0	16 6. 1	16 6. 1	34 13. 0	92 35. 2	3 1.1	5 1. 9
	1年未満	(n= 48)	20 41. 7	5 10. 4	9 18.8	8 16. 7	7 14. 6	2 4. 2	-	8 16. 7	17 35. 4	1 2.1	1 2. 1
	1~2年	(n= 63)	23 36. 5	14 22. 2	12 19. 0	14 22. 2	7 11. 1	6 9.5	3 4.8	8 12. 7	18 28. 6	1 1.6	2 3. 2
居住年	3~5年	(n= 117)	43 36. 8	17 14. 5	31 26. 5	27 23. 1	22 18. 8	7 6. 0	4 3. 4	16 13. 7	34 29. 1		4 3. 4
数別	6~10年	(n= 109)	36 33. 0	21 19. 3	27 24. 8	25 22. 9	18 16. 5	2 1.8	5 4. 6	8 7.3	39 35.8	2 1.8	2 1.8
,,,,	11~20年	(n= 169)	34 20. 1	32 18. 9	46 27. 2	35 20. 7	36 21.3	7 4. 1	8 4. 7	31 18.3	50 29.6	4 2. 4	6 3.6
	21年以上	(n= 793)	192 24. 2	165 20. 8	219 27. 6	154 19. 4	172 21. 7	47 5. 9	54 6.8	77 9. 7	273 34. 4	7 0. 9	23 2. 9

## 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・防災グッズの準備(6人)
- ・設備点検(ガスコンロ、消防等)(2人)

男性-40 代-本庁地区・他 女性-70 代以上-本庁地区・他 質問44. あなたが市に特に力を入れてほしい災害対策は何ですか。次の中から<u>3つまで</u>お選びください。

- 1. 非常用食糧の備蓄
- 2. 高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援
- 3. 防災に関するパンフレット・チラシ等の発行・提供
- 4. 避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定
- 5. 地域の防災リーダーの育成・活用
- 6. 防災訓練の充実

)

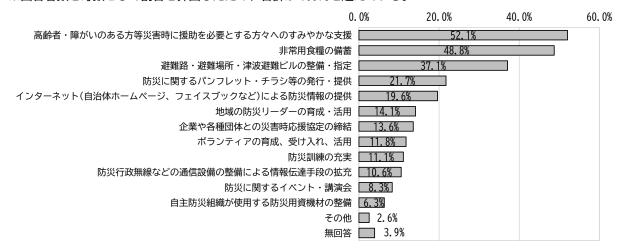
- 7. 防災に関するイベント・講演会
- 8. インターネット(自治体ホームページ、フェイスブックなど)による防災情報の提供
- 9. 防災行政無線などの通信設備の整備による情報伝達手段の拡充
- 10. ボランティアの育成、受け入れ、活用
- 11. 自主防災組織が使用する防災用資機材の整備
- 12. 企業や各種団体との災害時応援協定の締結
- 13. その他(

市民が特に力を入れてほしい災害対策として最も多かったのは「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」である。

那覇市に特に力を入れてほしい災害対策については、「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」が 52.1%で最も高く、次いで「非常用食糧の備蓄」が 48.8%、「避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定」が 37.1%の順となっている。

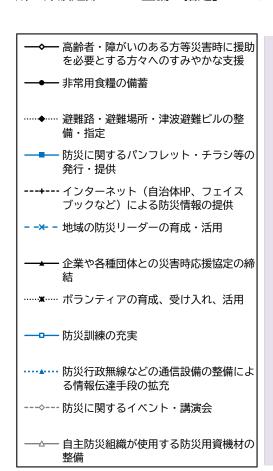
選択項目	回答数	割合
1位 高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援	690	52.1%
2位   非常用食糧の備蓄	646	48.8%
3位 避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定	492	37.1%
4位 防災に関するパンフレット・チラシ等の発行・提供	288	21.7%
5位	260	19.6%
6位 地域の防災リーダーの育成・活用	187	14.1%
7位 企業や各種団体との災害時応援協定の締結	180	13.6%
8位 ボランティアの育成、受け入れ、活用	156	11.8%
9位 防災訓練の充実	147	11.1%
10位 防災行政無線などの通信設備の整備による情報伝達手段の拡充	140	10.6%
11位 防災に関するイベント・講演会	110	8.3%
12 位   自主防災組織が使用する防災用資機材の整備	84	6.3%
— その他	34	2.6%
一 無回答	52	3.9%
合 計	3, 466	
回答者数	1, 325	261.6%

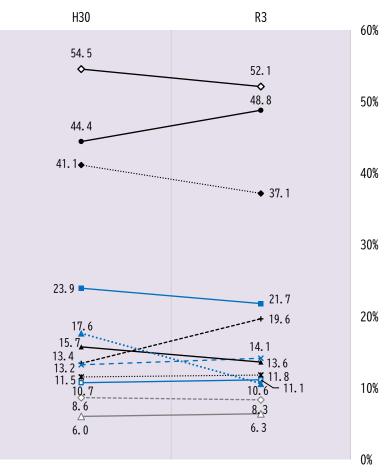
※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



## 【経年変化(平成24年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、「非常用食糧の備蓄」の割合が 4.4 ポイント増加し、「避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定」が 4.0 ポイント減少している。





性別でみると、男性と女性とで大きな差異はみられなかった。

年代別でみると、40代以下では「非常用食糧の備蓄」が、50代以上では「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」の割合が最も高くなっている。

居住年数別でみると、5年以下では「非常用食糧の備蓄」の割合が、6年以上では「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」の割合が最も高くなっている。

										<b>※</b> ■la	第1位	. 🔲 lä	第2位	<u>、                                    </u>	第3位	の項目
	者属性(n=合	非常用食糧の備蓄	方々へのすみやかな支援災害時に援助を必要とする高齢者・障がいのある方等	チラシ等の発行・提供防災に関するパンフレット・	津波避難ビルの整備・指定避難路・避難場所・	地域の防災リーダーの育成・活用	防災訓練の充実	防災に関するイベント・講演会	など)による防災情報の提供ホームページ、フェイスブックインターネット(自治体	は達手段の拡充しの通信設備の	受け入れ、活用ボランティアの育成、	防災用資機材の整備自主防災組織が使用する	災害時応援協定の締結企業や各種団体との	その他	無回答	
	男性	(n= 533)	259 48. 6	246 46. 2	113 21. 2	205 38.5	72 13.5	66 12.4	46 8. 6	102 19.1	67 12.6	58 10. 9	32 6.0	61 11. 4	15 2.8	26 4. 9
性別	女性	(n= 759)	370 48. 7	428 56. 4	165 21.7	277 36. 5	110 14.5	78 10.3	63 8.3	154 20.3	71 9. 4	92 12. 1	50 6.6	115 15. 2	18 2. 4	23 3.0
	その他/ 回答しない	(n= 8)	4 50.0	2 25. 0	2 25. 0	3 37.5	2 25. 0	1 12.5	1 12.5	2 25. 0	-	2 25. 0	-	-	-	_ _
	10代	(n= 8)	4 50. 0	4 50. 0	-	37.5	-	1 12.5	-	37.5	1 12.5	-	1 12.5	2 25. 0	-	_ _
	20代	(n= 99)	53 53. 5	44 44. 4	24 24. 2	48 48. 5	4 4. 0	13 13.1	7 7. 1	28 28.3	8 8.1	5 5. 1	7.1	7.1	2 2. 0	-
	30代	(n= 160)	81 50.6	67 41. 9	29 18. 1	65 40. 6	22	12 7.5	14	59 36.9	22	15 9. 4	13	17 10. 6	4 2.5	3 1.9
年代別	40代	(n= 250)	126 50. 4	119 47. 6	49 19.6	95 38.0	31 12. 4	30 12. 0	20	77 30.8	20	26 10. 4	12 4.8	48 19. 2	8 3.2	4
別	50代	(n= 219)	114 52.1	115 52.5	39 17.8	78 35.6	26 11. 9	19 8. 7	14	51 23.3	29 13. 2	30 13. 7	18	40	6 2.7	5 2.3
	60代	(n= 218)	103	118 54. 1	50 22.9	81	30	26 11.9	28	24	27 12. 4	33 15. 1	12 5. 5	33 15. 1	4	8 3.7
	70代以上	(n= 344)	152 44. 2	207	89	37. 2 115	70	44	26	16	31	43	17	29	9	29
	本庁	(n= 450)	214	60. 2 230	25. 9 105	33. 4 166	20.3 58	12.8 54	7. 6 32	4. 7 110	9. 0 39	12. 5 48	4.9 29	63	2.6	19
地	真和志	(n= 340)	47. 6 173	51. 1 173	70	36. 9 123	12.9	12.0	7.1	24. 4 56	8.7	10.7	6.4	14. 0 45	1.6	12
区別	小禄	(n= 223)	50. 9 110	50. 9 96	20. 6 48	36. 2 94	12 <b>.</b> 1	12. 4 24	7.9	16.5 47	12. 4 22	13. 2 26	7. 1 17	13. 2 22	3. 2	3.5
	首里	(n= 261)	49.3 126	43. 0 161	21.5 49	42. 2 93	13. 9 52	10.8	10.8	21.1	9.9 31	11. 7 31	7. 6 10	9. 9 42	2.7	3. 6 9
	1年未満	(n= 48)	48.3	61. 7	18.8 10	35. 6 20	19.9 3	9.2 2	9. 2 4	16. 9 16	11.9 7	11. 9 7	3.8	16. 1 7	3.4	3.4 1
			50. 0 32	31.3	20.8	41.7	6.3 5	<b>4.</b> 2	8.3 5	33. 3 16	14.6 3	14. 6 3	6.3 5	14.6	2.1	2.1
居	1~2年	(n= 63)	50.8 57	31. 7 52	20.6	49. 2 56	7. 9 16	12. 7 15	7.9	25. 4 31	4.8 14	4.8 9	7. 9 6	12. 7 12	1.6	3.2
居住年数	3~5年	(n= 117)	48. 7 50	44. 4 56	14.5 18	47. 9 38	13.7 15	12.8 12	6.0	26. 5 32	12.0 10	7. 7 10	5.1 11	10.3	5.1	1.7
別	6~10年	(n= 109)	45. 9 82	51. 4 91	16.5 37	34. 9 61	13.8	11.0	7.3	29. 4 46	9. 2	9. 2 18	10.1	14. 7 25	2.8	2.8
	11~20年	(n= 169)	48.5	53. 8 441	21. 9 185	36. 1 279	9. 5 128	12. 4 87	5. 9 76	27. 2 117	11. 2	10. 7 105	4. 1 50	14. 8 108	3. 0 17	4. 1 34
	21年以上	(n= 793)	48.8	55.6	23.3	35. 2	16.1	11.0	9.6	14.8	10.7	13. 2	6.3	13.6	2.1	4.3

## 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・防災無線の整備(10人)
- ・アレルギー体質向けの備蓄(2人)

女性-50 代-真和志地区・他 男性-60 代-本庁地区・他

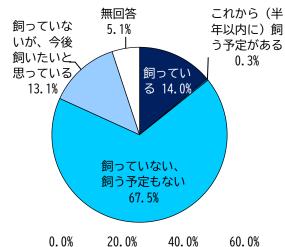
## 質問 45. あなたはペットを飼っていますか。または、これから飼う予定はありますか。 次の中から<u>1つ</u>お選びください。

- 2. これから(半年以内に)飼う予定がある(犬・猫他(\_\_\_\_\_))
- 3. 飼っていない、飼う予定もない
- 4. 飼っていないが、今後飼いたいと思っている

ペットを「飼っている」と答えた割合は 14.0%で、そのうち飼っているペットの種類で最も多いのが「犬」である。

ペットの飼育については、「飼っていない、飼う予定もない」が 67.5%で最も多く、次いで「飼っている」が 14.0%、「飼っていないが、今後飼いたいと思っている」が 13.1%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
飼っている	185	14.0%
これから (半年以内に) 飼う予定 がある	4	0.3%
飼っていない、飼う予定もない	895	67.5%
飼っていないが、今後飼いたいと 思っている	174	13.1%
無回答	67	5.1%
合 計	1, 325	100%



## 【飼っているペットの種類】

TASE OF THE PARTY										
選択項目	回答数	割合								
1位 犬	80	43.2%								
2位 猫	76	41.1%								
3位 その他	40	21.6%								
— 無回答	6	3.2%								
合 計	202	_								
回答者数	185	109.2%								



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

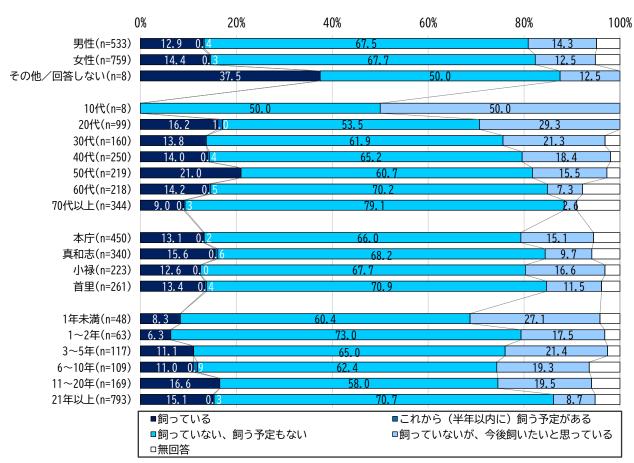
## 【選択肢「その他のペット」の主な内容】

- ・魚(熱帯魚、メダカ)(10人)
- ・ハムスター (9人)
- ·鳥(インコ、文鳥)(7人)

- 男性-40代-本庁地区・他
- 女性-30代-本庁地区・他
- 女性-50 代-小禄地区・他

年代別では、50代で「飼っている」の割合が比較的高くなっている。 居住年数別では、11年以上で「飼っている」の割合が高くなっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	飼っている	内に)飼う予定がある(半年以	飼っ子定もない、	思っている。例のでいないが、	無回答
男性	(n= 533)	69	2	360	76	26
女性	(n= 759)	109	2	514	95	39
その他/回答しない	(n= 8)	3	0	4	1	0
10代	(n= 8)	0	0	4	4	0
20代	(n= 99)	16	1	53	29	0
30代	(n= 160)	22	0	99	34	5
40 代	(n= 250)	35	1	163	46	5
50代	(n= 219)	46	0	133	34	6
60 代	(n= 218)	31	1	153	16	17
70 代以上	(n= 344)	31	1	272	9	31
本庁	(n= 450)	59	1	297	68	25
真和志	(n= 340)	53	2	232	33	20
小禄	(n= 223)	28	0	151	37	7
首里	(n= 261)	35	1	185	30	10
1年未満	(n= 48)	4	0	29	13	2
1~2年	(n= 63)	4	0	46	11	2
3~5年	(n= 117)	13	0	76	25	3
6~10年	(n= 109)	12	1	68	21	7
11~20年	(n= 169)	28	0	98	33	10
21 年以上	(n= 793)	120	2	561	69	41



質問 45-1. 質問 45 で「1. 飼っている」又は「2. これから(半年以内に)飼う予定がある」を選択した方にお伺いします。災害の発生や飼い主自身の疾病等に備えて、ペットのしつけ等の行っていることをすべてお選びください。

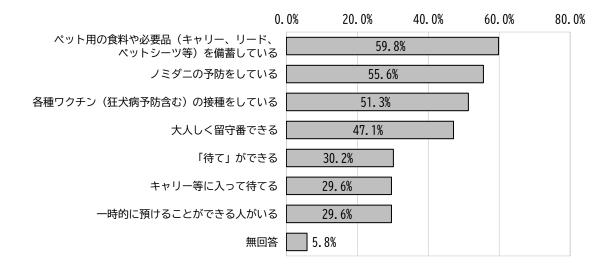
- 1. 「待て」ができる
- 2. 大人しく留守番できる
- 3. キャリー等に入って待てる
- 4. ノミダニの予防をしている
- 5. 各種ワクチン(狂犬病予防含む)の接種をしている
- 6. 一時的に預けることができる人がいる
- 7. ペット用の食料や必要品(キャリー、リード、ペットシーツ等)を備蓄している

災害の発生や飼い主自身の疾病等に備えてペットのしつけなどの行っていることについて最も多かったのは「ペット用の食料や必要品を備蓄している」である。

災害の発生や飼い主自身の疾病等に備えて、ペットのしつけ等の行っていることについては、「ペット用の食料や必要品を備蓄している」が59.8%と最も高く、次いで「ノミダニの予防をしている」が55.6%、「各種ワクチンの接種をしている」が51.3%の順となっている。

	選択項目	回答数	割合
1位	ペット用の食料や必要品(キャリー、リード、ペットシーツ等)を 備蓄している	113	59.8%
2位	ノミダニの予防をしている	105	55.6%
3位	各種ワクチン(狂犬病予防含む)の接種をしている	97	51.3%
4位	大人しく留守番できる	89	47.1%
5位	「待て」ができる	57	30.2%
6位	キャリー等に入って待てる	56	29.6%
_	一時的に預けることができる人がいる	56	29.6%
	合 計	584	
	回答者数	189	309.0%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



【属性別集計(回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】 すべての属性において、「ペット用の食料や必要品を備蓄している」の割合が高くなっており、 あまり大きな違いは見られない。

							※■は第1	位、■は第	2位、 □は第	第3位の項目
	者属性(n=; ;(人):下!	選択項目合計)段(%)	「待て」ができる	大人しく留守番できる	キャリー等に入って	ノミダニの予防を	の接種をしている(狂犬病予防含む)各種ワクチン	できる人がいる一時的に預けることが	を備蓄しているド、ペットシーツ等)は(キャリー、リー いり ペットシーツ等)の パット用の食料や必要	無回答
	男性	(n= 71)	18 25. 4	28 39. 4	15 21. 1	32 45 <b>.</b> 1	34 47.9	16 22. 5	42 59. 2	6 8. 5
性別	女性	(n= 111)	38 34. 2	60 54. 1	40 36. 0	69 62. 2	59 53. 2	39 35. 1	69 62. 2	4 3. 6
	その他/ 回答しない	(n= 3)	- -	- -	-	2 66. 7	2 66. 7	1 33. 3	2 66. 7	1 33. 3
	10代	(n= 0)	- -	- -	-	-	-	-	-	- -
	20代	(n= 17)	7 41. 2	10 58.8	6 35.3	7 41. 2	10 58.8	5 29. 4	10 58.8	1 5. 9
左	30代	(n= 22)	9 40. 9	13 59.1	6 27. 3	10 45. 5	11 50. 0	8 36. 4	14 63.6	2 9. 1
年代別	40代	(n= 36)	7 19. 4	13 36.1	15 41. 7	19 52. 8	18 50. 0	10 27. 8	19 52. 8	1 2. 8
,,,,	50代	(n= 46)	17 37. 0	25 54. 3	17 37. 0	26 56. 5	27 58. 7	15 32. 6	30 65. 2	2 4. 3
	60代	(n= 32)	6 18. 8	12 37. 5	6 18.8	17 53. 1	14 43. 8	9 28. 1	20 62.5	3 9. 4
	70代以上	(n= 32)	10 31.3	15 46.9	5 15.6	24 75. 0	15 46. 9	9 28. 1	20 62.5	2 6. 3
	本庁	(n= 60)	20 33. 3	33 55. 0	17 28. 3	36 60. 0	27 45. 0	22 36. 7	41 68.3	3 5. 0
地区	真和志	(n= 55)	17 30. 9	20 36. 4	13 23. 6	27 49. 1	25 45. 5	15 27. 3	30 54.5	4 7. 3
別	小禄	(n= 28)	7 25. 0	13 46. 4	10 35. 7	17 60. 7	19 67. 9	7 25. 0	15 53. 6	1 3. 6
	首里	(n= 36)	9 25. 0	17 47. 2	12 33. 3	19 52.8	20 55. 6	9 25. 0	21 58. 3	3 8. 3
	1年未満	(n= 4)	3 75. 0	3 75. 0	2 50.0	2 50. 0	2 50. 0	1 25. 0	3 75. 0	-
	1~2年	(n= 4)	1 25. 0	2 50. 0	1	3 75. 0	2 50. 0	1 25. 0	4 100.0	-
居住年	3~5年	(n= 13)	2 15. 4	8 61. 5	7 53. 8	7 53. 8	5 38. 5	3 23. 1	11 84. 6	-
数別	6~10年	(n= 13)	-	4 30.8	3 23. 1	5 38.5	5 38. 5	7 53. 8	9 69. 2	2 15. 4
77.3	11~20年	(n= 28)	6 21. 4	17 60. 7	14 50. 0	15 53. 6	17 60. 7	11 39. 3	15 53. 6	-
	21年以上	(n= 122)	44 36. 1	54 44. 3	29 23. 8	70 57. 4	64 52. 5	33 27. 0	71 58. 2	9 7. 4

## (19) 環境について

質問 46. 資源循環型社会の形成促進のため、本市では、次に掲げるものを資源化物としてリサイクルしています。今後も資源化物としての取り扱いを続けてほしいものを<u>すべて</u>お選びください。

- 1. 紙類
- 2. 布類
- 3. 缶類 (アルミ・スチール)

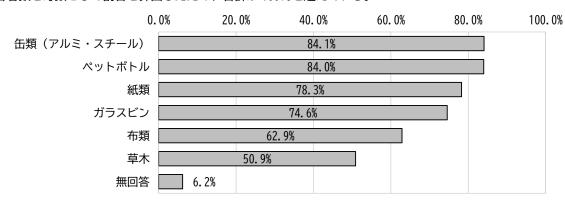
- 4. ガラスビン
- 5. ペットボトル
- 6. 草木

今後も資源化物としての取り扱いを続けてほしいものとして最も多かったものは 「缶類 (アルミ・スチール)」である。

資源循環型社会の形成促進のために、資源化物として取り扱いを続けてほしいものについては、「缶類(アルミ・スチール)」が 84.1%と最も高く、次いで「ペットボトル」が 84.0%、「紙類」が 78.3%の順となっている。

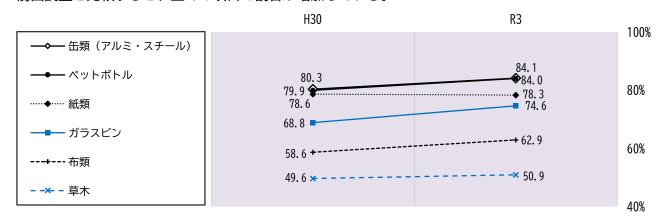
	選択項目	回答数	割合
1位	缶類(アルミ・スチール)	1, 114	84. 1%
2位	ペットボトル	1, 113	84. 0%
3位	紙類	1, 037	78.3%
4位	ガラスビン	988	74.6%
5位	布類	833	62.9%
6位	草木	674	50.9%
_	無回答	82	6.2%
	合 計	5, 841	_
	回答者数	1, 325	440.8%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



#### 【経年変化(平成24年度~令和3年度)】

前回調査と比較すると、全ての項目の割合が増加している。



【属性別集計(回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】 年代別でみると、70代以上で「紙類」、10~30代で「ペットボトル」の割合が最も高くなって いるが、あまり違いは見られない。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

		選択項目					# 1 LL . ■ 16:		
	者属性(n=f	合計)	紙類	布類	缶類 (アルミ・ スチール)	ガラスビン	ペット ボトル	草木	無回答
上段	:(人):下戶	没 (%)							
	男性	(n= 533)	389 73. 0	296 55. 5	437 82.0	378 70. 9	421 79.0	242 45. 4	37 6.9
性別	女性	(n= 759)	622 81.9	518 68. 2	652 85. 9	589 77. 6	663 87. 4	416 54.8	42 5. 5
	その他/ 回答しない	(n= 8)	7 87. 5	6 75. 0	5 62. 5	6 75. 0	8 100.0	5 62 <b>.</b> 5	-
	10代	(n= 8)	4 50. 0	6 75. 0	5 62. 5	4 50. 0	6 75.0	3 37.5	-
	20代	(n= 99)	78 78. 8	57 57.6	77 77.8	69 69. 7	91 91. 9	46 46.5	1 1. 0
_	30代	(n= 160)	123 76. 9	90 56. 3	132 82. 5	117 73. 1	132 82. 5	73 45. 6	9 5 <b>.</b> 6
年代	40代	(n= 250)	190 76. 0	153 61. 2	217 86. 8	194 77. 6	210 84. 0	125 50.0	10 4. 0
別	50代	(n= 219)	175 79. 9	139	194	176	189 86.3	122	9
	60代	(n= 218)	159	63. 5 133	88. 6 181	80. 4 155	176	55. 7 100	4. 1 18
	70代以上	(n= 344)	72. 9 289	61. 0 242	83. 0 287	71. 1 258	80. 7 287	45. 9 194	8. 3 31
	701000		84. 0 344	70.3 270	83. 4 372	75. 0 327	83. 4 380	56. 4 204	9. 0 30
	本庁	(n= 450)	76.4	60.0	82.7	72.7	84.4	45.3	6.7
地	真和志	(n= 340)	261 76.8	215 63. 2	283 83. 2	255 75. 0	274 80. 6	176 51.8	20 5. 9
区別	小禄	(n= 223)	173	135	193	174	192	116	14
			77. 6 221	60. 5 189	86. 5 227	78. 0 202	86. 1 227	52. 0 160	6. 3 12
	首里	(n= 261)	84.7	72.4	87.0	77.4	87.0	61.3	4.6
	1年未満	(n= 48)	34 70.8	30 62.5	40 83.3	37 77. 1	36 75.0	14 29. 2	4 8. 3
	1~2年	(n= 63)	47	37	48	44	47	24	3
居	1,~24	(11- 03)	74.6	58.7	76.2	69.8	74.6	38.1	4.8
住	3~5年	(n= 117)	82 70. 1	58 49. 6	95 81. 2	92 78. 6	99 84. 6	49 41. 9	5 4. 3
年数	6~10年	(n= 109)	83	69	88	80	94	51	8
別	10-	(11 107)	76.1	63.3	80.7	73.4	86.2	46.8	7.3
	11~20年	(n= 169)	133 78. 7	101 59.8	142 84. 0	124 73. 4	138 81. 7	86 50.9	12 7. 1
	21年以上	(n= 793)	638	524	680	595	677	438	47
		(11 173)	80.5	66.1	85.8	75.0	85.4	55.2	5.9

# 質問 47. 地球環境保護のため、あなたが実践していることは何ですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

- 1. 電気の節約 (LED への交換、こまめな消灯など)
- 2. 水の節約(節水コマ、節水シャワーヘッドの利用など)
- 3. いらないもの(レジ袋、ポケットティッシュ、チラシなど)は断る(リフューズ)
- 4. ごみの出る量が少ない製品・食品を買う(リデュース)
- 5. フリーマーケットやリサイクルショップの利用(リユース)
- 6. ごみは分別して再資源化に努める(リサイクル)
- 7. エコドライブの実践
- 8. 公共交通の利用(パークアンドライド含む)
- 9. ノーマイカーデーの実践(相乗り出勤含む)
- 10. 地産地消の実践
- 11. 環境性能に優れた自動車(プラグインハイブリッド車(PHV)・電気自動車(EV)など)の利用
- 12. 太陽光発電の利用
- 13. 太陽熱温水器の利用
- 14. エコキュート・エネファームの利用
- 15. 環境にやさしい製品(簡易包装、紙ストローなど)の選択
- 16. 屋上・壁面等緑化、緑のカーテンの実践
- 17. 省エネタイプの電化製品を利用(買い替えの際は省エネタイプのものを選択)している
- 18. クールビズ (かりゆしウェアの着用、ノーネクタイなど) を実践している

地球環境保護のため実践していることで最も多かったものは「ごみは分別して再 資源化に努める(リサイクル)」で、一人当たりの実践数の平均は 4.48 個である。

#### 【今回調査における目標値の達成状況】

当該調査では、選択個数の総和を、1個も回答しなかった77人(実施個数0とみなす)を含めた1,325人で割り、一人当たりの実践個数を算出した。

前回調査よりも 0.37 個増加しているが、2016年の基準値の5個を下回る結果となった。

#### 1人当たりの実践項目数(平均) =

実践項目の選択総数 5,932 個 ÷ 回答者数 1,325 ≒ 4.48(前回 4.11)

実践項目の 選択個数	回答者数	1人当たり 実践項目数	前回の1人当たり 実施個数	(前回調査比)	基準値			
5,932 個	1,325 人	4.48 個	4.11 個	(+0.37個)	基準値 中間目標値		016年) 022年)	
	2012年 (H24)	2014年 (H26)	2016年 (H28)	2018年 (H30)		21年 R3)	0/19	
							9個	
							7個	
	4.77個	5.42個			4.4	4.48個		
	<b>*</b>		5.18個			•	5個4個	
				4.11個			3個	
							2個	
→ 1人当たり実践個数								

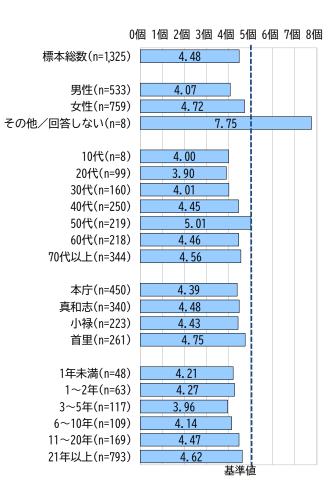
## 【今後の課題】

「目標値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。 ここでは、標本総数の平均実践個数 4.48 個と、属性別の平均実践個数との比較を行った。

■属性別集計表・グラフ(回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く) 性別でみると、女性は男性に比べ、0.65 個多くなっている。

年代別でみると、20代の1人当たりの実践個数が最も少なく、年代が上がるにつれて実践個数が増加する傾向がある。

選択項目	<b>∃</b>	実践個数(個)	実践個数 /人 (個)
標本総数	(n= 1,325)	5, 932	4. 48
男性	(n= 533)	2, 169	4. 07
女性	(n= 759)	3, 579	4. 72
その他/回答しない	(n= 8)	62	7.75
10代	(n= 8)	32	4. 00
20 代	(n= 99)	386	3.90
30代	(n= 160)	642	4. 01
40 代	(n= 250)	1, 112	4. 45
50代	(n= 219)	1,097	5. 01
60代	(n= 218)	972	4. 46
70 代以上	(n= 344)	1,567	4.56
本庁	(n= 450)	1, 974	4. 39
真和志	(n= 340)	1,522	4. 48
小禄	(n= 223)	988	4. 43
首里	(n= 261)	1, 241	4.75
1年未満	(n= 48)	202	4. 21
1~2年	(n= 63)	269	4. 27
3~5年	(n= 117)	463	3.96
6~10年	(n= 109)	451	4. 14
11~20年	(n= 169)	756	4. 47
21 年以上	(n= 793)	3, 664	4. 62



■実践項目の順位(回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)

ここでは、実践項目の多い順からグラフの掲載を行い、経年変化をみるために、前回調査の割 合と共に掲載を行った。

前回の調査と比較すると、「電気の節約」が 12.8 ポイント増加、「省エネタイプの電化製品の利用」が 11.6 ポイント増加、「クールビズの実践」が 11.1 ポイント増加している。

※「フリーマーケットやリサイクルショップの利用(リユース)」は今回調査からの追加項目。



## (20) 新型コロナ感染症の影響について

質問48. 新型コロナの感染予防のためにあなたがしていること、またはこれまでにしてきたことは 何ですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

- マスク着用を徹底する
   手洗い・手指消毒を行う
- 3. 不要不急の外出を控える 4. 会食は少人数(4人以下)かつ短時間(2時間以内)にする
- 5. 感染防止対策を実施している店舗を利用する
- 6.沖縄県内の離島への往来は必要最小限とし来島自粛を求めている離島への往来は自粛する
- 7. 3密(密閉、密集、密接)回避が難しい場所への外出は控える
- 8. 国の緊急事態宣言区域などの感染拡大地域への往来を控える
- 9. 歓送迎会、模合、ビーチパーティ等飲食につながるイベントの開催および参加を自粛する
- 10. その他(
- 11. 新型コロナの感染予防のための行動はとっていない

新型コロナ感染予防のため行っていることで最も多かったのは「マスク着用を徹 底する」である。

新型コロナの感染予防のための対策については、「マスク着用を徹底する」が 94.5%と最も高 く、次いで「手洗い・手指消毒を行う」が 92.1%、「不要不急の外出を控える」が 84.1%の順と なっている。

	選択項目	回答数	割合
1位	マスク着用を徹底する	1, 252	94. 5%
2位	手洗い・手指消毒を行う	1, 220	92. 1%
3位	不要不急の外出を控える	1, 114	84.1%
4位	3密(密閉、密集、密接)回避が難しい場所への外出は控える	1,055	79.6%
5位	歓送迎会、模合、ビーチパーティ等飲食につながるイベントの 開催および参加を自粛する	1,016	76.7%
6位	会食は少人数(4人以下)かつ短時間(2時間以内)にする	905	68.3%
7位	国の緊急事態宣言区域などの感染拡大地域への往来を控える	875	66.0%
8位	沖縄県内の離島への往来は必要最小限とし来島自粛を求めている 離島への往来は自粛する	861	65.0%
9位	感染防止対策を実施している店舗を利用する	661	49.9%
_	その他	90	6.8%
_	新型コロナの感染予防のための行動はとっていない	1	0.1%
	無回答	57	4. 3%
	合 計	9, 107	_
	回答者数	1,325	687.3%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0% 0 0% マスク着用を徹底する 94.5% 92.1% 手洗い・手指消毒を行う 84. 1% 不要不急の外出を控える 3密(密閉、密集、密接)回避が難しい場所への外出は控える 79.6% 歓送迎会、模合、ビーチパーティ等飲食につながるイベントの開催および参加を自粛する 76.7% 68.3% 会食は少人数(4人以下)かつ短時間(2時間以内)にする 国の緊急事態宣言区域などの感染拡大地域への往来を控える 66.0% 沖縄県内の離島への往来は必要最小限とし来島自粛を求めている離島への往来は自粛する 65.0% 感染防止対策を実施している店舗を利用する「 その他 6.8% 新型コロナの感染予防のための行動はとっていない 0.1% 無回答 4.3%

年代別でみると、10代、30~50代で「歓送迎会、模合、ビーチパーティ等飲食につながるイベントの開催および参加を自粛する」の割合が高くなっている。

性別、地区別、居住年数別では、あまり大きな変化は見られない。

13	E別、地	<b>丛</b> 別、居	11土牛安	又万リ ぐに	よ、める	まり入る	さな変	化は見	りれる	:610				
									<b>※</b> ■は	第1位、	■は第2	2位、	は第3位	の項目
	者属性(n=a (人):下		マスク着用を徹底する	手洗い・手指消毒を行	不要不急の外出を控え	間以内)にする下)かつ短時間(2時会食は少人数(4人以	ている店舗を利用する感染防止対策を実施し	往来は自粛するは必要最小限とし来島自は必要最小限とし来島自	への外出は控える 接)回避が難しい場所 3密(密閉、密集、密	の往来を控える国の緊急事態宣言区域	参加を自粛するるイベントの開催およびパーティ等飲食につながいとのはいながいます。	その他	のための行動はとって 新型コロナの感染予防	無回答
	男性	(n= 533)	497 93. 2	474 88. 9	420 78.8	324 60.8	217 40. 7	301 56. 5	399 74. 9	305 57. 2	375 70. 4	26 4. 9	1 0. 2	25 4. 7
性別	女性	(n= 759)	724 95. 4	716 94.3	665 87. 6	557 73. 4	427 56.3	538 70. 9	629 82. 9	549 72.3	614 80. 9	61 8. 0	-	30 4.0
	その他/ 回答しない	(n= 8)	8 100.0	7 87. 5	8 100.0	6 75. 0	50.0	7 87. 5	8 100.0	7 87. 5	8 100. 0	1 12.5	-	-
	10代	(n= 8)	8 100. 0	8 100. 0	6 75. 0	7 87. 5	1 12.5	6 75. 0	7 87. 5	5 62.5	7 87. 5	1 12.5	- -	-
	20代	(n= 99)	99 100. 0	94 94. 9	81 81.8	70 70. 7	53 53.5	68 68. 7	71 71. 7	70 70. 7	79 79. 8	4 4. 0	-	-
_	30代	(n= 160)	151 94. 4	147 91. 9	128 80. 0	108 67. 5	71 44. 4	118 73.8	121 75. 6	103 64. 4	132 82.5	13 8.1	1 0.6	5 3. 1
年代別	40代	(n= 250)	240 96. 0	232 92. 8	206 82. 4	179 71. 6	124 49.6	192 76. 8	211 84. 4	181 72. 4	220 88. 0	17 6. 8	-	6 2.4
נית	50代	(n= 219)	210 95. 9	204 93. 2	193 88. 1	169 77. 2	141 64. 4	163 74. 4	189 86. 3	166 75.8	184 84. 0	15 6. 8	-	5 2.3
	60代	(n= 218)	203 93.1	199 91. 3	176 80. 7	140 64. 2	107 49.1	128 58. 7	177 81. 2	127 58. 3	154 70. 6	14 6. 4	-	14 6. 4
	70代以上	(n= 344)	317 92. 2	312 90. 7	303 88. 1	214 62. 2	150 43.6	171 49. 7	260 75. 6	208 60. 5	221 64. 2	24 7. 0	-	24 7. 0
	本庁	(n= 450)	421 93. 6	415 92. 2	370 82. 2	310 68. 9	235 52. 2	296 65. 8	357 79. 3	288 64. 0	334 74. 2	27 6. 0	-	20 4.4
地	真和志	(n= 340)	319 93.8	307 90.3	291 85. 6	231 67. 9	172 50.6	221 65. 0	273 80. 3	232	260 76. 5	27 7. 9	-	18 5. 3
区別	小禄	(n= 223)	216 96.9	206 92. 4	191 85. 7	152 68. 2	110 49.3	145 65. 0	178 79. 8	145 65. 0	174 78. 0	12 5. 4	1 0.4	5 2. 2
	 首里	(n= 261)	250 95. 8	246 94. 3	225 86. 2	183 70. 1	120 46. 0	171 65. 5	210 80. 5	180 69. 0	213 81. 6	21 8. 0	-	9
	1年未満	(n= 48)	46 95.8	42 87. 5	36 75. 0	33 68. 8	25 52. 1	31 64. 6	37 77. 1	31 64. 6	35 72. 9	2 4. 2	-	2 4.2
	1~2年	(n= 63)	59 93. 7	59 93. 7	51 81. 0	49 77. 8	33 52. 4	44 69. 8	47 74. 6	40 63.5	50 79. 4	1 1.6	-	2 3.2
居住年	3~5年	(n= 117)	115 98.3	108 92.3	98	77. 8 79 67. 5	61 52.1	79 67. 5	89 76. 1	73 62. 4	92 78. 6	9	-	1 0.9
数	6~10年	(n= 109)	98. 3 101 92. 7	92. 3 98 89. 9	83 76.1	77 70.6	50 45.9	77 70.6	86 78. 9	73 67. 0	87 79. 8	11 10.1	_	7 6.4
別	11~20年	(n= 169)	156	153	140	120	83	118	135	120	130	16	1	10
	21年以上	(n= 793)	92.3 751 94.7	90. 5 736 92. 8	82.8 684	71. 0 529 66. 7	49. 1 396 49. 9	69. 8 497 62. 7	79. 9 641 80. 8	71. 0 523	76. 9 603	9. 5 49 6. 2	0.6	5.9 33 4.2
l			94.7	92.8	86.3	00. /	49.9	02. /	00.8	66.0	76. 0	0.2	_	4. 2

## 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・ワクチン接種(23人)
- ・外食をしない(14人)
- ・リモートワーク(5人)

男性-70 代以上-小禄地区·他女性-40 代-真和志地区·他女性-30 代-首里地区·他

質問 49.	新型コロナに関する情報をどこから得ていますか。	次の中からあてはまるものを <u>すべて</u> お
	選びください。	

1. テレビ

2. ラジオ

3. 新聞・雑誌

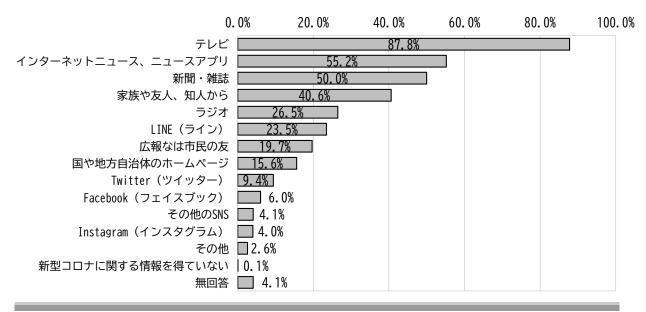
- 4. インターネットニュース、ニュースアプリ
- 5. 国や地方自治体のホームページ
- 6. 広報なは市民の友
- 7. Twitter (ツイッター)
- 8. Facebook (フェイスブック)
- 9. LINE (ライン)
- 10. Instagram (インスタグラム)
- 11. その他の SNS
- 12. 家族や友人、知人から
- 13. その他(\_\_\_\_\_
- 14. 新型コロナに関する情報を得ていない

## 新型コロナに関する情報源として最も多かったのは「テレビ」である。

新型コロナに関する情報源については、「テレビ」が87.8%と最も高く、次いで「インターネットニュース、ニュースアプリ」が55.2%、「新聞・雑誌」が50.0%の順となっている。

	選択項目	回答数	割合
1位	テレビ	1, 163	87. 8%
2位	インターネットニュース、ニュースアプリ	731	55. 2%
3位	新聞・雑誌	662	50.0%
4位	家族や友人、知人から	538	40.6%
5位	ラジオ	351	26.5%
6位	LINE (ライン)	311	23.5%
7位	広報なは市民の友	261	19.7%
8位	国や地方自治体のホームページ	207	15.6%
9位	Twitter (ツイッター)	125	9.4%
10 位	Facebook (フェイスブック)	80	6.0%
11位	その他の SNS	54	4.1%
12位	Instagram (インスタグラム)	53	4.0%
_	その他	34	2.6%
_	新型コロナに関する情報を得ていない	1	0.1%
	無回答	54	4. 1%
	合 計	4, 625	_
	回答者数	1, 325	349.1%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



年代別でみると、50 代以下は「インターネットニュース、ニュースアプリ」の割合が高いが、60 代以上では「新聞・雑誌」の割合が高くなっている。

										*	■は第	91位、	■は質	<b>第2位、</b>	<b>□</b> は	第3位0	の項目
	者属性(n=合		テレビ	ラジオ	新聞·雑誌	ニュース、ニュース	ホームページ国や地方自治体の	広報なは市民の友	T witter	(フェイスブック) Facebook	LINE (ライン)	Instagram (インスタグラム)	その他のSNS	知人から家族や友人、	その他	情報を得ていない新型コロナに関する	無回答
	男性	(n= 533)	468 87.8	159 29. 8	283 53. 1	290 54. 4	77 14. 4	78 14. 6	47 8.8	36 6. 8	99 18. 6	21 3. 9	24 4. 5	166 31.1	11 2. 1	1 0. 2	22 4. 1
性別	女性	(n= 759)	665 87. 6	180 23. 7	364 48. 0	423 55. 7	125 16. 5	179 23. 6	78 10.3	44 5. 8	208 27. 4	31 4. 1	30 4. 0	356 46. 9	23 3. 0	-	30 4. 0
	その他/ 回答しない	(n= 8)	7 87. 5	25.0	37.5	8	1 12. 5	1 12.5	-	-	25.0		-	37.5	-	-	-
	10代	(n= 8)	6 75. 0	-	25.0	8 100.0	-	12.5	3 37. 5	1 12.5	37.5	1 12.5	-	4 50. 0		-	-
	20代	(n= 99)	80 80.8	9 9.1	21 21. 2	69 69. 7	16 16. 2	3.0	32 32.3	7.1	45 45. 5	9.1	3.0	42 42. 4	5 5. 1	-	-
	30代	(n= 160)	134 83.8	17 10.6	50 31. 3	133	23	15 9.4	37 23. 1	18	46 28. 7	18	11 6. 9	53	3 1.9	1 0.6	5 3.1
年代	40代	(n= 250)	215 86. 0	54 21.6	80 32. 0	196 78. 4	56 22. 4	34 13. 6	23	25 10. 0	85 34. 0	15 6. 0	16 6. 4	87 34.8	8	-	5 2.0
別	50代	(n= 219)	192 87. 7	68	106 48. 4	157 71. 7	43	46 21. 0	17 7.8	19 8. 7	61 27.9	6 2.7	10 4. 6	98 44. 7	5 2.3	-	6 2.7
	60代	(n= 218)	197 90. 4	72 33. 0	140 64. 2	93	28	51 23. 4	8	6 2.8	37 17. 0	3	5 2.3	91 41. 7	3	-	14
	70代以上	(n= 344)	315 91.6	121 35. 2	251 73. 0	65	37 10. 8	108	5	4	32 9.3	-	9 2.6	150 43. 6	10 2.9	-	21
	本庁	(n= 450)	382 84.9	106 23. 6	205 45. 6	255 56. 7	75 16. 7	70 15. 6	38 8.4	28	105	18 4. 0	19 4. 2	174 38. 7	14	1 0. 2	19 4. 2
地	真和志	(n= 340)	300	100	174	190	48	75	35	14	90	13	16	157	6	- 0. 2	16
区別	小禄	(n= 223)	88. 2 202	29. 4 54	106	55. 9 132	14. 1 36	39	10.3	4. 1 16	26. 5 48	3.8	4.7	46. 2 83	1.8	-	4. 7 6
	 首里	(n= 261)	90.6	24. 2 76	47. 5 156	59. 2 134	16. 1 42	17. 5 67	12.1 24	7. 2	21.5	4.0	3.1	37. 2 105	2.2	-	2.7
	1年未満	(n= 48)	89.3 41	29.1	59. 8 15	51.3	16.1	25. 7 3	9.2	8.0	24.5	4.2	2	13	3.4	-	3.1
	1~2年	(n= 63)	85. 4 52	16.7	31.3	75. 0 44	16. 7 7	6.3	8	4.2	18.8	4.2	4. 2	27. 1	2.1	-	4. 2
居住	3~5年	(n= 117)	82.5 94	14.3	31. 7	69.8	23	9.5	12.7	13	25 <b>.</b> 4	3.2	1.6	30. 2	3.2	-	3. 2
年数	6~10年	(n= 109)	80.3 88	12.8 16	29. 1 29	71.8 78	19. 7 16	13. 7 9	12. 0 12	11. 1 7	29. 1 25	6.8 5	5. 1 4	34. 2 30	2.6	1	0.9
別	11~20年	(n= 169)	80. 7 141	14. 7 38	26. 6 73	71. 6 116	14. 7 32	8. 3 29	11. 0 22	6. 4 16	22. 9 51	4. 6 9	3. 7 7	27. 5 65	3.7	0.9	6.4
	-		83. 4 723	22. 5 255	43. 2 479	68. 6 363	18. 9 117	17. 2 195	13.0	9. 5 39	30. 2 174	5. 3 26	4. 1 34	38. 5 357	5. 3 15	-	4. 7 32
	21年以上	(n= 793)	91.2	32.2	60.4	45.8	14.8	24.6	8.1	4.9	21.9	3.3	4.3	45.0	1.9	-	4.0

## 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・職場(7人)
- ・医療従事者(14人)
- ・施設の職員(5人)

男性-40 代-真和志地区・他 女性-50 代-本庁地区・他 女性-70 代以上-本庁地区・他 質問 50. 新型コロナの感染拡大以降、利用頻度が増えたオンライン活動は何ですか。次の中からあ てはまるものを<u>すべて</u>お選びください。

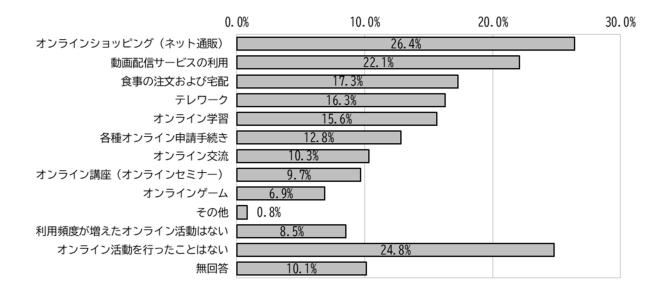
- 1. テレワーク
- 3. オンラインショッピング(ネット通販)
- 5. オンライン交流
- 7. 各種オンライン申請手続き
- 9. 動画配信サービスの利用
- 11. 利用頻度が増えたオンライン活動はない 12. オンライン活動を行ったことはない
- 2. オンライン学習
- 4. 食事の注文および宅配
- 6. オンライン講座(オンラインセミナー)
- 8. オンラインゲーム
- 10. その他(\_\_

新型コロナの感染拡大以降、利用頻度が増えたオンライン活動で最も多かったの は「オンラインショッピング(ネット通販)」である。

新型コロナの感染拡大以降、利用頻度が増えたオンライン活動については、「オンラインショッ ピング(ネット通販)」が 26.4%と最も高く、次いで「動画配信サービスの利用」が 22.1%、「食 事の注文および宅配」が17.3%の順となっている。

	選択項目	回答数	割合
1位	オンラインショッピング(ネット通販)	350	26.4%
2位	動画配信サービスの利用	293	22. 1%
3位	食事の注文および宅配	229	17. 3%
4位	テレワーク	216	16.3%
5位	オンライン学習	207	15.6%
6位	各種オンライン申請手続き	170	12.8%
7位	オンライン交流	137	10.3%
8位	オンライン講座(オンラインセミナー)	128	9.7%
9位	オンラインゲーム	91	6.9%
_	その他	11	0.8%
	利用頻度が増えたオンライン活動はない	113	8.5%
_	オンライン活動を行ったことはない	329	24.8%
	無回答	134	10.1%
	合 計	4, 625	_
	回答者数	1, 325	349.1%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



性別でみると、男性は「オンライン活動を行ったことはない」の割合が最も高く、女性は「オンラインショッピング(ネット通販)」の割合が最も高くなっている。

年代別でみると、50代以下で「オンラインショッピング(ネット通販)」の割合が最も高く、60代以上で「オンライン活動を行ったことはない」の割合が最も高くなっている。

									*	■は第1	□位、□	は第2	位、	は第3位	で項目
	者属性(n=合		テレワーク	オンライン学習	ング (ネット通販)オンラインショッピ	食事の注文および 宅配	オンライン交流	ンラインセミナー)オンライン講座(オ	各種オンライン申請	オンラインゲーム	利用 利用	その他	ンライン活動はない利用頻度が増えたオ	行ったことはないオンライン活動を	無回答
	男性	(n= 533)	100 18.8	64 12.0	112 21. 0	82 15. 4	52 9. 8	48 9. 0	66 12. 4	44 8. 3	114 21. 4	5 0.9	49 9. 2	143 26. 8	57 10.7
性別	女性	(n= 759)	112 14.8	139 18.3	225 29.6	142 18. 7	80 10.5	79 10. 4	101 13.3	42 5. 5	171 22. 5	5 0. 7	62 8. 2	180 23. 7	71 9. 4
	その他/ 回答しない	(n= 8)	2 25.0	-	4 50.0	1 12.5	3 37. 5	1 12.5	1 12.5	3 37. 5	1 12.5	1 12.5	-	-	- -
	10代	(n= 8)	-	4 50.0	3 37. 5	2 25. 0	2 25. 0	2 25. 0	2 25. 0	2 25. 0	4 50. 0	1 1	-	1 1	_ _
	20代	(n= 99)	31 31.3	30 30.3	43 43.4	33 33.3	12 12.1	14 14. 1	15 15. 2	18 18. 2	39 39.4	-	8 8. 1	2 2. 0	2.0
年	30代	(n= 160)	44 27. 5	35 21.9	70 43.8	48 30.0	22 13. 8	20 12.5	35 21.9	25 15. 6	67 41. 9	4 2.5	12 7. 5	7 4. 4	5 3.1
年代別	40代	(n= 250)	63 25. 2	75 30.0	92 36.8	53 21. 2	34 13. 6	38 15. 2	50 20.0	29 11. 6	75 30. 0	1 0.4	32 12.8	22 8.8	7 2.8
	50代	(n= 219)	36 16.4	30 13. 7	75 34. 2	40 18. 3	23 10. 5	31 14. 2	39 17. 8	12 5. 5	53 24. 2	-	18 8. 2	46 21. 0	10 4.6
	60代	(n= 218)	19 8. 7	18 8.3	32 14. 7	24 11. 0	24 11. 0	12 5. 5	21 9. 6	3 1. 4	22 10. 1	1 0. 5	26 11. 9	82 37. 6	25 11.5
	70代以上	(n= 344)	21 6. 1	11 3. 2	26 7.6	25 7. 3	18 5. 2	11 3. 2	6 1. 7	1 1	25 7. 3	5 1. 5	15 4. 4	164 47. 7	78 22. 7
	本庁	(n= 450)	82 18. 2	71 15. 8	129 28. 7	83 18. 4	51 11. 3	42 9. 3	57 12. 7	34 7. 6	96 21. 3	4 0. 9	39 8. 7	98 21. 8	45 10.0
地区	真和志	(n= 340)	46 13.5	49 14. 4	81 23.8	66 19. 4	39 11.5	28 8. 2	46 13. 5	17 5. 0	64 18.8	5 1.5	31 9. 1	90 26. 5	35 10.3
別	小禄	(n= 223)	40 17. 9	32 14. 3	61 27. 4	34 15. 2	15 6. 7	21 9. 4	29 13. 0	23 10. 3	64 28. 7	2 0.9	19 8. 5	57 25. 6	17 7. 6
	首里	(n= 261)	45 17. 2	48 18. 4	63 24. 1	40 15. 3	28 10. 7	34 13. 0	34 13. 0	12 4. 6	56 21.5	-	19 7. 3	72 27. 6	26 10.0
	1年未満	(n= 48)	12 25. 0	9 18.8	17 35. 4	8 16. 7	9 18.8	4 8. 3	11 22. 9	9 18. 8	18 37. 5	1 2.1	4 8. 3	3 6. 3	2 4. 2
	1~2年	(n= 63)	14 22. 2	13 20.6	22 34. 9	16 25. 4	9 14. 3	6 9.5	11 17. 5	10 15. 9	18 28. 6	-	9 14. 3	6 9. 5	3 4.8
居住年	3~5年	(n= 117)	33 28. 2	26 22. 2	47 40. 2	32 27. 4	13 11. 1	23 19. 7	23 19. 7	12 10.3	38 32. 5	-	14 12. 0	11 9. 4	5 4.3
数別	6~10年	(n= 109)	27 24. 8	19 17. 4	35 32.1	20 18. 3	16 14. 7	15 13.8	15 13.8	4 3. 7	25 22. 9	3 2.8	9 8. 3	15 13. 8	10 9. 2
איי	11~20年	(n= 169)	37 21. 9	43 25. 4	58 34.3	36 21.3	15 8. 9	25 14. 8	28	21	41 24.3	1 0.6	11 6. 5	29 17. 2	13 7.7
	21年以上	(n= 793)	91 11.5	93 11. 7	162 20. 4	113 14. 2	73 9. 2	55 6. 9	80 10. 1	33 4. 2	146 18. 4	6 0.8	64 8. 1	259 32. 7	94

## 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・オンライン会議(2人)
- ・オンライン納税

女性-30 代-本庁地区・他 女性-40 代-真和志地区

#### (21) その他

質問 51. 近年、外国人市民が増えていますが、日本人市民と外国人市民がともに暮らしやすい社会にしていくためには、どのような取り組みに力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

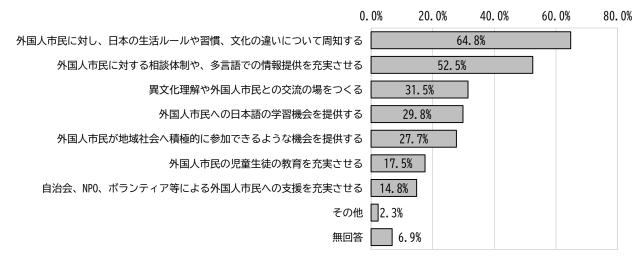
- 1. 外国人市民に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いについて周知する
- 2. 外国人市民に対する相談体制や、多言語での情報提供を充実させる
- 3. 外国人市民への日本語の学習機会を提供する
- 4. 外国人市民の児童生徒の教育を充実させる
- 5. 異文化理解や外国人市民との交流の場をつくる
- 6. 外国人市民が地域社会へ積極的に参加できるような機会を提供する
- 7. 自治会、NPO、ボランティア等による外国人市民への支援を充実させる
- 8. その他(

日本人市民と外国人市民がともに暮らしやすい社会にしていくために力を入れるべきだと思う取り組みとして最も多かったのは「外国人市民に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いについて周知する」である。

日本人市民と外国人市民がともに暮らしやすい社会にしていくために必要な取組については、「外国人市民に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いについて周知する」が 64.8%と最も高く、次いで「外国人市民に対する相談体制や、多言語での情報提供を充実させる」が 52.5%、「異文化理解や外国人市民との交流の場をつくる」が 31.5%の順となっている。

	選択項目	回答数	割合
1位	外国人市民に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いについて 周知する	858	64.8%
2位	外国人市民に対する相談体制や、多言語での情報提供を充実させる	695	52.5%
3位	異文化理解や外国人市民との交流の場をつくる	417	31.5%
4位	外国人市民への日本語の学習機会を提供する	395	29.8%
5位	外国人市民が地域社会へ積極的に参加できるような機会を提供する	367	27. 7%
6位	外国人市民の児童生徒の教育を充実させる	232	17. 5%
7位	自治会、NPO、ボランティア等による外国人市民への支援を充実させる	196	14.8%
_	その他	30	2.3%
_	無回答	91	6.9%
	合 計	3, 281	
	回答者数	1,325	247.6%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



居住地区別でみると、小禄地区は「外国人市民が地域社会へ積極的に参加できるような機会を提供する」の割合が高くなっている。

居住年数別でみると、11年以上は「外国人市民への日本語の学習機会を提供する」の割合が高くなっている。

選択項目 選択項目 と 大の支援を充実させる	自台会、NPO、ボ	無回答
知す文日   でます   す本   で生   く人   るよ社   さ出   でき   でき   でも   でき   でも   でも   でも   でも	だ ラ ン	
<del>第性 (n= 533) 68.3 48.6 31.9 17.3 31.1 25.3 13</del>		36 6.8
別 久性 (n= /59) 62.1 55.3 28.2 17.7 31.5 29.2 15		53 7. 0
その他/ (n= 8) 7 4 3 1 3 2 回答しない (n= 8) 87.5 50.0 37.5 12.5 37.5 25.0 12	. 1	_
10代 (n= 8) 4 5 2 - 2 2 2 2 2 3 12 3 12 3 12 3 12 3 12	1   - .5   -	12.5
20代 (n= 99) 63 55 28 15 26 23 15.2 26.3 23.2 13	13 1 1.0	3.0
30代 (n= 160) 98 94 30 31 67 42 163 166 13 58 8 18 8 19 4 41 9 26 3 16	26 2	1 0.6
年 代 40代 (n= 250) 158 128 69 53 91 65	40 10	7 2.8
50/4 (p= 210) 149 132 71 36 70 68	25 5	10
	34 3	4. 6
70.6 54.6 33.3 17.0 28.4 27.5 15 70.42 N b (p= 244) 215 150 108 55 89 98	55 8	6. 4 53
62.5 43.6 31.4 16.0 25.9 28.5 16	58 10	15. 4 38
00. 4 53. 0 28. 7 14. 0 29. 0 20. 4 12	.9 <u>2.2</u> 47 7	8.4
型 其相応 (N= 340) 63.5 51.5 32.9 17.4 30.9 27.4 13	. 8 2. 1 38 1	7. 6 11
/小标 (n= 223) 66. 4 50. 2 26. 5 23. 3 28. 7 29. 6 17		4. 9
自里	. 6 3. 4	4.6
1年未満     (n= 48)     27     19     9     7     18     11       56.3     39.6     18.8     14.6     37.5     22.9     18	9 4 8.3	3 6.3
1~2年 (n= 63) 36 35 20 11 23 13 13 17 17.5 36.5 20.6 12	8 3 4.8	3. 2
	12 -	6.8
年数 別 6~10年 (n= 109) 63 59 23 23 39 28 57.8 54.1 21.1 21.1 35.8 25.7 17	19 3	4 3.7
	24 4	11 6.5
	22 16	61 7.7

## 【選択肢「その他」の主な内容】

- ・お互いの文化の周知・理解(7人)
- ・ゴミ分別の多言語化

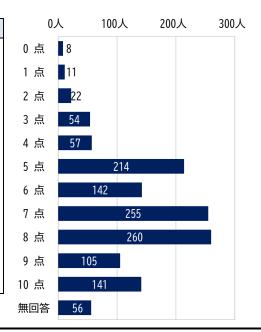
男性-40 代-本庁地区・他 女性-50 代-首里地区 質問 52. 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになりますか。あてはまる点数を、次の中から1つお選びください。とても不幸とても本せの点 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10点

## 市民の平均幸せ度数は10点満点中6.77点である。

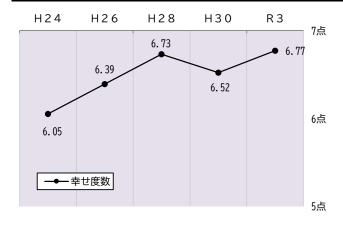
当該質問による平均点は、次の式により算出した。

那覇市民の平均幸せ度数は 6.77 点となった。今回の回答では「8点」をつけた 260 人が最も多く、次いで「7点」をつけた 255 人、「5点」をつけた 214 人の順となっている。

選択項目	回答者数	各点数計	有意回答数	平均点
0 点	8人	0点		
1 点	11人	11点		
2 点	22 人	44 点		
3 点	54 人	162 点		
4 点	57人	228 点		
5 点	214人	1,070点		
6 点	142 人	852 点	1,269人	6.77点
7 点	255 人	1,785点		
8 点	260 人	2,080点		
9 点	105人	945 点		
10 点	141 人	1,410点		
無回答	56 人	_		
計	1,325人	8,587点		



#### 【経年変化(平成24年度~令和3年度)】

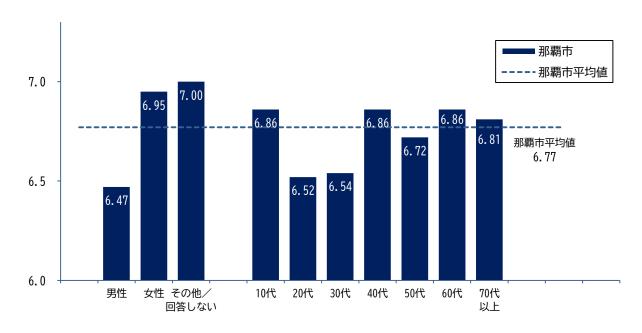


前回調査と比較すると、幸せ度数は、0.25ポイント増加し、過去4回の調査と比較すると、最も高い数字となっており、依然高い水準を維持している。

那覇市民の幸せ度数を前回調査と比較すると、年代別では30代、居住年数別では1~2年、11~20年が前回調査を下回ったが、その他の属性で前回調査を上回る結果となった。

市民の幸せ度数を、性別、年代別にみると、性別では男性、年代別では 20 代、30 代、50 代で那覇市の平均以下となっている。

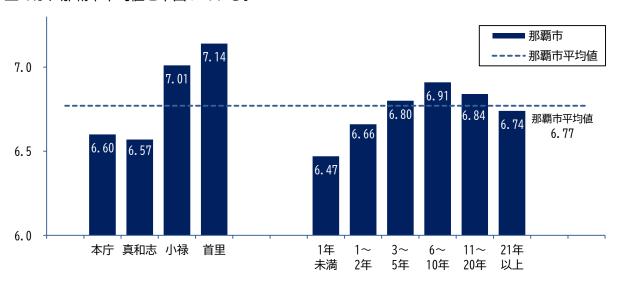
回答者属性(n=合	選択項目	O 点	1点	2点	の点	4点	5点	6点	7点	必点	9点	10 点	無回答	今回平均值	那覇市平均値 平成30年
男性	(n= 533)	6	5	11	32	27	98	53	105	92	30	54	20	6.47	6.37
女性	(n= 759)	2	6	11	22	30	111	85	142	161	70	85	34	6.95	6.64
その他/回答しない	(n= 8)	0	0	0	0	0	1	3	1	1	2	0	0	7.00	
10代	(n= 8)	0	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	6.86	6.63
20代	(n= 99)	2	3	0	7	3	14	9	29	15	4	12	1	6.52	6.46
30代	(n= 160)	1	2	4	9	11	25	19	30	30	14	15	0	6.54	6.56
40 代	(n= 250)	1	3	6	13	10	35	22	52	52	14	38	4	6.86	6.49
50代	(n= 219)	3	2	6	9	9	34	25	28	58	23	18	4	6.72	6.61
60代	(n= 218)	0	0	4	6	10	37	23	46	44	13	24	11	6.86	6.54
70 代以上	(n= 344)	1	1	2	9	14	64	42	60	54	33	31	33	6.81	6.45
本庁	(n= 450)	2	3	10	24	23	65	55	90	87	30	38	23	6.60	6.60
真和志	(n= 340)	3	3	4	13	19	63	46	63	51	24	34	17	6.57	6.50
小禄	(n= 223)	2	2	2	10	2	42	18	40	47	20	33	5	7.01	6.54
首里	(n= 261)	1	3	2	6	12	33	22	52	63	27	34	6	7.14	6.51
1年未満	(n= 48)	0	1	2	2	3	7	6	8	8	3	5	3	6.47	6.00
1~2年	(n= 63)	1	0	2	0	3	10	8	16	13	4	4	2	6.66	6.75
3~5年	(n= 117)	0	1	3	5	5	24	7	20	24	8	16	4	6.80	6.67
6~10年	(n= 109)	1	2	2	7	2	11	13	21	22	12	14	2	6.91	6.82
11~20年	(n= 169)	0	2	5	9	7	25	15	25	36	14	23	8	6.84	6.95
21 年以上	(n= 793)	6	5	8	31	37	132	92	158	151	61	77	35	6.74	6.45



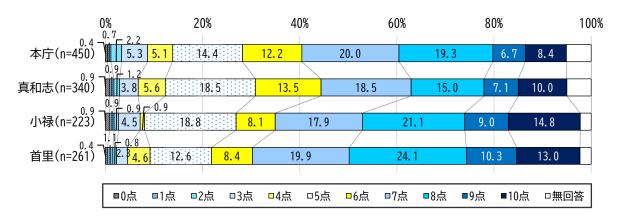
那覇市平均値と、居住地区、居住年数の平均値との比較を行った。

居住地区でみると、首里地区が最も高く、那覇市平均値を 0.37 ポイント上回っている。那覇市の平均値を下回ったのは、本庁地区と真和志地区で、那覇市平均値との差は、本庁地区で 0.17 ポイント、真和志地区で 0.20 ポイントとなっている。

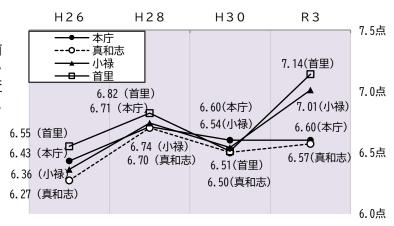
居住年数では、最も幸せ度数が高いのは、6~10年となっており、居住年数3年未満、21年以上では、那覇市平均値を下回っている。



属性を居住地区に絞り、点数の割合を確認したところ、本庁地区は「7点」をつけた市民の割合が最も高く、真和志地区では「5点」と「7点」をつけた市民の割合が最も高く、小禄地区、首里地区では「8点」をつけた市民の割合が最も高い。



居住地区ごとの経年変化をみると、前回調査で、首里地区の幸せ度数が前回調査と比べて 0.63 ポイント増加し最も高くなった。小禄地区も前回調査と比べて、0.47 ポイント増加している。



質問52-1. 新型コロナ感染症が幸福感に影響していますか。次の中から1つお選びください。

- 1. 影響している
- 2. やや影響している
- 3. さほど影響していない

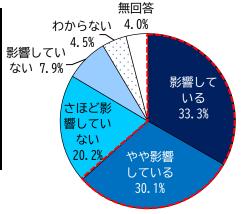
- 4. 影響していない
- 5. わからない

新型コロナ感染症が幸福感に「影響している」市民は 63.4%。「影響していない」 市民は 28.1%。

新型コロナ感染症が幸福感に影響しているかについては、「影響している」が 33.3%で最も多く、次いで「やや影響している」が 30.1%、「さほど影響していない」が 20.2%の順となっている。

「影響している」と「やや影響している」の合計が 63.4%に対し、「さほど影響していない」と「影響していない」の合計が 28.1%であり、新型コロナ感染症に対して、幸福感に「影響している」市民の方が多いことが伺える。

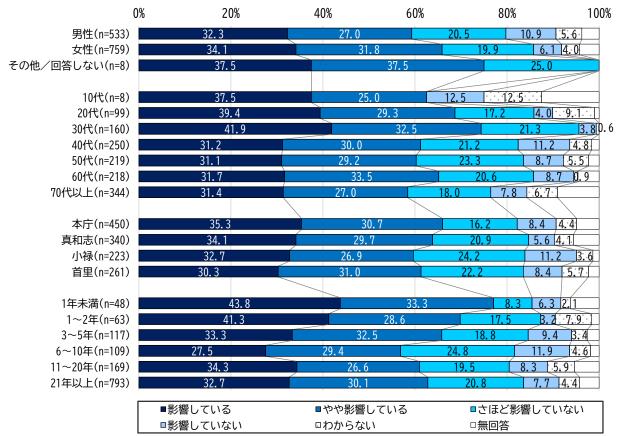
選択項目	回答数	割合
影響している	441	33.3%
やや影響している	399	30.1%
さほど影響していない	267	20.2%
影響していない	105	7.9%
わからない	60	4.5%
無回答	53	4.0%
合 計	1, 325	100%



年代別では、10代から30代まで「影響している」と「やや影響している」の合計の割合が他の世代と比較して高くなっている。

居住年数別でみると、2年以下で「影響している」の割合が高くなっている。

回答者属性(n=合言	\	影響している	している 響	していない	影響していない	わからない	無回答
男性	(n= 533)	172	144	109	58	30	20
女性	(n= 759)	259	241	151	46	30	32
その他/回答しない	(n= 8)	3	3	2	0	0	0
10代	(n= 8)	3	2	0	1	1	1
20代	(n= 99)	39	29	17	4	9	1
30代	(n= 160)	67	52	34	6	1	0
40代	(n= 250)	78	75	53	28	12	4
50代	(n= 219)	68	64	51	19	12	5
60代	(n= 218)	69	73	45	19	2	10
70 代以上	(n= 344)	108	93	62	27	23	31
本庁	(n= 450)	159	138	73	38	20	22
真和志	(n= 340)	116	101	71	19	14	19
小禄	(n= 223)	73	60	54	25	8	3
首里	(n= 261)	79	81	58	22	15	6
1年未満	(n= 48)	21	16	4	3	1	3
1~2年	(n= 63)	26	18	11	2	5	1
3~5年	(n= 117)	39	38	22	11	4	3
6~10年	(n= 109)	30	32	27	13	5	2
11~20年	(n= 169)	58	45	33	14	10	9
21 年以上	(n= 793)	259	239	165	61	35	34



質問 52-2. 上記質問で「1」または「2」を選択した方に伺います。幸福感に影響を及ぼした要因について、ご記入をお願いします。

有効回答は716件、大まかな内訳は新型コロナウイルス感染症による社会変化への不安、外出自粛・行動制限への不満、交友関係の縮小、仕事への影響や収入の減少などに分類できる。代表的な回答は以下のとおり。

#### [新型コロナウイルス感染症による社会変化への不安]

- ・遠距離に住む肉親の死に目に立ち会えないかもしれないという不安がある。(女性・50代)
- ・一人暮らしなので感染への不安が増した。(女性・60代)
- ・日常生活が制限され、精神的なストレスが多く、心が折れそうである。(女性・70代以上)

#### [外出自粛・行動制限への不満]

- ・外出が出来ない、運動不足、自粛生活が長いため健康に影響あり。(女性・70代以上)
- ・すべての行動に制限のある状態では幸福感は少ない。(女性・70代以上)
- ・転勤してきたが、交際相手と会うことも困難であるほか、気分転換として遊びに行こうにも制限が多く遊べない。その一方で宣言下でも観光客が多いことに納得できない。(男性・20代)

#### 〔交友関係の縮小〕

- ・外出機会が少なく友人同士の交流がなくなった。(女性・60代)
- ・友人などと気軽に会えなくなり、ストレスなどを感じている。(女性・70代以上)
- ・友人、親族など会う機会が減った。活動ができない。(女性・70代以上)
- ・家族や友達と気楽に会うことができない。出かけることができない。仕事に影響すると迷惑がかかるので頑張って自粛しているのに、なぜ中々コロナが減らないのは、なぜか。(女性・20代)

#### [仕事への影響や収入の減少]

- ・周りの人達との接点がなくなり仕事にも影響が出て来ている。(男性・50代)
- ・仕事の業務量が減少した。(女性・30代)
- ・テレワークの日がほとんどなので対人のストレスがない。(男性・30代)
- ・仕事を退職することになった。コロナ下で積極的な仕事探しもできず、感染するのがこわくて外出を控えており、引きこもり状態。人生計画も変わり、急にこれからの人生を考えないといけない事になり毎日が不安です。(女性・50代)

質問53. その他、那覇市の市政に関するご意見やご提言があれば、ご記入をお願いします。

有効回答は396件、大まかな内訳は新型コロナウイルス感染症ワクチン接種、子育て支援・子どもの貧困、観光施策・観光産業、市職員などに分類できる。代表的な回答は以下のとおり。

#### [新型コロナウイルス感染症ワクチン接種について]

・コロナ対策について、ワクチン接種券の郵送など、動きが遅いと感じることがあります。

(女性・50代)

- ・コロナ対策、後手後手感がある。市が率先して行ってほしい。(不明・不明)
- ・これからも緊急事態宣言の延長かその他コロナ対策の呼びかけを徹底して行うべき。

(男性・20代)

#### 〔子育て支援・子どもの貧困について〕

・20 代の給与水準を上げるか、20 代の親世代の支援金、補助金を作ってほしい。お金がないと子どもが欲しくても作ることができないし、子供ができても先行きが不安になる。支援金等があれば、安心して子供を産める人あるいは結婚したい人が増加して、高齢化社会の改善も少しは見えてくると思う。とにかく、20 代以下への結婚・子育て支援を拡充してほしい。

(男性・20代)

- ・独自の子育て世帯への支援(給付等)(男性・40代以上)
- ・コロナ関連で、子育て世帯、自営業世帯に向けての支援を増やす、もっと情報を広めてほしい。充実させてほしい。市独自の支援方法も導入してほしい。早急に。(女性・20代)

## [観光施策・観光産業について]

・観光ばかり力を入れた事で、地元民にとってとても魅力が少なくなったと思う。

(女性・40代)

- ・街並みが美しくない。観光客の誘致などを目標の一つとして掲げるのならば、街並整備にも 配慮した方が良い。首里の都市景観形成地域も、中途半端な印象だ。(女性・40代)
- ・新型コロナの感染が落ち着き次第、国際通りの活性化、観光産業を復活させる策の取組み→ 雇用の創出に力を入れていただきたいです。(女性・50代)

#### 〔市職員について〕

- ・もっと職員に自覚を持って対応してほしい。市の顔として対応してほしい。(女性・40代)
- ・市役所職員の質向上。とても親身になってくれる親切な方と、事務的で感じの悪い方、差がある。(女性・40代)
- ・市役所の職員の対応はすばらしいです。(女性・70代以上)
- ・誰にでも親切な市民市役所。何かにつまずいた時、路頭に迷う時、手を差しのべる(相談にのる)市役所であって欲しい。(女性・70代以上)

## 〔様々な要望〕

- ・那覇市の広報活動をラインなどリアルタイムで知りたい。(女性・70代以上)
- ・バス代の料金を区間を更にしぼっても良いので安くしてほしい。(その他・30代)
- ・議員定数の削減。(男性・30代)
- ・ 非正規雇用の親を減らさなければ貧困のループから抜け出せない。最低賃金で働いていれば、 死ぬことはなくても、ただ老いていくだけ。子供達に十分な教育を、環境をあたえられない。 (男性・30代)
- ・道路沿いの雑草の除去や道路のごみ拾いなどを徹底してほしい。観光客を受け入れる側として、環境整備には優先的に取り組むべきだと思います。(男性・40代)

- V. 市の政策に対する満足度
  - ・重要度調査結果

## V. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

## 1. 満足度・重要度調査の結果

那覇市では、2018 年度から 10 年間のまちづくりの指針となる「第5次那覇市総合計画」を策定し、『なはで暮らし、働き、育てよう!笑顔広がる元気なまち NAHA ~みんなでつなごう市民力~』を将来像に掲げ、まちづくりの姿勢として、その担い手一人ひとりを結びつける【5つの絆】を示している。

満足度・重要度調査は、23の政策に対する市民の満足度と重要度を把握し、政策に対する市民意識として今後の取り組みに反映させるものである。

政策という抽象的なイメージの強い調査であるため、前回調査と同様、全体として「わからない」の回答比率が高かったため、考察では「わからない」と「無回答」を除く、有意回答をもとに分析した。

## 2. 各政策に対する満足度・重要度の加点評価

## (1)回答者数について

今回調査における満足度の回答者数は 766 名、重要度の回答者数は 959 名となっており、全回答者数 1,325 名のうち、約半数が回答している。

満足度と重要度の回答者数の差は、満足度について回答を避けている市民が、個々の政策について(市の政策は公的なものなので「重要」と考えているため)重要度のみ回答したことによるものと考えられる。

## (2)満足度・重要度調査の加点方法と平均評価点

満足度・重要度調査の結果は、政策ごとに集計を行い、下記のような点数配点をもって、政策ごとの平均評価点を算出した。(※「わからない」「無回答」は加点から除いてある。)

満足度:「満足」=4点、「まあ満足」=3点、「やや不満」=2点、「不満」=1点 重要度:「高い」=4点、「まあ高い」=3点、「やや低い」=2点、「低い」=1点

Th. 275	満足度			重要度					
政策	合計点数	有意回答者数	平均評価点	合計点数	有意回答者数	平均評価点			
【めざすまちの姿】 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA									
小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によ	1,318	511	2.58	2, 254	786	2.87			
るまちづくり 地域の力が重なる安全安心のまちづくり	1,877	761	2. 47	3, 108	958	3. 24			
交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり	1,606	635	2.53	2,587	897	2.88			
人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせ るまちづくり	1,929	765	2. 52	3, 087	969	3. 19			
るまちづくり									
地域で暮らし地域で支えるまちづくり	1, 781	756	2.36	3, 242	980	3.31			
すべての人が健康で生き生きと暮らせる まちづくり	1,905	767	2.48	3, 171	985	3. 22			
身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられる まちづくり	2, 348	892	2. 63	3, 437	1,008	3. 41			
衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強い まちづくり	2, 217	865	2. 56	3, 338	999	3.34			
【めざすまちの姿】 次世代の未来を招	き、豊かな	学びと文化が	<b>重る誇りある</b>	L まち NAHA					
子育てが楽しくなるまちづくり	1,664	723	2.30	3, 216	960	3.35			
自らの力で未来を拓く子ども達を応援する まちづくり	1,630	717	2. 27	3, 172	954	3.32			
生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させる	1,719	711	2. 42	2, 945	960	3. 07			
まちづくり 郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな	1, 885	730	2. 58	2,874	951	3. 02			
文化を創造するまちづくり	•				751	3.02			
【めざすまちの姿】 ヒト・モノ・コト	か果い、月	ら、ひろかる.	万国洋条のま	ち NAHA					
ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光 まちづくり	1,987	794	2.50	2, 763	947	2.92			
様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり	1,665	710	2.35	2,819	924	3.05			
産業を支える市民とその労働環境を整える まちづくり	1,630	742	2. 20	3, 042	949	3. 21			
中心市街地を活かしたまちづくり	1,824	803	2.27	2, 794	954	2.93			
【めざすまちの姿】 自然環境と都市機	能が調和し	た住みつづけ	たいまち NA	HA					
省エネを実践し、資源が循環するまちづくり	1,899	792	2.40	3, 073	989	3.11			
自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市 のまちづくり	1, 958	860	2. 28	2, 966	988	3.00			
暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり	2,098	944	2. 22	3, 292	1, 027	3. 21			
災害に強い都市基盤の整備で安全安心の	1, 944	851	2. 28	3, 295	1,005	3. 28			
まちづくり 那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進める	1, 733	762	2. 27	2, 867	940	3. 05			
まちづくり									
	)信頼を深め		果的な行財政 2.25		968	3. 11			
市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり 効率的で効果的な行財政運営を行う	1, 733 1, 718	771 763	2. 25	3, 011	968	3. 11			
ツード が 単	1, 718		2. 23	3, 019	959	3. 15			
十月恒	1,829	766	2.39	5,019	959	3.13			

## (3)満足度調査結果の分析

各政策を満足度調査の平均評価点(満足度)でランク付けすると、下記のとおりとなった。 全政策の平均評価点は 2.39 点であり、全政策 23 項目のうち 11 項目が平均評価点を上回る結果となった。

順位	政策	平均 評価点	有意 回答者数	
1	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり	2.63	892	
2	郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり	2.58	730	
3	小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり	2.58	511	
4	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり	2.56	865	
5	交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり	2.53	635	
6	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり	2.52	765	
7	ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり	2.50	794	▲高
8	すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり	2.48	767	4 2
9	地域の力が重なる安全安心のまちづくり	2.47	761	
10	生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり	2.42	711	
11	省エネを実践し、資源が循環するまちづくり	2.40	792	平均
12	地域で暮らし地域で支えるまちづくり	2.36	756	<del></del>
13	様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり	2.35	710	
14	子育てが楽しくなるまちづくり	2.30	723	
15	災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり	2. 28	851	マク
16	自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり	2. 28	860	低
17	那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり	2. 27	762	
18	自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり	2. 27	717	
19	中心市街地を活かしたまちづくり	2. 27	803	
20	効率的で効果的な行財政運営を行う	2. 25	763	
21	市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり	2. 25	771	
22	暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり	2. 22	944	
23	産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり	2. 20	742	
		2.39	766	

## (4) 重要度調査結果の分析

各政策の重要度調査の平均評価点(重要度)をランク付けすると、下記のとおりとなった。 全政策の平均評価点は 3.15 点であり、全政策 23 項目のうち 12 項目が平均評価点を上回って おり、19 項目は 3 点以上という結果となった。

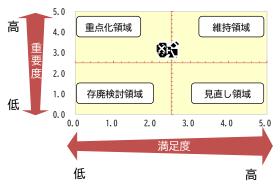
順位	政策	平均 評価点	有意 回答者数	
1	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり	3. 41	1,008	
2	子育てが楽しくなるまちづくり	3.35	960	
3	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり	3. 34	999	
4	自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり	3.32	954	
5	地域で暮らし地域で支えるまちづくり	3. 31	980	
6	災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり	3. 28	1,005	
7	地域の力が重なる安全安心のまちづくり	3. 24	958	
8	すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり	3. 22	985	
9	産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり	3. 21	949	
10	暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり	3. 21	1,027	
11	効率的で効果的な行財政運営を行う	3. 20	964	
12	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり	3. 19	969	
13	市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり	3. 11	968	
14	省エネを実践し、資源が循環するまちづくり	3. 11	989	
15	生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり	3. 07	960	
16	様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり	3.05	924	
17	那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり	3.05	940	
18	郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり	3. 02	951	
19	自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり	3.00	988	
20	中心市街地を活かしたまちづくり	2. 93	954	
21	ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり	2. 92	947	
22	交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり	2.88	897	
23	小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり	2.87	786	
	平均値	3. 15	959	



平均 重要度 3.15



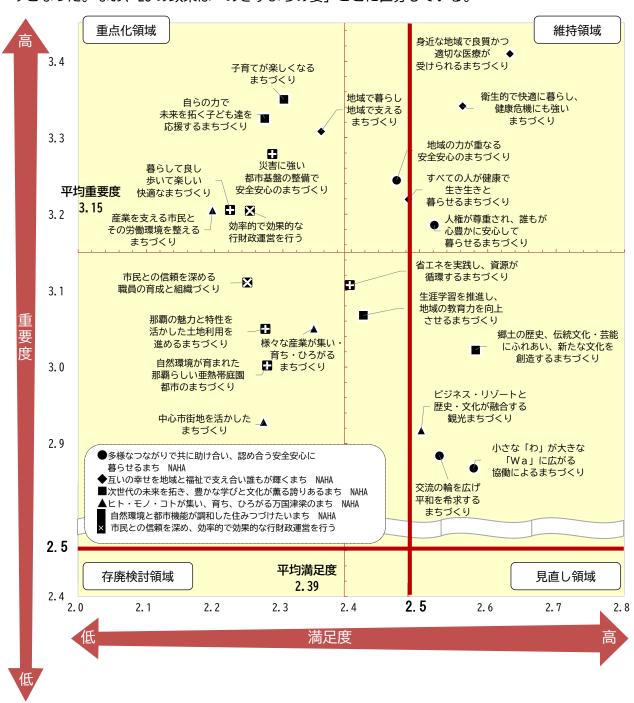
#### (5)満足度・重要度のクロス集計からみた政策に対する市民意識



一般に満足度と重要度を組み合わせて評価を行う 場合、左記の図のように分類して、存廃、見直し、重 点化、維持の判断を行うべきとされている。

分類領域は、加点評価の平均 2.5 点を基準とする。

今回の調査結果における平均満足度、平均重要度を中心とした個々の政策分布図は以下のとおりとなった。なお、23の政策は「めざすまちの姿」ごとに区分している。



```
【重点化領域とされる政策】
                   ※(計:満足度平均+重要度平均 満:満足度平均 重:重要度平均)
・地域の力が重なる安全安心のまちづくり
                                        (計:5.71 満:2.47 重:3.24)
・すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり
                                        (計:5.70 満:2.48 重:3.22)
・地域で暮らし地域で支えるまちづくり
                                        (計:5.66 満:2.36 重:3.31)
子育てが楽しくなるまちづくり
                                        (計:5.65 満:2.30 重:3.35)
・自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり
                                        (計:5.60 満:2.27 重:3.32)
・災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり
                                        (計:5.56 満:2.28 重:3.28)
・省エネを実践し、資源が循環するまちづくり
                                        (計:5.50 満:2.40 重:3.11)
                                        (計:5.49 満:2.42 重:3.07)
・生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり
・効率的で効果的な行財政運営を行う
                                        (計:5.46 満:2.25 重:3.20)
・暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり
                                        (計:5.43 満:2.22 重:3.21)
・産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり
                                        (計:5.40 満:2.20 重:3.21)
・様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり
                                        (計:5.40 満:2.35 重:3.05)
                                        (計:5.36 満:2.25 重:3.11)
・市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり
・那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり
                                        (計:5.32 満:2.27 重:3.05)
・自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり
                                        (計:5.28 満:2.28 重:3.00)
・中心市街地を活かしたまちづくり
                                        (計:5.20 満:2.27 重:2.93)
【維持領域とされる政策】
                  ※(計:満足度平均+重要度平均 満:満足度平均 重:重要度平均)
・身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり
                                        (計:6.04 満:2.63 重:3.41)
・衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり
                                        (計:5.90 満:2.56 重:3.34)
・人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり
                                        (計:5.71 満:2.52 重:3.19)
・郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり
                                        (計:5.60 満:2.58 重:3.02)
・小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる恊働によるまちづくり
                                        (計:5.45 満:2.58 重:2.87)
・ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり
                                        (計:5.42 満:2.50 重:2.92)
・交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり
```

#### 【存廃検討領域とされる政策】 なし

#### 【見直し領域とされる政策】 なし

「第5次総合計画」における23の政策については、いずれも存廃、見直しが必要とされるもの はなく、今後とも維持継続、あるいは更に力をいれていくことが求められている。

(計:5.41 満:2.53 重:2.88)

#### 3. 各政策に対する満足度・重要度評価の状況

めざすまちの姿 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA 政 策 小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり (自治会や校区まちづくり協議会への活動支援等)

「小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり」の政策については、市民に重要性を理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が62.6%、重要度では「まあ高い」以上が76.1%となっている。

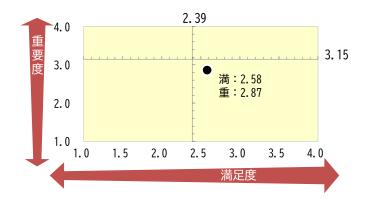
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりやや高く、重要度は低くみている。

#### 〔満足度〕

選択項目	全回答数	有意回答数
23///	(%)	(%)
   満足	15 人	
/MIXL	(1.1%)	320 人
まあ満足	305 人	(62.6%)
よの測定	(23.0%)	
やや不満	152 人	
/2 /2/1/個	(11.5%)	191 人
不満	39 人	(37.4%)
71、/问	(2.9%)	
有意回答計	511 人	511 人
有思凹合 計	(38.6%)	(100%)
わからかい	656 人	
わからない	(49.5%)	
/m □ /r/r	158 人	
無回答	(11.9%)	
Δ =L	1,325人	
合 計	(100%)	

#### 〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	134 人 (10. 1%)	598 人
まあ高い	464 人 (35.0%)	(76.1%)
やや低い	138 人 (10. 4%)	188 人
低い	50 人 (3.8%)	(23.9%)
有意回答計	786 人 (59. 3%)	786 人 (100%)
わからない	360 人 (27. 2%)	
無回答	179 (13.5%)	
合 計	1,325 人 (100%)	



めざすまちの姿 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA 政 策 地域の力が重なる安全安心のまちづくり (防犯・交通安全活動の推進、防災体制の強化等)

「地域の力が重なる安全安心のまちづくり」の政策については、市民の満足度と重要性の認識の水準を維持していく取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が54.4%、重要度では「まあ高い」以上が85.9%となっている。

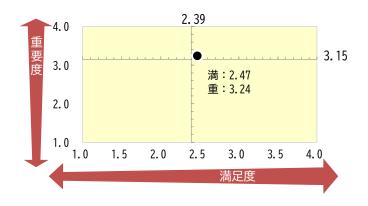
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度はほぼ平均値程度となっており、重要度は高くみている。

#### 〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数(%)
満足	30 人 (2.3%)	414 人
まあ満足	384 人 (29. 0%)	(54.4%)
やや不満	258 人 (19.5%)	347 人
不満	89 人 (6.7%)	(45.6%)
有意回答計	761 人 (57. 4%)	761 人 (100%)
わからない	408 人 (30.8%)	
無回答	156 人 (11.8%)	
合 計	1,325 人 (100%)	

### 〔重要度〕

	人口於兆	一立口於兆
選択項目	全回答数	有意回答数
及八次口	(%)	(%)
<u> </u>	398 人	
高い	(30.0%)	823 人
まあ高い	425 人	(85.9%)
みの回い	(32.1%)	
やや低い	106人	
/2/2位(1	(8.0%)	135 人
低い	29 人	(14.1%)
15/01	(2.2%)	
+ <del>+ +  </del>	958 人	958 人
有意回答 計	(72.3%)	(100%)
わからナン	185 人	
わからない	(14.0%)	
無回答	182 人	
	(13.7%)	
Δ =1.	1,325人	
合 計	(100%)	



めざすまちの姿 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA 政 策 交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり (平和・国際交流の推進等)

「交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり」の政策については、市民に重要性を 理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が59.2%、重要度では「まあ高い」以上が72.0%となっている。

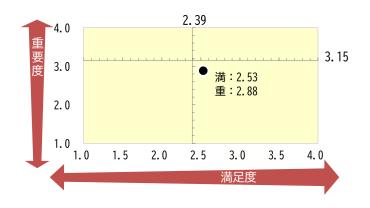
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも高く、重要度は低くみている。

#### 〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数(%)
満足	25 人 (1.9%)	376 人
まあ満足	351 人 (26.5%)	(59.2%)
やや不満	194 人 (14.6%)	259 人
不満	65 人 (4.9%)	(40.8%)
有意回答計	635 人 (47. 9%)	635 人 (100%)
わからない	527 人 (39.8%)	
無回答	163 人 (12. 3%)	
合 計	1,325 人 (100%)	

#### 〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	207 人 (15. 6%)	646 人
まあ高い	439 人 (33.1%)	(72.0%)
やや低い	191 人 (14. 4%)	251 人
低い	60 人 (4.5%)	(28.0%)
有意回答 計	897 人 (67. 7%)	897 人 (100%)
わからない	246 人 (18.6%)	
無回答	182 人 (13. 7%)	
合 計	1,325 人 (100%)	



めざすまちの姿 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA 政 策 人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり (人権尊重、男女共同参画推進等)

「人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり」の政策について は、市民の満足度と重要性の認識の水準を維持していく取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が57.3%、重要度では「まあ高い」以上が82.1%となっている。

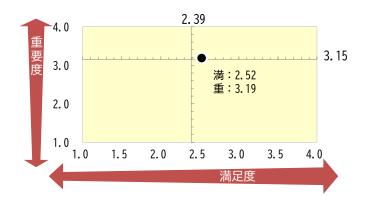
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも高く、重要度は平均値程度とみている。

#### 〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数(%)
	(1.2)	(70)
満足	41人	400 1
	(3.1%)	438 人
まあ満足	397 人	(57.3%)
あめ河流	(30.0%)	
*****	247 人	
やや不満	(18.6%)	327 人
<b></b> '#	80 人	(42.7%)
│ 不満 │	(6.0%)	
有意回答計	765 人	765 人
有思凹合 計	(57.7%)	(100%)
わからない	402 人	
	(30.3%)	
無回答	158 人	
	(11.9%)	
A =1	1,325人	
合 計	(100%)	

### 〔重要度〕

全回答数	有意回答数
(%)	(%)
397人	
(30.0%)	796 人
399 人	(82.1%)
(30.1%)	
129 人	
(9.7%)	173 人
44 人	(17.9%)
(3.3%)	
969 人	969 人
(73.1%)	(100%)
179 人	
(13.5%)	
177人	
(13.4%)	
1,325人	
(100%)	
	(%) 397 人 (30. 0%) 399 人 (30. 1%) 129 人 (9. 7%) 44 人 (3. 3%) 969 人 (73. 1%) 179 人 (13. 5%) 177 人 (13. 4%) 1, 325 人



#### めざすまちの姿 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA

政 策 地域で暮らし地域で支えるまちづくり (福祉・介護・障がいのある方への支援、子どもの貧困対策等)

「地域で暮らし地域で支えるまちづくり」の政策については、重要度の高さを考慮 し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が46.2%、重要度では「まあ高い」以上が86.4%となっている。

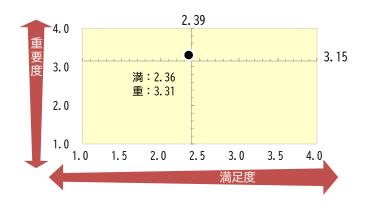
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりもやや低く、重要度は高くみている。

#### 〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数(%)
満足	35 人 (2.6%)	349 人
まあ満足	314 人 (23.7%)	(46.2%)
やや不満	292 人 (22. 0%)	407 人
不満	115 人 (8.7%)	(53.8%)
有意回答計	756 人 (57. 1%)	756 人 (100%)
わからない	408 人 (30.8%)	
無回答	161 人 (12. 2%)	
合 計	1,325 人 (100%)	

#### 〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	478 人 (36. 1%)	847 人
まあ高い	369 人 (27.8%)	(86.4%)
やや低い	90 人 (6.8%)	133人
低い	43 人 (3. 2%)	(13.6%)
有意回答計	980 人 (74. 0%)	980 人 (100%)
わからない	160 人 (12. 1%)	
無回答	185 人 (14. 0%)	
合 計	1,325 人 (100%)	



#### めざすまちの姿 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA

政 策 すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり (健康づくりの実践、こころの健康維持等)

「すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり」の政策については、市民の 満足度と重要性の認識の水準を維持していく取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が54.2%、重要度では「まあ高い」以上が83.6%となっている。

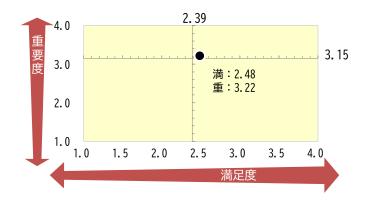
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも高く、重要度もやや高くみている。

#### 〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数(%)
満足	36 人 (2.7%)	416 人
まあ満足	380 人 (28.7%)	(54.2%)
やや不満	270 人 (20. 4%)	351 人
不満	81 人 (6. 1%)	(45.8%)
有意回答計	767 人 (57. 9%)	767 人 (100%)
わからない	392 人 (29.6%)	
無回答	166 人 (12.5%)	
合 計	1,325 人 (100%)	

#### 〔重要度〕

選択項目	全回答数	有意回答数
(本)(人名口	(%)	(%)
高い	422 人	
同い	(31.8%)	823 人
まあ高い	401 人	(83.6%)
みの回い	(30.3%)	
やや低い	118 人	
12 1216101	(8.9%)	162 人
低い	44 人	(16.4%)
1 <u>F</u> /0 ,	(3.3%)	
##미생 원	985 人	985 人
有意回答計	(74.3%)	(100%)
わからかい	153 人	
わからない	(11.5%)	
無同物	187 人	
無回答	(14.1%)	
合 計	1,325人	
	(100%)	



# めざすまちの姿 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA 政 策 身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり (地域医療の充実等)

「身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり」の政策については、市民の満足度と重要性の認識の水準を維持していく取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が63.1%、重要度では「まあ高い」以上が89.6%となっている。

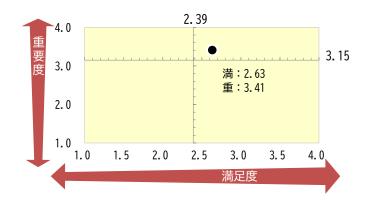
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値よりも高くみている。

#### 〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数(%)
	(1.2)	(70)
満足	91人	5.40 J
	(6.9%)	563 人
まあ満足	472 人	(63.1%)
よの測定	(35.6%)	
h h T !#	239 人	
やや不満	(18.0%)	329 人
	90 人	(36.9%)
不満	(6.8%)	(55557)
左亲同次 註	892 人	892 人
有意回答計	(67.3%)	(100%)
40.40.5.40.0	271 人	
わからない	(20.5%)	
	162 人	
無回答 	(12.2%)	
Δ =1	1,325人	
合 計	(100%)	

### 〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	548 人 (41. 4%)	903 人
まあ高い	355 人 (26.8%)	(89.6%)
やや低い	75 人 (5.7%)	105人
低い	30 人 (2.3%)	(10.4%)
有意回答 計	1,008 人 (76.1%)	1,008 人 (100%)
わからない	128 人 (9. 7%)	
無回答	189 人 (14. 3%)	
合 計	1,325 人 (100%)	



#### めざすまちの姿 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA

政 策 衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり (生活衛生・食品衛生・感染症対策等)

「衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり」の政策については、市民の満足度と重要性の認識の水準を維持していく取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が60.8%、重要度では「まあ高い」以上が87.7%となっている。

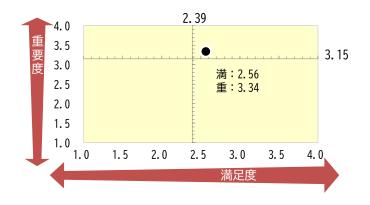
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値より も高くみている。

#### 〔満足度〕

#### 全回答数 有意回答数 選択項目 (%) (%) 66人 満足 (5.0%)526人 460 人 (60.8%)まあ満足 (34.7%)234 人 やや不満 (17.7%)339人 105人 (39.2%)不満 (7.9%)865人 865 人 有意回答 計 (65.3%)(100%)296人 わからない (22.3%)164人 無回答 (12.4%)1,325人 合 計 (100%)

#### 〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	502 人 (37. 9%)	876 人
まあ高い	374 人 (28. 2%)	(87.7%)
やや低い	85 人 (6.4%)	123 人
低い	38 人 (2. 9%)	(12.3%)
有意回答 計	999 人 (75 <b>.</b> 4%)	999 人 (100%)
わからない	140 (10.6%)	
無回答	186 人 (14.0%)	
合 計	1,325 人 (100%)	



## めざすまちの姿 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA 政 策 子育てが楽しくなるまちづくり (子育て支援、待機児童対策等)

「子育てが楽しくなるまちづくり」の政策については、重要度の高さを考慮し、よ り市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が42.3%、重要度では「まあ高い」以上が86.7%となっている。

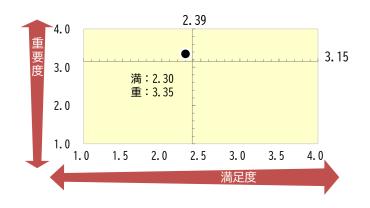
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも低く、重要度は高くみている。

#### 〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数(%)
	41 人	(70)
満足	(3.1%)	306 人
++\#D	265 人	(42.3%)
まあ満足	(20.0%)	,
みみ不洪	288 人	
やや不満	(21.7%)	417 人
<b>7</b> :#	129 人	(57.7%)
│ 不満 │	(9.7%)	
有意回答計	723 人	723 人
有思凹合 司	(54.6%)	(100%)
わからかい	441 人	
わからない	(33.3%)	
free Color	161 人	
無回答 	(12.2%)	
∧ =I	1,325人	
合 計	(100%)	

#### 〔重要度〕

全回答数	有意回答数
(%)	(%)
502 人	
(37.9%)	832 人
330 人	(86.7%)
(24.9%)	
90 人	
(6.8%)	128 人
38 人	(13.3%)
(2.9%)	
960 人	960人
(72.5%)	(100%)
178 人	
(13.4%)	
187人	
(14.1%)	
1,325人	
(100%)	
	(%) 502 人 (37. 9%) 330 人 (24. 9%) 90 人 (6. 8%) 38 人 (2. 9%) 960 人 (72. 5%) 178 人 (13. 4%) 187 人 (14. 1%) 1, 325 人



## めざすまちの姿 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA 政 策 自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり (学力向上、教育環境の整備等)

「自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり」の政策については、重要 度の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が39.9%、重要度では「まあ高い」以上が86.2%となっている。

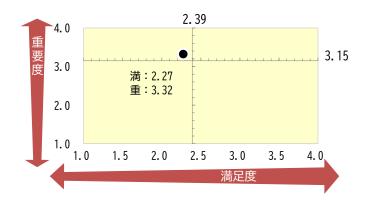
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも低く、重要度はやや高くみている。

#### 〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数(%)
		(70)
満足	31人	224
	(2.3%)	286 人
まあ満足	255 人	(39.9%)
よの何た	(19.2%)	
14 14 <del>7</del> 14	310 人	
やや不満	(23.4%)	431 人
	121 人	(60.1%)
不満 	(9.1%)	,
左亲同 <u>体</u> 註	717人	717人
有意回答計	(54.1%)	(100%)
to to 0 + 11 1	444 人	
わからない	(33, 5%)	
	164人	
無回答 	(12.4%)	
A =1	1,325人	
合 計	(100%)	

### 〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	471 人 (35. 5%)	822 人
まあ高い	351 人 (26.5%)	(86.2%)
やや低い	103 人 (7.8%)	132 人
低い	29 人 (2. 2%)	(13.8%)
有意回答計	954 人 (72. 0%)	954 人 (100%)
わからない	182 人 (13. 7%)	
無回答	189 人 (14. 3%)	
合 計	1,325 人 (100%)	



## めざすまちの姿 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA 政 策 生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり (スポーツ施設等の整備、青少年健全育成等)

「生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり」の政策については、 市民に重要性を理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が49.4%、重要度では「まあ高い」以上が77.7%となっている。

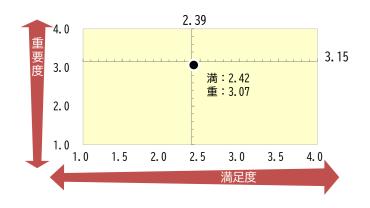
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値程度となっているが、重要度はやや低くみている。

#### 〔満足度〕

)향+미1로 FI	全回答数	有意回答数
選択項目	(%)	(%)
<b>ж</b> п	35 人	
満足	(2.6%)	351 人
++#0	316人	(49.4%)
まあ満足	(23.8%)	
カカ子洪	271 人	
やや不満	(20.5%)	360 人
不进	89 人	(50.6%)
不満	(6.7%)	
<u> </u>	711 人	711 人
有意回答 計	(53.7%)	(100%)
わからない	450 人	
	(34.0%)	
無回答	164 人	
	(12.4%)	
A =1	1,325人	
合 計	(100%)	

### 〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	325 人 (24 <b>.</b> 5%)	746 人
まあ高い	421 人 (31.8%)	(77.7%)
やや低い	168 人 (12. 7%)	214 人
低い	46 人 (3.5%)	(22.3%)
有意回答 計	960 人 (72.5%)	960 人 (100%)
わからない	184 人 (13. 9%)	
無回答	181 人 (13. 7%)	
合 計	1,325 人 (100%)	



めざすまちの姿 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA 政 策 郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり (文化財の保全、文化芸術・芸能活動の支援等)

「郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり」の政策については、市民に重要性を理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が61.0%、重要度では「まあ高い」以上が76.0%となっている。

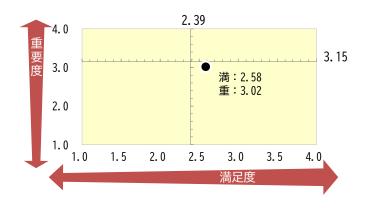
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも高く、重要度は低くみている。

#### 〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数(%)
満足	55 人 (4. 2%)	445 人
まあ満足	390 人 (29.4%)	(61.0%)
やや不満	210 人 (15.8%)	285 人
不満	75 人 (5. 7%)	(39.0%)
有意回答 計	730 人 (55. 1%)	730 人 (100%)
わからない	433 人 (32. 7%)	
無回答	162 人 (12. 2%)	
合 計	1,325 人 (100%)	

#### 〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	301 人 (22. 7%)	723 人
まあ高い	422 人 (31.8%)	(76.0%)
やや低い	176 人 (13.3%)	228 人
低い	52 人 (3.9%)	(24.0%)
有意回答計	951 人 (71.8%)	951 人 (100%)
わからない	192 人 (14.5%)	
無回答	182 人 (13. 7%)	
合 計	1,325 人 (100%)	



めざすまちの姿 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA 政 策 ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり (観光客受入体制の整備、観光資源の発掘・創造等)

「ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり」の政策については、 市民に重要性を理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 55.4%、重要度では「まあ高い」以上が 73.9%となっている。

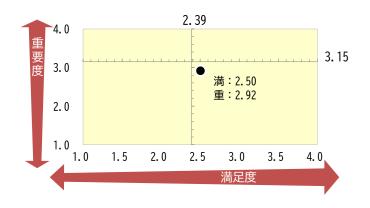
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりもやや高く、 重要度はやや低くみている。

#### 〔満足度〕

#### 全回答数 有意回答数 選択項目 (%) (%) 53人 満足 (4.0%)440 人 387人 (55.4%) まあ満足 (29.2%) 260 人 やや不満 (19.6%) 354人 94 人 (44.6%) 不満 (7.1%)794 人 794 人 有意回答 計 (59.9%)(100%)374人 わからない (28.2%)157人 無回答 (11.8%)1,325人 合 計 (100%)

#### 〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	244 人 (18. 4%)	700 人
まあ高い	456 人 (34.4%)	(73.9%)
やや低い	172 人 (13. 0%)	247 人
低い	75 人 (5. 7%)	(26.1%)
有意回答 計	947 人 (71. 5%)	947 人 (100%)
わからない	197 人 (14. 9%)	
無回答	181 人 (13. 7%)	
合 計	1,325 人 (100%)	



めざすまちの姿 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA 政 策 様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり (産業振興、中小企業支援等)

「様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度ともに高めるために、より一層力を入れて取組を行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が44.5%、重要度では「まあ高い」以上が79.1%となっている。

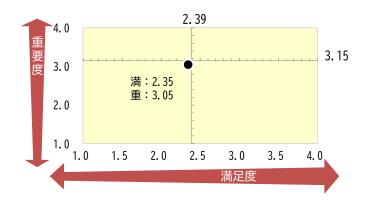
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値程度となっているが、重要度はやや低くみている。

#### 〔満足度〕

#### 全回答数 有意回答数 選択項目 (%) (%) 27人 満足 (2.0%)316人 289 人 (44.5%) まあ満足 (21.8%)296人 やや不満 (22.3%) 394人 98人 (55.5%)不満 (7.4%)710 人 710 人 有意回答 計 (53.6%)(100%)455人 わからない (34.3%) 160 人 無回答 (12.1%)1,325人 合 計 (100%)

#### 〔重要度〕

選択項目	全回答数	有意回答数
选]/\块口	(%)	(%)
古い	282 人	
高い	(21.3%)	731 人
土士古い	449 人	(79.1%)
まあ高い	(33.9%)	
かか任い	151 人	
やや低い	(11.4%)	193 人
低い	42 人	(20.9%)
15701	(3.2%)	
<i>+</i> ≠□ <i>₩</i> =1	924 人	924 人
有意回答 計	(69.7%)	(100%)
わからない	219 人	
わからない	(16.5%)	
<b>無同</b> 次	182 人	
無回答	(13.7%)	
合 計	1,325人	
	(100%)	



## めざすまちの姿 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA 政 策 産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり (労働環境の改善、就労支援、人材育成の推進等)

「産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり」の政策については、重要度の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が36.3%、重要度では「まあ高い」以上が82.4%となっている。

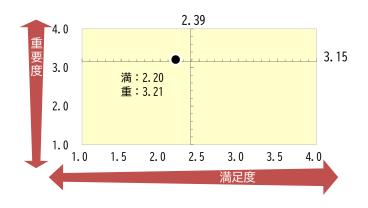
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも低く、重要 度は平均値程度とみている。

#### 〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数(%)
	(1.5)	(%)
満足	21 人	
/PJAL	(1.6%)	269 人
まあ満足	248 人	(36.3%)
よの何と	(18.7%)	
<b>bb</b> 7#	329 人	
やや不満	(24.8%)	473 人
<b>7</b> :#	144 人	(63.7%)
不満	(10.9%)	
左帝同 <u>体</u> 弘	742 人	742 人
有意回答計	(56.0%)	(100%)
to to 0 to 1	411 人	
わからない	(31.0%)	
/m □ /s/s	172 人	
無回答 	(13.0%)	
∧ =I	1,325人	
合 計	(100%)	

#### 〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	401 人 (30. 3%)	782 人
まあ高い	381 人 (28. 8%)	(82.4%)
やや低い	128 人 (9. 7%)	167人
低い	39 人 (2. 9%)	(17.6%)
有意回答 計	949 人 (71.6%)	949 人 (100%)
わからない	189 人 (14. 3%)	
無回答	187 人 (14. 1%)	
合 計	1,325 人 (100%)	



めざすまちの姿 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA 政 策 中心市街地を活かしたまちづくり (商店街・マチグヮーの振興等)

「中心市街地を活かしたまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度と もに高めるために、より一層力を入れて取組を行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が40.5%、重要度では「まあ高い」以上が73.2%となっている。

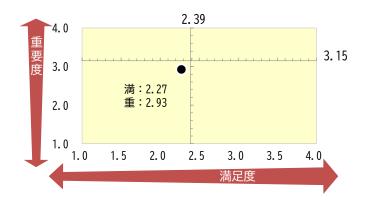
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値よりも低くみている。

#### 〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数(%)
満足	37 人 (2.8%)	325 人
まあ満足	288 人 (21.7%)	(40.5%)
やや不満	334 人 (25. 2%)	478 人
不満	144 人 (10. 9%)	(59.5%)
有意回答計	803 人 (60. 6%)	803 人 (100%)
わからない	355 人 (26.8%)	
無回答	167 人 (12. 6%)	
合 計	1,325 人 (100%)	

#### 〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	262 人 (19.8%)	698 人
まあ高い	436 人 (32.9%)	(73.2%)
やや低い	182 人 (13. 7%)	256 人
低い	74 人 (5.6%)	(26.8%)
有意回答 計	954 人 (72. 0%)	954 人 (100%)
わからない	184 人 (13. 9%)	
無回答	187 人 (14. 1%)	
合 計	1,325 人 (100%)	



#### めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA

政 策 省エネを実践し、資源が循環するまちづくり (省エネを実践するライフスタイルの推進、ごみ減量化等)

「省エネを実践し、資源が循環するまちづくり」の政策については、市民に重要性 を理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が48.2%、重要度では「まあ高い」以上が80.6%となっている。

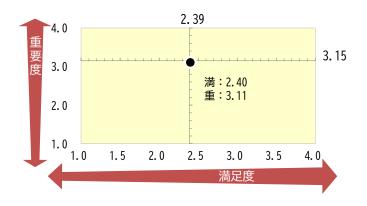
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値程度とみている。

#### 〔満足度〕

`æ+□+돔 □	全回答数	有意回答数
選択項目	(%)	(%)
満足	39 人	
<b>一</b>	(2.9%)	382 人
まあ満足	343 人	(48.2%)
よの測定	(25.9%)	
やや不満	304 人	
(2 (27) /问	(22.9%)	410 人
   不満	106 人	(51.8%)
、1. 小向	(8.0%)	
左亲同次 弘	792 人	792 人
有意回答計	(59.8%)	(100%)
わからない	362 人	
わかりない	(27.3%)	
無回答	171 人	
無凹台	(12.9%)	
合 計	1,325人	
	(100%)	

#### 〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	348 人 (26. 3%)	797 人
まあ高い	449 人 (33.9%)	(80.6%)
やや低い	142 人 (10. 7%)	192 人
低い	50 人 (3.8%)	(19.4%)
有意回答 計	989 人 (74. 6%)	989 人 (100%)
わからない	151 人 (11. 4%)	
無回答	185 人 (14. 0%)	
合 計	1,325 人 (100%)	



#### めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA

政 策 自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり (魅力ある都市景観の形成、道路美化等)

「自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり」の政策について は、市民の満足度・重要度ともに高めるために、より一層力を入れて取組を行う必 要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が41.6%、重要度では「まあ高い」以上が74.5%となっている。

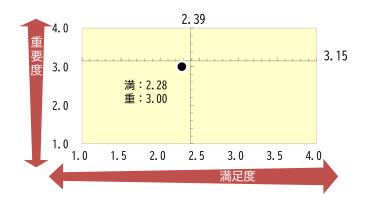
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度・重要度ともに平均値より低くみている。

#### 〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
	39 人 (2.9%)	358 人
まあ満足	319 人 (24.1%)	(41.6%)
やや不満	343 人 (25. 9%)	502 人
不満	159 人 (12.0%)	(58.4%)
有意回答計	860 人 (64. 9%)	860 人 (100%)
わからない	293 人 (22. 1%)	
無回答	172 人 (13.0%)	
合 計	1,325 人 (100%)	

#### 〔重要度〕

選択項目	全回答数	有意回答数
<b>进</b> 机块日	(%)	(%)
高い	313 人	
同し、	(23.6%)	736 人
土土古い	423 人	(74.5%)
まあ高い 	(31.9%)	
やや低い	193 人	
19791561	(14.6%)	252 人
低い	59 人	(25.5%)
15/01	(4.5%)	
<u> </u>	988 人	988 人
有意回答計	(74.6%)	(100%)
かからかい	152 人	
わからない	(11.5%)	
fm □ //c	185 人	
無回答 	(14.0%)	
△ =1	1,325人	
合 計	(100%)	



## めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA 政 策 暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり (交通体系の整備等)

「暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり」の政策については、重要度の高さ を考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が39.9%、重要度では「まあ高い」以上が83.4%となっている。

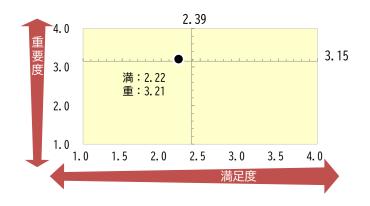
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも低く、重要度はやや高くみている。

#### 〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数(%)
	43 人	(70)
満足 	(3. 2%)	377 人
まあ満足	334 人	(39.9%)
よの何化	(25.2%)	
やや不満	357 人	
/2 /22 / 沙岡	(26.9%)	567 人
   不満	210 人	(60.1%)
, I, VIM	(15.8%)	
   有意回答 計	944 人	944 人
有思凹合 司	(71.2%)	(100%)
わからない	214 人	
1717.2.401	(16.2%)	
無回答	167 人	
	(12.6%)	
合 計	1,325人	
н п	(100%)	

### 〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	426 人 (32. 2%)	857 人
まあ高い	431 人 (32.5%)	(83.4%)
やや低い	125 人 (9. 4%)	170 人
低い	45 人 (3. 4%)	(16.6%)
有意回答 計	1,027 人 (77.5%)	1,027 人 (100%)
わからない	119 人 (9. 0%)	
無回答	179 人 (13.5%)	
合 計	1,325 人 (100%)	



#### めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA

政 策 災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり (安全安心で快適な道路や公園の整備等)

「災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり」の政策については、重要度 の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が41.0%、重要度では「まあ高い」以上が84.5%となっている。

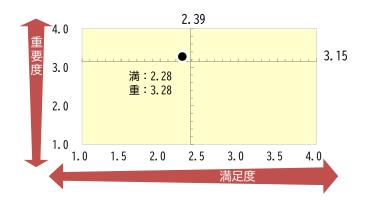
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりも低く、重要度はやや高くみている。

#### 〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数(%)
満足	37 人 (2.8%)	349 人
まあ満足	312 人 (23.5%)	(41.0%)
やや不満	358 人 (27. 0%)	502 人
不満	144 人 (10. 9%)	(59.0%)
有意回答計	851 人 (64. 2%)	851 人 (100%)
わからない	308 人 (23. 2%)	
無回答	166 人 (12.5%)	
合 計	1,325 人 (100%)	

#### 〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	
高い	478 人 (36. 1%)	849 人	
まあ高い	371 人 (28.0%)	(84.5%)	
やや低い	114 人 (8.6%)	156 人	
低い	42 人 (3. 2%)	(15.5%)	
有意回答 計	1,005 人 (75.8%)	1,005 人 (100%)	
わからない	142 人 (10. 7%)		
無回答	178 人 (13. 4%)		
合 計	1,325 人 (100%)		



## めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA 政 策 那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり (都市計画、土地利用等)

「那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり」の政策については、 市民の満足度・重要度ともに高めるために、より一層力を入れて取組を行う必要が ある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 41.5%、重要度では「まあ高い」以上が 78.4%となってりる。

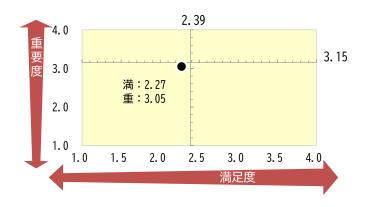
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度・重要度ともに平均値よりも低くみている。

#### 〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	26 人 (2.0%)	316 人
まあ満足	290 人 (21.9%)	(41.5%)
やや不満	313 人 (23. 6%)	446 人
不満	133 人 (10.0%)	(58.5%)
有意回答計	762 人 (57. 5%)	762 人 (100%)
わからない	397 人 (30.0%)	
無回答	166 人 (12.5%)	
合 計	1,325 人 (100%)	

#### 〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	304 人 (22. 9%)	737 人
まあ高い	433 人 (32.7%)	(78.4%)
やや低い	149 人 (11. 2%)	203 人
低い	54 人 (4.1%)	(21.6%)
有意回答 計	940 人 (70.9%)	940 人 (100%)
わからない	201 人 (15. 2%)	
無回答	184 人 (13. 9%)	
合 計	1,325 人 (100%)	



基本構想を推進するために 市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う 政 策 市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり (行政サービスの電子化等)

「市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり」の政策については、市民の満足度・重要度ともに高めるために、より一層力を入れて取組を行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が41.1%、重要度では「まあ高い」以上が80.4%となっている。

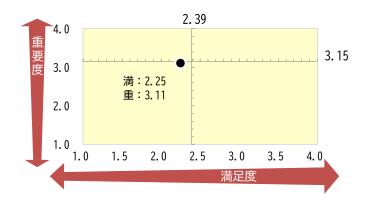
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度・重要度ともに平均値よりやや低くみている。

#### 〔満足度〕

#### 全回答数 有意回答数 選択項目 (%) (%) 34人 満足 (2.6%)317人 283 人 (41.1%) まあ満足 (21.4%) 294 人 やや不満 (22.2%) 454 人 (58.9%)160人 不満 (12.1%)771 人 771人 有意回答 計 (58.2%)(100%)389 人 わからない (29.4%)165人 無回答 (12.5%)1,325人 合 計 (100%)

#### 〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数(%)	
高い	352 人 (26. 6%)	778 人	
まあ高い	426 人 (32. 2%)	(80.4%)	
やや低い	135 人 (10. 2%)	190 人	
低い	55 人 (4. 2%)	(19.6%)	
有意回答 計	968 人 (73. 1%)	968 人 (100%)	
わからない	181 人 (13. 7%)		
無回答	176 人 (13. 3%)		
合 計	1,325 人 (100%)		



### 基本構想を推進するために 市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う 政 策 効率的で効果的な行財政運営を行う

幻辛可で効未可な1」対政連名を1〕) (市民満足度の高いサービスの提供等)

「効率的で効果的な行財政運営を行う」の政策については、重要度の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 40.0%、重要度では「まあ高い」以上が 82.8%となっている。

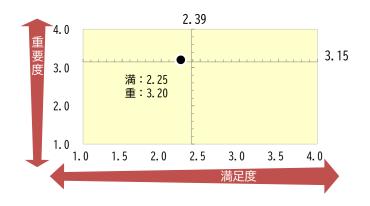
全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりもやや低く、 重要度は平均値程度とみている。

#### 〔満足度〕

#### 全回答数 有意回答数 選択項目 (%) (%) 38人 満足 (2.9%)305人 267人 (40.0%) まあ満足 (20.2%)307人 やや不満 (23.2%)458 人 (60.0%)151人 不満 (11.4%) 763 人 763 人 有意回答 計 (57.6%)(100%)391人 わからない (29.5%)171人 無回答 (12.9%)1,325人 合 計 (100%)

#### 〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	409 人 (30. 9%)	798 人
まあ高い	389 人 (29.4%)	(82.8%)
やや低い	120 人 (9. 1%)	166 人
低い	46 人 (3.5%)	(17.2%)
有意回答 計	964 人 (72. 8%)	964 人 (100%)
わからない	178 人 (13. 4%)	
無回答	183 人 (13. 8%)	
合 計	1,325 人 (100%)	





### 令和3年度 那覇市民意識調査報告書

発 行 那覇市 企画財務部 企画調整課

住 所 〒900-8585

沖縄県那覇市泉崎 1-1-1

電 話 098-862-9937 F A X 098-862-4263